

# 社会人として 婦人は何をなすべきか

— 第3回全国婦人会議記録 —



労働省婦人少年局

## はじめに

労働省では、昭和三十年四月十日より一週間「婦人の社会人としての実力の涵養」を目標として第七回婦人週聞を全国的に展開しましたが、この週聞の中央行事として日本放送協会と共催で、全国婦人会議を開催いたしました。この会議は第三回目で、全国から応募された二、〇八六人の中より審議選考によって選ばれた六〇名の婦人が、四部会に分れて「社会人として婦人は何をなすべきか」というテーマで、アドヴァイザーの助言の下に討論を行いました。

今回は特に二〇名の男性の方々に、特別傍聴人として三日間にわたる会議を傍聴して頂き、男性側の意見をきく機会を設けました。

ここに会議の速記録をまとめて刊行することになりましたが、種々の都合で昨年中に発刊出来なかったことをお詫びするとともに、紙面の都合で刪愛した箇所もありますことを御諒察頂きたいと思ひます。

昭和三十一年八月

# 全国婦人会議の構成

名称 全国婦人会議

「社会人として婦人は何をなすべきか」

主催 労働省・日本放送協会

日時 昭和三十年四月十一日・十二日・十三日

場所 東京 若溪会館・虎の門共済会館

部会

第一部会 家族の一員として

第二部会 地域社会の一員として

第三部会 職場の一員として

第四部会 一般市民として

出席者 会議員六〇名(全国の応募者より中央選考

委員会が決定)

特別傍聴人 二〇名(東京都内NHK聴取者名簿より抽出)

選考委員

論

家

坂西志保

東京教育大学教授

磯野誠一

東京都立大学教授

磯村英一

東京YWCA総幹事

渡辺松子

評論家

松岡洋子

日本放送協会ラジオ局長

春日由三

日本放送協会ラジオ局長

江上フジ

労働省大臣官房総務課長

堀田秀夫

労働省婦人少年局長

藤田たき

部会アドバイザー

第一部会 東京教育大学教授

磯野誠一

第二部会 東京都立大学教授

磯村英一

第三部会 東京YWCA総幹事

渡辺松子

第四部会 評論家

松岡洋子

司会 労働省婦人少年局婦人課職員

## 全国婦人会議次第

四月一日(月)

総会 一〇・〇〇—一二・〇〇

1 開会挨拶

労働省婦人少年局長 藤田たき

2 主催者挨拶

労働 大臣 西田隆男

日本放送協会々長 古垣鉄郎

3 来賓挨拶

お茶の水女子大学々長 蝦山政道

4 講演

全国婦人会議選考委員長 坂西志保

5 会議の主旨及び運営の説明

労働省婦人少年局婦人課長 高橋展子

—— 休憩 ——

部会 一三・〇〇—一六・三〇

1 会議員の意見発表

2 部会討議

四月二日(火)

部会 九・〇〇—一二・〇〇

1 部会討議

2 部会まとめ

—— 午後は休会 ——

四月三日(水)

総会 一〇・〇〇—一二・〇〇

1 開会挨拶

日本放送協会ラジオ局長 春日由三

2 部会報告

特別傍聴人感想発表 会 議 員

3 一般討議

5 アトラクション ラジオドラマ

6 閉会挨拶

労働省婦人少年局長 藤田たき

目次

はじめに

全国婦人会議の構成

全国婦人会議の次第

講演

会議員選考委員の席から

評論家 坂西志保……一

部会

第一部会 「家族の一員として」

一〇

第二部会 「地域社会の一員として」

六

第三部会 「職場の一員として」

二六

第四部会 「一般市民として」

一八

総会

三九

講演

## 会議員選考委員の席から

評論家 坂西志保

私は選考委員として、全国から送られた所感文を拜見し、それについてどのように感じたかをお話したいと思います。また、これからの二日間、皆様が討論される場合、どのような角度から、いろいろの問題に対処されるか、またどういう心持で、この会議で討論されたことを各自の地区に持ち帰っていただきたいか、ということをお話したいと思っております。

所感文を読んだことは、「よりよい社会を作る力になる」ために、「社会人としてどうしたらよいか」という、この「社会人」という言葉に皆さんがひかかったのではないかと考えています。

「社会人」とはどのようなことかということについては、みなさんのお父さんや御主人に聞いてもなかなかわかりませんが、小学生か、中学一、二年までの方だったら、非常によく、上手に説明してくれると思います。人間として生れたあなたは、一つの環境の中に育って行く。その社会であなたは一体どう生きていくかということ、簡単に言えば、人間としてあなたは生甲斐のある生活をしていきますか、ときいてみればよいのです。自分の過去の経験や考えたことが浮び上つてきて、皆さんの批判の対象になります。そしてもし自分が生甲斐のある生活をしていなかったら、この機会に切りかえて、一歩進んで自分の方向を定めていけばよいのです。

この「社会人」という言葉をもう少し簡単に説明しますと、私たちは生れた瞬間に、すでに社会人なのです。私たちはロビンソンクルーソーのように、離れ小島に一人で住んでいるのでもなくて、社会の中に生まれてきて、母親が自分を世話してくれるのだと意識したとき、社会人としての意識をまず身につけたと云えます。次の段階は、自分の経験を通して、たくさんの人が、みんな自分のために働いてくれるということから、では自分は社会人として、どういう仕事をしたら、このように献身的に働いてくれる人たちのためになることができるか、という考えに達したときに、その人は意識の上では社会人として完全な域に達したということです。次に意欲と技術の点において、どういうふうにして社会人としての自分の立場を作り、またほんとうの仕事をすることができるかというのは、それは終生の仕事になります。そしてこれは小学生も、老人も一緒になつて努めなければならぬことだと考えるのであります。

皆さんの所感文を拜見して、このような、ごく簡単な点で、皆さんが苦労されたということがわかったのです。また、これだけの所感文を書くときに、「自分の眼」で自分を見ている以外に、始めて「第三者の眼」で自分をのぞいたのではないかという感じを、私は受けたのであります。自分はいつも馬車馬のように「所題」命になってやっているが、今度始めて自分の仕事を振かえてみて、それがどういうものであつたかを知り、それを言葉に書き表わされたのだと思います。たつた五枚の原稿用紙に書くことによって自分を深く掘り下げられたので、これからの仕事は非常に楽に進められるだろうと思います。

今度の会議は四つのグループにわかれて行われますが、突進には、一つ一つが別々になっているのではなく、皆せん。それで、会議では各自が自分を四等分して、それぞれの会議に自分を分配しているわけですが、帰るときには、またそれの一つにまとめて持っていかなければなりません。しかし、そういう便利なことはなかなかできませんので、ご自分の時でも、散歩の時でも、隣の方のお話をきいて下さい。女の人はとかく、自分の言ひ分だけこたわって、動物園のハリネズミのように、至るところに針を出している恰好が非常に多いようです。相手

の方では突つかれないように除けますから、害は被りませんが、被害を受けるのは、むしろ当人です。こういう場合、むしろ、自分の唇をきいてもらうよりも他人の話をきくためにきたのだという謙虚な気持を持っていたいただきたいのです。そうしてなるべくたくさんの収獲を得て帰って下さい。

次に申しあげたいことは、会議の内容が、家庭・地域社会・職場・一般市民と、相当広い範囲にわたっていますが、それぞれの間に非常にギャップがあるということです。例えば第一部会の「家庭の一員として」に属する方たちは、「家庭」ということにこだわってそれ以外に眼が向けられない。「地域社会」に向って、そのこだわりをほぐさなければいけません。また「一般市民」の部会に属する方たちは非常に大きなものを狙っています。家庭はどうなのですか。ですから、人間としての生活の営みというもののしつかり足をふみしめ、その上で社会人として活躍するということを繰り返して申しあげたいのです。

先進国の例を見ましても、いわゆる「おえら方」の女史が采配を振り廻して、実力のある家庭婦人に災いをしたという例がたくさんあります。例えばメリー・ピアードの「社会の力としての婦人」という論文で、優れた人が、掛軸をかけるために、エア・ポケットというか、空虚なものができて、それを飛びこえるのに何十年もかかったということが書いてありました。ですから、そういう優れた一人よりも、ここに集った六十人、感想を寄せられた二千何百人、またその背後にある何千万の女性が結束して、地味な態度で問題に当たっていくことの方が、望ましいのではないかと思います。勇気というのは声をあげて叫ぶことではなく、自分の持っている問題をはっきり解決することにあると思います。

例えばベタルをふみながら考えている。ごく小さな問題——晩のお茶は何にしようというようなことから、だんだん問題を大きくしていった、社会の問題にまで到達して、考えていく。ここに一つの進歩があります。小さな緒から社会の眼が開けていくのです。時間の隙守ということでも、一人の人は、唯、時間を守らないで困る、会合も思うように持てないではないかといっている。ところが、もう一人は、それでは小さなグループに分

けて、しかもはだしのままで、野良猫のままで走ってゆけるような会合の形態を考えて実行する。こういう人こそ社会人と云えるでしょう。誰かの靴を借りてきて振るまわすのではなく、自分はこういうふうな問題を見た、こういうふうな実行した、そしてそれを書き現わしたというところに力強さがあると思うのです。

抽象的な論を振る廻す方々に質問したいことは、「あなたは夕飯のとき、六時に食事にするとしたら、必ずその時間にご飯になさいですか。」とまで聞きたいのです。それができないとすれば、なぜできないかという理由を考えて是正することができます。『計画的に』ということです。

『計画的に』という文章を書いた方が、その結びに、『五年間の計画で三つのガラス窓を作りたい』と書いていました。その方が東京へ出てくる前に、もうガラス窓ができたはずだと思えます。あるいは、まだできていないとしても、もうできているのと同じことでしょう。その方の今までの業績を見ますと、考えているだけでなく、ほとんど問題を解決していますから。ですから単に考えるだけでなく、実行していただきたいのです。具体的に、計画的に、着実に。

第二の「地域社会の一員として」の部会に属する方々の場合も、実際の社会と結びついている問題が出てきますが、ここではむしろ政治とか、社会事業とかいう方面についてのものです。ここで私がつくづく感じたことは、地域社会の一員として何かをする場合、一体何を理想として、どういうことを主に行っているかということの表現が、ほとんどなされていないということです。私は、これは非常に大切なことだと思ふのです。例えば、今日、アメリカがあれだけ大きな仕事をし、あれだけ国際的にいろいろ援助をしながら、むしろ方々の国から、いろいろの反感を買っています。貧乏な日本を金持のアメリカが援けてくる。その場合、援けられる方に反感を感じさせないのは、愛情であり信仰であると思えます。金持だからお金を出すというだけではなく、よい社会をつくるためにそれを使うという、ほんとうの精神をもって接してくだされば、きっと結ばれるでしょう。それで社会的な個々の現象よりも、むしろその背景になる一つの大きなものを皆さんにもっていただきたいと思うので

す。

これは北海道の文章でしたが、月に四、五冊の本を読む、そして、いろいろの本の名が並べてありました。本を読むことは大変結構なことですし、何を読んでもよいのですが、読むということは、読むものによるのではなく、読む態度、受け入れる態度にあるというのを申上げたのです。ここにあげられた一連の書物は一つの型であり、それを書いた人々の経験を披露したもので、あなたの経験ではないのです。私はよく汽車の中で、お母さんとお母さんの口の中に入ってしまうのではないのでしょうか。本についても同じことが云えます。それは書いた人が自分の経験として栄養をとったあとのカスにすぎません。そのカスをあなたの方はもらって、そういう身槽えを作って、その通りにやろうとする。ですから、所感文の中にも、これはA氏型これはB氏型というように、郵便局の私書函のようなものを作って、そこに突っこむことができます。こういうことは非常に困ったことです。個性、個人の経験はどんなに小さいものでも貴いのです。皆さんがこういう生活のやり方というか、技術というか、そういうもののばかりに心を奪われていると、結局、人生のチンドン屋になってしまいます。

型にはまらないように自分というものを本気で生かすには、どうしたらよいのか。一つの例として、型をもった言葉というものがあります。例えば、「職場は神聖だ」と感嘆文にあります。何も職場は神聖とは限りません。それを神聖にするのはあなたなのです。また「職に貴賤なし」という言葉があります。これも、あなたが実行するから貴賤がなくなるのです。それらの標語は壁に貼っておくだけでは価値を生じません。実践によって生み出してゆくとき、始めて光を放ちます。長崎県の一入の働く女性、自分は非常に生活に追いつめられ、どうして生きるかという戦いに勝ったとき、始めて自信ができたと言っていました。もう一人の方は、「婦人はもう少し自信をもって、実力を持つこと」と書いています。どうして自信を持つようになったのか、そのことが述べられていないのです。前の長崎の女性、自分が得た体験から自信をもったということを、具体的に書いていま

す。

私が申上げたいことは、どんな立派な、結構な考え方も、それをどうして実行するかという点を問題として、これからの会談を進めていただきたいということです。

もう一つ、私が非常に勇気付けられると同時に気になることがあります。それは、勇気をもってあることをやりぬこうとするときに、そこにいろいろの抵抗があります。それを打ち破ってゆかなければならないというように、何かに人間のみにくい面が現われるということです。例えば、能率的に家事を処理している人がある、けれども、私がもしその人の主人だったら、多分住みにくい家庭だと思っているのではないかと、その方の書いた文章からそういうふうを感じるのです。それでは困ります。これは職場でも同じことです。自分がいいと思ったら、誰が何と云ってもまっすぐにやっていたきたい。しかし、それを鼻の先にぶら下げられたら、ちょっとそばに近寄れません。もう少し和やかな、愛情のある感じを人生に刻して抱いていたいただきたいのです。善意と改革を貫くには勇気もあるし、剛い必要です。しかし、いつも鎧を着ては堪えられません。むしろいろいろな点で、世の中のことをわかればわかるほど妥協もし、協力する気持ちにもなってくると思います。もちろん最後の点においては私は闘うかもしませんが、小さなことにこだわらず、謙虚さと愛情をもって、將來それから何かよいものが、きっと生れてくるという信仰をもって進みたいと思います。こういう態度で皆さんが会議に臨み、その収獲を温い気持でそれぞれの地区に持ち帰ってくださることを、切にお願いいたします。

部 会





# 第一部会 家族の一員として

(嫁姑・親子・夫婦・母子世帯・生活の合理化)

## 出席者

|         |          |     |           |
|---------|----------|-----|-----------|
| 青森      | 肥後       | 香   | (主婦)      |
| 岩手      | 内村       | トミ  | (主婦)      |
| 山形      | 三浦       | 梅江  | (雜貸商・主婦)  |
| 茨城      | 佐藤       | 茂子  | (教員)      |
| 東京      | 小池       | 博子  | (主婦)      |
| 石川      | 森田       | 加乃  | (小売商・主婦)  |
| 長野      | 菊原       | 利子  | (主婦)      |
| 岐阜      | 数島       | 妙子  | (主婦)      |
| 京都      | 上田       | 光枝  | (主婦)      |
| 和歌山     | 三木       | 美代子 | (主婦)      |
| 広島      | 長崎       | 芳子  | (主婦)      |
| 愛媛      | 中村       | 喜代子 | (家庭教師・主婦) |
| 佐賀      | 山田       | 鶴子  | (主婦)      |
| 大分      | 工藤       | あつみ | (主婦)      |
| 富山      | 赤星       | あつみ | (主婦)      |
| 鹿嶋      | 神前       | 富子  | (商業・主婦)   |
| アドヴァイザー | 東京教育大学教授 | 磯野  | 誠一        |
| 進行      | 婦人少年局婦人課 | 藤井  | 敏子        |

進行係 只今から第一部会を開くことに致します。  
第一部会では、家族の一員として、つまり家族集団の場における者の立場から討議して頂くことになっております。

初めに各出席者の方から三分ずつ簡単に意見発表をして頂き、そのあと、その中から問題点を引き出して、討議してゆくという順序で進めてゆきたいと思っております。

それから今回の部会の持ち方として、前半の意見発表の部は出席された会議員の方に司会をお願いし、後半の討論の部は、皆さまに十分御発言願うという意味で主催者側で進行させて頂くことに致しました。

では早速、会議員の方達の互選によっておきめになった東京の小池博子さんに進行をお願いすることにします。

小池 では最初に岩手県の内村さんからお願いたします。

内村 私の家は父が染物をやっており、夫はカリエスで入院していますが、デザイン関係をやっており、私は家事と家業の手伝いに追われながらしゅうと夫の間に入って、家の中をまわっています。私の方は昔からの職人町で、主婦も娘も家業の手伝いで勤員され、いわゆる家の神内での小さな明け暮れに終始しているのです。私は、結婚する時に、結婚してもしわくちゃんお婆さんになるまいと

思ったのですけれども、どうしても嫁のことに追われ、それから近所の噂にも気を遣い、私自身の中に昔の嫁としゅうとという觀念が根をおろしていたので、これを打開してゆかなくては家の中は明るくならないと考えました。私はもともと、あんまり喋るのが上手ではありません、父も職人気質で、無口なのです。夫を入れて家族三人、みんなが無口のままでは、毎日がつまらないから、何とかして家の中でみんなが喋るといふことを習慣づけてゆきたいと考えたのですが、私自身が古い家で育ったものだから、どうしても古い考えになり易い。いろいろ喋ってみようと努力したのですけれども、どうしても父に遠慮があって、喋れなかつたのです。

ところが夫の友達の出張グループの会合がうちで開かれ、話しのなかまに誘い込まれたのが動機となり、喋る機会を得るようになりました。その中にまた父も若い人と喋るようになり、その結果、だんだん馴れてきたら、いろいろなことに疑問が出はじめました。それを解決するためにいろいろなことを知らなくてはいけない、知るためにラジオを聞いたり、人の話を聞いたり、又自分でもよく考えるというようになりました。そうやってきましたら、時間かとももたないなくて、伸子や張ったり、染物の手伝いしたり、夫の絵具を洗ったり、いろいろなことをしながら、

その合間で時間を割いては勉強するようになりました。その結果、感じたことは、みんなが心の底から裸になつて、下手でもいいから隠さないで話し合うようにすれば、お互に協調的な考えを見付け出そうと思ふようになるということです。

小池 次に茨城の佐藤さんにお願いたします。

佐藤 私は、「嫁、しゅうとめの問題」というのは、一つの家庭内の問題というよりも、むしろ社会的に解決されなければならぬような境界にまでできているという気がするのです。私のところでは、一人っ子だった主人が亡くなり、今一緒に暮らしているのは主人の母と私と二人の子供です。母の助けによって、私が職業を持っていて、四人が生活をしてゆくという現状で、私と母との間でいろいろ都合いをして、予定表とか献立表とかを作ったりして、両方の歩み寄りで日常のことを解決しています。

自分も年を取ったときのことを考えますと、子供に負担をかけるのが、心苦しいような気がします。

それで養老院というのを考えますが、熱海通りに出来たと新聞で読んだ有料養老院では、はいるとき、二十万円のお金が要り、さらに毎月の生活費が相当かかるというので、私のように非常にささやかな生活をしている者にはどうしてもやってゆかれせんし、何とか社会保険制度のよ

うな方法で、確實に制度化した養老院が望ましいのです。それは理想から言いますと、小規模でもいいから各地域毎にあり、そこへは、ちゅうと娘の家へでも出掛けるように気楽に出掛けられる、泊ろうと思えば泊めてくれるし、帰りたいと思えば帰ってもこられる。そういうようなものがほしい。また私が母と暮らしてみても知ったのですが、年寄りというものは、気持はあつても、身体が言うことをきかないので、身体と気持の平準がとれないところに、想立ちが非常に多いということです。それで健康診断をして下さったり、若い人達の今の考え方はこうなんですというふうな、年寄り自身にも啓蒙的な話をして下さるといふような施設を持った理想的な養老院ができたならば、今は母達の問題でも、やがて私が年を取ったときに、そういうところならはいれるのではないかと思うのです。私達家庭婦人の声というのは、なかなか上の方には伝わらないので、何とかみんなのささやかな声を集めて一つの大きな組織的な、団結した力としてよりあげて、社会保険制度の線にまで持って行くようにしたい。それが私の一つの願いです。

小池 次は山形の三浦さんにお願いたします。

三浦 制度の上からは家族制度というものが一応廃止になったとは言いますが、同時にすべての人間の頭も切りかえられたというのではない。昔の人は、集りなんかで、

あまりはつきりしたことを言えばすぐ「赤だ」とか「共産党」だとか言う。とにかく古い人方には、一個の人間として考えるということをおぼろげな傾向があると思えます。でも、わたしとしてはやっぱり自分の正しいと思つたことをはっきり言いたい、行動したい。それがまた社会人として私は正しいいき方ではないかと思つていますから、そこに相親が繰り返される。その相親をいかにして解決しなりたいかということに始終苦しんでいるわけですから、それを皆さんと一緒に討論して解決策を見出してゆきたいと思ひます。

そうした中で私が苦しんできたので、私は自分の息子が結婚したら、私は私だけの生活、若い者達は若い者どうしの生活を持たせるようにし、お互に自由を尊重するような共同生活を持ちたいと考えているわけです。具体的には、息子に嫁をもらふということになると部屋を造る。部屋を造る時にも、さいわい、私の家は広いので、ただ寝る時だけの部屋でなく、互に独立した生活を持つことができるような部屋を作り、自由を侵し合わないで生きてゆきたいということを考えている次第です。

小池 私は都会の、それもインテリ層の多いところで暮らしておりますので、皆嫌と較べものにならない気楽な生活です。私が結婚一カ月後に主人が仙台の方で生活すること

になったのですが、その間「家に馴れなければいけない」というので私だけ二年間も東京のしゅうとめ達と一緒に暮らさせられました。それから一緒に暮らしてありますが、その間の生活を通じて、考えさせられたことは、ささやかなことかもしれないですが、自分の自由を得るためには、男性とかしゅうとめというものから自由を勝ち取るというように考えた、その人達を敵として見なければならぬので本心に楽しい自由を求められないと思ひました。

次には、ぐちというものを他の人に絶対にこぼさないこととした。他の人の口を通して、思ひもよらないような形で、他の人にまた伝わってゆくという結果から生じるつまらない摩擦を避けたいと思つたからです。それから、うちの父と母との性格が合わない面があるものですから、それからくるいろいろの軋轢というのでしょいか、喧嘩みたいなことがよくあったのです。それからからまって、その年取った父母と私達夫婦と——とくに嫁である私と今、高校三年になつていて小さい妹とそれぞれの間に、年令的な相違からくる誤解不和というものがあつた。それを解決して家庭を明るくするために私は、仲に立とうと思つたのです。具体的に家族の一人が、他の一人の言動に対して悪感をもつときでもそれはこういう積りでやつたことじゃなくと出来るだけ善意に解釈するよう都合うとい

た風な努力をしてきました。そうして八年経たら、いつの間にか、とても親しい家庭になっておりましたし、私自身も家の中でなくてはならない存在になっています。

では次に長野県の菊原さん。

菊原「家族の一員として主婦と勇氣を持て、私は声を大にしてかく叫ぶ者です。なぜならば、ともかく家族の主婦は、ものごとを実行に移すとなれば尻込みをしがちです。やれ、しゅうとに生意氣と言われなにかと消極的になつてしまひ、こういうことが度重なる毎に、主婦といふものは忘れ去られ、馬車馬のように走り廻され、主人、しゅうとから「女は」という扱ひをされる。今まではとかく自分自身が嫁である嫁であるという觀念の下に、嫁ぎ先の家の者に氣がねして「そうですか」「そうですね」式に、一から十まで心にもない妥協をして、その爲に自分自身が不快な念を抱き、その上家族の者から嘲り笑われる始末になるのです。そうしてこういうことがお互のわだかまりとなつて、嫁問氣が面白くなくなるといふことが地方においては案外多くあるのです。そこでこういう状態を是正する爲に、私は、「主婦と勇氣を持て」と叫ぶのです。

それには嫁に來た初めからが大切で、何も、私は嫁であるといつて威張り散らす意味でなく、主婦としての義務を充分果して後に堂々と權利を主張することです。無條件に

事をやっているの、外で働く夫と、仕事の価値からいって劣ることはないのだとという信念の下に自信に満ちた生活を送ってもらいたい。ともすれば自己を殺してがまんするということになりがちな主婦に、この際勇気を出して、自分の力で自分の地位を確保して、活潑な態度で毎日を送るようにしてもらいたいと思います。

小池 次は石川県の森さん。

森 私の家は、主人は初めから非常に民主的でしたが、両親がとても封建的で、長い間苦しみました。特に家庭の民主化ということに関心を持ちまして、そのことについて主人と相談しました。

まず家庭の民主化は家庭内の和合からと思ひ、夕食後の団らんによつて、家族相互間の融和を図りました。これは夕食後すぐその場を立たないで、お茶を飲みながら十分なり二十分の間、いろいろの問題について家族全員で意見を交換するのです。

私の家に年寄二人、私達夫婦、子供五人の九人の大家族で、主人の給料だけでは生活は楽ではありませんでした。家庭にいざこざの起きる原因の多くが経済生活の食しさにあると気がついた私は、回らん協賛にかけて話し合った結果、現在の小売商店を私の内職として聞くことになりました。もちろん母も少しですが、昆布を作り、父も桶を直した

国全体が明るくなると思うからです。

小池 次は和歌山の三木さん。

三木 一婦人は人間である前にまず妻であり、母でなければならぬ」そう言われた方がございます。しかしわたし達農村婦人にとつて、妻や母であるということよりもっと必要とされることは労働力であるということなのです。人間として生きる前に、労働力でなければならぬ。農村婦人の悩みがそこにあるのです。この婦人会議出席者の中

に純農家の方がどれだけいらっしゃるでしょうか。少くともこの第一部会には、私の他にはどなたもお出でになっておりません。言うまでもなくこれは農村婦人の地位の低さを如実に語っているものと思います。

日本の農村のすべての人々が持っている悩み、それは貧しさであり暗さであり、低さであります。現状を知って頂いて、どこに解決の道があるか、それを見付けて頂きたい、そんな気持ちでこの席に來ました。

私は農家の主婦が、少しでも明るく、少しでも元氣付けられて、そうして農村自体の暗さや、貧しさが解消してゆく日を期待しているのです。私は、自分が生きている為に周囲の社会が少しでも明るくなってくれれば、と、念願して、今までも生きてきた續りですし、これから生きたいと思っております。

小池 広島県の長崎さんをお願いします。

長崎 唯今の時世では恋愛結婚は常識のようになってしまいましたが、私は明治の初年、まだ夫婦の愛情が大切にされず、社会の眼もそれを育て守ってくれない時代に、恋愛結婚をしました。そうして非常に封建的な、いい意味でも悪い意味でも典型的な母と一緒に、一人息子の嫁として、数々の楽しい夢を抱いて家庭生活を始めました。しかしまもなく私の夢が次第に破れてゆくのを知り、愛情

の生活に暗い面を感じるようになり、はては危機感をも感ずるようになりました。そこで始めて自分の暮し方とか生き方とかいうものについて一生懸命考えるようになって、その結果、私の努力で何とか母の考えを私の方へ引き寄せて、母の考え方とか、暮し方を変えてもらうより仕方がないと思ひ、先ずやさしく仕えるということをや第一のモットーとしました。そして第一に試みしたのはラジオで、ラジオドラマとか娯楽版の中で、自分に印象深い番組を母と一緒に聞いてもらうように努めました。聞いた後二人で話し合うことにより、母親の気持ちを私の方へ近寄せました。

その次には新聞の社会面を取り上げて、自殺の問題とか、一家心中とか、また失業者とか、いろいろな社会問題、例えば世の中は今、どういうふうに進んでいるんだらうか、どういふふうになっているのだらうかというのを母と二人で話し合せて、「昔はそうだったけれども今はこうなのよ」といふようにして母の目をせまい家庭の中から外へ向けさせるように努めました。

その次には、主人が學者なので、手許に本があるのをさいわいに、本を読んでもらう習慣をつけました。本の中から本當の人間の在り方というものを考えてもらおうと思ひ、まず第一に「坊ちゃん」を選んで、母と二人で輪読を始めました。あの中のいろいろな風刺から社会の情勢と

か、さまざまな人間性とか、とくに人間の情愛について、

いろいろなことを母と話し合せて、母に読書の興味を持ってもらったのです。その為に、私よりも時間がある母は、私が読み終えない漱石全集を全部全巻通じて読み、それを土台にして次に新しい出版物に眼を通すようになり、しまいに「こういう本が新聞の広告に出ていた」「こういう本が出ていたが読みましてくれるかしら」、眼が悪いからあんな醜いでくれるかしら」と却って私を啓蒙するということとろまでゆきました。私は結婚してから二十五年になります、が、今では母と私は、親分子分のような関係になり、とても明るい生活をしております。私が母と一緒に社会を歩めるようになったことは、私の心構えと工夫と努力のたまものであるということに皆さんに紹介すると同時にこれからの主婦は小さいところにも、新しい創意と工夫をもって進まなければならないのではないかと、この会議で申し上げたいと思つたのです。母は八十四才です。

小池 では、佐賀の山田さん。

山田 私は「いい社会人であつてこそ始めていい家庭人であり得るのだ」と思ひます。私の家庭は、主人が働き、子供達も社会で勉強したりしています。そして私は夫と子供が社会に出て百パーセント働く為に、他の部面を受け持っている。つまり別の言葉で言う、主人と子供、私をも含

めての、社会生活の原動力は家庭で生産されているのであると考へています。それで家庭のいい主婦になるということとは、とりもなおさず、よい社会人になることだと考へました。その為には勉強もしたいし、家庭を合理化するための努力もしたい、社会知識も得たい、そして、社会に直結して日に日に成長して行っている主人や子供の番相手になつてゆかなくてはならない。ことに私は子供の教育について、大部分の責任を持っているから私自身が民主的な考えをもたなければ、将来いろいろと変転してゆく日本の社会情勢に対処しうる子供を育てることはできないと思ひました。

このようなことを思い合はせて私の家庭をみますと、少しずつ前進しており、特別に問題になることを持つておりませんが、全般的にみて私の住んでいるところは——うちは非農家でありながら、住居の関係で農村に住んでいるのですけれども——民主化されていないという感じがします。この小社会の民主化を妨げているものがたくさんあると思ひますがその直接的なものとして、第一に婦人自身の自覚が足りない。従つて向上しようという意欲さえも不足している。

第二に地域の夫達が民主的でないこと、また夫達を育てた父母が民主的でないこと。社会の一単位である家という

ものを考えた場合に、家族全体が民主化されていない場合と、主婦が民主的であるが他はまだ民主的でない、若夫婦は民主的であるが他の人はまだ民主的でない。子供は新しい教育を受けているけれども、その子供をのけた親の老夫婦、若夫婦というものがまだ民主的でないといったような場合があります。家族全部が民主的な場合とか、主人が民主的な場合はあまり問題がなく、割合スムーズに解決できると思いますが、主婦が民主的で主人がそうでないという時には、主婦の努力が非常に必要になります。一番怖いのは、子供は民主的であるが大人の方がだめだという時に問題があると思います。このくい違いに対処するため子供を加えて話し合ってゆく機会を持たなくちゃならない。

私の家では家族会議をよく開き、子供達の意見を大人が聞き、大人の意見も子供に話すというふうにして相互の理解を深め合い、民主的な家族関係をもつづけるよう努力しておりますが、御近所の主婦達からは「家の内がうまく行かない」ということについての悩みをいろいろききます。

#### 小池 では大分の工藤さん。

工藤 婦人が団体役員と家庭生活を両立させることに對する悩みは、その団体が大きいにしろ小さいにしろその立場にある者は、みな同じように持っていることと思います。

式を切り替えてゆかなければならない、主人が一番私に要求しているのは、元来非常に整頓好きな人なので、整頓すること、それから私に對して一番嫌がることは、農業をやっていること、自然夕方遅くまでかかり、それからバタバタ食の仕度等にとりかかりますので、帰ってきた時にへんな恰好していることなんです。それで私の衣服設計を洋服に切り替えることなんです。作業も午前中に片付けて、午後にはゆっくりした気持ちになるように気をつける。子供は本好きだから本を買ってやっ、天分を伸ばしてゆく、また小さい子供には小さいピアノを買って楽しませることによって母のいない淋しさを慰めると共に天分を伸ばすというようにして、お母さんはこうして努力しているからあなた達も協力してほしいと話をした結果、主人も協力してくれるようになったのです。

よい社会人であるためにはまずよい家庭人でなければならぬ。自分の生活の場を深くみつめて、生活の場に立って、どうして明るくしようかと努力することが社会を明るくする原動力になるということをしみじみ感じました。

#### 小池 宮崎県の赤星さん。

赤星 私は、主人が国鉄に勤めておりまして、給料も安く、家庭の生活も、やりくりの生活をやっております。私の二十年間の体験から生み出した計画生活——老後安定の

す。役員の方達とよく話し合うのですが、家族の者に理解がない、夫の封建性には通わないという諦めに似た気持ちに到達するのが常となっています。私も婦人会の役員を二、三年してありますが、婦人会の仕事は、社会をよりよくするために非常に大切な仕事であるというのをしみじみ思いました。一生懸命仕事に熱中しているわけですが、その仕事に熱中すればするほど家庭をほうりっ放しにしがちです。私の家では、私が農業をやり、主人は高等學校に勤めて、子供が二人いますが、私が外に出ますと、農業は全然だめになりますし、子供の教育も十分に出来ず、主人のことはほうりっ放しとなって、いつも主人から不平を言われています。「私は社会的な仕事をしているから家庭が少し犠牲になっても役員をしている間はがまんして下さい」と申しますが、主人や子供はきかない。一年二年経つ中に、主人との争いも増くなってゆきますので、これはだめだ、もっと家庭生活と社会的仕事を両立させなければならぬ、もっと家庭生活と社会的仕事を両立させなければならぬ、ということを含み、感ずるようになったのです。そこで改めて、主人というものと子供というものをよく観察し直しましたところが、主人は非常に温良な人です、どこか言って悪いところはないし、子供も勉強するし音楽も好きだ、こんないい家庭であるのに、みんなどうして私を困らせるのだらうと思いました。結局私自身の考え方と生活法

問題、計画産児の問題について述べてみたいと思います。私も皆様と同じように、しゅうと、主人、その他家族関係についていろいろな悩みを悩み抜いて参りました。そうして私はもっぱら自分を犠牲にして過して参りましたが、これからの嫁には絶対に自分達の二の舞をふましてはならないと考えています。その為、子供達が一人前となったとき子供の荷物とならないように、お互に楽しく暮らせるように念じて、まず、予算生活を實踐しております。その間において苦しい自分の環境から脱皮して、少しでも明るく生きてゆきたいと考えて、自分の趣味を生かし、技術を体得することによって光を見出し、忙しき日常生活の中から寸暇を利用して向上に努めております。ささやかなことですが、ラジオの番組に自分の仕事を割り込ませて、手を動かすつ耳を動かすとか、野菜を洗いながら、炊事しながら俳句などを考え、悩み、苦しみを歌や俳句に表現することによって自分の苦しさを楽しみに切りかえております。時には腹が立ったり嫌なこともありすがそんな時は苦しみや嫌なことを川柳や俳句に表現して一人でなくさめているわけです。買物籠の中にはいつも鏡物を入れ、時間の無駄を活用しております。また鶏や山羊を飼っておりますがこれも成長期の子供に卵や乳を与えることのはかに精神的なうるおいをも、もたらしてくれそうです。

次に家族設計について申し上げたいと思います。国家も私共も真剣に考えなければならぬと思う就職難、入学難のこの問題を、誰が解決してくれるのでしょうか。妊娠調節は、実際面にはまだよく実施されているとは思われず、楽しかるべき生活を暗くしていることを知っております。その健全な普及と医療扶助を推進したならば、貧しい生活も少しは明るくさせることができると考えます。この家族設計を完全実施にもってゆくため私共の團結の力が反映するように祈っています。

小池 次に鹿兒島の神前さん。

神前 家庭生活を合理化するためにどうしたらいいかについて私の考えていることを述べたいと思います。不合理な生活習慣を破いていくものは、根柢のない封建的な古い因習です。とにかくとも婦人は忍従しながら労働しているということが何より美德と信じきり、機械化し、墮落だとする向きが農村には残っています。婦人そのものの教養の不足から、不合理な生活をしなければならぬのです。農村の婦人は黙々と意思表示など一切せず、牛馬の如く働いている人が案外多いと思います。合理化のための具体的方法としては、まず計画を立てることです。私は豚を二頭飼ったり、月掛で店の収入を少しずつ蓄えたり、現在最上ポンプも炭焼小屋も造り、かまどの改善もしました。

つまり婦人自身が改善を目指して実行してくれないのです。自分の子供だけは無駄のない結婚をさせてやりたいと思います。無駄のない、合理的な生活を、私共團結の力で切り開かなければならないと思っております。

小池 次に青森の肥後さん。

肥後 よりよい世代を育てる為にとにかくということについて、最近身近な青少年の言動を見聞きする時、心寒いものを感ぜずにはおられないのであります。何事につけても民主主義と唱えられている今日、子供達ももの良し悪しを考へることなしに行動することはたいへん危険なこと、その現われとして、数多くの青少年の犯罪や、家での権威の上に、民主主義と自由奔放の吐き違い、勘違いがあると思えます。大人の言動に対して一途に若い人達が、それは考えが古い、民主的でない、今は時代が違えばかり片付けてしまいたがる。それが結局、間口ばかり広くて奥行の乏しい今の状態ではないかと思えます。私達の子供の時の教育が万金ではなかったにしろ、さりとて今の子供達の生活状態と較べてみた時、昔への捨て難い郷愁を感ぜずにはいられないのです。学校教育、ことに社会科の在り方などについては、親として大きな疑問や期待を持っていることはもちろんであります。また反面、家庭教育の重要さを痛感させられます。小さい時からの家庭の息吹きが、自然の中

次に住居ですが、合理的にするにはまだまだ程遠いものがあります。農村の家は暗くて風通しが悪い。新築することと思っても上らないので、明るくするため、窓を作り直した。何年か後に新築する時には、不必要な部屋は作らないで、明るく鉛筆的な部屋を作りたいと思います。台所などもよく考えて棚などをつけ、どうしたら便利になるかと考えれば、古い家も住みよい家になるのではないでしょう。

食生活も、私達零細農家は充分栄養を考え、嗜好も考慮してなどということはないかな不可能なことなので、家畜を飼育しなければならぬと痛感し、私は山羊と鶏を飼っております。卵をとり乳を搾るためです。豚も現在二頭おりますが、豚から得た収入は、家屋の改造に向けます。家庭内の労働の分担を、主人も子供達も希望しております。できなかった仕事はみんな協力します。

農村の結婚式、お葬式、赤ちゃんの名付祝などの行事を簡素化することが必要ではないかと思うのでありますが、今のところ、私などの力ではどうにもならないことです。例えば先日私の親戚にお嫁さんが来ることになり、私が公民館で一人百円の料理することを主張して決り、明日華式という時に、お嫁さん側で、公民館で式を挙げるなら行かないということ、田舎の習慣通り家で式をしました。

に將來のひととなりの上に大きい影響をもたらす要素となることに深く注意して、常に円満な常識の中に子供を養育したいと考えます。折にふれ、時にふれ家族の全員が話し合うということは最も大切な家庭教育といえましょう。そうして、事の善悪を判断させる訓練に心掛けます。

ことに老人のいる場合、子供のしつけができないと嘆く夫婦がおりますが、老人も入れて一家の団らんの中におだやかなひととなりを作り上げます。一介の娯楽も偏頗も、大人達は吸収し、子供達の成長へも役立て、向上心を植えつけるよう努めます。

主婦の収入を生計の足しにしている場合、家庭の雑事も分担して、相励まし合うということも、労働と勤労の尊さを教えるいい方法だと思います。世の中が民主化すればするほど、自ら生活に沿った上下左右の礼儀を弁えさせてこそ、ほんとうの民主主義を楽しむことができます。婦人も、よりよい次の世代を作るために種々の会合に出席して、ラジオを聞き、新聞を読み、向上することに常に拍車をかけたいとねがうものであります。

小池 京都の上田さん。

上田 私は、家庭婦人はどういうふうにしてよりよい世代を育てるかというテーマで考えてみたいと思います。

私は家庭の主婦であると同時に、働く学生の世話をしており、又外ではPTAの仕事などをしております。その間感じましたことは、戦後、参政権も与えられ、婦人の地位は相当向上してきた、そして家庭の民主化によって妻の座というものも相当高くなってきた、それから働く婦人が戦争を契機として社会に出て働かざるを得なくなったものが相当数でありましょうが、苦しみながらも生活意識を身につけてきたという点では、今までの歴史からみて素晴らしい進歩だということです。しかし実際には家庭婦人の社会意識は相当低いように思われます。

教育の問題にしても、政治の問題にしても、話し合いの場を持たなかったら決して解決がつかないということを感しました。すなわち主婦が今までの家から地域社会という場へ一歩進み出て、そこで話し合う場所を持たなければならぬと感じました。それで私の地域では、組織を持たない家庭の主婦が自ら出て話し合いをする会を持つようになり、現在実行しています。

家庭の主婦の集りによって苦しみや悲しみを話し合ううちにいろいろの問題が出てきます。手を繋いで研究しあってこそ明るい社会が作られてゆくのです。具体的にいろいろなことをやっておりますが、それは討論の時に廻したいと思います。

強張りたいことは、家庭の主婦というものは、家の中ばかりに閉じ籠って、困ることを自分一人の問題として堂々めくろをするよりも、それをみんなの共通の問題として話し合う場所を持つこと。今までの主婦はあまり孤立し過ぎて、話し合いの場所を持たな過ぎたと思うのです。話し合いの場所を育ててゆくという努力から、少くとも社会人として、どうやって家庭の主婦が生きてゆかなければならないかという問題が自然に出てくるのじゃないかと思っております。

小池 では愛媛の中村さんどうぞ。

中村 私はPTAの指導者の一人となっておりますので、PTAの一員としての立場から、次の世代の教育について話したいと思っております。

皆さんも新聞などで御存じでございますが、一昨年の正月に、私の住む地区の小学校が、一精神薄弱児の放火によって、二千何百人、県下一の多数を誇っておったほどの生徒を収容する学校でありましたのに、一棟の校舎を除いて全焼した。いきさつは、お正月に、食し施設の子供にお餅を配ってやろうというので、それを包んだ紙を焼いておいた。食し子供が寒いので教車の下で厚紙の紙を焼いた。それが火事になって全焼したということです。

さい」と言って学校再建に奔走しました。主人は教育者ですからよく理解してくれました。

そしてやがて完全な校舎が建つことになっています。またPTAで小さいグループを作って、地区会議を開き、それが学校運営の決議にもなり、生徒の幸福と、やがてはわが子の幸福も含めての幸福を念願としてやっております。

小池 岐阜の敦島さん。

敦島 私は戦争によって夫を失って、終戦後の苦しい最中を、自分の身を犠牲にする積りで子供のためにたいへん健気な働きをして暮らしていたのですけれども、今の主人になった人から「一人の人間のために自分を殺して、尽すということは、結局その人間にとって、将来は重荷や、負担になっただけで、本当の仕合せではないのではないか、自分自身をも生かす、自分の人間性を大切にすることによって、相手の人をも仕合せにするという考え方を生かすのが大切ではないか。あなたは未亡人だからといって、未亡人でも人間であり、女であるから、一人の女として幸福を掴む権利はあるのだ」と啓蒙され、いろいろ考えて、一生の間に二度も恋愛するのは贅沢ですけれども再婚しました。

私は昭和二十五年にPTAが創設されるまでは、家庭の一主婦として、昔のいわゆる良妻賢母を以て体験して、実行に移しておったくらいのものでした。ところがその火事を見た時に、私の子供一人をどんなによく育てても、それは社会の幸福にもならぬ、わが子の幸福にもならぬ。社会のみんなの幸福が基盤になって私の子供の幸福がある、ということをしみじみ感じたのです。そうして火事の最中、まだ煙が立ちよるところでPTAは臨時会議を開き、早速寄附集めに奔走し、保険が八百万あったのを元にして、貧しい町ですが、父兄の力で見える間に一棟、校舎を建てました。その時の二部授業も苦しいものでした。その時感じたことは、金のある人が必ず子供の教育の理解者ではない、貧乏の人でも貧乏の灯として熱心だということです。むしろ社会教育は貧しい人の方にはできていて、金持は却ってどうもんな、狭い、わが家さえよかつたらい、という感覚を持っていたと思ったのです。それでつくづく、PTAの活動がどんなに大切なものであるかと思えました。子供の教育の重要さと、地域社会の一員としての責任感から私は我が子に「誰か一人か二人が犠牲になって、率先してあなた方の学校を建てなかつたら建てる人がない、その第一の人にお母ちゃんがなっているから、それもやがてはあなた方にかえるからがまんしな

それで主人は「将来出世してお前達を楽しませてやる

う」ということは申しませんでした。」「民主的な家庭を作って、みんなが満足して暮らす、自分達の家庭の仕合せを盛り育ててゆくような家庭を作ろう」という公約をしまして、それをどんどん実行してくれて、経済の面でも、家事労働の面でも、娯楽の面でも、みんな平等にするようにしています。私は、連れ子をして結婚したわけですが、主人は子供にも「お前は隆達（たかみち）の明るい家庭を作るために大切なメンバーだからしかりやれよ」というわけで、二年生くらいの子供ですが、人格を認めてみんなやってきてきました。だから子供も、ひねくれたり、暗いところなんかなくて、ぬくぬくと育ち過ぎた感があります。

この仕合せを得たについては、ほとんど主人の方の理解が、大きな働きをしており、私自身として努力したことと言いますと、田舎ですから、未亡人が独身の青年と結婚するとかやかく言う位ですから、未亡人が独身の青年と結婚するということについてはどんなひどいことを言わかわかり切っているのですが、自分の人間性の大事さを痛感しましたので、勇気をふるって結婚したのです。

勇気をふるってということとは、婦人問題の中で未亡人の再婚ということは難しい問題とされているが、こんな難しい問題さえも、男性が理解さえすれば容易くゆくとこういうことを強張りたいからでありまた男性の方にも御協力頂きたいと思っています。

行って、お帰りになる時、考えをお持ちになることの方がいいと思います。

一言申し上げたいことは、最後に岐阜さんの強張なさったように、一人々々が楽しい生活をする、家族のみんなが楽しい生活をする、家族の中の誰かがでなしに、みんなが楽しい、しかも自分だけの幸福でなしに、社会全体の幸福ということを考えなければならぬということ。あるいは愛蔵の中村さんがおっしゃったように、自分の子供だけをよくしようと思ってもよくできない、そういうことをはつきりおっしゃったことを本当に私は感激をもって伺ったわけです。そういう社会人としてのわたし達、家族の中にあっても家庭内人というものと社会人というものがもっとも区別されているのではないということ、皆様もそこを考えた上でいらっしゃることを強く思っています。私、いつも家庭の問題を考える場合に、この言葉を思い出します。「あなたは政治は嫌いであっても、あるいは政治に無関心であっても、政治はどこまでもあなたを追いかけているんですよ」と。それを、ただ政治ばかりでなしに、もっと大きく考えた場合に、その意味はもっと広い、深い意味を持ってくるんじゃないかと思えます。

家族のことを考える場合には、皆様がよく御承知のように、その点を一つ強張って考えてゆきたいものと思うわけ

いと思うからです。

今私は、たいへん仕合せになったのですが、自分自身、本当にみじめな未亡人生活を身をもって体験したものですから、母子家庭の幸福という点については一番懸命な気持ちです。背を向ける気にはなれないのです。もとより、再婚するだけが幸福な道だとは思いませんが、もう少し母子家庭の方々が仕合せになって、明るい生活が出来るようになれば社会が明るくなると思えます。そのことについては具体的に後で申し上げますが、皆様もどうぞ母子家庭の方々のために力になってあげて頂きたいと思っています。

進行係 これでは皆様の御意見を一応伺いましたので、ここでアドヴァイザーの先生から御意見を伺わせて頂きたいと存じます。

渡野 「勇気をふるって」と何人かの方がおっしゃったので、私もここで勇気をふるって考えないと、皆さんが考えぬいていらしゃったことを彼は申し上げることはできないわけですが、皆様は一人々々工夫していらしゃるので、私がいろいろなことを申し上げることは、あまりないと思えます。もちろん個々の問題については、それはどうなのかしらと思わないでもないこともありますが、今私が、この点はどうか、ああだろとそれについての考えを申し上げるよりは、皆さんがだんだん話を積み重ねて

です。

それから、傍聴者の方が非常に熱心にお聞きになっていらっしゃるので、皆さんずいぶんあがってしまつて、汗をかいているようですが、話が固くなったり、よそゆきの着物を着るような難しい言葉を使いたがることのないように進めてゆきたいと思えます。切角ここに、青森から、鹿兒島から集っていらっしゃるのですから、ふだん集まることのできない者が集まるという、得難い機会を、できるだけ巧く使って、互の話をよく聞いて、その上に積み重ねてゆくといい……どなたもおっしゃったように、自分一人の問題でなく、堂々めぐりをしないで、共通の問題として考えてゆく、そういうふうにしてやってゆきたいと思えます。

進行係 先程御意見を発表がありました、順序につきましては、昨晩会議員の方がお集りになって、「漫然と話しているよりは、一人一人の意見の要旨を大まかに分類して、問題別に順序を追って発表しよう」ということを決めてしまったそうです。つまり、初めの十名の方は「家族関係を民主化するためにどうすればよいか」その次の二名の方は「家庭生活の合理化」後の三名の方は「よりよい次の世代を育てること」最後のお一人は、「母子世帯の問題」についてそれぞれ意見を発表されたわけですが、十五分休憩しまして、今の意見に基づいて討論に入ってゆ



きたいと思っています。

(休 題)

進行係 それでは再開致します。

先程皆さんから一通り御意見発表がありました。それによりますと、今朝の総会席上で坂西先生からもお話がありましたように、私達は生れたとんから社会人である。その社会の一員としてともかく自由に育ってきた、ところが結婚してみると、自由にあるまえないことが多かった、特に広島県の長崎さんなどは非常に期待を持って愛情溢れる結婚をなさったにも拘わらず、その夢が早く破れた。その辺に日本の家庭がもついろいろの問題があるのではないかなと思われまますが、どういふ問題を具体的に取上げながら進めて参りましょうか。ここでとりあげて討議するテーマと、その順序について皆さんから御意見を出して頂きたいと思っています。

神前 嫁、姑の問題が一番大きかったと思います。それから解決したらいいかと思いますが。

森 家庭の民主化がうまく行っているところもありましたが、家庭によっては主人が暴力をふるうのがあるが、それをどうするか……。

中村 家庭内が民主化されても、御近所……いわゆる近隣関係の民主化の問題も大切だと思います。

当の民主化が出てこないと思いますので、その犠牲ということについて考えてみたいと思います。

神前 今まで健康ということあまり取り上げていらっしやなかったように思いますが、家庭の明るさとか民主化ということをはかるためには健康が一番大切だと思います。そのためには栄養とかいふ問題も、充分取り上げなければならぬと思いますが、いかがでしょうか。

中村 岩手の内村さんの言葉に関連して、私の方が内村さんより十代か二十代上だと思いますが、私のように四十を越した者は、夫や母親や子供の封建制度を打破せよと言いながら、自分自身がやっぱり封建制度に閉じ籠められている。私は、四十以上の女性の封建思想の打破をどうするかをとりあげて頂きたい。

肥後 子供の家庭教育の問題について取り上げて頂きたいと思います。

敷島 私の上げました母子家庭の問題を考えて頂きたいと思います。

工藤 組織を通してわたし達の悩みを、個人の問題から政治力に持っていく、組織というものについて……。

磯野 京都の上田さんがおっしゃったように、話し合いの場を持つと言っているのはまさにそのことです。

山田 政治意識を持たせるにどうしたらいいか。

長野 私の経験では、主人の民主化よりもしょうとめ及び妻自身の民主化が先決問題だと思います。その上で主人の民主化をはかる方がスムーズな、楽な道ではないかと思えます。

内村 私の一番困るのは、自分が真に民主化するためにはどういうふうに勉強して行ったらいいかということですね。

敷島 嫁としゅうとめの関係にちょっと似ていると思うのですが、本当の血の繋った肉親でなしに義理の関係——継子と継母と継父の関係、義理の間における家族関係をよくする方法……。

三木 先程から出ている嫁としゅうとの問題、夫と妻の問題、子供の教育の問題のいずれを取り上げても個人の確立ということが一番根本的に解決する鍵ではないかと思えます。いかにして個人の確立をはかるかという問題を取り上げたいと思うのです。

赤星 私の主人は、四十代ですが、四十代五十代の層の主人を民主化するにはどういふ方法がいいかと考えておりますが、それを協議願いたい。

工藤 先程から皆さんのお言葉を伺っていますと、犠牲になるという言葉が出てきたと思いますが、一つのものが幸福になるためにあるものを犠牲にするということでは本

長崎 いろいろ個人々々の差はありますが、一番啓蒙する必要があると思われる農村婦人ということについて、特に力を入れて話を持っていって……。

三木 農村婦人として非常に心強く思います。人口の半数以上は農民ですし、その半ば以上は婦人だと思います。その婦人が今の状態で果して日本の民主化ができるかどうか、非常に難しい問題ですが、一人一人の農村婦人の地位を高めること、農村の婦人が一人でも明るい場所に出てくること、その為に働きたいと私も思います。

磯野 長崎さんがおっしゃったことは、農村婦人の問題を取り上げることとはもちろんだが、例えば嫁としゅうとの問題をとり上げるには農村の婦人を基調にして大きく取り上げてゆきたいという御意見ですね。

神前 農村の不合理な生活慣習を論じているのが何であらうかということを持ち下げて頂きたいと存じます。

磯野 大部分の方が主婦が社会的に外に働く場合、いろいろな摩擦が起きる、それをどうして解決したらいいかというところをさっきおっしゃいましたね。それはもちろんここに取り上げるんですね。皆様がたくさん大事な意見をお出しになりました。みんな全部詳しくやっていった方がいいと思います。会議とか話し合いの仕方の一つとして、一般的抽象的にやってもかたないで、例えば嫁としゅうとの問

題を通じて、今までに出されたいろいろの問題を始終当てはめて考えてゆくというようにもってゆきますと、どの問題の場合もあるところにポイントが合つてゆくと思います。そういうふうにしてゆくといかがでしようか。

進行係 いろいろお話が出ましたが、磯野先生が言われましたように、項目をしばって、例えば嫁としようとの問題、夫と妻の問題、親子の問題といったテーマで、一応とりあげて、それぞれのテーマの観点から話題を拡げながら進めてゆきましたら、具体的に提案のありました家庭内を民主化するための方法、嫁自身の自由を確立する方法、個人で解決できない時は話し合いの場を作。たらどうか、という方法等にも及んでゆくと思いますが、いかがでしようか。あまり項目ばかりたくさんにしましても重複するようになりそうです。では先程から皆さんがばらばらにお掛けになったものをまとめてみましょう。

嫁しゅうとめ、つまり違つた世代と一緒に暮す場合のトラブルというようなことが、皆さんお嫁さんとしての経験を持たった方の立場から多く出され、いわゆるトラブルが自分を伸す上に支障になった。これをどう考え、どうすればよいかという御意見が多かつたと思いますから、「嫁しゅうとめの関係について」をまず初めに取り上げ、次に、同じく、世代を異にする場合の「親と子の問題」をとりあげ

たいと思います。

それから、夫の民主化という問題もかなり出ておりましたので三番目に「夫と妻の関係」をとりあげて順々に話し合つてはいかがかと思ひます。

### ◎嫁姑の問題

蒲原 嫁姑の関係をすけれども、よく地方においては、事なかれ主義ということを中心とする開通つた考えがあるんです。

進行係 それもこの問題をお話し合います中で、御意見として述べて頂きたいと思ひます。

そうしますと、今日あと一時前半と明日三時間の時間がありますので、大体今日の時間をしゅうとめの問題を討議するのに当てたいと思ひます。

森 嫁と姑との間を円満にするには話し合いが大切だと思ひます。困らんの時に話し合いをつけること、そうするといろいろな問題が出てきますが、それも農村では経済的な問題が多いのです。従つて、嫁姑の問題も経済的の真付があつたらある程度可くゆくと思ひます。

山田 私の方は農村ですが、おしゅうとさんと嫁との悩みを訴えられる時に、お金が足りないから喧嘩が起つていくということが、一番多く感じられます。

私がその部落に移りましたから三年になりますが、一番初めに裏作が食料だと思ひました。麦だつたら一反歩一万円しかとれないが、トマトやキュウリを作ると何十万も金とれるから、そうすれば解決がつけるんじゃないかと皆さんに進めました。しかし話しても話してもなかなか乗って下さらなかつた。今年の二月ですが、私がしている仲好し会の一員の方が其作をしてみようということになつて、トマトの苗を四千五百本ばかり買ひ入れ、一反六畝に植ゑつけました。農家ではないが私も手伝いました。それが成功したら、皆さんも真似て実行するようになり、収入がふえるんじゃないか、そしてその収入を子供の教育などに役立たせたいんじゃないかと、たのしみにしています。困っている方達の問題を何とかして上げたいと、皆で力を合わせて一緒にという雰囲気を作りたいたと思ひて働いております。

解決の方法について、誰かが刺戟しないとだめだ。森さんは自分で解決していますが、私の見ます範圍では、みんなが仕合せになりたいと願つても解決の方法がわからない人が多い。だから誰か、氣付いた人が刺戟してやるということが必要だと思ひます。すべてのことを自分のことだけに考へるということは、狭過ぎると思ひます。

三木 経済的の裏付があつて始めて農村の嫁と姑の問題

が解決するというお話がありましたが、実際問題として経済的に能力にならんとするには、どうしてもよい働かなければいけないということになつてくるのです。働く他に農村が少しでも豊かになる方法がないと思ふ。働けば働くほど精神の貧困というか、考へる時間とか知ることとかが少なくなつてくる。その精神の貧困がよい農村の貧しさといふものを倍加してゆくと思ふんです。この原因が結果を生み、結果が再び原因になるという悪循環を断ち切ることのできるのはただ政治の他にないんじゃないか、私はそんなふうと思つております。その政治さえ、やはり同じような悪循環を伴つていふんじゃないかといふところに私の悩みもありますし、どうして解決して行つたらいいか、苦しんでいるのです。

佐藤 さっきから出ている話し合ひは、たしかに大事なんですが、もっと具体的に言つて、話し合つて、互に少しづつ我慢して歩み寄ることが必要だと思ひます。私は自分と母との場合を考へてみる時に、心にもない妥協は許し難いと思ふのですが、私の考へ方を母に押しつけるということには母に犠牲を強いることになり、母の方の考へ方についても私がついてゆくことにすると、うつ横がたまって、持つて行き所がなくなるといふことを考へると、やっぱり、どちらにしても損だと思う。それで私は、ちやうど階段を下りる

ようなもので、お嫁さんの方もある程度一応階段を下りるし、母の方もある程度自分の生活から階段を上って、そうしてお嫁さんが漸次元の位置に階段を上って戻ってゆく、そのときはお母さんをも一緒に納得のゆく方法で引き上げてゆくということがむしろ必要ではないかと思う。

先程から経済的裏付け云々の話が出ています。経済的な裏付けというのももちろん大事ですが、経済的裏付け、言い換えますと政治的貧困とか国の貧しさというところに責任を転嫁していても当面の解決の上には間に合わない。ですから妥協は許し難いけれども、お互いに納得のゆく方法では妥協もすべきであるし、譲歩もすべきだと思います。私はその方法でやってきたが、年寄の考え方から言う、非常に孤独化されるのが淋しいことであり、辛いことです。ですから、私は、自分が働きに行く間は母に家事をやってもらいますし、夏休、春休にはおばあちゃんを旅行に出してやる、そうすると、どんなにおばあちゃんの方が家庭生活を営んで行く上に大事かということが認識されると思う。

さき義老院のことを話しましたが、それは嫁と姑が仲が悪いから義老院に行くというのでなく、年取ってからは貧富階級の差はなくなつて、お互に気楽に余生を送れる義老院があったら仕合せだということで、そういう意味から義老院の制度を提唱したいと思っています。

うしたら、「あの妹はお料理も何もできないのよ」と言つた。その時、なんてやさしいお姉さんだと思つた。小姑として見た場合が意地悪であり、肉親である場合にやさしいお姉さんだというようにとれる。ですから、もし義理ある仲であるという観念をとることができたなら、もっといろいろな問題が簡単にゆくののではないかと思う。私が母から、こんな拙い料理は食べられないと言われた時に、しうとめだつた場合、意地悪のような気がしたが、結婚する前にも本当の母からよくそんなことは言われていた。その時は何ともなかったのが、なぜそんなことを思わなければならぬかと思つた。それから絶對に、義理ある仲であるという前提をとって考えるようにしてきました。

長崎 話し合いの場ということについて私の家で実行している例を御参考におし上げたいと思います。私の家で一番暇なのは姑です。私の家族……と申しまして、主人と私と姑と、義理の姪と四人だけですが、その生活の幹事役を姑にしてもらい、家族の生活メモをつけてもらっています。土曜日の食事の後、家族会議を開いて、そこで姑がメモを発表します。「自分の息子はふとんをたたまなかつた、あれはだめだ。わたし(嫁)が料理が下手だったからだめだ。よそに出て何時に帰ると言ったが帰らないからいけない」等々が出されます。その時にみんなが、いつでも

内村 話し合いということ……私もそう思ってきたが、一番の根本になるのはお互に理解し合うことじゃないかと思う。うちの例を申しますと、父は七十四で、非常に職人気質で気が短い。なぜかと言いますと、朝から晩まで働き通してきたということもあるが、祖父が誰かに判を貸して、借金を背負い込んだまま亡くなった。大きな家だったが、お医者にかける金もなくて子供を次々に亡くしてきつた。だから非常に短気になり、嫁に來た私には時々辛いことがあるのですが、夫から「こういう事情があったのだからもし父に分らず的な所があつても、その気持をわかつてや。てくれ」と言われて以來、私は父の生い立ちを理解して、短気のみならず、氣にさわること言われても、温い眼で見てあげようという氣が起きてきた。だから、一番根本になるのは、みんながその生い立ちを理解し合つてゆくということから始まるんじゃないかと思っています。

小池 私は、義理ある仲ということ、そういう観念を除いて交際したいと思つています。かつて私が自分の兄に自分より年下のお嫁さんを迎えた人と話をしたことがありまして、「おめでとう」と言いましたら「今度の人は何にもできないのよ」と言うんです。お料理もできないしお掃除もできない」という。なんて意地悪な小姑だろうと思つた。一カ月経つてその人自身の嫁さんをかたづけになった。そ

自分の行動を合理化するように非難ばかりすると、姑がいろいろ発言して批判をします。家庭の調和と明るさを保っている例として、皆さんに考えて頂きたいと思つています。

中村 私は皆さんのように、姑を迎えた経験がないので、客観的な見方で感じたことを申し上げたいのです。私の地方は段々島で、山のでべんまで耕作している。その段々島の若細農家ですから、結婚関係の座談会をしました時に、集まつたのは婦人会の会長さん格、そうして結婚適齢期の人は男の青年団長でした。ほとんど農家の人で、一カ月の収入はまず四、五千円位。その経済的な逼迫の中でお嫁さんを貰うについて、あなた達の理想はどういうお嫁さんか、と言つと、「理想は言いません、この多勢の弟妹の中に入って、母親にたてつかんで、よく働く嫁であつたら私は器量は言いません」とおっしゃつた。私はびっくりした。こういう指導者の青年団長はもっと新しい考えを持っているかと思つた。お母さんとの別居はどう考へるかと言つと、四、五千円のお金で別居させる余裕がないから、子供の守とか養育とかの経済的の一つの部面を担当してもらわなければならないと言つた。

その人達が、嫁さんに対して、母と喧嘩して去んだりしてはいけなかつた時に、私は、なぜ、もう一つおむとさんが自己を持つたお嫁さんをもつて、お嫁さんと

お母さんとの間のいわゆる潤滑油の役、お互に個性を持った人を誘導してゆく聡明な態度をとらないのだからかと思つた。

これを皆さんの前で言つてもだめで、男の人に要求することですけれども、もっと社会で、男子の研修の機会を多くして、お互の個性を尊重することを目指したならば、勞力源として女をもちろつというとはなくなると思ひます。嫁、しゅうとの一つの解決の方法は、男子の個人の確立ということだと思ひます。

進行係 今までの御意見は、大部分が嫁、姑の間の問題の解決法についてのべられたと思ひますが、方法論にはいる前に当然、なぜ嫁姑の問題が起きるのか、なぜ、女の方は娘時代には比較的前進することができたのに、家庭にはいると前進し得なくなる場合が多いか、ということについて、掘り下げてみるべきだと思ひますが、いかがでしょう。

肥後 旧來の常識や習慣が多過ぎるからじゃないでしょうか。わたし達が一人一人みんな新しい常識を作り出して、新しい習慣になじむことに努めると、だんだんよくなると思ひます。

山田 あんまり抽象的ですから、もう少し具体的に例をとつて話して下さい。

時代の人には絶対持てない技術を若い嫁が持つというのと、それが自分を理解してもらい、信頼してもらい、ないがしろにされないよりどころとなると思ふ。このようにすれば封建性も押し流されるし、一人が犠牲にならないで、みんなが幸福になってゆくと思ふ。

磯野 特におっしゃりたいことはこういうことですね。今までの日本の婦人の、母の美德として讃えられてきた犠牲ということは決して美德としてはめるべきことじゃないので、むしろ逆に考へてゆかなければならない、ということとを主張なさりたい、それが一つですね。それは家族の一員としての第一歩会ではとても大切なことのように思ひます。つまり、母親の悲劇というものを、もう繰り返さないために、是非とも必要なことです。

神前 私は七十八になる母があるのですが、本当に婦人自身が自覚しておれば、もう少し大きな抱擁力をもつて、温く年取つた人達を包んであげられると思ふ。あまり年取つた母、しゅうとに、今の民主主義を理解させることは難しいことだと思ひます。それで、もう少しこつちから讀んであげたいと思ひます。自分が理解して。

最良 私の場合しゅうとではなくて実母ですけれども、世代の非常に違つたものどうしの例として申しますが、私の母は非常に暴君であつた父に仕えてきた人なので、私共

肥後 經濟面を例にとると、低いサラリーマンの生活をしていても、世間の常識で、無理をしておつき合ひをする。当然の結果としてうちの經濟がうまく行かず、家の中も狭くなるといったことが諸所に見られます。もっと自分の生活に結びついた新しい常識を皆さんで作りましたらどうでしょう。

工藤 前進でき得ない原因は、家庭内の封建性にある。その封建的な日本の家庭生活が嫁というものに對して、自己を失わしめ、犠牲を強いてきていた。嫁が犠牲を賣つて暮し、他の者もそれが当り前として考へてきた。私はこれを正しいとは思わない。自分が、犠牲となることが、決して他を幸福にするものでないと思ふ。自分もよく、みんなもよくしてゆくことが大切なので、そのためには打開策として話し合ふ、そして理解し合ふなければならぬ。理解してもらふためには、自分というものを本当に確立しなければならぬ。自分を確立することとは、自分だけしか持ていないものを身につけることだ。姑が「この嫁があるからこそ自分は任しておけるんだ」と思ふまでにはなほなくてはならない。例えば皆さんがおっしゃつたように、お料理ができないとか、お裁縫ができないとかいわれるけれども、問題はそこから始まつてくるので、古い

夫婦の民主的なやり方を見て「お前は涙ぐましい健氣なところがなくなつた、もう少し女というものは健氣なところがなくてはいいんじゃないか」と言つていた。そこで私達は、結局こういうふうなやり方が、本当に家中が幸福になるんだという実績を見せたんです。そうしたら母が「やはりその方がいいな」とすっかりかぶとを脱いだ。今では近所でも有名な民主ばあさんになりました。だから実績をあげるのがいんじゃないかと思ひます。

磯野 おっしゃる通りと思ひますが、さっき岩手の方は、お父さんなりお母さんなりの生い立ちを理解する、それが始まりだとおっしゃいましたね。生い立ちを理解することはたいへん大切ですがもう少し広く考へて、どうしておしゅうとさんはああいうふうな考へ、感じるようになるんだらうかということと考へてみる必要がある。みんな初めから悪いおしゅうとさんにならうと思つてなつていてわけじゃない、よいおしゅうとさんにならう、しかも自分はいいおしゅうとさんだと思つているところに一層問題の難しい点があると思ひます。

今の鹿児島の方がおっしゃつた、こちらが自覚して年寄を包容してあげるといふことも必要でしょうが、讀んといふ最後の言葉が氣になりました。讀んといふことが大事な場合もありますけれども、初めにいわれたことの方がもつ

と意味が深いんじゃないかと思えます。単純に自分の自覚ということでないに、もう少し私達——私の場合ですと男として夫としておかれている地位を客観的に考える、要として、あるいはしゃうととしての位置というものを客観的に考える、なぜそういうことになるだろうか、なぜああいうふうになっているだろうか、それを考えてゆくというところが大事なんじゃないでしょうか。つまり自覚というところと客観的にみつけてゆく、それによって解決の方法をみつめてゆくのが大事じゃないかと思ふ。

山田 客観的にというところ、部落の問題として広く解決してゆくという方法ではないかと思ふ。

磯野 それはかりではないかと思ふのです。茨城の方は、嫁しゅうとの問題は社会的に解決しなければならぬということをおっしゃっていましたね。今、佐賀の山田さんがおっしゃることは、広い意味でその中に入ると思いますが、私が初めに言いかけたことは、いいお嫁さんだからこそ、しゅうとになった時に悪いしゅうとさんになるのだという事です。つまり家族制度の中でいいお嫁さんがある限り悪いしゅうとにならざるを得ないというその問題を考えなければいけないということです。ある人が意地悪とかいうことなしに、学校の時は良妻賢母教育を受け、家

族制度の中では、いい嫁さんとしておしゅうとさんに仕えるという生活を二十年も三十年もしていれば必然的に悪いおしゅうとさんになってしまふ。その人の主観的な考えに拘わらず、家族制度の中で置かれている位置からそうなってしまうという点を理解してゆくことが一つの前進になるのではないのでしょうか。

進行係 今の先生のお話に対して御質問がありましたら。

菊原 結局、自分はいいおしゅうとさんになろうと思えば、自分がしゅうとめになった場合、嫁の時代の空気にうまのを知る必要があるのじゃないか。

磯野 それは当然ですね。

菊原 まずその問題から解決したらいかがでしょうか。

磯野 一番初めに、岩手の方が話し合いということで家族会議というところをおっしゃったが、ラジオでも何でも、この頃は家族会議をいたしましゅうと、いっています。たしかにいいことですが、非常に問題なのは、話し合いもできないという状況に置かれている家庭の方がもっと多いという事です。だから話し合いしましゅうとというけれども、じゃあ、なぜ話し合いもなかなか行われないようなそんな家族関係なんだろうか。お年寄は日本古来の家族制度と習って家族制度を継承しますが、同じ家に住んでいな

ら話し合いができないという家族関係こそ、問題にしなければならぬ。

山田 私が入っている仲好し会というグループでは、去年一年間、嫁と姑の問題をとりあげました。初めに、お嫁さんとおしゅうとさんと話し合いなさいといっていたが、話し合いの技術が悪かったか、かえって悪い結果を生じました。例えば、農繁期の忙しい時に嫁と姑の会を開くと、嫁がいよいよ辛くなるとか、産後に、私の若い時には三日しか寝なかったというので、若いお嫁さんが早く起き出さなければならなくなった、そういう例があって、ある家庭ではお嫁さんが健康をこわして、最後は死んでしまったという場合まで起きました。そんな時に私達仲好し会の者は、「タカちゃんのお母さんが死んだ、タカちゃんはどうも困っている」と子供達にも話をし、農繁期には保存食を作って、炊事の手間を省く計画をし、また、お婆あさん達が旅行に行きなすたら私達中年の主婦も行くようにして、それから「一カ月に一日だけでもいい、嫁の休養の日を下さい」と、お婆あさん達に申入れをしました。そしてそれが実行されました。だから団体で解決することが解決の早道の場合がある。

磯野 今おっしゃったことには、とても大事なことがある。嫁姑の問題でも、みんなが集って解決してゆく。こと

に「世間体」をマイナスに働かすのではなくプラスの方に持って行ったということです。つまり古いことはだめだだめだと言っているだけでは問題は解決されない。古いものをふんぞり捨てた上で、どう前進してゆかかというものを考えなければどうにもならなくなっている。それを實際なさったという意味で、実に大事な報告であるわけだ。

三木 私が古いせいかもしれないが、嫁と姑という個人の中に団体の力を入れるのは、何か割り切れない、固いものを感ずるんですが……。

赤星 嫁と姑の話し合いということについて、皆さんいろいろ、困難なように言っていますが、宮崎県から、私の仙にもう一人佐藤さんが来ています。その方の体験談ですが、お嫁さんをもらわれますと、どんな悪いおしゅうとさんでも、母の会に入るそうです。お嫁さんは婦人会の方に入り、それぞれ月に何回か会を重ねますが、その会と言いましても難しい問題じゃなくて、自分達の毎日の生活の中から繰り出したところの不平とか不満とかいろいろなことを、姑は姑の会で、嫁さんは嫁さんの会で話し合いをして、ぐちをせい。いっばい言い、それを解決したり慰め会ったりして帰ります。ちょっと簡単なお茶菓子だけをたべて、お話をたくさんしてお喋りのような会にした。ところがそれを何回も重ねている中に興味がでてきて、「自分は

こんな着物がほしい」とか、「これもほしいけれども買えない」というぐちが出、結局それじゃあ貯金しましょうということになって、十カ月お金をためて、一緒に買ったんです。ところが買った品物が結局自分のものでなくて、家族のものであったということです。「だからどうしても女はだめだ、自分のものは買えない、今度からは全部自分のものを買いましょう」と又張り切って貯金をしておられます。嫁も姑も生活に明るさと張りあいを持ち、スムーズに行っております。

三木 今の御意見はいへん結構と思います。そんなふうにしてゆけたら、お互に相手の立場になってものを考えるようになって、嫁と姑との問題も解決し易いんじゃないかと思えます。

小池 さっき、方法論の前に、どうして前進できないかという原因の究明の方を、ということでしたが……

進行係 そうです。お話が弾みましたのでそのまま続けたいんですが、先程の磯野先生のお話を思出して嫁姑の問題の原因にもとりましよう。

佐藤 新しい制度で家長制度がなくなっている筈ですけども、長い間の習慣がなかなか抜け切れないということに人間の弱点があると思う。生活を慣習を打ち破るのに一番必要なのは勇氣だと思ふ。母逆も嫁いできた時には不

てくれています。だから、今までの慣習では想像できなかったような關係が、とてもスムーズに行っています。そのことによって、子供ももっとも私の再婚によっていたためつけられていないから、ストレスと育っています。

磯野 とても大事なことをおっしゃったと思います。よく、えらい婦人方が、本当のお母さんと思え、と書いていらっしゃる方がある。本当におかしいと思っていました。が、今、敷島さんが体験からおっしゃったことは、全く同感です。

皆さんがおっしゃることの整理の意味で申し上げるのですが、今までのような封建社会なりあるいは封建的な、敗戦まであった明治憲法下の家族制度の中では、人間は特に婦人は、妻は、人間としての自覚というのは持ち得ないというところこそ大事でしょう。持ち得ないようにするのが家族制度なんだということ、だからこそ家族制度の問題というものはわれわれみんなの——男でも同じですが、婦人の方としてはどうしてもがまんができないものである筈だと思ふわけです。人間としての自覚を持ち得ないようなものにする家族制度が残っており、残そうとしているところに問題がある。

進行係 今までのことを整理して次に移りたいと思ひます。

合盟なところがたくさんあったと思う。そういう時に、雇りの傭とか口を締がつて、事なかれ主義をとってきたために、結局母達が姑の立場になった時に、そういう傭がしみついたと思う。これは姑にかぎらず私達の場合にもあります。かりにいいことだと思っても「こういうことをしたら世間人が何と言うだろう。こういうことをしたら笑われはしないか」という卑屈なものが、つまり病となつて一種の封建性があります。

進行係 非常に長い間の家族制度の習慣がついてきて、深くしみ込んでいたため抜けることができない今のことについて、御意見がありませんでしょうか。

敷島 結婚する時によく、本当のお母さんと思うとか、本当の娘と思うと言いますね。けれども私は、義理の仲で、本当の肉親みたいな愛情を求めるといことが無理だと思ひます。だから、人間として同じこの世に生れてきたんだから、折角の人生をお互に大事にしてゆこうという氣持でゆくと、割合爽いことに扱われないんじゃないかと思ふ。

私のまえのしゃうとさんと孫との間には祖父の孫との愛情があるわけで、主人はそういう人間としての素直な、本当の神聖な愛情というものを僕達が奪ってしまう権利もなければ必要もないと言つて、もとの嫁家との交際まで許し

女の人が家庭に入った場合に、完全な一個の人間としてふるまいくくなるという原因が、長い間日本の國で行われた家族制度にある。そういう制度の中でしゃうと、しゃうとめ達は教育され、育ってきた。だからそういう方が年を取られた時は、まじめにその制度に順じて育ってきた方ほど、若い者から見えていかわゆる意地の悪いしゃうと、しゃうとめにならざるを得なかったのじゃないか。同時に、お嫁さんになる女の人自身も、長い間良妻賢母の教育を教えられ、三従の教といいますが、盲従し、可愛がられることが一番いい嫁になることだと何の批判なしに思ひ込んでいた。

そういったようなことが、女の人が家庭に入った場合に、自由に伸び伸びとすることを阻まれる原因となつたのではないか、そういうことが言われたと思ひます。

次に先程からも、これを解決するためにはどういう方法がいいかということが相当出ましたが、引きつづきしばらく討論したいと思ひます。

今まで出た方法としては、家族のお互同志が理解し合ひ、話し合う機会をたくさん持つこと。それから次に、個々の家庭、個々の場合だけでお互に悩んでいるのでなく、それを少し広げて、地域の方達との話し合ひとか、もっと広範囲な話し合ひによって解決方法を見出すといったような

ことが出たと思うのですが……。

三浦 皆さんのお話を聞いていると、あまりにも嫁しうとの問題が容易く解決できるというお話で感心しますけれども、私の場合ですと、母が七十で、嫁つき娘で、莫大な山林を持っている。娘が熊本に二人いる。又近所にも分家している。わたしはわたしなりに人間として自覚を持っていたわけですが、母と私の考え方がまるで反対だった。例えは分家した娘が本家へ牛を借りに行っても母の同意を得なければ借りることはできない。母の微心を得なければ何も出来ないありさまです。私は妥協というところがとても難しいことだと思っただ。母の考え方と私の考え方はまるで正反対ですから、母の方で私のことを非常に中傷します。で、婦人会でも全然働きとれないような立場に置かれておられますし、そうした中で私が人間として生きるといふことがいかに苦しいことかをしみて感じさせられているんです。

磯野 今、三浦さんがおっしゃったような問題の出し方がいいんじゃないかと思えます。巧くいったことばかり言うあまり意味がないので、こういうところに難しい問題があるのじゃないかというように話し合いを進めてゆくと、みのりが多いと思えます。

中村 おしゅうとさんにはなりたくなくてもわたし達は

いうんです。そのうち、お守りしていた子供がヒョコリなくなったら、神経痛のおしゅうとさんがとても暗い顔をして、おいおい泣き明す。「もっと明るくなって即座になんて遊んだらどうですか」と言っても、「俺の論うてもらう道具がなくなったから」と言う。自分は守りをする代りに食べさせてもらっているという気持ちだ。たらしいのです。又眼が見えないようになっても草を取る真似みたいなことをしている老人もいる。

磯野 きつと茨城の佐藤さんがそれについて御意見があると思えます。

佐藤 私の場合、先程も申しましたが、私が働かなければ一家が食べてゆかれないんです。主人が生きている時は母は子供のお守りだけでした。私が何もかもして、母は据置でしていたが、私が勤めるようになりましてからは、母にどうしても留守中の責任を持てたらわなければやってゆかれないんです。それで、一日の母と私の家事の分組を相談してきめました。朝は一緒に起きます。私が朝の食事をすると母が外の掃除をする。片付けは母がする。定時制高校に勤めていますので私は夜の九時から九時半、あるいは十時に帰りますので、母は先に寝るようにしています。又子供のPTAとか父兄会にも三回に一度は母に行ってもらおうというように、母にも家庭における持場をもってもら

ならなければいけません。イギリスのように養老院とか社会保険制度が完備されておたら、おしゅうとさんになってもあまり悩まないんですが、今の日本ではそうはいきません。私のある地域の農家で、とてもしっかりしたおしゅうとさんがいました。お嫁さんは完全に盲従ですから彼風が立たない、あそこほど理想的な家庭はないと近所の人がはめておりました。ところが、おしゅうとさんが亡くなった、近所の人は「やれやれ、お嫁さんが長生きすらい」と言っていてみんなお嫁さんを極で祝福した。それまでお嫁さんは、春になると妊娠してはのける、妊娠してはのける、というようだったのが、みる間に健康になった。それから、がまどは文化かまどにするし、台所はコンクリートでしきつめ、とても立派なお家になった。私は、どうせゆきつかねばならぬおしゅうとさんの位置を、今からでも、国家が貧乏だからだめだと言わずに、一応心がけて、私達の安住の位置を、こしらえてゆきたいんです。

工藤 お嫁さんが非常に苦勞しているという話ばかりですが、私の方に、しゅうとさんがたいへん苦勞している例があるんです。男の方ですけれども、神経痛みたいになって、やとフラフラ歩きながら子供の守をしていた。「おじいさん、お守りなんかなくてもいいでしよう」と言いますと「だってこれがないと食うことができないから」と

ています。今のところはめいめいの持場持場であまり問題が起きずに行っているんです。

進行係 つまり、お母さんにも役目を与えて、家事を分担してもらいます。当然必要な人だという気持ちを持って頂くようにもっていったんです。すると、結果から見るとお母さんが張り切られてうまくいっている。

工藤 張り切れる間はいいいですが張り切れなくなると、どうにも身体が動けなくなると、家族の者から家事を分担させられている。農家では、家にいて御飯を炊いたり、お守りが仕事ですが、第三者から見ると、あんなにまでしなればいけないのだからかと思われます。お嫁さんの方では割合に制切っているが、しゅうとさん自身が家事を受け持たされた関係上、責任を果さなければ御飯が食べられないという気持ちを持っているらしいのです。

赤星 私にもしゅうとがいて、六十七になりますが元気で、自分から進んで鶏の世話やその他よく働きます。自分でも都合がいいと言っています。

数島 工藤さんのお話にありましたが、お嫁さんが割り切っていると言いますが、なぜもっと突込んで、おしゅうとさんを解放するところまで働きかけてみないんですか。自分だけ割り切っていたって仕方がない。

工藤 お嫁さんは、「そんなことしないでもいい、世間

の人にも悪いし、年寄りらしくしてくれ」と言い、おしうとさん自身も嫌で、休みたくて仕方がないが、いやでも応でもやっている。若い時は嫁さんとして苦しまれ、次にしゅうとめで威張り、やがてまた墓場に入る前はみじめなしゅうとになっていゝんです。こういうのが私達近所の一般のお年寄りの傾向です。

磯野 だから、なぜそういうふうになっているんでしょ。

三浦 それは農民の生れつきではないけれど、小さい時からしみついた習慣じゃないかと思ひます。働かなければ生きられないという気持、それは農民だけにしかわからないんじゃないかと思ひます。

磯野 けれども、そう言っただけでは解決にならないんじゃないですか。

工藤 それは、嫁自身が若い時に苦しまれて、やがて家庭内の実権を握るようになる、もうそんな仕事しなくてもいい」と言いながら、若い嫁の時代に苦しまれたかたきうちみたいな、そういう気持があるからじゃないですか。

山田 そうだと思ひます。

三浦 農村の貧困だと思ひます。そのために人々の心がゆがめられているんじゃないかと私は思ひます。

友達だけを招んで、新郎新婦対等の立場に立って、行きたいと思ひます。

進行係 先程から、年取った方のみじめな例が大分あげられました、その原因についての御意見として今までに習慣、嫁の復讐、経済の貧困等が出ましたが、ほかにかがでしようか。

磯野 つまりさつきからたいへんに、嫁のかたきうち……そうじゃないけれどもそれに近いのじゃないかというお話があったが、嫁しゅうとの問題をそれだけで片付けて、あるいはそれを主にして考えたのでは、昭和三十年のこの婦人会議の討論としてはたいへん問題じゃないかと思ひますね。そのことをもっとはっきり擲んで、結論を出す方向へ努力してゆかなければいけないと思ひますがいかがでしょう。

長崎 大きく言つてその原因は、家庭が旧来の家長本位の家族制度という考えに支配されているところにあると思ひます。

磯野 今の御意見は、つまり今までの明治民法などに現われている家族制度が大きい原因になっているというお考えですね。

長崎 それにみんなが支配されているということ……。

磯野 一つは貧しさ、一つは今までの日本の家族制度、

磯野 初めに何人かの方が、嫁しゅうとの問題は結局経済だ、ということがありました、そこに戻つてゆくと思ひます。

上田 今、農村の貧困ばかり出ましたが、老人が虐待されている例は、農村に限らず都会でもずいぶんあります。私の地域であつたことです。年取つて病氣になるとじゃま者扱いにする、自分の本当の娘がお見舞に行つても、嫁が見舞品を食べさせない。農村に限らず、じゃま者扱いにするといふところに、貧困といふものが、都会でもどこでも一応しみついていゝんじゃないかと思ひます。

森 自分達が率先して、年寄を家の中で一番大事な人だと前って、子供達に模範を示すことが、子供達が大きくなると親を大切にすることになると思ひます。

親の方も、自分がやってきたことだし、卑屈になつたり氣兼ねすることなく……。

三浦 私の息子は二十四で、結婚適令期なので、よその方が、おとなしい、いい嫁をもらえと心配してくる。しかし私は、私が結婚するのでないから、息子の好きな人を自分でえらばいいといふ、放任してある。

私は、嫁といふものが卑屈な考えで家に来られることが怖ろしい、対等な人間として自覺した人に嫁としてきてもらいたいと思ひます。結婚式も家を会場にし、両方の親類とか

ごく簡単に言つて、そうですね。

菊原 私はその経験がないから具体的なことは言えないんですが、結局家族制度に支配されているということもありませんが、お互が、例えばしゅうとと嫁、親と子、夫と妻といったような関係の間で、一方が他方よりえらいということを書いてこなしにして、友達同士の積りでやゝていつたらどうかしら。そういうことをやゝていつて、巧くいっている家庭があるんですよ。もう少しくだけて、友達同士の繋りがあったらどうかと思ひます。

工藤 たしかに考へてみますと、嫁としゅうとめの単なる個人的争いということだけでなく、家族の中の、力を持つ者が権力によつて全体の家族を支配するといふ古い家族制度の習慣の現われだと思ひます。

三浦 私は日本の住居の問題をどうしても考へなければならぬと思ひます。

進行係 日本の家族が大家族で一緒に暮す、だからそこに問題があるんじゃないか。

磯野 そうですね。つまり独立した部屋がない。壁がなく横で、いつ開けられるかという不安で、独立した生活がないということですね。

進行係 貧しさと家族制度に原因があるということになりそうですが、他に御意見はありませんか。



教島 人間は経済力がなくなっても人間として生きてゆく権利があるのだという自覚をさせられなかった。ということが、そういう卑屈になることだと思ふ。

磯野 衝動がさきにおっしやった経済の問題、政治の問題に大体尽きてはいると思いますが、あとの議論ではそれが具体的に出てこなかったように思います。家庭の民主化にしても、各家庭がポツリ孤独しているわけじゃない。社会の中にあるわけで、家庭の中の民主化は家庭の中だけで解決できるわけじゃない。亭主闖白で、家へ帰ってきて奥さんに威張りたいたのは、職場で威嚇られているからかもしれない。ある学者は、それを「抑圧移譲」と巧いことを言いました。だんだん上から下に「守りに当れば子に当る」式になっている。だから家庭の問題は、嫁しゅうとの問題にしても何にしても、部落なら部落、地域なら地域で、共通の問題にするということとはもちろんのことですが、それ以上に社会の民主化というものと同時に努力してゆかなければ解決できないということですね。

もう一つ、経済の問題ですが、まさにそうなので、経済の不安があるからこそ、しゅうとが非常に不安な気持ちになる。それが嫁しゅうとの問題を困難にしているということとことがあるわけですね。

家族制度というものが日本の政治と経済と社会の中にど

わせたくないという声が大分きかれましたと思いますが、その辺から、現在自分が親として、次の世代——自分の子供達にどのような態度で臨めばよいかといったことから討論にはいってはいかがでしょうか。

中村 戦後、自由主義とか自己の確立という言葉がいろいろ言われていますが、親達が自由と放逸をはき違えているんじゃないかと思ひます。子供がすることは、何でも自由だから親は昔のようには言えないという考え方のために、子供に対して戒しむべきところも戒しめず、親の威厳をはっきり示さねばいかんと思うのに、親としての誤った卑屈さで、厳然たる態度をとるべきところにもとっていないということ、子供の方でも、自由だから自分達は昔のようにお父さんお母さんの言うことを聞かんでもいいのだという、両方が誤った自由の解釈をしている所に親子のいろいろな問題が出てくると思います。

工藤 親の威厳というものについてどういうお考えですか。

中村 私が親の威厳というのは、親の意思を無理に子供に通すという意味ではありません。親が子供よりもっと長い人生を通っている。失敗も苦しみもたくさん経験しております。だから子供が間違った時に、親の正義感によって、そういう間違ったことはさすべきでないということ

いう意味を持っているかということ、われわれ個人をどんなに人間的でなくしているかということ、科学的に分析して解決の方向をみつめてゆきたいと思ひます。

進行係 それでは今日のテーマの嫁としゅうとの関係についての討議をこれまででしきたいと存じます。唯今磯野先生から、今日の討議の結論をお出し下さいましたが、時間がいっぱい急がれたため少し抽象的になり、おわかりにくかった点もありかと思いますが、明日これに関連して、引き続き、親と子の世代の違いからくる問題を話し合うことになっておりますので、その折具体的な話となつて出てくると思ひます。本日はこれでおしまいにしたいと思います。

#### (第一日閉会)

進行係 唯今から第二日目の部会を開きます。昨日の「嫁としゅうとの問題」に引きつづいて「親と子の問題」に入りたいと思ひます。

#### ◎親子の問題

昨日の皆さんの御意見発表及び討議の中から、嫁の立場として苦しんだ、現在も問題を持っている。あるいは直接自分は体験しなくても、周囲を見廻していろいろの問題を考へさせられている。そしてこの苦しみを子供達には味わ

あります。

一例を挙げますと、私の長男は、とても勉強好きで、妥協性がないという偏執家というか、少し横柄で、親に対して、横着な態度で「それでどうしたのじゃ」ということをいつも言う。その度に私は「そういうことを他人のところで言ったら失敗しますよ」と言う。主人は「言わしたらい、世間に出て失敗したらもういかんから、さとらせるために失敗させてやろう」と言いますが、私は失敗させないでとめてやりたい。

三浦 最近までは、学校で修身教育をやっていたし、家庭においても一応父親というものがあつたが、今は子供を教育する拠り所がない。従って子供達は甘やかされ、どうしても奔放になるということがあると思ふ。

進行係 三浦さんは子供を指導する上に、よりどころとなる何かを求めていらっしゃるわけですね。

教島 親達は長い経験をしているんだからといって、経験を高く評価し過ぎて、固まった考えを持っていることがあるが、私は、その考えをさらりと捨てて、新しい考えを学んでゆくという気持を持ちたいと思ふ。

そのことについてちょっと申し上げたいのは、わたしの母の場合ですが、ずいぶん封建的な暮らしをしてきた人です。私が昨日申しましたような結婚をします時に「あとの

結婚生活をしっかりやってゆきさえすれば、世間は、そのことをとやかく言わなくなる。とにかくお前は自分の幸福というものを第一に考えて、世間のことなんかは構わずに、勇氣を出せ」と七十に近い母がそう言ってくれた。いつも新聞を讀んだりラジオを聞いたりして、どんどん新しい考え方を吸収していつてくれる。私はそのことについて感謝していますから、私自身も子供に対してそういうふうな態度をとってゆきたいと思う。

進行係 唯今、今までの御意見と違った御意見がたまにたが――。

肥後 ちょっとさかさまなんです、最近親がずるくなっている、子供が悪いことをしても世間に対して、今は民主主義だからそういう一々うるさいことを子供に無理に押しつけない方がいいと逃げみちに、民主主義とか、自由とかいう言葉を濫用する人がたくさんある。三つか四つの子供でも、何か悪いことをしたら意識があるんですから、何回も繰り返して、そういうことは悪いことだとわからせる努力をすべきなのにしない。自由に伸び伸びと育てさせた方がいいというので、花をむしりとうろが自由々々といつて濫用し過ぎる傾向がある。ある程度小さい時から道徳的な教えをしつける必要があると思います。

工藤 大人が考えている子供のする悪いこと――例えば

て、よく子供の心を理解してやった上で、だれでもこういうことは世の中の人に迷惑なんだから、ということの小さい時から、人に迷惑かけないようにさせてゆきたいと思えます。

長崎 今までのように自分の家の子供であるという親の気持ちから抜け出して、自分の家の子供であるけれどもこれは社会の子供であるというように、子供を家族的な偏見から、社会の子供に――家族制のなかに対する親の絶対権というものから反省して社会の繁りをもった子供を仕立ててゆくということが大切じゃないかと思えます。

菊原 大分の工藤さんが、せつなげに花を見た時美しいと思う気持は大切であるけれども、人のお庭の花を取るといった場合にいけないという方法の一つとして、私は、お花もちぎれば首が痛い、というように、お花に対して愛情を通わせることが必要だと思います。

進行係 今話合われたことは一つの実例で、子供の教育についての母親の考え方なんです。

内村 自分の実家の例を申しますと、学校を卒業して勤めに出たばかりの弟が「友達、うちの母は、家のことをきちんきちんとばかりやっていつまらない。もう少し働かなくてもいいから家の中をユーモラスにしてほしいと話した」という。母は「息子が自分の言うことと意見が合わ

よその花を摘み取るときは、悪いこととして止めさせますけれども、子供自身にとっては、その花を摘んでみなくてはならないような、珍らしいものに対する魅力、意欲にかられていることが多いと思う。それを大人が、それを取ってはいけないと止めさせることがいいか、子供の、何か発見したい意欲を伸ばしてやる方がいいのか、そこに問題があると思う。

山田 子供と親とは、家庭内で深い関係があるわけですが、親が立派な社会人であれば、子供に対して、一々こうしなさい、そうしなさいと言わなくても子供はその父親、母親を自然に學んで、それを真似てゆく、そこに大きい、子供に対しての教育があると思います。もちろんその場合に、子供は未完成なものですから、時と場合に応じてはこうしなさい、ああしなさいと指導したり、そうしてはいけないと叱る必要があることもあります。

なお叱るときは、いつも同じ標準を持つこと。同じことに對して今日は叱ったが明日は叱らない、というのはいけないと思う。

數島 先程の、よその花を取ることがありました、あれなんかも、小さい時から社会性を身につける、社会の人には迷惑を掛けないという気持ちを教えてゆかなければならないと思います。だからそのことはそのこととし

ない、どうしたらいいか」と私に相談にくる。弟も私のところにくる。それぞれ適当な考えを喋ってやるんですけど、このような親と子の考え方の相違という問題はたくさんあると思います、どうしたらいいでしょう。

磯野 花のことで長すぎたわけですが、初めにお出しになったことではつきりさせておかなければならないことがあったように思います。

それは、自由のはき違いと、しつけの教育ということが出たわけですね。たしかに自由の濫用はいい筈はないのですけれども、しつけの教育というと、昔の修身教育とか道徳教育とかいうもの……うっかりするとそっちに行ってしまう。一般には、昔はよかったという考え方が、残っています。これは子供の教育を考える場合に、大事な問題だと思います。昨日青森の肥後さんが、社会科教育について何か希望と批判をお持ちのようだったし、そのことについても考えてみる必要があるんじゃないですか。

上田 今、学校教育の面にもそういうことが現われていると思いますが、校長先生のように年を取っていらっしゃる方は考え方が古い方が多い。学校出たての若い先生は、新しい考え方を、子供達が自主的にいろいろなことをやり、考えたことを発表する、そういう方向に持っていていっていいと思います。例えば修学旅行にしても、

校長先生は伊勢なんかにお参りして、かしわ手を打って、  
というようなことを強張なさる。新しい先生は、もう少し  
子供達の役に立つような、勉強になる方向に向けた、とい  
う一つの流れが、学校の中では対立しているんですよ。  
大人の中にもそういうものがあります。一つの問題を取り  
上げて、学校の中でも、新しい行き方をする先生とそ  
こに相容れない昔のままの教育を押しつけないという先生  
があるので、それを学校自身というふうに対処してゆく  
かということにも問題があると思う。

進行係 今まで言われた家庭において親として子供をど  
う教育するか悩みが、学校教育の上にも現われている、  
共通の悩みがあるということですね。

中村 両親はわが子に対していつも慈恵の判断が即座に  
できるように、常に教育してゆかねばならぬと思う。

数島 さっき誰かが修身教育とおっしゃったでしょ  
う。昔のしつけは、一つの家庭で、こうしなきゃならな  
い、あしなきゃならないということで、上から押しつけて  
子供を導いて行ったと思うが、私、自分が社会人として  
向上しようと思って、自分も向上しながら、自分の生活の  
中で子供が育つてゆくのが自分にも楽しいし人にも楽しく  
させ、迷惑もかけない、ということも自然に子供が覚える  
ような……私もまだ社会人として完成していないから、自

になっていらっしゃるように受け取れるんですが。

磯野 それでさっき数島さんが強張なさろうとしたこと  
は、親の長い経験を大きく評価し過ぎるところに問題があ  
って、親が絶えず進歩してゆかなければならない、とい  
うことですね。

愛媛の中村さんは、決して押しつけるという積りで言っ  
ていらっしゃるのじゃないが、少し重みが違っているところ  
がありますね。

それで三浦さんがおっしゃっていることは、そういう場  
合のはっきりした考え方は何が正しいものであるか、佐賀  
の山田さんもおっしゃったが、その基準をはっきり掴みた  
いということでした。それを親だけで話し合うのでなし  
に、子供と一緒に話し合ってください。

進行係 子供を教育してゆく基準とか標準を掴みたいとい  
う方が多かったと思いますが、そうしますと母親自身が  
先ずはつきり基準——正しい社会人としての在り方を掴む  
のが必要になってくると思います。父親母親の個人が確立  
していないのに、子供を理想的に育てたいといっても難し  
いと思う。自ら問題は、親自身のことに移ってゆく。子供  
の指導者であるため、親は子供の重荷にならないで、常  
に子供について行く為にはどうすればいいかという問題  
を、引き継ぎ話し合った方が、前の問題の解決にもなる

分達も完成の方向に向いながら子供にそういう雰囲気の中  
で自覚させてゆくという方法をとりたいたいと思う。  
神前 母親はいつでも子供と共になければならぬと思  
うんです。歌を歌う時は一緒に歌って、友達になることが  
一番大切じゃないかと思っています。

赤星 私のうちは、愛媛の中村さんの場合と反対でし  
て、主人が子供に関心を持つひまがありません。朝早く勤  
めに出て、夕方帰りますので、子供との接点が浅い関係  
上、子供の気持ちを理解するには時間が足らないと思いま  
す。ですから自然私の方に子供が何でも話してくれま  
す。友達という態度で、小さいなら小さいなりに、大きい子供  
は大きいなりに、子供と共にいる人の悪いことでも  
いいことでも批判し合って、主人のことも子供と共に批  
判しておりますけれども、そういうふうにしてなるべく母  
親が子供と共に批判することが大事なことを思います。

進行係 今までの御意見を伺っていますと、結局子供を  
よい人間、よい社会人に育てなければならぬと、親とし  
て考えていらっしゃると思います。

昔のように、親の所有物としての子供、親の趣味嗜好に  
よって育てたいというお考えの方はいらっしゃらない。将  
来独立したよい社会人となる要素を順々に増やう、親と  
してそういう方向に導いてやらなければいけないとお考え

思いますが、いかがですか。

中村 私の子供は二段階の言葉を使う。私に対しては  
「かあちゃん、しなさいよ」父親に対しては「そうであ  
ります」という。だから私は主人から較べたら子供に対して  
権威がない。

三浦 お母さんも対等の権威を持つようにすべきと思  
う。子供が青春期の悩みを持つようになったとき、お母さ  
んは相談相手になってもらえんというお母さんになりたい  
と思っています。

中村 そのくらいにはなっているんですけども、もう  
一階高いところになると、主人よりも権威がないんです。

小池 両親が同等な立場に立つということとは非常に必要  
ですけれども、今のような社会慣習からして、女をみる見  
方というものが偏っていて、しかもまだ可成一般にしみ込  
んでいますから、子供達が、今の段階においては父親の方  
を重く見るというのは、過渡期で仕方がないと思う。で  
も、将来の形としては、男親であらうと女親であらうと、  
同じになるべきだと私は思います。

進行係 昨日話合った家族制度の名残りが、父親、母親  
に対して子供が何となく差をつけるということになり、お  
母さんは親しいけれども頼りない、お父さんの方がえらく  
て相談相手になるという子供の態度となって現われる。そ

こで母親も、父親と同じ子供から信頼され、尊敬される親となるため、当然努力しなければならぬということになるのではないだろうか。もし御舅様がいられませんでしたら時間などの関係上、話を進めます上に、よい母親となるにはどういう方法が講ぜられなければならないかということとを、皆さんの体験などから推して、いろいろ伺いたいと思います。

山田 社会常識が足りないということが、子供に信頼感を薄らげることになるのではないかと思います。自分に足りないと思われる社会常識を、私自身母親として、子供のためにもつけてゆきたい。家庭人であると共に、私達は立派な社会人にならなければならないから、そのための研さんをしてく。

森 私はいえ、家庭内と、一般社会の面と二つに分けたいと思います。家庭の主婦としては、自分でラジオとか新聞とか読書によって勉強する、又いろいろ有益な講演など、あらゆる研修の機会を見つけて、参加することが必要だと思う。一般社会に対する働きかけとしては、婦人がグループ等で研究し合ったことを世間に発表するとか、ラジオの婦人の時間を、もっとみんながききやすい時間にして、広げることができる。今のうちに午後一時からでは農家の忙しい主婦は聞けない。だから、夕食後の九時頃とか、十時

もそうですし、日本の社会全体が家族的に構成されていることに問題の根源があるのでしょう。

中村 婦人学級とかその他ラジオを聞くとか新聞を読むという研修の機会がありますが、私のとっている一つの方法は、夕食後は家族が皆集まるから、その時に子供達や主人の話を聞くのです。上級の子供になると母親よりずっと進んだ面がありますから、それが私のたいへんいい研修の機会になる。そのグループに入ろうと思ったら、母親は勢い発言もしくなる。それには自己の研修が要ります。家族みんなの話し合いの中に研修の道を求めています。

内村 皆さんおっしゃっている母親の自覚とか、広い知識、研修の場を求める等を云々される方は恵まれた人と思う。皆さんの話を聞いて思い出したのは、私の知っているある五人の子供を持ったお母さんですが、その方は御主人に亡くなられて、小さい菓子工場のキャンディーを紙に包む仕事をやって、朝八時から夕方五時までで百円です。一時間残業しますと十円つくだけです。けれども十円はしくて、一時間二時間残業して帰ってくると、子供等は待ち疲れて御飯も食べないで寝てしまう。PTAにも何も出てやれないし、帰ったら話しようと思っても、ぐったり疲れるし子供も疲れて眠ってしまう。どうにもしようがないとおっしゃる。そういう人達はどう問題があるか

頃とかいう時に、短くてもいいから婦人の時間を設けてほしい。

工藤 農村は、とてもレベルが低くて、婦人が自分で考える力なんかほとんどない。もともとレベルの低い人達が、さらに家族制度封建制度の中で、考えることさえ許されなかった。考える力を養うためにこの際婦人学級というものを是非法制化して預いてその機構の中で考える力を養いたい。

進行係 考える力がない原因が封建制度にあると抽象的におっしゃいましたが、具体的には？

工藤 女というものは抑えられてきたから、過去の考えというものが……。ずっと昔からの農村の生活が、習慣だけで物事を解決していますから。

磯野 おっしゃりたいことは、こういうことが一つだと思えます。「エヘン、仄吹」ということがありますが、これでは考える力は全く作られないわけです。夫なりしゅうとなり、自分の眼上の者が何を考え、何を感じているかを、絶えず窺って生活している。人の顔色を見て、言われる前にするのがよく気がつく嫁といわれる。このような場合に、自分の考えを持てる筈がないわけです。軍隊の新兵が同じです。女の人をこのように位置付けているのが家族制度です。家族制度は単に家の中ばかりでなく、部落

思う。皆さんがあまり恵まれた話をなさるので、一つの話を出したのです。

三木 結局貧困というところに落着くんじやないかと思えます。農村でしたら時間がないということが問題になります。又先程工藤さんもおっしゃいましたが、農村の婦人は全然自覚していない、そういうことを考える気持もないというの、一つの見方だと思えます。それを引き出してゆくの、私達少し余裕のある人間のやるべきことじやないかと考えているのですけれども……。

磯野 工藤さんも、家庭のことを犠牲にしてまで一所懸命やっていらっしゃるわけですね。三木さんの場合には、ただレベルが低いということだけで済ませられないという気持ちから農村で実際にいらっしやるだけにいっそう頑いんでしょね。ある人たちはレベルが低い。だからそれを啓蒙するという行き方で、例えば婦人学級をやったにしても巧く行くだらうかという疑問をお持ちじやないんですか。

三木 婦人学級をやったことがありますが、出席するのは恵まれた人達だけです。私達の本当に啓蒙しなければいけないのは、いつも吊ばかりに行っていなければならぬ人達です。私達の悩みはそこにあるのです。結局貧困というところが問題になってくる。

工廠 私の婦人学級には、主婦学級があって、部落の集りですから、どんな貧困な人でも一月に一回か二回は出られる。そこに講師の方に無理して来て頂いています。私の方では、出て来ない人というのはないんです。

山田 婦人学級に出席しない原因に、興味を持つ問題がとりあげられないということもあると思います。

お料理をしようと来ます。お料理をして、食べたからおしやうとか怒られるから持って帰る。持って帰るけれども、している間に何かかんとかおしやべりをする。リーダーが、そのおしやべりに、学校の膳、子供の膳等をもち込むという工合に持って行ったらと思います。

磯野 今、非常に苦心して方法を考えていらっしゃるわけ、問題なのは、例えば求めようとする意欲がないと書いていらっしゃる。たしかにその点もあるんでしょうが、いわゆるレベルが低いといわれている人びとが、実際にそうなんだらうか、実際そういうように、レベルが低いと決めてしまっているんだらうか、それは巧くゆかないんじゃないか、つまり、啓蒙という行き方では決して巧く行かないんじゃないか、上から啓蒙するという行き方では、

三木 それは先生のおっしゃる通りだと思います。そのために私も苦しんでいる。私が婦人会の仕事に関係したのは去年の春からですが、それまでも、先程工廠さんがおし

かったように、小さい会を持ちたいと思いつても計画だけは立てたが、私が会長ではありませんが、女の偏見といえますか、心の狭さから、今までわたしの気持は全然容れられなかった。せめて隣りの方だけでも思っています、時折、寄って話をすることがあるんですが、その場ではわかっている、やはり家庭へはいりますと自分の思うようにはゆかない。しゅうとさんとか、主人の無理解とかが災いするんじゃないかと考えております。

菊原 先生から、どんなにすればいいか聞きたいんです。

磯野 私の一つの反省なんです。僕もふだん、学生に講義したり、集りなどに参りまして、上からものを言ったりいへん悪い世を持っています。もちろん非常に苦心していらっしゃる方、多年の経験を持っています。民衆上からやろうと思っていられるとは思いません。民衆は生きてゆかなければならない。現実には生きています。そこには必ず、いわゆる文化人あるいは知識人と称せられる者の物尺で見れば低い、別の一つの知恵がなければ生きていられない。そういうものをだんだんに発展させてゆくという筋道を通じてゆくべきじゃないかということなんです。

赤星 さつき石川の方がおっしゃいましたように、私

は、ラジオで放送して頂くのはいいことと思います。私も小さい町に住んでおりますが、農村だけでなく、町の方でも、下層階級は共稼ぎですから、子供なんか放りっぱなしで一日働いておられます。お昼の婦人の時間などに放送されて頂く機会がありませんから、夜の休息の時間に放送して頂きたいと思えます。一例を申しますと、去年当て

ました「金のなわ」と申しますか……おじいさん、おばあさんがとても喜んだ。そういうような演奏を繰り込んで放送して下さったらいと思えます。

長崎 皆さんが、今おっしゃったようなあらゆる啓蒙運動と同時に、社会生活の改革とか、政治に直結して、外の自分の住んでいる環境を、政治の力で変えて頂くという方法、内からと外からと両立して、婦人が個人の確立を目指すようにして行ったらどうかと思えます。

進行係 環境を変えるという？

長崎 細かい政治に直接関与する方法もありますが、選挙の時など――参政権の問題になるが――選挙権を有効に使って、婦人を擁護して下さるような綱領を持っている政治家とか政党に立って頂いて、婦人の向上を政治の力ではかってもらう。社会施設とか啓蒙の場を作って頂く、あるいは家族制度の復活なんということが絶対行われないうようにすることも、女性が目覚めかけてきた向上心を育ててゆ

くことであって、もしこの度あれが復活するようになれば、婦人の意識というものをまた昔に戻すことになるかもしれない。そういうことも同時に考えてゆきたいと思えます。

進行係 先程は狭い身邊の問題を話し合いましたが、今は、広範間の解決法の一つについての御意見が出されました。

菊原 磯野先生の御意見をもう少し聞きたいんです。上の意識がないというのでなくて、別の面の知識を持ってゆくと、という言葉自体がわからないんです。もう少しわかり易く話して頂かなければ。

磯野 僕もわからなくて非常に考えたんです。なぜかという、都会で作られた、いわゆる文化人と称するものが考えている一つの考え方というものがあつた。あるいはそういう特殊なものでなくても、一般的に言って、高いとか低いとかいうことがあるわけですが、そういうように高い低いというように考えること自体に一つの反省を持てないんじゃないかということが一つなんです。つまりある標準から見れば低いということはたしかに言えるわけでしょう。たしかに字も読めない、本も読めない、知識が低いということがあるわけでしょうが、非常に難しい生活の条件の中で一家を支え、生きてゆくという場合にはたいへ

んな努力が積み重ねられた知恵というものがあろうと思う。そのすべてが決して正しいとかいいとかいうわけじゃないんですが、そういうものの値打というものを充分に考えて、そこからだんだん連続してゆく、より高まってゆくというふうな考えてゆかなければいけないんじゃないかと思う。

三浦 炭鉱婦人協議会ですか、あれは強力な組織を持つようになったが、あれを学ぶ必要があるんじゃないかと思う。あれは自分達の生活を通して眼を開いたわけでしょ。上から啓蒙するのでなく、身近なものから手を取り合っ出て出たんじゃないかと思えます。

進行係 あれは炭鉱労働組合の外部団体で、主婦の方が作っている団体のようですね。

佐藤 婦人が伸びにくいのに、住居の問題も非常に関係があると思う。ことに、戦後になって、狭いところに家族がたくさん住むので、みんなが独立した部屋を持てない。静かに考えたり反省したりする機会が非常に乏しくなるんじゃないかと思えます。

菊原 もし婦人学級に出て、家に帰ってきて静かに考えられなければ家に帰る道すがらとか……。

佐藤 婦人学級に出るとか出ないとかじゃない。一人で手を動かしながら考えろ、というお母さんは比較的眼と眼

に一つです。だから謙虚でありたい、啓蒙はいけない。何とかしたいんです。

磯野 さっき山形の三浦さんのおっしゃったのは、炭鉱連のような、ああいった組織を持つということをおっしゃいましたね。ああいった組織労働者の主婦はいが、一般の主婦は話合いの場を持ち得ない。それから和歌山の三木さんが言われたように、農村では偏見や心のせまい人が多く、組織を作ることには非常に難しいということがあるわけですね。どうしても組織を持たなければならぬというところは昨日から皆さんが言っているらしい。

上田 私は実際やっているんです。私の子供の学校にとっても貧困児童が多い。その困っているお母さんの実情を知っていますので、私達PTAの仲間というふうにして助け合ってゆくかということが問題にされました。お母さんの向上も兼ねて話し合いたいということになり、組織なんて大げさなものでなく近所の者だけで、お話し合いの会を持つことにしました。はじめは五人くらい集り、子供の問題から話してゆきましたが、話している中に細かい生活のことも、話し合えるようになり、そこに真実の響りが出来てきて、だんだん人が増え、盛り上って、今では三十人位の集りになっています。上から啓蒙する集りではないだけに、どんな寒い日でも、炭のかけらでも持ち寄っ

う。多くの女の人はもっとくるくる、これを終ったらあれをしよう、洗濯が終わったら縫い物がある。というように、生活に追われていると思います。自分が手足をゆっくり伸ばしながら一日のことを反省する部屋があればともかく、そういう部屋がないために、女の人は考える力を乏しくする。それがはっきりした原因とは言い兼ねるが、一つの誘因になっていると思う。

進行係 今のお話に、家がせますぎて静かに考えることが出来ないということと併せて、労働が非常に過重であるということが出てきましたね。

磯野 主婦が忙がし過ぎるのですね。

数島 それは男性に理解がないということが一つの原因になっています。

中村 やはり夫婦の愛情の問題になりますよ。

進行係 他に重ねて御意見がありましたらおっしゃって下さい。

山田 私達農村の中に暮して、啓蒙などと、上から言うのはたしかに横着と思うし、話している場合に、同じ人間だということはいつも胸に置いている。それで、その人達の不仕合せというものを黙って見ていられないために、何とかしたいというのを、どうして行ったらいいんでしょうか。何とかしないでいられない。しかし、一対一はたしか

で、一所懸命、子供のことには行政のことにはしろその場で出し合います。そういう話合いの会を地域でお待ちになったら一番いいと思う。

中村 私のところは、昨日申しましたように、PTAの地区活動を利用して、十人ぐらゐがそのまゝの姿で、一グループ作り、時間少く、お金のかからないようにして、切実な問題を盛り上げるようにしているんです。

山田 上田さんの場合、リーダーは。

上田 リーダーは作らない方がいいと思って、作っていません。自分達が話さなければその会は育たないんですわ。だから、お互に話を出し合うというところに生々しさがあるんだと思いますよ。

進行係 いろいろお話が出ましたが、この辺で親子の問題を一応まとめたいと思います。

初めに、子供の教育のことについていろいろ御意見が出ましたが、子供をよい社会人にするように親は育ててゆかなければならない。そのために、昔のように親の権威にこだわらないで、既成の慣習や考えをふりかざして上から子供を教えるのでなく、対等な立場で、人格を認めながら、友達のような気持で一緒に学んでゆくのがいいんじゃないかということだっと思えます。

次に、そのように子供を導くために、又母親自身が子供

に遅れないために、親自身の個人を確立しなければならぬ。方法としては、個人で勉強することも考えられるが、その他に一人一人で勉強し、できない人については隣近所とか地域で誘い合って、指導者というものは置かないで気軽に誰にも共通の体験のある子供の問題とか生活の切実な問題をとりあげてお互に話し合う機会を持つ。お互の生活を話し合って、その中から自然に学びとるものが出来て、視野も広くなり伸びてゆくのではないか。

その他、女の人は考える力が、長い習慣から退化させられていくが、その原因となっている封建性を取り除くことが必要である。そこで自由に考え、且つ喋るというのを訓練することも必要だろう。静かに考えることが出来ない日本の家屋と家庭、それから忙しくて勉強する時間の余裕がないこと等、個人だけの努力ではなされない問題も出され、小さくは夫や家族の協力、大きくは国の政治的、経済的、社会的解決が必要であるという御意見も出ました。

親が立派な社会人として自らを確立しつつ子供とともに進み、子供のよい理解者となり指導者となり、保護者となり、友達となって世代と世代の断層を埋め合わせながらゆくの今後の親が子に対する態度であらうということだと思います。いかがでしょうか。

それでは、親と子の問題に関してはこれでおえることに

しまして、十分間の休憩に入りたいと思います。

進行係 再開致します。

### ◎夫婦の問題

三番目の夫と妻の問題について、あと残った時間お話し合いたいと思います。どういふ点からいって行きますでしょうか。夫婦生活の出来——結婚についてからではいかがでしょうか。

工藤 我、東京にきて不思議に思ったんです。田舎でも、結婚というものは両性の合意による割合で、本人同士でなければいけないから、家と家との觀念を捨てましょうと言っているのに、共済会館に着いたとたんに、〇〇家御披露というのが九組もあり、第一にびっくりした。次にびっくりしたのは、日を選ぶのだということです。やはり東京でも何々の日がいいとか悪いとか考えているのだなと思います。

赤星 結婚はどうしてもお互の理解に立って行われるべきで、理想から申しますと、恋愛結婚の方をおすすめします。ですけれどもその恋愛がまた問題で、ほんの瞬間的にお互が愛情を持ち合った結婚ならば永続性がないように思いますが、三者から強い反対があっても互に本当に理解し

合って永久に自分達の家庭を築いてゆこうという信念を持っておりますならば、幸福な結婚を築き上げてゆくことができます。と思います。

進行係 一般論をおっしゃったように思われますが、皆さん御自分の御結婚の当時のこと、現在とを考えると、体験を通して結婚の本質についての忌憚のない御意見を伺えたら参考になると思います。

三浦 私は平凡な媒酌結婚をしましたけれども、二十四才になる自分の息子には「しゅうとが貰う嫁でない、本人同士の結婚だからわたしは一切関係しない。けれども恋愛だけですゝめ決めるのは危険だ、人生で一番重大な結婚の問題ですから理性を働かせて、精神的に豊かな人を選ばなくては大切だ」と言っています。

森 私が配偶者を選ぶ条件として考えたのは、第一に健康であるということ、第二に尊敬できる人であるということ、第三に生活力のある人ということでした。勿論好きな人ということも前提としてです。

敷島 周囲の人の結婚を見ていると、一番大事な根本の問題を忘れて、末梢的な、お道具を持ってゆくとか、気締ってゆくとかということに重点をおいて、戸籍を入れるようなことを赤ん坊ができてからにするという家庭がよくある。それは、荷物をたくさん持って行って補わなければ

価値がないような、女の子を低く見たならわしが続いているんじゃないかと思う。わたしが結婚する時は、健康診断と入籍をすることを、形式の面では大事なことにしました。貧乏世帯で荷物もなかったのですが、一番大事な愛情の問題や、結婚の根本意義を考えずに、末のことはかりみんなが考えているということは、結婚女が低いものに見られることになるんじゃないかと思う。

小池 私は、自他共に許す非常に幸福な夫婦なんです。私達二人とも敬愛し合っているんです。足りないところはよく見合っていますけれども、どこかで夫のいい点を必ず見出して……そういうことから今非常に幸福なんじゃないかと思っています。

神前 さっき敷島さんがおっしゃったように、夫婦はどうしても愛情が大事だと思っています。しかし私のいる鹿児島は封建的なところで、鹿児島県人の主人も、封建性が強く、愛情は持っていないでも私を対等にみてくれない。こんなことじゃいけないと思って、いろいろなことをした。第一に、自分に生活能力があればと感じ、私は店を始めた。それがとても私にはプラスになったと思います。妻が生活能力をもつことは封建性を打開するにはとてもいいことだったと今思っております。

山田 鹿児島の方がおっしゃったように、夫婦のどちら

もが生活力を持つということはだし、かに必要だと思いません。しかし必ずしも妻が職業を持たなくても、夫との分業の意味で家庭を担当し、常に勉強して夫と共に成長してゆけば互に幸福だと思えます。

磯野 愛情というものが大事だということ、これはもういいと思うんです。けれども、今日われわれが問題にすべきことは、一体そういう愛情が本当に育ってゆく環境、社会的な条件があるかどうかということを考える必要があるわけです。皆さんもお子さんのことをお考えになりました、芽生えが成長してゆくような社会的な条件があるかどうかということについて、きつと疑問をお持ちになっていると思う。

数島 主人が、今までは男だけが社会をリードしていたために、国としても損をしていたが、これからは女が育まることがよって男を含めた社会全体が高まってゆくんだという考えを持って、一所懸命に私が育まするための時間とか余裕をつけてくれるわけです。そのことによって、妻が高まるのが夫にとっても仕合せなんだという自信を持つようになってきたんです。

三浦 近頃結婚した農村の若い人達のお話ですが、いろいろな夢や希望をもって結婚しても、家庭の中に入ってしまうと、ああいう住所の構造上、自分の木の愛情の生

活を持たれなくて、姑、小姑に始終気をつかって、夫婦の愛情生活は全然持たれないというんです。話をするにも周りに気を遣って、自分の夫と妻という態度で互にいたわり合う話ができない。それで、黙って二人で働いている時だけが自分の楽しい生活だと述懐する人が多い。

内村 それに因連して、この間女学校の級友で、農村に嫁いだ人がこんなことを言っている。とても居たたまれなくなつて何べんも出たが、どうしても夫に愛情を感ずるので、幾度も戻つて、八年ぐらいになる。どうしてかという、住居の問題になってしまふんでしょうけれども、寢室にお母さんがスツと入って来る。「どうして出なかったの」と言つたら、子供があつたし、夫に愛情を持つたから、それにもうちょっとでお母さんを見送るところだから、がまんしていますという悲しい話を聞いた。

小池 夫婦の愛情を阻むものとしての私の経験は、住居の問題としよう。と、しうとめの問題が多い。私、めったに喧嘩しませんが、一年に一べんぐらい喧嘩したのはやはり住居に係っている。家のものに馴れていない時、二人きりで銀座の真中に出る。すると周囲には誰もいないので、二人だけという感じが持てた。だから、住居の問題が家庭においては夫婦の愛情までも左右しているのじゃないでしょうか。

数島 夫が愛情があつても、世間体で、鼻の下が長いといわれることや、日本の男の人は、奥さんに対して愛情を表現することをテレくさるので、知らんふりをしている方が多いと思います。

工藤 夫婦の問題については、性の問題を抜きにしては考えられない。性生活というものをどういうようにして巧くやってゆくかということによって、売春婦の問題も二号の問題も解決される面があるんじゃないかという気もするんです。

赤星 私も周囲にそんな例をたくさん知っております。自分の住居において夫婦だけの愛情の表現をする場所がなく、みんなから監視されているような環境にあります。で、結局男の方は自由がききますから、家庭において妻との間に満足できないことを、外の女の人によって満足させようとする結果がたぐさん出ております。そんな方の奥さん達は、戦々兢兢として夫をいつも尾行して歩くということになります。このことは、経済問題もからみ公金の使い込みに発展することもあるので、非常に重大なことだと思います。だから本当に、夫婦生活の問題は、お隣り近所同士でも、恥かしがらずに研究してゆかなければならないと思います。

進行係 今までに出た御意見は、夫婦の順調な成長を阻

むものとして日本の住居の問題、それから、姑、小姑の存在、うるさい世間の監視があるということでしたが、その他に御意見がございますか。

三浦 日本の婦人の精神生活が貧しくて、今まで自分の私有物のようにしてきた息子が結婚して、若い嫁にもぎとられるような自分の支えがなくなったような気がする。それを支えるものを何かに何か持っていれば息子夫婦の生活干渉も薄らぐだろう。結局婦人の教養の向上が先決問題だと思ふ。

進行係 それは、昨日の嫁しうとの問題にも出たことですね。

中村 私は、見合結婚で、条件だけお仲人が並べ立て、進つてはや三度目に結婚した。だからはじめわたしには愛情なんかなかった。今は愛情がどれだけあるかわかりませんが、とにかく幸福な夫婦と自他共に許しております。こまできた原因の一つに主人の善良さがあつたと思うが、それと、夫婦の助け合いと、努力とによって日々積み重ねられた愛情があつたと思ひます。

磯野 皆さんのおっしゃること、みんな正しいと思いますが、進行係が初めに言われたように、さっきの話のまゝめになるようにしながらこの問題を考へてゆく。夫婦の問題、愛情の問題にしても、すべて社会的な関係において考



えてゆくというふうにこれからやっていった方がよいのではないかと思ひます。

進行係 今まで出ている例は、あまりに申し分のない夫ばかりですが、そう完全な人ばかりじゃないと思ひます。

磯野 進行係が言われるのは、幸福な者だけが集って話した場合に浮いたものになりますから、そうであってはならないということを含めて言っていると思ひます。

神前 農村婦人は家庭内の労働と農業の労働と、男の人よりか倍ぐらいい……と言っちゃ計算がありますが、仕事があるところある。だから下町の職業婦人より余計働いているんじゃないかと思ひます。それなのに農村はとも封建的ですから女は牛馬の如く働くのが当然とされている。男の人に少し自覚してもらって、女の人をもっとらしくしてほしい。妻も卑屈になっちゃいけないと思ひます。男のするさを認めてはいけないと思ひます。

進行係 男のするさという言葉が出ましたが、三木さん、農村の方として御意見ございせんか。

三木 それは神前さんのおっしゃった通り、農村の妻というものは愛情の点においてもみじめな場合が多い。妻を唯労働力と子供を産む道具位にしか考えていない。私の知

の考え方に、もう少し女の人に対する思いやりや尊敬が必要だと思ひます。

磯野 今のことを伺って、たしかに男として反省するわけですから、男が二重三重を持つことが決して悪いことではないという道徳があるわけですね。

ある会議の速記録によると「夫に立派な庶子があるのに」ということを、かつて大臣をした人が、公けの席で言っている。現にその人はある大学の総長をしている。封建的な家族制度の道徳からいってそれがいいんですね。つまり結婚というものは要するに後つぎを作るためのものであるから。今、上田さんのおっしゃったような問題の社会的な繋りについてわれわれが考えてゆかなければ、男にしても女にしても本当の愛情を持ち育てることができないでしょう。これまで愛情の尊さを知らなかったのは、日本の家族制度の問題であるし、これは日本の経済機構等、女子の低賃金の問題にも関係するし、社会保険がいままでよくならないという問題にもつながりがあると思ひます。

進行係 今の先生の掘り下げられたアドヴァイスを考へに入れて討論を進めて参りましょう。男の人には昔から自由があるが、女の方は男の人にくらべてずっと制限されている。その差が、立派な夫であると言われる人々の日常生活の端々に現われるという体験談を、昨日の御意見発表で

っている例で、人間らしくない夫人、全然愛情はないけれど、ただ子供があるために離婚を決意しながら何回も舞い戻ってきたという人がいます。現在のままではどうすることもできませんので、将来のために、今までの十年の苦勞を悔いて振ってあなたの新しい生活を設計してはどうだと私が申したこともあるが、ただ子供にひかれて離婚ができないうのです。

森 これはわたしの遠い親類の家にあったことですが、初め結婚する時はその人を非常に好きでもあったが、子供が二人で、店と田圃の両方をやっていた嫁さんはとても忙しくなった。旦那さんは会社で働いていたが、そのうちに、嫁さんと子供を災家のきょうだいに預けて、自分は他の女の所へ逃げてしまった。原因は、嫁さんが昼間あまり仕事に忙しくて疲れて身を離れなかつたとか、性の問題とか言われている。

上田 今のお話に関連しまして、妻がいつも元気に働いている場合は、家庭の中でも妻の座がはっきりしています。奥さんが一度病氣した場合に――実際そういう問題があったが――今までよかった御主人が、机を並べていた同僚と一緒になつてしまったという例をききますが、反対の立場であつたらどうかという、奥さんというものは子供を抱えながら一所懸命、自分で働いてゆくだろう。男の人

聞いたと思ひます。工藤さんは、あなたが婦人会の役員を引受けることに不機嫌な御主人に対して、相当譲歩して負担をしゃべっておられるようですが。

工藤 私は自分の仕事を一所懸命やっているのがとても社会的に生き甲斐があると思つてやっております。外でエネルギーを費やしますから、自然家庭に全力がうち込めなくなつていたので、主人に不満が出たのです。はじめのころ私は社会的に働いているからわたしの仕事も理解してくれてもいいだろう、少し位家庭に犠牲があつてもかまわないだろうと思つていたが、やはり主人は、家庭を省みないといつも不平を言うので、これじゃ、いけないんだ、主人の言うことを聞いて上げて、少しでも満足させるように努力しなければいけないんだと思つて努力した。

進行係 御主人は、家庭の全責任を工藤さん一人に持たせたいお考えのようですが。

肥後 それは、あまり工藤さんが仕事を一人でしよ過ぎているんじゃないかしら。もう少し皆さんに分担してもらつたら。

工藤 私としては継母の立場で家庭に入っております。それで継子と継親の關係、複雑な關係にあつたので、私自身も自分というものを犠牲にして、なにかもみんなの言う通りやってゆこうとしてきた。

進行係 昨日から、妻の犠牲において、という言葉が大分出ています。今の、家庭内のことを一人でしょわなければならぬというようなこと……。

磯野 工藤さんがおっしゃった、何か犠牲になることがいいとされていることについての疑問があまりになつたわけですね。

山田 同じお部屋なので夜お話し合つたが、私は犠牲はいけなと思うんです。犠牲は続かない。

しかし工藤さんの御家庭の事情をいろいろ聞きますと、この方の場合には賛同かと思ひます。犠牲もいろいろあるから、肯定される場合も否定される場合もあります。

赤星 私は工藤さんのように家庭関係が複雑ではありませんが、主人の職場と生活の貧しさのために、やっぱり家庭内の雑事とか交際とかいう面に非常に犠牲的な気持ちで働いて参りましたが、その犠牲は窮乏になるための建設的な犠牲であるならば、ある程度許していいと思ひます。社会に出て一所懸命働くためには、家のことで家人がいろいろ心配をかけていては、いけないと思ひます。夫に社会で充分に羽根を広げて働いてもらうために、犠牲になるのは妻です。犠牲というと思ひますが、それも生活の貧しさが原因ですから、ある程度ある期間においては、建設的犠牲であればいいと思ひます。

のお小遣の中からクリスマススの献立をするとか、そういうふうな面をもってくる。ですから美しい犠牲であるとか、建設的な、ということはないと思ひます。

妻が犠牲になる犠牲になるということを言ひますけれども、家庭のことを考えてみると、お父さんが病気になる経済的なことがたいへんですが、主婦が病気になるということももっとたいへんだと思ひます。

進行係 赤星さんの場合は、夫は家の中のことはなさらないが、家の中のことができないほど外で余分に労働をしていらつしゃる。あなたが犠牲という言葉をお使いになりますけれども、お宅全体を運営してゆくためには、家の内外をあわせて絶対的に労働量が多いから、御夫婦ともに他の家庭より多く働いているということになりませんか。

数島 結局夫の一日中の仕事の量と妻の一日中の仕事の量とが同じだということだつたら、両方ともに犠牲がないということじゃないですか。だから夫が特別大きい仕事をしていたら、妻も多くなつてもそれは犠牲じゃない。

磯野 それに異論をはさむわけじゃないが、赤星さんの御主人はたしか、国鉄にお勤めですね。その場合に労働強化であり、賃金が安いことと思ひます。そのシワ寄せを妻がうけて、やっとなんかを支えているという条件、非常に多いと思ひますので、初めに戻るようですが、いつも家族

佐藤 建設的な犠牲とおっしゃるけれども、犠牲のシワ寄せ全部からきた妻の健康状態とかを考えると、それは美しい犠牲とか、これは肯定できる犠牲とか、犠牲に区別はない気がする。

私も工藤さんと同じ立場で、長男は私の子供じゃないんですが、私は、自分が犠牲になって、この子を育てる必要はないと思ひます。昨日数島さんがおっしゃったように、人間と人間との対等な関係といいますが、自分から、この子の親になってやるとか、犠牲をやるとか、そういう考え方はなくて、家庭も一つの社会ですから、子供には子供に、引受けてやるべき分野もあるし、昨日出ましたように、母には母の引受けてやってくれる分野もあっていい。

だから、——話がちょっと戻りますけれども——一定の年令になると子供達にはお小遣を渡して配給させる。母親一人で働く家庭の経済の面もある程度子供には知ってもらいたい、そういうふうには私は思ひます。ですから子供達も、お母さんが一人で働いてたいへんだということも充分認識している。お母さんが外で働くためには犠牲だつて仕事をしなければならぬという気持ちがありますから、大きい子供なんかは、壁が落ちてきますと自分でベニヤ板を買って修繕してくれるし、お小遣の残りから、クリスマスとか母親の日には、贈り物をしてくれたり、あるいは自分達

の問題を考える場合に、家庭の隅々まで日本の政治の問題、経済の問題、資本主義の問題、社会的問題が入っているということもいつでも考慮して、家庭だけの民主化ということとはあり得ないということをばきりつかむことが大切だと思ひます。

内村 結婚の条件は健康で経済力のある男性であるべきだとどなたがおっしゃったが——私の夫は長い間病気でたいてい金もないのに何とかかんとかやってきましたのは、ロマンチックかもしれないが、何か一つ夢を持っていた。何かを造り上げようというところ、お互に協同体であるというところをいつも考えてきたから、不平ありません。「奥さんかわいそうですね」といわれ、又あくせく暮らしているが、もっとも犠牲とか奉仕とかいう考えはない。

男性が女房や子供を養っているという男性側の考えは、どなたかおっしゃったように女の卑屈さにも問題があるものであって、結局、夫婦は車の両輪のようなものだと考えてゆくのがいいんじゃないかと考えてきたんです。

数島 磯野先生のおっしゃったことですが、今まで多くの夫は会社とか職場の問題など割合に妻に話さなかつたと思ひますが、私の家庭では、労働問題とか、職場のいろいろな問題を、私を引き伸すために話してくれるわけですから、私は非常に関心を持つようになつて、夫は労働者ですが、

私も亦労働者という気持で、政治などに関心を持ってきて、何とかして夫と手をつないで、働く者のために一所懸命になるつもりでやってきましたが、そういう方向に持ってゆきたいと思っています。

磯野 今のところ、たいへん大事なことがあると思っています。組合問題というものはもともと正しくやってゆかなければ本当の民主化は行われなと思います。その時に、夫が夫だけの労働運動になって、それこそ家族ぐるみになっていないところに問題があるので、本当にその点重大だと思っています。

中村 家族ぐるみになって理解しようと思っても、夫が奥さんに話しをするような家は、必ず奥さんが聡明な人です。なんぼ話ししてもひびかんとする妻なら、男も最初は努力して態を投げる。

進行係 先祖親子の問題のところでも、母親もだんだん伸びてゆくため、社会とのつながりを持たなければならぬ、社会との関連を持ちながら、しかも家庭の中のことを処してゆくには、夫の協力がなければならぬということが言われたと思いますが、結局同じ所におちつくようです。

神前 職業を持った方は割合に未亡人の問題も巧く処理しているのではないかと思います。その場合に妻は未亡人にならない前に、未亡人になることを考えていなければならぬと思います。

進行係 経済問題に関する限り、生活能力を持っている人は未亡人になっても割合に困らない。しかしその他の世間の圧力を感じていると言われるでしょう。

敷島 そうなんです。親戚の、めったに来ない男の人なんかと話しても、そんなことさえもとやかく言うんです。近所の奥さんが旦那さんの下駄を突っかけてきて、玄關に男の下駄が脱いである問題になるんです。

三木 敷島さんのおっしゃったように、未亡人はただ未亡人だという理由だけで世間からへんな眼で見られるというところは事実だと思います。経済力のあるなしに拘わらず。それにはやはり男尊女卑という意味があるんじゃないかと思っています。

佐藤 私も敷島さんと同じ未亡人の生活が五年くらいになりますけれども、たしかに敷島さんのおっしゃったように、これは日本人の悪いせいで、最後に個人の確立ということになるが、他人の私生活に干渉し過ぎる面がある。それから、そういうことに因って、嫁姑の問題になってくるが、案外嫁姑の当時者同士が何とも思っていないのに他人

## ◎母子世帯の問題

母子世帯の問題を敷島さんが提案されたと思いますので、それについて。

敷島 私、未亡人でおります時に、本当に子供を愛している様で、子供のために思っていた。しかし今結婚して省みますと、その愛し方が正常なものでなく、何か病的なものだったと思う。それで結局未亡人が、世間の眼だとか、政治の悪さもあるが、そういうもので卑屈になって、ただ子供だけを顧みにして、自分を生かすということなんか考える余裕がない。皆さんだって、いつ未亡人になるかわからない。未亡人だって人間であり女である。一般の人がもつと未亡人を自由にするまえるようにし、温いものを持って見てほしいです。

神前 いつ未亡人になるかわからないとおっしゃったけれども、それは本当だと思います。それで未亡人になった場合のことを考えて、女の人生活能力を身につけなければならぬと思う。人に憐れみを受けるなんて卑屈なことは嫌いです。

敷島 憐れみなんていう、それじゃないんです。人間として扱われていないような、自由な考え方がゆるぎられない。

が火つけ役になって、二人の間にいざこざを起させるというところがいくらかもあるような気がする。

中村 私の前に、母子家庭の相談をする課長さんがおられる。その人がおっしゃいますのに、相談にくる未亡人が、どの人も中性のような、少しも女らしさとかうるおいが無いということ。それからずるさがある——当然未亡人だから貸付金でも貰えるべきだところからみられ、あまり努力せずに、社会施設の方に頼ってくる。

磯野 たくさんの中には社会的施設に頼り過ぎていてという人もあるかもしれない。女らしさの問題ですが——いわゆる女らしさをなくさねば暮してゆかれないという人でしょう。それを責めるのはおかしい。

佐藤 それからもう一つ、保障制度を頼りたがるという話が出ましたが、考えてみると、今まで家庭婦人で、たいてい生活能力を持っていなかった者が急に未亡人になって、こんな就職難の場合、家庭から急に職場に抛り出されることは、誰も問題だと思いません。非難はあるにしても、一応頼るべきところは施設であり、保障制度と思う。また、母子相談員が女の方であるということは、いい面もある代りに悪い面もあると思う。それは多くの女の人のよくない傾向として、自分より不幸な人に対しては同情的であるが、少しでも自分より仕合せになった場合に、引きずり

下したいという気持がある。

進行係 大分いろいろ御意見が出ましたが、まだほかに生活の合理化の問題を提案された方がありましたので、そちらの御意見を伺いましょう。

### ◎生活の合理化の問題

工藤 生活改善、生活改善と県の改良課の方で大いに行っていて、着々と進んでいる所もあります。が、樫端のところかも知れませんけれども、台所を改善するといった時に、一番先に喜ばねばならないお嬢さんが喜ばなかった。なぜ喜ばなかったかという、そのうちの井戸が遠くにある。水汲みに行くその労力は大きい、その遠くの井戸端に行って一人でつらいことを、又家庭内の不平不満を井戸端にきた他の人達と一緒に語り、せめて水汲みの時だけでも不満をなくして自分を慰めざる大切な時間でもあったのです。そういう環境に置かれている人さへあるのです。

磯野 生活改善とかなんとかいうと、すぐかまどとか台所の改善とか、立ち流しにするとかいろいろある。たしかにいいことですけれども、今おっしゃったように、一番弱い、喜ぶべき人が喜ばない。例えばかまどにしても、改良かまどにすれば、今までどのところにお燦さんがしやがんでいた。それはいかに無駄なようだけれども、その

開休んでいる。それが改良かまどになることによって休むことができない。生活の合理化を社会的条件から切り離して技術的な合理化だけやってゆくと、弱者にシワ寄せになる。だから生活の合理化ということは必要だけれども、社会全体の合理化、民主化を伴って同時にやってゆかなければ、むしろ効果は逆になるということで大事なことです。

神前 今のこととまた違うのですが、生活の合理化を聞  
くものがもう一つあると思います。それは、労働すること  
がとても美徳だ、といわれている農家では、機械化など便  
利にすることを、憎惜しみだとか防落だとか考へる向きが  
まだあると思ひます。

三木 神前さんのおっしゃったことも事実に思いますが、そういうことは長い年月を経てだんだん改善されてゆくんじやないかと思ひます。今でこそ生活を食理化するということは昭落だと考えられていますけれども、今の子供達が實際に自分が生活するようになった時には昭落などと考えることはありますまいし、そういうふうにかけてゆかなければならぬんじゃないかと思ひます。

進行係　今の生活の食糧化ということが墮落の一つの道になるという考え方が、今まで話されたことと関係ありませんか。

神前やっぱり、家族制度からくる因習からそういうものがくるんじゃないですか。もう少し婦人自身が自覚したら、そういう問題は解決できると思います。私は解決している積りです。

内村 婦人自身が自覚したらとおっしゃるが、級会で農村に嫁いだ人に「あなたの思うようにやったらいいじゃないの」といったんです。そうしたら「いくらそう思っても、この家にはいれられない、あすこの嫁がこういふことを言った、うちの嫁がこう言ったと、しゅうとめが悪口を言う」それを聞いて、かわいそうになってきた。やっぱり組織の力が必要になってくる。

敷島　私が敷ぶとんのかバーをにかけているのを夫が見て  
いまして、しょっ中洗わなければならぬものを糸で綴じ  
つけるなんて面倒なことをしないで、袂袋みたいにしてス  
ボツと入れるようにしたらと言った。やってみたら世話な  
くできるようになった。小さな問題ですが、夫が家庭の生  
活に関心を持って見ていくれたら、私のようなボンヤリ  
な者でも、それをこうしなければならんだろうか、まだ何  
かい方法があるんじゃないかというふうに、常に考えて  
ゆくようになります。

進行係 家事のことについても夫が積極的に協力して下さることが起きてくる。他にございませんか。それじゃこ

の辺で磯野先生に今迄の討議についてまとめていただきたいと存じます。

磯野 昨日からいろいろお話を承り私も時々意見を申し上げたのですが、出席の方はきつと、もつといたいこととがあるのにこれで終りなのが残念で仕方がないとお思ひになり、また昨日も今日も引き続いて熱心に傍聴して下さっている方には、熱心に傍聴していらっしやればいらっしやる程、私達よりも一そう客観的にみていらっしやる筈ですから、この点が抜けているのじゃないか、こういうことがあると、口まで、でていらっしやる方が沢山おありでしょう。そういうことをうかがえないのは実に残念です。

日本の家族の問題は、簡単のようで実に複雑きわまりないものと思います。この一日二日の議論でとうてい尽せるものではないし、傍聴の方などは特別にお感じでしょうが、すべてが結論が出ないままに、解決されないままに終わっております。私はきれいな結論というものはそう簡単に出るものじゃない。もし出たとすれば現実から離れたものになる。きれいであればある程、現実から離れたものになるに違いないと思います。家族には、本当に深刻な複雑な問題が沢山あり、そのことは私などより女性の方がはるかに深刻な度合いにおいてお感じになっていらっしゃると思う。



## 第二部会 地域社会の一員として

(近所づきあい・風俗習慣・施設と環境)  
(組織活動・政治の貧困の打開)

出席者

|        |     |                      |                |
|--------|-----|----------------------|----------------|
| 北海道    | 折登  | ナミ                   | (主婦)           |
| 福岡     | 法井  | ツギ                   | (主婦)           |
| 群馬     | 高井  | 光子                   | (教員・主婦)        |
| 埼玉     | 大井  | 久子                   | (主婦)           |
| 東京     | 阿久津 | 秀代                   | (薬剤師・主婦)       |
| 神奈川    | 細岡  | タケ                   | (主婦)           |
| 富山     | 高場  | なつ                   | (農薬・主婦)        |
| 愛知     | 杉浦  | 松代                   | (主婦)           |
| 三重     | 金田  | えい子                  | (主婦)           |
| 大阪     | 藤田  | スミ                   | (主婦)           |
| 兵庫     | 鮎貝  | 久仁子                  | (主婦)           |
| 奈良     | 中尾  | 正恵                   | (主婦)           |
| 岡山     | 羽順  | 政子                   | (主婦)           |
| 香川     | 兼松  | 依知子                  | (舞踊教授・主婦)      |
| 宮崎     | 佐藤  | みち                   | (農薬・主婦)        |
| アドワイザー | 保   | 東京都立大学教授<br>婦人少年局婦人課 | 磯村 英一<br>高松 朗子 |

進行係 これから全国婦人会議の第二部会を開催致します。「社会人として婦人はなにをなすべきか」のうち、この部会ではよりよい地域社会をつくるにはどうしたらよいのか、ということについて、いろいろ問題をだして討議していただきたいと思ひます。はじめに近所づきあいや地域の風習、環境や組織活動などについてその現状と問題の提起をみなさんにしていただきたいと思ひます。そのときの進行係は、昨夜抽せんした結果、宮崎の佐藤さんをお願いすることになりましたので、どうぞよろしくお願い致します。

佐藤 今日、司会をすることになりました佐藤です。どうぞよろしくお願い致します。では北海道の折登さんどうぞ。

折登 私たちの幸福な生活は、やはり自分の手で作り出さなければならぬと思ひます。自分の進む方向をしっかりと見極めた上で、正しい判断をしながら進んで行かなければ、自分たちの望むような形の生活は実現しないと思ひます。それには私達一人一人がお互いに励ましあひながら、その力を育ててゆくことが、社会人としての義務だと思ひます。その基礎になる力をそだてるには、遠廻りのようにみえても、まず教養をたかめることです。貧しくては教養どころではないと普通いわれるのですけれども、貧し

さを克服するような生活とむすびついた知識とか、技術とか、また生活意欲が必要ではないかと思ひます。お金がからないうちで、身近かなものを通じて、なおかつ楽しくそれが行われなければならない。どんなにいい方法があっても、それが苦痛であれば、苦痛に耐えながらもそれをしようとする人は非常に少い。ちょうどそう考えていましたところへ昨年道立図書館の分館が八雲町公民館にでき、自動車巡回し、日一回三十冊程度貸出しすることになったので、それを利用して出来るだけやってみようと思ひました。それで当地のステーション・マスターとしてカードを作ったり、貸出し台帳をつけたりしてお手伝いすることになりました。近接の村のステーション・マスターは、全部が男の先生ですが、私の土地では、先生がなさると授業に差し支えるので、家庭の主婦の方がいいということでお引受けしましたが、私どもも子供が三人おりますので、仕事を抱えて非常に忙しい。読む人も筋肉労働者も多いので、働いたその帰りがけにくるので、大抵私どもの夕食時です。でもたくさん読んで頂いて効果を上げたいと思ひますので、本を抱えて出してお見せして、カードを書いて、斜め読みであっても大体内容をつかんで、たくさんの方におすすめるようにしています。田舎でただで本が読めるということは、非常に必要ではないかと思ひます。私どもの

ところでは、ステーションマスターが与えるのでなくて、自分で旗の考え方、妻の考え方と違っているという状態です。読書会もって効果を上げていますが、そのことについては、また御質問にお答えしたいと思います。

佐藤 次に福島の法井さんどうぞ。

法井 十五年ぶりに祖国に帰りまして、主婦の——特に私の方の東北の福島の主婦——旧態依然とした姿が新中国に比べ、あまりにも痛ましく私の眼にうつったのです。そして婦人自らの手で解放していかなければ、明るい、楽しい社会はとてできないということを考え、じっとしておられなくなったのです。その手始めとして、主婦の方々とできるだけ話し合おうと思いました。座談会などというところ皆さんが集まらないので、食生活改善ということを集めてもらいました。そこで私が中国で覚えた料理を教え、粉食を普及して開米を買わないようにするという身近なことから皆さんに接し、それを機会に座談会をして、日本の現実の生活の矛盾や、世界の情勢などを話し合ったのです。話すことによって、お互いに知りあい、高めあいそして行動に積極性が出てくるという方法を考え努力したので、それから閉結を計るために絶対に背後批評をしないで対面批評を仰ぐことに努力しました。そうして隣保閉結から多数閉結に持って行って、明るい民主的な日本の建設に役立

て農村です。昭和十九年に疎開して、終戦後第一回の地方選挙に、夫が村会議員に立候補しました。そのときは農地改革に伴うところの地主、小作人の感情的な対立もありましたし、食糧が非常に不足して、閉取引で警察に押付けられたり、農村は大騒ぎをしていました。私のところも小さな地主でしたが、卒先して解放したものでしたから、小作人が集まって来て、夫が立候補するわけになったのです。夫は自由立候補で、村に非常に根強いしきたりがあったのを、私たちはあまり意にかけなかったのが失敗のもので、選挙の当日は非常に大騒ぎになりました。夫が当選して、部落の一人の対立候補が落ちますと、毎夜のように常会が開かれて、つるし上げどころでなく、村八分されそうになったのです。そういうめに会ったので、村の仕組みはどうなっているのか、そのような状態をどうしたらなくすることができかねる具体的な資料、例えば家の問題とか、家族の問題、地方選挙の問題をいろいろと考えてみたわけですね。村で重んじられる家というのは、根本条件として財産があり、旧家であり、政界は保守党に属するのが大多数です。村にはたくさんのお金——家とか、租、本家、分家、親分、子分というのがありますが、それは同族意識が非常に強い。個人よりも身内意識が強く、個人を非難するときは同族を非難することによって、個人を非難する。村

つところの一分子になろうじゃないか、ということを中心に持ちながら話し合っていたのです。私のところでは、いま小さいグループがそちこちで生まれましたが、それを育てるのが私の現在の活動の目標であり、抱負であると思っています。ただいま活動している皆さん方からごらんだだけでも、非常にたどたどしい歩みなのですが、自らの力で生活をよくしてゆくことが最も大事だろうと思っているのです。そのほかに青年団の月例会や、子供を守る会の一員として、不良青少年の対策にも活動させて頂いています。

そのために始終歩いていますと、家の中に無理がききますが、それに対して主人はどういう態度をとってくれるかと申しますと、社会改造のためには、家庭に若干の矛盾があっても、絶対矛盾じゃないということを主張していますし、子供たちも、お母さんは人のために働くので出歩いているのだからと理解してくれます。私は思われた環境にあるわけですが、家庭に縛られている方、男性に縛られている方にも何とか自らの手で自分を解放するよう、助力しているわけですね。主婦も、主人と同じ水を飲んで一緒に話し合えるぐらいの知性を持ちたいと思います。

佐藤 次に群馬の高井さんをお願いします。

高井 私に住んでいますところは、群馬県の赤城の南麓

長、村会議員、教育委員の選挙方法は、村の有力者が部落に割当てて誰にするかをきめて、部落の指導者がそれを持って帰って、常会を開いてみんなに伝える。選挙はいままで一度も行われていない。しかし青年層がいろいろ批判をして、この三十日には始めての選挙が行われる状態です。この悪い風習を改めるにはありのままを世間にさらけ出して輿論を巻き起す必要があるんじゃないかということを考えます。

佐藤 埼玉の大井上さんどうぞ。

大井上 私は埼玉の川口に住んでいます、十軒ばかりの市営住宅の管理人になっています。その地域の環境というところを取り上げてお話し申し上げます。

あまり川口の町はきたないものですが、それに替りして、私はまず第一に環境衛生ということを取り上げて、一番始めには月二回のどぶ掃除から始めました。また井戸のすぐそばに沼地があって心配になり、井戸水の水質試験をしてもらいましたところ、汚水浸入がみとめられましたので、すぐ水道設置運動に乗り出して、去年十月にやっと水道が引けました。沼地があちこちにあって蚊や蠅がたくさん発生して、伝染病のおそれもありますので、市の職員の方にお話して、その埋立てのことの運動をしています。それから環境浄化ということも考えて、私がときどき一日ママ

さんになって、子供と一緒に大いに遊び、気のついた点をお母さん方と大いに話し合って子供のしつけ、社会的訓練もしています。

それから私は音楽鑑賞をして働いていたことがあり、栄養調理の技術があるものですから、それを皆さんにおわけするという意味で、月二回ずつ栄養調理の講習をしています。そのときに、台所の経済から、国の経済のあり方、政治のあり方などもみんな話合って勉強しています。

阿久津 私は東京の清瀬ですけれども、医療地区という特殊な条件のお蔭で女が働こうと思えば働くことが出来るのです。しかし子供をかかえた母親達が働こうとすれば、多額のお金をはらって子供をあずけなければなりません。そこで町民全体に呼びかけ、結集した力で、働く人に必要な保育園が、いまできつ々あります。

次に取り上げたのは内職のことです。内職は非常に低賃金なので、生産者と直結した授産所を設けるように、議会に請願書を出すことも計画中です。

健康を守るために、蚊や蛇のいない町にすることを申し合せて、町当局、関係当局と折衝して努力しています。

このように婦人の力が結集され、一つ一つ積み上げて行くことによって、明るい社会ができるのではないでしょう

長の選挙権が一世帯一票ということですが、一世帯一票では当然男性中心の町内会になり、女性性は従属的な立場へおいやられるというわけです。

そこで婦人が集って、規約を検討して、意見書を提出して、ついに会員一人に一票ということになりました。選挙権は一世帯に一票であるということに何の不思議も感じない女性があまりに多い、こういう身近なところをはっきり知る意識がないのに驚きました。社会の第一段階ともいえるべき町作りをおさなりに、近所のつき合いとして入会する人があり、会費を納めているながら、予算にも人にも無関心でいる人があります。こういう女性を自覚させるには、いかにしたらいいかということを考えざるを得ません。女性だけの会、男性だけの会と違って、町内会はお互に対等の立場に立ち、お互の問題を解決するのに適当な場所だと思ふのです。町内会の予算のうち再軍備費的な防犯火協力の会の負担金を大巾削減して、青少年予算に廻すこともできました。来年は三役にも理事にも女性の候補者を出さなければならぬという考えもでてきました。

佐藤 富山の高場さんどうぞ。

高場 私の部落は経済的にあまり恵まれない農村で、非常な労働過重によってやっとなさえています。

婦人会は最近下から盛り上って、すべての会合に会員の

こうして私が婦人会を通じていろいろな活動している間に感じますことは、安定している家庭の主婦たちは、積極的にこの運動に参加しようとしませんが、なぜこの人たちは社会との繋がりを持とうとしないのかということです。婦人自身が自覚していない人もあるでしょうし、社会に繋がりを持つことを避けている婦人もあります。しかし現在の自分の置かれている立場をしっかりと考えて、家庭の主婦も向上し、働く婦人と一つになって、社会に働きかけなければ、実質的に婦人解放を自分の力で作り上げて行くことはできないと思います。

もちろん婦人の問題は、男性の理解と協力が必要ですが、根強い男性の封建性を打破しなければならぬと思います。一人一人の婦人の力を積み上げて行くことが、私たちの力を認めさせる大きな力になることだと思います。婦人自身にむしる問題が多いのではないかと思います。

細岡 私共の町（川崎市大田区）にも、昨年より町内会結成の波が押し寄せ、反対の声もおこりましたが、ついに議会において規約の案議をし、会長選挙の段階まで進んでいました。

この会長選挙のことでは、一人の主婦として、また地域社会の向上をつとめなければならぬ一市民として、どうしてもだまっていられないことを耳にしました。それは会

大部分が出席するようになり、また農協婦人部も昨年結成されて、積極的に活動するようになりました。具体的に申しますと托児所の問題ですが、町の予算を貰うことによつて、昨年から季節托児所も開設でき、働く母親が非常に助かっています。衣、食、住のこと、児童クラブ等のことも大部分軌道に乗って来ましたが、討議の時に具体的に回答えたいと思います。費用について申し上げますと私たちが集めなくても、私たちの町から補助金を頂いたり、農協婦人部の還元手数料によって、充当しています。クラブ活動が部落単位に行われているので、会合にたくさん集まってきました。近所の人がたくさん行くから、姑さんも、世間體が悪いので、若いお嫁さんに行くようにすすめる傾向になってきています。

佐藤 愛知の杉浦さんどうぞ。

杉浦 幸福な世の中を作るのには、まず私どもの住んでいる地域社会を明るく住みよいものにしなければならぬと思います。それには比較的家庭に止まっている時間が多く、また隣近所との交渉の多い私ども家庭の婦人が、隣組とか、婦人会とかの組織を通して努力することが一番大切であり、しかも一番効果的であると思います。しかしその婦人会や隣組のあり方が問題なのです。あのいまわしい戦争中の婦人会や隣組のように、天下りや泣き入り集まり



であっては何らないので、一人一人の自覚によって、盛り上げる結びつきでなければ、組織はむしろ有害であると思います。

私の住んでいる戸数約三百戸のこの町では運営費として町民から取り立てる町費の中に赤十字、共同両募金、神社の維持費、祭礼費など当然寄附によるべきものが折りこまれていて、町民に寄附という意識を与えないうちに、いわゆる市からの目標額を百パーセントとてしまおうというやり方をとっています。私はこのやり方が納得いかないもので、町の代表と何度も話し合ってみたところ、これが町民の総意であると言ひ、また町民の相当数の婦人と話し合ってみると、納得はいかないけれども、五十円や百円のことで増まれて爪弾きされてもつらい、まためんどうくさいから組長さんにお任せしてあるという人が多かったのに驚きました。正しい考えを持ち、発言の機会を与えられながら、なぜこうした、ことなかれ主義に流されてしまうのでしょうか。これは個人の建設的な努力がないことと、隣組という組織のあり方が間違っているため、一部の人の権力に押えられ、町民の真の意思が全然反映されない結果であると思います。私どもの隣組でも、機会を作ってはこの問題について話し合っています。その結果、物事には筋を通すべきだという意見が纏まって、個人の自由意思で寄

附に協力することになりました。小さいことではあります

が、努力の勝利であつたと思います。

国会議員を自分の判断によって選ぼうとする現在の婦人にとつて、このような身近な問題をとり上げることは、難しいことではないと思います。われわれ婦人が、自分でも物事を考え、判断し、真意をもって正しいことに協力するよう努力しなければ、幸福な社会は生まれないと思います。婦人も一人よがりの考えに陥らないために、話し合いの機会を多く持ち、会員一人一人の正しい考えを、組織の力で社会に反映して行くべきだと思います。そういう意味で組織的にどういうふうに行って行ったらよいかといううなお知らせを拝借して帰りたいと思っています。

金田 私はい長い間大阪で生活して、終戦後農村に引揚げましたが、農村があまりに衛生知識に乏しいのに驚きました。なんとかしてこの衛生知識を高めたいと思ひましたが、私の個人の力ではどうにもなりませんので、これを婦人のグループによって進めたいと思ひ、婦人会に入りました。そこでかねがね考えていました環境衛生に着手し、いまでは、八分通り環境衛生の施設ができました。しかしまだ残された問題として、回虫駆除、川退治があり、これはなかなか撲滅が難しいので、おそらく永久的な仕事になるうと思ひます。私たちはもういままで押し通して来まし

たので、決して腰を折るようなことはない、私は自信を持っています。

こう申し上げると簡単に運んだように思われましよう。しかしこの活動については、地域からも相当反感を持たれ、夫からも相当反対されました。けれども、私はきつと今日の成功をみるだろうと、確信をもって努力したのです。私一人ではなく、グループの皆さんが一生懸命に夫の反対に打ち勝って、とにかく明るい村を作ろう、農村の不衛生なところを、なんとかして完全にしまおうと強い決心をもって進めたのです。私はこの運動を通じて、とにかく村が明るくなったというところのみでなく、婦人の力、クラブ活動の大きな力というものを感じ、そうして努力と勇気によって、どんな難しいことでも完成できるということを感じました。

佐藤 香川の兼松さんどうぞ。

兼松 私は香川の小豆島に住んでいます。小豆島と言いますと「二十四の贖」で有名になったので御存知だと思いますが、最近はお客が来られますし、お通路さんもたくさんおられます。しかし島の人たちは朝から晩まで働いて、島におりながら島めくりもしたことがないというのが大部分で、生活が非常に貧乏で、また封建的なところがあります。私は一昨年中共から帰って参りましたが、島の人た

ちが朝から晩まで働いて、島めぐりもしないで甘んじて黙っていることに非常にびっくりしました。こうした島の状態になぜなつかないと思います。島國の環境というものに非常に支配されていると思います。これを申し上げますと、第一に若い人たちがいないということです。それは学校を卒業した人は、みんな都会の方に就職します。若い女の人は都会に憧れてお嫁に行きます。そのために島は年取った人が多いのです。第二に島ですから、どこに行くにも舟に乗って行かなければならないので、みんな島で生まれて島で育ち、外に出たことのない人が大部分ですから、井の中の蛙のように、外のことは全然知らない。自分たちの生活はこれでいいというふうに甘んじています。お互に島の中で血縁状態で、みんなが親戚のようになって、網の目のように繋がっている、個人々々の家の状態、つまり財産がどれくらいあるということまでよく知っている。集まるとそういうことが噂話の種になって、なんの楽しみもない人たちは噂話が大へん多い。もう一つは非常に貧しいということ、これは島には生産的なものが全然なく、小さな漁業や農業をやっている。もう一つの原因は結婚とか法事とか、そういうものに非常にお金を使うという風習がある。一生懸命汗水垂らして働いたのに、こういうようなことにみな使ってしまう。ですから自分自身で食っていく

る。婦人会はいろいろ婦人学校とか生活学校、料理講習をやっていますが、それには一部の人たちだけがでて、ほんとうに貧しくて苦しんでいる人たちは時間の余裕がないので出られない。料理講習といっても大抵やお茶のお料理がないというので出ない。娯楽、演芸会が非常に盛んで、そういうところにはみんなが出席する。これは貧しくて寝ていてののために慰めを求めているということではないかと思っています。

私は家庭を持っていますが、その傍ら子供に児童舞踏を教えていますので、婦人にも健全な精神的なものをと思い、フォークダンスを教えました。非常にみんなが則ちかになって集まるようになりました。部落単位に娯楽の面から啓蒙して行き、日常の問題を出して討論し合うということをやりたいと思っています。

藤田 私が住んでいるところは、大阪の近郊の豊中市で、主に中流家庭が多いように思えます。終戦直後は経済的に混乱して、豊中が日本一の物価の高いいところになりました。それから、非常に困って、なんとかしてこの生活を切り開いて、少しでも楽な生活がしたいと、昭和二十二年近所の気心の分たものがはかかって生活物資の共同購入をすることになりました。商品が私たちの手に入るまでは、生産者から中央市場に行き、仲買人の手、小売の手を経るとい

うように中間の搾取があるので、非常に高くつく、共同購入するとそれが割合に安く入る。それが非常に好評を博しまして、昭和二十五年生活協同組合にまで発展して、今日まで順調に育ってきました。組合は七百名ばかりの主婦で、決して大きい組織とはいえませんが、企画、運営、経理等全部主婦である役員の手で運ばれています。

生活協同組合というものはどういふものかと申しますと、一つには販売事業部があり、物資を確保したり、みんなに販売する事業、もう一つは文化事業、それは組合の文化を向上させる事業、共済事業、これは福祉を増進させる事業、この三つができれば運営できる。共同購入は前からやっていたから、非常にうまく行きました。電気洗濯機も三万八千円のもの、二万二千八百円、ブラウスなども約半額くらいで頒け合うことができるので、非常に喜んで買っています。われわれが毎日読む本も、なかなかサラリーマンでは買えないので、共同で毎月二千円づつ出しあって、子供向き、婦人向きのものを買い、組合に買物に見えたりしたときに、勝手に読んで頂いています。料理の講習会も、見た目の美しいということではなく、基礎的なもの、栄養的なものの講習会を致し、洗濯の講習会では簡単なクリーニングの技術を指導しています。それから互助共済のためには、頼母子講をつくって、いま百八十万円ほどになっ

ています。主婦が洋裁を知らないでは困るので、洋裁教室を作りましたが、週に一回か二回、月謝五十円くらいで、一年くらい行ったら相当なんでも縫えるので、内職をする方もできて来ました。それから納税組合というのを作って、市政に協力すると同時に、助成金の交付を受けて、加入者に便益をはかっています。以上のような共同の力でなければできないことをやって近所づきあいが非常に明るくなりました。

佐藤 次に兵庫の鮎貝さんどうぞ。

鮎貝 私は西ノ宮の奥羽町ですが、自分たちの手で自分の住んでいるところを明るくしようということで、福祉会というものを作り、その中に婦人部、青年部、防犯部というものを作って活動を始めました。まず暗いところに電灯を十三灯つけて、道を明るくしました。費用はどうして得たかという、一軒一口二十円という、難でもが出し易い金額にきめ、中には生活が落着いたのもっと出したいという方がいらっしやるので、五日までということと六千円集まりました。そのうち街灯代に二千円、婦人部に千円、青年部に千円、防犯部に千円、残りが千円で、非常に円満にいらっています。

婦人部の働きとしては、子供の遊び場を作ったこと、年に一回つつ敬老会をしているということが大きな仕事で

す。青年部は毎週火曜日に青年男女が集まって、小学校の子供を相手に、最初は歌のお稽古や紙芝居をし、いまは人形劇をしています。この仕事は単独で動かないで、学校のPTAにも呼びかけ、学校の先生方にも協力して貰っていることから、非常にうまく行っています。百六十軒を七班に分け、委員制度にして、一カ月交替にしています。特別な婦人団体と違って、町のために働くので、男性方の理解、協力を得ているということが大きな特長になっています。ただ特定な集会所がないことが、一つの問題で、家庭を開放したり、幼稚園を借りたりしていますが、集まりたいが会場を持たないのは淋しいことなので、狭くても構わないから、自分たちの手で集会所を作りたい。図書館を兼ねたものを作って、みんなが快く集まりたいという願いを持っています。

私が思うのは、一人ではなんにもできないということです。誰かがそれを始めて行かなければならない。始めて行ったときに、始めてみんなが協力して行く。その協力によって大きな仕事ができる。地域社会を明るくするために、それが一番のモットーではないかと考えています。

中尾 皆さんの御意見を大体お聞して、それぞれ切実な問題を、非常な熱意をもってやっておられますのに、非常

に懐い感謝を受けました。終戦直後、娯楽とか施設に恵まれないう農村の子供のためにせめて明るく楽しい環境を私たちが母親でつくりたいとささやかな子供会をつくりました。母親たちで作った紙芝居、母と子のフォークダンスなど、母親たちの手で美しい希望と夢を与えることができませんでした。農村の子供たちは、保育所のブランコさえ、壊れるという理由で、大きな子供には使用させません。子供の遊び場を作っても私たち母親に与えられた使命ではないかと思っています。遊び場と共に、子供専用の映画館、または劇場もぜひ作りたいと思います。子供たちを守るためには家庭を楽しくするとともに、地域社会の浄化こそ大切なことだと思います。

羽原 はじめに私の住んでいる倉敷の水島というところを、ちょっと御説明申し上げたいと思います。それは戦時中に三菱の飛行機工場がそこにあり、爆撃を受けて工場が全滅しましたが工場跡は残ったのです。工場がなくなつたので、その社宅ががら空きになったのです。そのがら空きのなつた社宅に、私どもが終戦後中国から引揚げて入ったわけです。人の一人もいない、無人の、大げさに言えば死んだような町だったのですけれども、そこに引揚者が四、五千人ほど同時に入ってきて町作りを始めたわけです。

小学校もないので子供たちは、遠い遠い田舎の小学校へ、あちこちの学校に分れて行っていたのですが、やがて引揚者の小学校をつくりました。引揚者の小学校というのは、日本中に二つしかないそうです。

私はそのPTAの副会長をやっておりますが、なにもかもPTAを通じてやっております。また町内で敬老会をした時、主婦たちが簡単な楽器を演奏して聞く結ばれ、その後遊園地やコンクリートのゴミ捨て場も出来ました。

社会をよくするには、熱意と実行力が必要ですが、それも一人で動くのでなく組織を作ったことがぜひ必要だと思っています。最後にいろいろな活動する場合時間のやりくりをどうしていらっしゃるかを皆さんにおうかがいしたいと思っています。

佐藤 私は育ちも南で、目前市に住んでいます。私たちがのころでは、農家の主婦が自分だけの物を買う頼み子持を持っていました。年に五千円程度のお金をつくって、いつもほしいと思っているものを買うとか、したいと思っていることに使うとか、とにかく自分のものに使って不平を云わないように計画したわけです。そしてお嫁さんたちにも一つの希望をもたしたわけですが、最後の反省会の話では結局自分のものを買った人は少く、子供とか、主人のもの

に化けてしまつて、違反してしまつたと大笑いしながらも何かほのぼのとしたゆとりを味わつたわけです。その集会は、自然に小婦人会の役割をして、座談から、ある時はひえつき節を教り、佐藤おけさを踊って、かつてないごやかなふんいきと親しみをもちました。

今度はお姑さんたちにも楽しい機会をつくってあげたいということになって、母の会が生れました。午前の総会で飯西先生がおっしゃったように手近な問題を、一歩々々取り上げて地味な活動することが、地域社会の向上に資する一番のものであると思います。

進行係 皆さんのおっしゃったことについて磯村先生なにか御意見がございましたら、おっしゃって頂きたいと思ひます。また先生に皆さんの御意見を纏めていただいてから、後半の討議に入りたいと思います。

磯村 それでは私の承りましたことを、分析してお話します。結局地域社会の問題と申しますのは、一定の地域に住んでおられて、お互に毎日顔を合せるとか、歩いて接している範囲内での関係又は繋がりと云うふうに、私は考えております。そういう繋がりは四つに分けられる。元来地域社会の活動といえますのは、家庭的な活動が外へ延びた姿で現わすことができます。この家庭的な活動の延長の第一は消費生活的な活動です。これは数種のお話のうち

で、たとえば法井さんは食生活というものを通じて地域活動に繋がりをもち、杉浦さんは寄附金をするときに掴んで活動し、鮎貝さんは電灯を、大井上さんは住居、特にどぶ掃除、あるいは栄養料理という食生活というものを使得、地域社会の組織のいともちをつくっておられるように思ひます。それから衛生の問題を換機として入っておられるのが金田さん。又佐藤さんのお話を聞いておられますと頼母子講という問題を揃えておられますし、藤田さんは生活協同組合というものを基盤にされ、物資の共同購入、大体こういった方々は地域社会においての消費生活を共同にするという面から入っておられるように承りました。

それから次は第二番目の、生産的な方面からの地域社会の組織化問題でございまして、これはお話を進めて行く第三部会の問題に移って行くのですが、ただ阿久津さんは内職という問題についておっしゃっていましたが、高橋さんはお話の中に農業技術を習得する過程において地域の協力を得られた。藤田さんは洋裁の内職ががかりになっているということもございました。地域社会においての職業的な問題は専門の職業分理とは若干趣を異にしているように思ひます。

第三番目はあるいは教養と申しますか、文化と申します

か、そういったようなものでして、たとえば北海道の折笠さんは図書という問題を通じて組織をしていらっしゃる、すし、兼松さんは小豆島でダンスその他の娯楽を通じて、阿久井さんは保育園、鮎貝さんは遊び場という問題、中尾さんは子供会、いずれもこれは家庭を中心とした地域社会の文化、教育の問題、PTAなんかも一つ出ましたが、それなんかはさらに具体的になったものと思います。

それから第四番目と申しますか、あるいは、たとえば高井さんなどは選挙という機会を通じて地域組織をしておられますし、細岡さんは町内会というものに直接接しておられる、クラブ活動をしておられる。そういったようなこともあったと思いますが、大休日は最初に挙げました消費的な面からと、生産的な面、教育的な面から、こういう緒で活動しておられるように思いました。

それから余般を通じての問題ですが、いま分類したものは別のことになるのですが、問題は、いったい皆さん方のように婦人の意識が高くなれば、こういったようなことは具体的な問題よりも、まず婦人の意識が高くなること、それが大事なのではないかという視が大分強いということ、それから一面においては、高橋さんと鮎貝さんのお話からしますと、男性の協力、理解も必要じゃないか、こういうお話も若干出ていまして、この現象はあるいは皆さん方の

兼松さんは中国からお帰りになって近所づきあいのことでお感じになっていることがあると思いたすので、その辺から出して頂いて、お話を進めて行ったらいいのではないかと思います。

### ◎近所づきあい

兼松 婦人会の集まりといっても、なかなか集まれない。井戸端会議にはよく集る。ですから井戸端会議を部落単位とか地域毎に少し大きな集合にして、そこで身近な毎日の問題、お料理とか衣食住のこととか、日ごろ悩んでいる毎日のことを取り上げる。いつも噂話をしているその人たちが問題を出して、そこで考えて、実行に移したならば、一番手近でいいのではないでしょう。私中国におりましたときに、院子と言つて、コの字の形になって、その中に中庭があって、一緒の共同生活をしていました。そういうときに必ずいろいろ問題がでるわけです。たとえばその中で一人の子供が一台三輪車を買ったとすると、ほかの子供たちも乗りたい、しかしその子供は折角自分が買ったのですから貸したくないというふうな問題が毎日出てくるわけです。そのときにその院子の人たちが集まって、いろいろ話しあって、解決して行きますから、とても早いのです。

ように進歩的な方々から言いますと、一般の方々の方が、もう少し婦人が自覚しなければならぬのじゃないかというお話になるのがあたり前となります。他面において男性の理解がもっとあったらというようなことを強く感じました。

進行係 ここでは十分ほどお休みして、後半の討議に入りたいと思います。

(休 憩)

進行係 それでは討議を進めたいと思います。皆さんが御意見を発表して下さいましたものを大休編めますと、なんとか自分の住む地域社会をよくしたい、そういう願いから、もっとなごやかな近所づき合いをしたいということ、封建的な地域の風習をもう少し改善したいということ、地域施設をもっとよくしたい、そういう願いから、始めは近所の人の話し合いから、グループ活動に持っていく。ある人はそれより大きな組織に持って行って、いろいろなさっていらっしゃる。そこにたくさん問題があるわけですが、それをいろいろお話し合じて、これからどうしたらもっと住みよい地域社会をつくることができるかで討議を進めたいと思います。最初に近所づき合いの問題からお話を進めて行ったら、入り易いのではないかと思います。

磯村 お話は井戸端会議でお喋りをする。これは結構ですが、これを部落単位にもって行く。これをどういうようにもって行くかという問題。いまの日本の生活で、井戸端というものがどれだけ地域社会の繋がりになっているかという問題。それよりもう少し身近なところにあるもの、気持の方であるのじゃないか。

兼松 婦人団体がありません、その末梢になるわけです。磯村 それはよくわかりますけれども、ただたまに近所の子供たちが遊戯をして集まっていたから、そこを手掛りにして婦人が集まったということは、言葉ではわかるのですけれども、具体的ににならないのですが。

兼松 田舎ですから、法事とか結婚とか、そういうのに非常に費用をかけている。それをやらないとか、あんな大きな家なのにこれだけのものしかできないとか、いろいろなことを言うのです。ところがそういう問題をみんなが心に感じていても、大きな会では言えない。そういうときに共通した苦しみを出し合ってみんなが同じ問題で話し合い、身の廻りのことを建設的に解決してゆくのです。

進行係 集團生活をしていらっしゃる大井上さん、非常に生活を乱されて困るというふうなことはありませんか。大井上 うちは一棟二軒の長屋で、全部で十軒あります

が、押入れを開けますと、隣りの喋っていることが聞えるくらいで、あまり隣の生活がわかってしまうので、つい隣近所の噂話、井戸端会議などで、他人の生活に干渉し過ぎるという傾向があります。そのことで非常に私は悩んでおります。

阿久津 私たちはやはり集団生活ですが、引揚者ばかりなので裸でつき合うことができます。ですから私たちの近所づき合いには隣も家もない。たとえば私がここに出てくるのにも、私たちの近所の人は自分のうちのように守ってくれる。とても私たちの集団生活の近所づき合いはうまく行っているわけです。

進行係 東京の阿久津さんは、私生活が乱れないでうまく行っているというお話ですが、農村などはなかなか近所づき合いが難しいということをお聞かすのですが、農村の方、いかがでしょうか。

高橋 農村では田植のときなどは隣のうちの噂とか、嫁にきた人の噂話に花が咲く。私は大阪から疎開してそういう近所の人の話を聞いて不快に思ったのです。なぜ人の噂ばかりするかとすると、結局村の人たちに娯楽がないというところがわかったのです。そこで私たちは、ナトコ映画など、部落々に廻るようにしたらどうかとか、青年の人たちと一緒に集まりを多くするということが持つて行ったの

です。そのことから座談会を開くことによって、みんなの気持はやわらかくなり、政治的な問題を話しても、みんながそれに関心を持つようになりました。女の人が集まると、テープレコーダーを教育委員会から借りて来て、講師のお話をみんなに聞かせるようにしますと、噂などをすることが免れくなって、いまではあまり近所の噂をしなくなりました。

進行係 高橋さんからは、つまらない噂話を追放した建設的ないいお話がありました。ほかにもこういう方法で近所づきあいがうまくいったという例、また近所づきあいで困っていることがありましたらどうぞ。

高井 私の村は前橋から四里ほど離れているのですが、非常に近所のことを気にして、人のうちの生活をのぞき込む習慣が残っています。ちょっと会っても、どこに行くかということ、買物をしても、なにを買ったか、米が取れたら何俵取れたか、など人の行動を非常にせんざくしたがるのです。女の人はお産見舞や病氣見舞、冠婚葬祭の場合のほかにお茶を飲みに行く位で、なんの楽しみも刺戟もないから、悪口を言ったり、しつとしたり、内情を暴露したり、干渉したり、なんといいますが、口から出まかせに、みんなして喋って喜んでいる状態です。

中尾 私も子供会を始めたころは、噂話の焦点になった

わけですが、子供たちとお雛祭りをしたり、五月のお節句をしたり、クリスマスなどの遊びをしたり、お別れの会をしたりとするときに、お母さんたちも一緒に来て頂くことによつて、子供会を理解して頂けると同時に、いまでも自分のそばにしか目を置いていなかった人たちが、子供を通じてだんだん理解してくれ、近所づき合いの上でも割合にうまく行っているのです。

法井 私はいわゆる地帯で、うちがこみ入っている上に、いがみ合いの絶えないところに働きかけたのです。最初は料理の講習から入って、皆さんどうですか、毎日愉快ですかというふうなことから、なにも知らないような顔をして話したのです。そして人のことを干渉しないようにしたらどうですか、悪口をきくと自分も不愉快だし、聞いた人もおもしろくないから、悪口を言わないようにしましょう。意見があったらみんなの前で話し合ってみましょう。などと、ざくばらんに話しあつたら一月に一回くらい来てくれませんかということで、料理というものが第二の形になって、いろいろな相談がもちこまれました。そして私なりの解釈をして上げたい、皆さんの意見を聞いて、皆で反省するといふふうに行つていったら、グループの方々が、とても明るくなりました。

磯村 これは同いのですが、女性の方の話といえます

か、悪く言いますとお喋りということになるのですが、それがさらに進んで悪口ということが出ましたが、それは結局女性の生活に刺戟がない結果それが自然と身の廻りの人の話になり、それから悪口になるというふうにとれるのですが……。女性の刺戟の少なさが、たとえば映画をやったら、それがなくなったというお話を聞いたのですが、女性の方の生活をそのようにとってよろしいですか。

大井上 刺戟がないということもありますが、自覚問題ではないかと思えます。

兼松 婦人たちはなにか一つ問題がおきたら、自分自身でこういふふうにしたらいという、はっきりした判断を持つことができない。

磯村 自覚がないわけですね。個性がないわけですね。細岡 たとえばいろいろな講演を聞きに行ってもどちらかといえば知性方面に目を向けようとする方は、同じ集まっても、そういう問題で討論する傾向があると思えます。ところが娯楽方面ばかりに目を向けて、たとえば映画に行くひまはあるけれども、いいお話を聞きに行くのはきらいな人の場合、やっぱり映画から発展して行くと、結局近所の人の、着物の噂などにおちてゆく傾向がある。だからやはり自覚の問題だと思ふのですけれども。

磯村 男性の側から申し上げましたから、まさか私が、

女性の自覚がないのでしょうかということは言えないでしょう。

折登 貧しくて、現在の生活に困っている人が噂が好きで、無駄な時間を過しているのではないかと思います。いいお話があるから聞きに行きましようといっても、そういう人に限って忙しいからといって行かない。どうして行けないのかということ、みんなで一緒に考えるために一日の時間の使い方を一週間は書いてみると、その辺のことがわかってくる。立話に時間を使うというふうなことの、教養が出てくる。噂が好きだとか、いがみ合うということ、をいっても、解決にならないから、生活をふりかえる方法をやってみるとよいと思います。

羽原 私の方も井戸端会議を大いにやりますが、他人の悪口は少く、いまの政治のやり方が悪いということが、割に話題になります。この問題は結局各人の教養の問題になるのではないのでしょうか。

進行係 今まで皆さんのおっしゃったことをまとめますと、婦人が隘口が多く、近所づきあいがうまく行かないのは、婦人自身の自覚と教養が足りないからではないかということ、それではどうしたらもっと自覚するようになり教養が高くなるかということに、討論をしほって行きたいと思いがたが……。

題になって、大へん勉強になります。本だけでは長続きしなくなるので、会員の中からお願いしてレコードの解説をして頂いたり、やさしいコーラスを教えて頂いたりしています。またものの考え方とか、いまのあり方なんかを話して貰うようにしているわけです。

高橋 私たちの部落は農村ですが、視野を広くするため、教養を高めるために圖書をしなければならぬということ、みんなで力を入れました。ところが朝早くから夜遅くまで働くので、寝床に入ってから読めばいいということとを話し合っていたのですが、眠たくなって読めない。結局読むというよりも、労働の激しい働く婦人には、聞くことと上手にならねばならないということを考えて、なんの話でもよく聞くということにしました。

阿久津 いままで婦人会やその他の会合に出ないで、あの人は出しゃばりだと隘口を云っていた人も、婦人会の委員になって、環境衛生や内職の問題にとりくんで考え方が変わった。私にもやればできるのだという自信を持ったことによつて、社会に響くようなものを持つたことによつて、自覚がたかまり、自主的になって来たわけです。

磯村 大体よくわかりました。今度のこの作文応募も神奈川県からは非常に多く応募される。ある県からは非常に少い。これなんかはすでに文化的な差がないからで、決

職員 同じく近いの年輩の近所の者が、十人集まって、十人会というのをつくって、毎月第二火曜日に集っています。お互い向上して行きましようというので、問題はそのときで違いますが、生活のこと、政治のことなどを話しあいます。

進行係 岡山の羽原さん、いかがでしょうか。

羽原 私どもの近所では一つの楽園を持っています。いろいろの人が寄り合って、音さえ出れば音楽になるのではないかとこのことでやり始めました。音楽でもものは自分でやる方がおもしろいという結論が出、その曲がたとえ「お手々つないで」であっても、揃ったとしてもおもしろいのです。音楽で結ばれた友というのはまた特別な味があって、なんでも、そんならそうでいいわ、というわけできまってしまうのです。たまによそへ出かけてお礼を貰いますと、早速茶話会をやりますが、お菓子を食べるときなど、もの悲しい気えんが上って、とても愉快にやっています。

進行係 北海道の折登さん、婦人の教養を高めるために、なにかおやりになっているのではないのでしょうか。

折登 本を讀んだだけでは自分なりの解釈で、なかなか効果が上らないということから、読書会をはじめました。それぞれの立場から話が出ますので、いろいろなことが話

して婦人少年局は平等にやっているのではない。ところが受ける婦人の側で差別をつけるから、ある県からは百五十人、ある県からは三人くらいになってしまふ。もう少し全体が平均した形でここにくるといいと思うのですが、その意味において、文化的、社会的な刺激というものを、婦人の生活に行き渡るように、国の政治もして貰いたいと思いますし、地域のリーダーの方も普遍的にいて、その中から芽を出す努力に向って頂きたい。どうしても眠りを醒まさなければいけない。その手段として、本も頼母子講もあるかもしれないが、具体的に抑えてやって頂くことが大事ではないかと思ひます。

### ◎風俗習慣

進行係 さきほどから地域の悪い風習の問題が出ておりますので、それでは地域にどんな風習があるかということをお話し下さいませんか。

高井 冠婚葬祭、選挙の地盤協定みたいなもの、身内意識を非常に重んずるというようなもの、一つの因襲でしょね。

磯村 冠婚葬祭のことで、あまりひどいところがあれば、地域社会でどうするかというお話を聞きたいと思ひます。

金田 私は田舎へ行って驚きましたのは、お嫁に行く時荷物をたくさん持って行く。嫁を貰うのか荷物を貰うのかわかりません。そうして子供が生まれれば産前産後を持って行く。これではたまったものではない。改善しなければいけない、と気がつきながら、なぜ改善できないかと聞きますと、やっぱりしなかったらみんなに笑われる。目ごろから始末しておいても、嫁の衣裳なんかによって、あそこはあむだけの甲斐性があつた世間から見てもほしいと言いなさる。ある婦人会では公民館で結婚式を挙げ、近所に配るお金もきまっていますので、私たちもそうしようというところで、村会議員の方に相談を持ちかけたところ、もつてのはかだと言われ、私は非常に驚いてしまった。なぜ冠婚葬祭を改善するのはいけないかと聞きましたら、目ごろお金を積んで、娘に持って行かせるのがなぜ惜しいといいなさる。そのために私たちは始末をしているのじゃないかというので、私たちは金儲けその運動に手が出せようになつてしまったのです。

兼松 香川では大休男の人は十萬、女の人は三十萬平敷かかるそうです。いま盛んに改善々々と言われていますけれども、改善しているのはほんの一部です。割合生活の楽な知識階級の人たちが改善して、ほんとうに毎日苦勞してお金を溜めた、そういう人たちが結婚とか法事のためにするものでなく、本当の意味をわきまえて自覚した上でしないと表面だけに終って漫然きしませんね。

兼松 私雷さんのお話聞いて羨ましいと思うのです。ほんとうに島の片田舎ですから、なかなかそういうふうには動かないのです。土地の人は、都会から来た偉い先生のお話とはとてもよく聞きますから、有識者の方たちが、田舎の方にもときどきいらしゃって、講演などをして頂きたいと思ひます。

藤田 私どもの住んでいますところも、商人がたくさんいますので、やはりお金をたくさんかけますが、それをやめようということになりました。いくら荷物を持て来ても、誰も見に行かなければ、折角持て来ても見てくれる人がないから馬鹿らしいということになって、次第に質素になりつつある。そういうこともいいことだと思ひます。

進行係 生活協同組合では、それについてなにかしていらっしゃるのですか。

藤田 連合会で拵えてあるので、それを借りに行くわけです。それから結婚式やお葬式のときには、組合員が手伝いに行つて、非常に安くあげています。それからあまり派手にすると、みんなにあすこは金持だと言われるので、氣持を揃えて、質素になつていきます。

金をたくさん出している。周囲からそういうのを見ていますと、結局一部分の人だけに、そういう新しい運動が浸透してほんとうにほしい人たちに行き渡らないということをつくづく感じますが、それをどういうふうにしたらよいのでしょうか。

法井 私の知っているある部落では、やっぱり嫁仕度、高島田に結つてお振袖は着せてみたいけれども、一度しか着ないものは作らないようにしようというので、婦人会が豆を一升づつ出し合つて、嫁の衣裳を、男の方のモイニングと、お嫁さんのお振袖を二組づつ作つたそうです。そうしてそれを安いお金で貸しています。

細岡 私は改善は表面だけやってもしょうがないと思ひます。結婚は当人同士の問題だということをはっきりわかれれば、結婚の披露にお金をかけるということはなくならない。家と家との休面、うちではこれだけなければならぬのだという氣持が特に農村にひどく、都会でもやはり有産階級に自分のうちの休面を考えた結婚が行われる。無産階級では、家なんていうものの休面は比較にならないから、身体一つやりますというわけです。意識がたかければ結婚は、家と家とのことではないということがはっきりわかるわけです。

進行係 結婚改善やその他の生活改善はおしつけられて

磯村 東京なんかでも、お葬式のときに非常にたくさん花輪を使つたりしますが、あれは非常に考へなければならぬと思ひます。

藤田 私の地域ではとり上げていませんが、花輪は千円くらいで一対できるので、安くて見栄があるということで商売の飾りで持つて行くのだそうですけれども、黒の板におくやみのものを飾つて、お金を上げるというふうには改良されているようです。

杉浦 昨年親類の者が結婚するにあつて私も力になりました。結婚衣裳は男の方は背広で女の方は極めて簡単なスーツで、頭にちょっと飾りをしただけで、あとは現金でもらつて、アパート住まいをする。お勝手が都合が悪いから改善したい。将来の建設的な使い方をした方がよいということになり、親を説得して実行しましたが、大へん親からもあとで感謝されました。

高井 農村においては冠婚葬祭がリクレーションなので、一概に簡素化してしまうと、農村から楽しみを奪ってしまうことになりす。いまの段階で全部簡素化してしまつたら、あまりに農村は殺風景になつてしまふのじゃないかと思ひます。何かほかのことに手をつけてからでないか……。

進行係 はかの方に手をつけるというところ、

高井 たえば映画機を買うとか、講演会を開くとか、いろいろな文化的な施設を整えてからの方が、私はいいと思えます。

佐藤 農村では結婚式とか冠婚葬祭の合理化ということは、非常に真剣な問題として取り上げています。私もでもはリクレーションとしては絶対的に考えていません。

高井 始めから考えるべきもののじゃないが、しかし結果としてそうなっています。

細岡 金体的に見てリクレーション的であり、また派手にしているというところは現実なんです。これを解決するためには、代りのリクレーションを出すのではなくて、結婚というのとは家と家との結婚ではないということを、即ち考え方をかえるようにしなくては解決できないのだらうと思います。

磯村 ただ皆さんの、結婚式がリクレーションかどうかという問題は、つきつめて行きますと、結局家庭の経済の問題になるので、金持の人がいろいろなことをやっていることも、見ようによってはリクレーションと見えますし、貧乏の人はやろうとしてもリクレーションどころの騒ぎではない。手繰り下げてものというの、考えようによってはリクレーションどころの騒ぎではない。家庭によってはそれをいろいろ考え方が違ってくるところだと思いますけれども、間

題は、リクレーションという問題と、冠婚葬祭というものがついているのは、地方の風習によると思います。しかし最近はそのようなことが変わって来ているのではないかと思いますのですけれど。

杉浦 たしかに変わっておりますね。

折登 結婚を派手にすることに代るリクレーション、映画をやるとか、貸衣装をしたからといって、解決しないと思うのです。見世物的にするのは、見に行く人の心構えだと思ふのです。あすこのうちにはどんな着るだらう。どんな御馳走だらうというように、他人の生活に興味を持ち過ぎるのです。他人の生活に立入らないように自覚するというのが根本なので、なんぼ値段をきめても駄目だと思ふのです。

磯村 大休いま折登さんの言われたことは、抽象的なようですけれども、これが大事ではないかと思ふのです。結局いまだ冠婚葬祭が非常に派手になったというところは、従来の家と家の関係とか、近所のいわゆる悪い意味での近所づき合いで、結婚する当事者が中心になれば、もっと個人的な立場に持って行けば、そういったものを一緒にする考えがなくなると思ふ。この問題も、考えようによっては、先ほどの問題と、内容的、根本的には同じ問題になってくると私は思ふので、結局結婚する場合の当事者双方の

考え方によって、その結婚の内容がきまるということになるのでしようから、結局どうしてもそこに戻りますね。しかし具体的なにはやはり共同の結婚衣裳を持つということ

は、現状としては婦人会の地域活動として、具体的には大事なことだと私は思っています。

進行係 冠婚葬祭の問題は磯村先生に結論つけて頂きましたので、次に愛知の杉浦さんから出た寄附のことですが

金田 私の方も杉浦さんのおっしゃったように、天下り式で困っています。とにかく区長さんのお宅では、七十戸のうちの財産状態が書かれていて、このうちほとんどだけの所得があるということが、すっかりわかっているわけです。そしてお寺を修繕するということ、組長が六人寄って、区長さんが大体ここは三千、ここは二千三百円というように勝手にその財産状態を見合わしてきめてしまふのです。そして組長が、今度のお寺の寄附は、あんたのところはいくらだということがいわれるわけです。それはあんまり解衆ではないですか、寄附の強制は人権蹂躪になるから、みんなの意思に任したらどうかといったら、意思に任すとなんか多く出すのは苦勞だし、やはり目標というものがあから、その目標に達しないと困るから、割当を

進行係 村にお知りになってから、何とかこの問題を打破して頂きたいと思ひますが……。

杉浦 私のいるところは三百戸ばかりの岡崎市の一つの町ですが、二十何万という予算を組むのですがその中に防火、防犯、共同募金、赤十字募金、神社の維持費、祭礼費というものが入っている。一応町会組長を集め組長の意見で定められたという形に表面上はなるのです。その組長は順番にやるところと、選挙によって適当に選ばれてなるところとありますが、お婆さんあれば、字の読めないようなおじいさんもいます。組長たちが賛成したのだから、多数が賛成したのだからきめるといふやり方をとる。結局多数の意見ということで押し切られて、組に頭ごなしに割当が来た。その中に寄附が入っている。どうしてもわけがわからないものですから、たとえ町から抜かれてもいいから、正しいあり方に持って行きたいと思ひまして、町の総代に個人的に話して見ました。あなたの言うことはたしかに正しい。しかしそれでは市から来た割当が達成されない。達成するためには町会費の中に入れて、毎月なんとなんとてしまわなければ駄目だ。寄附というのを意識させると集まらない。結局手段を選ばないわけです。そういう考え方は間違っているのじゃないかといひます。それは正しい、けれども、現実はそのうちいかに。しかもこれ



は町民の総意であるということで、一応押し切ろうとするわけです。それでは町内からぬかれても私はどこまで争っても通しますと。って張りつめた。そうしたらそれではあなたの分だけ寄附を自由に上げてあげようのです。それから私は組の方たちに集まって頂き、実は個人で交渉したところという結果になったが、あなた方どう思いますか、とたずねました。問題が面倒だから厭っていたが、私たちもほんとうはそういうふうにしてほしい、ということになりました。結局私たちが十五軒が昨年一つに固まって交渉した結果、私の組だけは寄附は全部、自由意思ということになりました。今年度の始めもまた問題が出ましたが、また私はそれで押し切って参りました。そうしましたら、他の組から隣の組が自由にやっているのに、どうして私の方は強制的にとられるのかという声が出て困るということを知りて、私は心の中で手を打って喜んだのです。やはり言うべきことは言わなければならぬ。個人的に話してみると、みんな正しい意見を持っているけれども、勇気がないので、勇気を出して、正しいことに努力したら、地域社会は明るくなるという希望を持っています。これを組織立てて行くことを研究したいと思っています。

羽原 皆さんの話は出される側にはかり立っていらっしゃるのですが、私よく受取る方の側に廻るのです。婦人

会やPTAに關係していると、頂きに行くこともあつたので、そうしたときに快く出してくれる方はいいいのですけれども、出して頂けない方もある。私は気が弱いものですから、半分も集まらなかったこともよくある。そういう場合どうするかというと、足りなかったらどうしようかと一時考えるのですが、私は賄品回収なんかをやって、残りの分を埋め合ったりしていますが、みなさんそういう場合どういうふうに行っているかお聞きしたいのですが。

金田 私の方は、町内の寄附はさき申した通りですが、婦人会の寄附のときはやはり困るのです。なるべく自由意思に任せますが、いつも足りないのです。そのときに棉花や、石けんなどを村の価格より大分安く売ったりして、その利益をその寄附に出しています。

高井 日本では警察の寄附、学校の講堂の寄附、校舎の改築の寄附、橋の寄附、自動車ポンプの寄附等々とても多くて困っているのですが外国では、どうなのでしょう。

磯村 外国にはこういうことないでしょう。終戦後もアメリカに行ってきたが、向うではいまのお話のような例がなく、普通出しているのは、たとえば不景があったという場合においても、あとの寄附というものが、いわゆる香奠返しというふうなもの全然なく、また香奠を持ってきたらという風習もない。又財産を相続するときも自

分の子供たちだけに渡すのではなくて、学校や図書館、病院に寄附をする。ですからそういう公共の施設を見学に行きますと、誰々の記念の部屋とか、あるいは誰物だという説明がついた場所がところどころにあります。このような自分の意思に基いた寄附はあるのですが、いまのお話のような強制的なものとはほとんどないと言ってよいのです。これは日本の特殊性でしょう。

杉浦 私は結局政府の予算、政治のあり方が間違っているから、その機寄せが私ども一番弱いものに向ってくるという感じを持つのです。政治のあり方が問題だと思えます。

磯村 その点地域社会の問題として極めて重要なことです。日本の家庭の生活はこれまで家族制度という名の下にいろいろな問題を金条件で解決させる場となっていたのです。ところが最近になって家庭の生活が地域にまで延びるようになると今度は家庭よりも広い生活の面の機寄せを地域が負っているように思えます。婦人会活動の基礎となる会費や寄附の問題をより合理的に解決することが地域活動の根本の問題かと思えます。いずれ皆さんと結論をつけるときに、金銭的問題として取り上げたいと思います。

進行係 杉浦さんから大へんいい御意見が出ましたので、先生がおっしゃいましたように、明日この問題を討議

### ◎施設と環境

磯村 施設の問題は、多くの場合他から与えられたものの利用の点があげられ勝ですが、ここでは特に皆さん方のイニシアティブ、発意によってできたものにかぎって、お話をさせて頂きたいと思えます。

杉浦 終戦後都市計画の結果、道路ばかりが広がって、市にはお金がないために、舗装することができない。道路が広がったから大きなトラック、バスが通るので、埃で夏でも一日中戸を開けることができないようなことになりました。これを私が再三再四役所へ電話をし、いろいろ交渉して市長の自動車も撒水車に廻していただけないかと申しましたら、なんとかしなうとしようというのでした。近所でも埃がひどくて皆困っていたので、ひとつ強力でやりましょうということになり市に当りました。そうしたら撒水車を買込みまして、早速撒いてくれました。今日まで

昨年の夏から続いています。

それから車が二台すれ違ふこともできないせまい道路のそばに、大きな空地があるために、観光バスの会社の私用道路に近いものになろうとしたので、警察に困る事情を申しました。ところが警察では公の道路だから、何が通ってもいいということを云ったので、人間が危険にさらされるような自動車の通り方を、警察が認めるのかと申しましたら、陸運局に決定権があると逃げてしまいました。それで御近所の方に相談して、小さいお子さんやお年寄りを抱えていらっしゃる方は不安だから、ひとつ警察なりなんなりに、連名で陳情書を出しましょうと、私その運動をしかけてこちらに来てしまったのですが、あの方のごまかされて下さっているかわからないのですが、そういうふうにつづいて行くことが大切だと思います。

鮎貝 空地が百坪ばかりあって、皆さんがごみを捨てにいらっしゃるのです。雑草は伸びるし、きたないものが多いになり、近所の方々と、大へんなことになったと困っていました。市役所に個人的にいった方もあったのですが、何回行ってもなかなか動かないので、近所の主婦たちが話し合って、なんとかしようということになりました。そこで市会議員が町内から立っていったのであり、市を動かしてもらいました。早速車を四台持って来て、ごみ

を片付けてくれました。そこを就学前の子供の遊び場開放してほしいと思いましたが、それはだめでした。ところが町の印刷所の老人が、私の土地が百五十坪空いているから、無償でいつまでもお使い下さいと提供してくれました。皆さんの子供の遊び場を作りますからと呼びかけたら、お父さんやお母さんや青年たちが出て来てくれ、小学校の子供まで集まって、二時間もかからないうちに全部お掃除ができてしまいました。市の方でもそれを聞きつけて、そこに運動器具、ブランコ、すべり台を贈ってくれたものですから大へん早く子供の遊び場ができました。場所もよく、明るいところなので、非常に喜んで子供が遊んでいます。それを充実しようと思つて、明治牛乳に呼びかけたなら、椅子を寄附してくれ、市の方でも紅葉の木を六本植えてくれました。

細間 五、六年前に、川崎大師の、労働者街でしたことです。賃金の遅配、欠配のさなかに会社のストがあり、生活が非常に苦しくなり、その主婦たちがそれを打開するために競輪、競馬に就職することになったのです。ところがお母さんたちの留守の間、どこに子供を預けて行くかということが起り、競輪に行くお母さんは、競馬に行くお母さんに一日五十円くらいで預けて行くというようにやっていったのですが、たまたま乳児を抱えたお母さんから、ど

うしても托児所がほしいということになり、署名運動をしたり、市会議員やいろいろな方に働きかけて、保育所を一年後に獲得しました。

阿久津 私たち引揚者が帰国後、働く母親たちのために設備より時間に融通のきく保育園を作ろうということになり、一間を借りてはじめました。これを経営してゆくために、石鹼を売ったり、町当局に頼んで援助を得たり、あらゆる困難とたたかいながら一年余り続けてきましたが、その経験からこういふ事業は私設として経営することは困難なので、どうしても公立の保育園をつくらねばならないということを感じました。そこで厚生省、都庁、町役場へと陳情し、一方町民には働く者に役立つ保育園をつくりましょうとよびかけてきました。こうした努力の甲斐があったので、昨年十月正式に認可になり、町当局の手で建設に着手して現在すでに建物の大部分は出来上りました。乳児から学童までを、早朝から深夜まで預り、また病児設備のある保育園がやっと出来上り、十五日が落成式です。

進行係 皆さん方からこのようにして悪条件とたたかって環境を改善した、また努力に努力をかさねて有益な施設をつくったという貴重なお話がありました。まだまだお話し足りないと思いますが、今日残った問題は明日続けるとして、今日はこれで終わります。明日は組織活動のことと、

社会人として婦人は何をなすべきかという全般的な問題を討論したいと思います。

#### (第一日閉会)

進行係 それでは討論を始めていきたいと思います。昨日いろいろお話しをしましたが、もう少しこういう点について討論したいということがありましたら、はじめに出していただきたいと思います。

細間 社会で婦人が活動するためには、結局家庭の理解がなければできないと思いますが、その点皆さんどうなっているか、またどう理解させたかということが昨日は出されなかったで、お願いします。

折登 昨日香川の並松さんのお話ですと、井戸端会議ということから、部落単位に集まりを持つようになったということですね。どのようにしてそこまで行ったかという具体的なことを聞かして頂きたい。それから全然無関心でいる人たちに、どのように働きかけるかということも……。

磯村 昨日僕も並松さんに質問したのはその点なので、ここに来ておられる方は一応そのような困難を克服しているためか、そのような苦心談は、割合少ないのではないかと。しかし一般婦人にとっては、とくにこれから地域社会で活動しようとするような方々にとっては非常に参考になるのですから、その苦心なり、こういう方法をとって

家庭なり近所の理解をもちえたということ、具体的にされることは非常に大切なことだと思います。

進行係 いま折登さんから出た無関心の人にどういうふうに働きかけるかということ、また井戸端会議をどのようにして組織化していったかということは、組織活動のところで討議していただいたらいかがかと思いますが……。

磯村 先程お話のあった地域社会のグループが、ややもすれば国家のいろいろな政策の犠牲になるということは、非常に重要な問題です。おそらくこれが現在の段階での地域組織活動の痛だと思えます。いいかえれば、地域社会の施設がその本来の目的以外に利用され過ぎております。組織がようやくひきあがると上の者が利用して、ほんとうに女性の自主的な活動ができなくなってしまう。これは男性の側としても充分に反省しなければならぬ点だと思います。

それから昨日のお話では男性の理解と婦人の自覚という問題がいくぶん抽象的に終ってしまっただけです。いまの結婚の問題もその点に関連して非常にいい例だと思いますが、今お話をした地域社会の利用の問題に関連してお話し合ったらどうでしょう。

進行係 皆さんは大きないろいろな活動をしていらっしゃるわけですが、その場合、家庭の理解はどうなっているか。皆さんの力もお借りして、自分の思った仕事をやってゆきました。そのうち社会が私を認めてくれ、人も協力してくれるようになります。

仕事が終わる七時ぐらいまでかかるとしても、主人がお茶だけ沸かしてくれたいというくらいにして、主人の手をわずらわさないようにしています。しかし私の家庭は子供は拭き掃除、私は御飯捧をするというように分担がきまっています。

進行係 いま金田さんから、外に出て洗濯する時は、家の中のこともきちんと夫に不自由させないという意見が出たのですが、それについてなにか御意見がありませんか。

磯村 今のお話で、実際に活動して、それを理解させたということとは素晴らしいと思うのですが、家の中のことを女の人だけが背負って行くのではなく、一歩進めてお互いに協力しあう努力がほしいと思う。それをどういうふうにしていったらいいかということを、私ここで考えなければならぬと思います。

進行係 それについて、高場さん何か御意見がありますか。

高場 私もその点ではんとうに苦心したのです。家庭を破壊せずに社会的に尽すという、結局自分の労働が過重

ているか。どうしたら理解が得られるかということ、最初に討論して頂きたいと思えます。

磯村 その点で私が文章を拝見したときに、特に気がついたのは、教職におられる方が比較的多くお出しになっている。おそらく大半は現に教職にあるか、あるいはその経験をもった方が書いておられる。これは一つの問題です。なぜ一般の婦人の応募が少なかったかという問題です。その点で考えられるのは教職におられる方は、妻のこのような活動に理解があるのではないかということになります。そのような面でもひとつお聞きしたいのです。

金田 私がいまの村に来て、なんとかして環境衛生をよくしたいと思って主人に相談したところが、主人は、そんな顧問者であるものが出しゃばった大変だ、だまって下積みになっている方がいいという。私は、出しゃばるのではない。だんだんと話し合って、グループ活動をして改善したいといいましたところが、そんなことはしてくれない、俺が困る。婦人会の役員にもなってくれなると云うのです。それは家庭を放ったらかされると、自分が御飯の一つも炊かなきゃならないので反対していることがわかったものですから、自分がたとえ役員になって家を留守にしても、あなたには絶対不自由はかけないからと約束しました。とにかく私は家庭を放りっ放しにしないよう努力した。

になってくるのです。自分を犠牲にしてまでやるべきかについて悩んだのです。仕事をいっしょにする人たちが協力しますと言いますが、精神的な協力だけではだめで、労力を考えてもらわないとだめです。私のうちは昨日言ったようにとても苦しい立場にあるので、婦人会の総会などで幾日もかかると家庭のことが遅れて困るのです。だからそれを補うために婦人会の役員には手当を出すべきだということになり、解決されました。

磯村 このような解決方法には大分問題があると思いますが、それでいいかどうかということをもう少し掘り下げてみて下さい。

大井止 金田さんのおっしゃったように、主人に不自由をさせないという奥さんの心やりはたしかにいいことかもしれないけれども、ほんとうの意味の家庭内の民主化というものには、まだ到達していないと思うのです。私のところでは、主人は私の友達であり協力者である。お互いにその気持でいますから、割合に協力してくれまうし、文句も申します。

磯村 大へんうらやましいお立場ですが、そのような立場におかれぬ一般の婦人を省みてのお話しをうかがえると思えます。

羽原 PTAの会長や婦人会をやっていますので、皆さ

んから必ずそれを訴えられるのです。うちを出るのにとへも苦勞だ、ことに夜などとはとても苦勞だとおっしゃるわけです。それから考えて、私どもの場合は、なるべく時間を御主人のいないときにきめています。家に帰って奥さんがいないということが重なります、民主的な御主人でも、大抵いやになるようですね。大抵の男性は、また今晩も出るのかということになるらしいのです。ですからなるべく日曜日は会を催さないで、しかも二時から四時ごろまでにきめています。しかしそれでも出にくい方もあるらしいのです。ですからあまり自分だけがしゃべりけんめいになつて、自分ばかりが頑張るのではなく、代りの人を次々に作ればよいと思います。手代りの人を作って無理をしないようにしています。また無理をすることはどうかと思うのですが。

高井 男性に一つ望むことは、家庭内の環境をよくして貰いたい。たとえば洗濯にしても、自分の妻の立場を考へて、洗濯機を購入することに協力するとか、そういう合理的に処理するような環境を作ること協力して貰いたい。そうすれば時間が相当出てくると思います。

磯村 いま洗濯機のお話が出ましたので申し上げますが、東京のある高等学校の男女学生とその両親について調査したことがあります。その問題は、奥さんは洗濯機がほしい。そうすれば時間が相当出てくると思います。

兼松 さっき日当の問題が出ましたが、生活の安定している人にとつては大して問題にならないと思うのですが、最低の生活をしている人には、これが一番問題なのです。お互に協力し合つて、精神的には一致して理解しあつていても、経済的な問題は残ります。私の主人はいまのところニコヨンに出て馴れない仕事をやって、疲れて帰ってくるのです。その上に家の仕事も分担してやらなければならぬのですから、身体を疲してしまふ。家を出られたら困るとか、なにかしなければならぬとかという段階じゃないのです。そういう方は世間にはたくさんいらっしゃると思います。

磯村 地域社会に出られた場合に、ただそういったような形でもって解決するというのが、現状において全部普遍的であるかどうかというところはちょっと問題があると思うのです。地域社会への発展が、利益社会的な形にまだなっていない面があるので、それは一つの例として、理論的

い。旦那さんは経済的に少し無理だと思つている。このような場合に、洗濯機を買つて買ふことがいいかどうかという質問がでました。四百人近くの回答のうち、女子学生の大部分は三年生ですが当然洗濯機は買ふべきだと主張しています。ところがお母さんになるとその四分の一も主張していません。洗濯機を買ふことが適当であるかどうかということについては、かなり若い女性の方と、現在ののお母さんとの間に違いがあるのです。結局家の経済の問題に入つて来ますね。経済がよければ合理化ができるということでは、洗濯機は普通の家庭で問題になるので、その点一応一つの例としてお挙げになったのですが、それじゃ非常に貧乏な家庭であつた場合にはどうするかという問題も、ひとつ考えに入れないと、簡単にいふと答えられないのじゃないかと思ひます。

阿久津 学校卒業してから、結婚してからほとんど共稼ぎで、共稼ぎという意識を持たないで、私たちは働くものだといふふうになつていきました。家庭の中ではお互に尊敬し合ふことが非常に大事だと思う。お互いの愛情で負担を軽くし合ひ、できるだけお互いを考え合ひながら行くということが大切だと思います。うちでは放事もお父さんがいるときには、お父さんがする。お母さんがうちにいるときにはお母さんがする。誰がするときはまづいてない。う

にはその通りだと思います。特にアメリカの社会を考へても、ほかの社会を考へても、もつとほつきり割切つていゝ。一時間出れば一時間のサーヴィスがあることは当然だと思ひますが、それを全部の日本の団体にそのまま当てはめるといふことになる、ちょっと無理じゃないでしょうか。そういう面において解決できるというところは、特に経済的余裕のない人が出られる方法としては、私はそれだけのサーヴィスをすれば、それだけの報酬があるという考え方は正しいと思ひますし、いいと思うのです。

兼松 封建的な田舎にいて、私も一本の墓になりたいと思ふのです。意欲に燃えていても、経済的なもののためにそれが押えられてしまふのです。

磯村 出たいのだけれども、生活の余裕がないために出られない。しかし出るのがほんとうだというのは、理論的にはその通りです。しかし現実にはなかなか許されな。それをどうするかという問題を誰か。

高橋 先ほど兼松さんの言われたことは、ほんとうに深刻な問題なのです。私も愛情の問題、精神的な問題は解決つくのですが、最後にくるものは経済的な問題なのです。私は子供が三人もいるし、家庭の仕事もたくさんあります。私が出ると主人の仕事が多くなるから、私は一時は公の仕事のをききましたが、指導者の人から、ひとつ自分を犠

性にしてでも大衆のために働いたらどうかと言われてまた検討したのです。そこで私は少し出ても増収できるくらいの技術を身につけなければいけないと考えて、百姓の勉強をし、自分の仕事に計画をたて隣の人と仕事を共同でし、少し解決できたところもあります。

岡久津 いまほとんどに経済的な問題に絡んで、出られない人があると思うのですけれども、その家庭の中の経済の運営の仕方に関する問題があると思うのです。引揚者の寮だけの中の一つの例を言いますと、みんな困る困ると言いながらミシンや箆などを買うわけです。私は生活の重点をどこに置くか、いい物を着て外に出ることに置くか、私たちの生活をより活動的にするためにお金を使うか、経済の重点の置き方、それが大事だと思うのです。

細岡 自分で体験したことを申し上げますと、自分でなければできない指導的立場に立つちゃいけないと思うのです。自分一人だけでやらなければならぬのじゃなくて、やっぱり公の仕事の場合には、自分と友達と話をつけておけば、公の仕事の方がひとつ小さくなるわけです。結局自分がやらなければ誰かやれないという仕事を作らないことなんです。次に代る人を作っていくかなければならないということですね。

進行係 それでは先ほど折登さんから、出たいけれども

題なのですが、その場合には自分でなければできないというように仕事を固定させてしまわないで、なるべく多数の人に、自由に代れるような立場をつくる。これが地域社会を民主化する上に重要な問題という事です。一人の女性が一人の地位を作ってしまうから、ほかの人が出なくなる。これは積極的に地域の活動をしておられる方々には一寸想像できないのですが案外大事なことだと思います。大体家庭との繋がりとの問題は三つくらいに重点が絞られるのじゃないかと思いますが。

進行係 それでは次に移りたいと思います。

昨日地域社会の施設や環境で、自分たちの力で道路をよくしたとか、撤水車を作ったとか、遊園地を作ったとか、保育所を作ったとかのお話がありました。まだその他ありましたらどうぞ。

杉浦 私の方では一月に二、三回、市の方から薬を安く購入したから各戸でゴミを掃除して薬を撒けというのです。ところが私の住んでいるそばに、大きな空地が二つもあって、人の背が立たないくらい草が生えていて、その中に蚊も蠅もたくさんいるのです。それを誰が始末するか。市の方では近所の者がやれ、地主がやれというのです。それで薬を撒け、蚊を退治しろといっても、これは無理な話ですから、私は市役所に電話をかけて、衛生課の人

出られない人はどうするかということ、それをもう少し個人的な解決でなくもう少し抜けて行きたいと思うのです。

職員 子供を持っているし、経済的にも豊でないから出られないということをよく聞くのですが、私はそうきめてかかっていることはいけないと思うのです。托児所というものがあるのですから、子供を預けて、一時間でも、三十分でも出かける方法をとったかどうかでしょう。近所で集まりを持って話あってゆく。車庫を持たないで意欲をもって、道を開いて行く方法を一人一人が考えて預きたいと思えます。

進行係 この辺で先生におまといいただきます。

磯村 最初はなにしろ結婚の当初から、あるいは結婚生活に入る以前から、つまり家庭をつくる前期の時代において男性が、このような女性の社会的活動に正しい理解をもつこと、つまりいまのような家庭を作ることが非常に大切だ。これは皆さん御議論ない。

その次は、家庭に入った場合においては、結局家庭生活の合理化によって仕事を分担し、できるだけ地域社会での活動ができる時間をつくる。それにはいろいろな具体的な方法があげられます。

第三にいよいよ実際に地域社会の活動に入った場合の問

を呼んで、市にはたしかに動力でもって薬を撒く機械を税金で買っているはずだ。それを持って来て個人の手に負えないところにとんどん撒くべきだと云ったのです。協力してやることは結構ですけれども、まずやるべき人がやっているとかが注意してやる必要があると思うのです。ただ婦人会でやろう、隣組でやろうというふうしないで、両方平行してやるべきだと思うのです。自分たちの手に負えないときには、市役所に押しかける。われわれはそのために税金を払っているのですから。

法井 私の方で高校生の桃色事件が起きた時に映画の影射が多いということになったのです。それで私は高校生の子供を持っているものですから、二人のお友達の母親と話してあって、これはどうしても学校にも指導をお願いしなければならぬし、業者にも反省して貰わなければならぬということになりました。そこで組織を通してした方がよいと思ひ。子供を守る会に持ちこみました。そして学校の方の校外指導要綱の中に善処事項を入れて頂くよう陳情文をつくり、学校長、PTA会長に出しました。それに業者側と話し合いをするために、社会教育課の方にお願ひして、社会教育課と私たちの会の方と、業者側と、再三話し合いをもちました。解決したことは、映画の組み合わせが三本立、四本立というふうだったのを、二本立にしてもらいま

した。映画の組み合せもよくして賣りたいということも考  
えて、現在映画館の人と寄り集まって話してあつてい  
るところです。映画会社でよい映画をつくってもらうよう、こ  
れは全国的な問題なので、ぜひ皆さん方も進んで運動して  
いただきたいと思います。

羽原 私の方でもやはりごみの処置に困り、皆がどうし  
ようかということとを相談して、市役所に申し込みますと、  
ごみ箱を作ったと上げていただいたのですが、それを得てい  
るより、手っ取り早く各戸で回収すつ出して、七千円ほどで  
最近コンクリートブロックの、私が入ってもいいようなご  
み箱を作り、みんな調法しています。市が世話してくれる  
といっても百円ぐらいで済むことでしたら……。

磯村 それはあとに問題があるんです。地域社会の団  
体活動に、どういう形で入って行った方が具合がいいかと  
いうことで、いまの問題は撤廃せが重要な問題ですから。  
進行係 地域社会の活動にどういう面から入っていった  
かについて。

中尾 子供会を始めた動機について申し上げます。ちよう  
ど終戦の前年に、小学校が焼け、そこへ敗戦、先生自身が  
六・三・三・四制で、学校教育、子供を指導して行くの  
にお困りになった、それと農村の好景気でお金がどんどん入  
って来て、子供たちがたくさんのお金を持つようになり、

熱としている人の方が協力がありません。

磯村 税金からお入りになったわけですね。

大井上 環境をよくするということはお互同志共通の  
問題だと思ふのです。そうした共通の問題から掘り下げ  
て、話し合っていたら、割合に解決し易いのではないかと  
思ふのです。

進行係 この辺でちょっと休憩しまして、次の組織活動  
の問題に移りたいと思います。

(休憩)

## ◎組織活動

進行係 それでは続行致します。今度は組織活動の問題  
に入りたいと思います。みなさんは組織を作った活動して  
いらつしやるのですが、その組織のことで困っていること  
とか問題になっていることを始めに出して頂いて、それか  
らよりよく組織にするにはどうしたらよいかということ  
を討議したらよいかと思ひます。お話しする前に、簡単にど  
ういう組織をもつてどういうことをしているかということ  
を、一応お話しして頂きたいと思ひます。今日始めて傍  
聴なさる方もいらつしやるかと思ひますので……。それで  
はどうぞ。

町でいろいろ悪い面に使ふようになりまし。消滅する  
気持の人が下積みされて、悪い人が村のいろいろなこと  
をやるようになってしまったのです。大人の世界を改革す  
るということは、私にはとてもできなかったもので、これか  
ら伸びて行く子供を、どうにかして正しい子、よい子にし  
たいと、主として娯楽の面から子供たちを指導しました。  
現在では小学校の生徒三百名の中で、私のところに来てい  
る子供が三十五名、これは自慢話になりますが、今年優等  
を貰って帰った子供が十九名います。学習指導は全然して  
いませんが、自然に子供がよくつたといつたのではないかと  
思っています。

藤田 豊中市は日本一の赤字財政ですので、こういう施  
設をして賣りたいと思つても、なかなかやって頂けませ  
ん。社会保障のことがどうしても行き届かないのです。そ  
れで私の方では、税金を先に納めて、まず義務を果たさう、  
それからいろいろなことをお願いしたらというので、納税  
組合を作つて、税金を完納するような運動をしているので  
す。男の方の作った団体は失敗しましたが、私どもの方は  
百五十人が完納しています。完納したら奨励金を下さるの  
です。ところがPTAの会長だの、教育委員の方は、かけ  
ないで、あとの人は皆かけています。私は理窟と実地がこ  
んなに違ふものかと思ひまして驚いたのです。やっぱり熱

磯村 地域的の組織活動の問題ですね。

阿久津 その地区だけですか、それとも東京都内で、い  
ろいろな仕事をやっていることも含まれるのですか。

磯村 それは、地域団体の活動であれば結構だと思ひま  
す。それが教員組合の活動であるということになると、ほ  
かの部会になりますので、地域団体であればほかの団体で  
も結構です。

細岡 女性が女性だけのグループで活動するのでなく、  
やはり女性と男性が一緒に、一つの問題に取り組むように努  
力しなければいけないということを考えるのです。そのた  
めに町内会という組織を男性だけの場と考えると、町作り  
するということとを真げんに考えなくては行けないと思ふ。  
そうなると思ひ始めてその土地で困っている問題、たとえばご  
みの問題にしても協力して解決出来るといふことになると  
思ひます。

それからもう一つは、食えないという人の問題も、取上  
げて、それをどうするかということまで、男性と女性で和  
合して、協力してやって行かなければいけないと思ふので  
す。ところが現実には男性がやはり町内会をリードし、女  
性は無意識のうちにその下に働かざるを得ないと思ひま  
す。それではいけないので、それを何とか打開して行くよ  
うな行動を、私たちがとらねばならないということを考えて

るのですけれども。

進行係 具体的に組織の中でどう努力していらっしゃるのですか。

細岡 婦人部の予算を提出しても、大幅に切るのは男性側なんです。たとえば内職グループのために、助成金という形で予算を取ろうとしたわけです。ところがそれを全然男性側が認めてくれない。そういった問題を婦人部で委員会を持って、いったいこれをどうしたら取れるかということとを話し合っているわけです。そこで考えますことは、役員の構成メンバーがほとんど男性であるということ、女性の代表は三人しか出ていないということです。そうするとやはり、三役の中にも女性を出さなければいけない。理事の中にも女性を出さなければいけないということに目覚めたわけです。

磯村 組織活動における、いわゆる役員なんかの構成の上での男性対女性の問題に限って話してみよう。

杉浦 婦人ばかりに偏っても組織活動がやりにくいでしょう。男性も女性も協力して問題と取組むことが大切ですね。

磯村 男が横暴だというお話、男の方の幹部が握っているから、男女平等に、あるいはより以上にしなければいけないというのですね。

から半強制的に婦人会員になっており、町の女の人はほとんど入っていて、入っていないのはごく少数なのです。入らない人というのは、いわゆる有産階級のお茶の会、絵の会、というグループに入っていて、地域のそういうものに入ることはないという考え方の人と、私のように婦人会そのものに非常に疑問を感じている人とあります。それはいま細岡さんがおっしゃったように、助成金を貰っておりませんから、発言権がほとんどない。是々非々の態度がとれないのです。寄附の問題でも、婦人会の方々にお会いして、こういう寄附のあり方は違うじゃありませんかという、それは違う。たしかにあなたが言う通りだけれどもとおっしゃる……。

細岡 婦人会がいやだから入らないということに対しては、おそらく反省していられっしやるだろうと思いますが、いやだから入らないにも拘らず、結局婦人会にそれではないのではないかといいことを言っていられっしやる。入って言う、場所を変えて言った方がいいと思う。

それからさっきの言ったのは助成金ではありません。予算を取るわけです。そこに違いが出てくるので、やはり予算を持つということが必要です。例を申し上げますと、隣の町内会では婦人部というものができていて、助成金として一万円出ている。その中で事業をするということにな

細岡 婦人会で処理するという行き方ではなく、婦人会は女だけの集まりですから、婦人会だけの問題にしてはいけないということなのです。結局女だけの集まりから、男の中にも入って行くということを申し上げているのです。

金田 私は婦人会だけでやろうと思って失敗し、やはり部落全体に呼びかけて、全部が立ち上って仕事をしなければならぬということがわかったのです。それで男子の役員なり、各町内会に呼びかけて、組織を大きくして、部落全体が一軒残らずいまの運動に加わるようにやりましたので、協力が得られたわけなのです。

細岡 奥は私の町内会では、下から盛り上って町内会ができたのではないのです。これはほとんど皆さんに当て嵌まるところですが、やはり何人かの人が町内会を作ろうということできてしまった。

進行係 ほんとうに盛り上ってできた会は、問題ないけれども、一部の人が都合のよいものをつくって、ひき廻しているというのがずいぶん地域にあるのではないのでしょうか。そういうところにずいぶん問題があると思いますので、そこに絞って進めてはいかがでしょうか。

杉浦 私は婦人会に入っていないので、なぜ入らないかという説明になるのですが……。私の方の婦人会は会費は出すのですけれども、町内会が作った婦人会なのです。だ

るわけです。私はよその町内会まで文句が言えないから、せめて自分の町内会だけはそうしなくないと思ひ、いい意味のお手本になりたいと思ってやっています。だから同じ言うなら場所を変えて行って行くことをして行かないければならないと思うのです。

杉浦 場所を変えるということは、どういうことでしょうか。

細岡 あなたは町内会には一応会費を払っているとおっしゃいましたね。

杉浦 ですから昨日も申し上げた通り、町内会があることはいいかどうかということは、疑問に思っています。そういっぺんにとり組むことはできないので、二歩前進、一歩後退でやって行こうと思っています。

細岡 結局御自分は町内会に入っているのだが、入りたくないということを中心の中に持っているわけですね。

杉浦 町内会の婦人会は自分たちの力で盛り上げたものでなく、寄生しているのです。ちゅうどどこかの国がどこかの国に寄生しているのと同じ形です。ですから是非々の態度が全然とれない。結局市役所のお先棒担いで、提灯持って、共同募金をいっしょうけんめい集める、その姿が納得できないから、現在入りません。ただそれを第三者の立場で批評していいか、そこに問題があるわけですね。

細岡 杉浦さんは町内会員であることは事実ですが、ところが婦人会員ではないのです。婦人会へ助成金を出しているところの町内会に、あなたは発言権を持っているわけですね。ところが御自分は婦人会員ではないのですから婦人会には発言権がない。それはどうしても町内会で言うべきですね。

杉浦 再三、再四申しています。私は私の考え方で隣組の方を動かして、正しい寄附のあり方に持って来て、昨年一年押し通しました。

鮎貝 女性たちのグループに男性が入ったらいけないかという御意見かと思いますが、私どもの方の団体では男性が入って来て、反って失敗しています。というのは、幹部連中が男の人に入って貰いたいというので、下から盛り上げたものでなく、二、三人の意見で入って貰ったのですが、一番困りますのは、選挙のときにその団体を利用するのです。また市役所のお先棒になったり、保健所のお先棒になったりして迷惑するのです。町のためにも女性のためにもなっていない、困っている例です。

進行係 先ほど杉浦さんから婦人会のあり方が間違った歩みをしているように思う。それに対して努力はしているが、どうしたらいいかという問題が出ておりますね。

杉浦 私最初に申し上げたように、一本の票になって、

悪い流れの抵抗になろうと思つて、現在もやっています。しかし一人の力より百の力の効果的であることを痛感しているわけですね。町内会の役員が作った婦人会なんですから、名前が分れておりますが、現実にはそれに寄生している婦人会です。そこに私がいま入って行って、これをひっくり返そうとしても、ただ抵抗が起つて、争いだけになる。一方で正しいあり方を一歩づつ進めて行く。そうして間違つて寄生した婦人会の方が、少しづつでもこちらの氣勢に入つて下さるということを望むのですが、それにはやはり私が非常な努力をしなければならぬと思います。そういう行き方で正しいあり方の婦人会が生まれるものかどうか、そのような体験をなさった方があったら伺いたいと思いますし、なにかいい知恵があったら教えていただきたいと思ひます。

進行係 何か参考になる例がありましたらどうぞ。また何かいい御意見がありましたらお願いします。

法井 私どもの方の例ですが、既成婦人会に不満で、脱退してしまつた方が密り集まつているわけです。その方々がやはり会長がなくなつたあと再結集する場面になったときに、どうしたらいいかということで、私のところに話しにいらつしたのです。私は百五、六十人の婦人の間で対立してはいけない、みんな入って行きなさい。こうい

って進めて上げたのです。ところがあんな活動の少ない既成婦人会に入つて行けないというのです。そこで私はこれを育てましょう。育てる準備としてグループを作つて、向うの方をなんとか感じさせるように、こちらでいっしょうけんめいやりましょうというので、小さいグループを作りました。そうしてやっていると皆さん集まつてくるわけですね。そうしたら対立しているというので、大きな疑問になった。私は対立しているのじゃない、組織がしっかりした場合に、みんなで駆け込みとして準備しているのです。あなたの方でみんなの声を聞いて下さい。幹部だけがいい按配に丸めてお膳立をして会を開くのでなく、こちらの声を聞いて下さい。喜んで入りますからということを話し合いました。そうして、私も会員になつてこちらのグループが合流したのです。二人だけ、私はどうしても納得いかないから入りませんという方がありましたが、いまだ盛んに活動しています。与えられることを望まないで、育てましょうということをやっているのです。それが成功して、対立が解けて、いま明るい婦人会になりつつあります。

杉浦 ありがとうございます。

進行係 もう少し組織活動のことで、お困りになつているとか、今後どうしたらいいかということはありません

か。皆さん民主的にうまくいっているのですか。  
折登 たくさんの人と手を繋いで進みましようと思つても、出られない人たちがいて思ふようにゆかない。出られない人たちにどのように働きかけたらよろしいでしょうか。教えていただきたいと思ひます。

兼松 私の方には二つのグループがあります。その一つは、私の住んでいる五、六軒並んだような借家住居をしている人たちの集りです。もう一つは私の仕事の関係もあって、婦人会の幹部の人たちとグループを作っています。幹部の人や役員の人たちの話を聞きますと、生活改善、料理講習とか、非常に活動しているのです。それはとてもいいことだと思ひますが、近所の人たちと井戸端グループなどで、お洗濯したり、洗いのしたりしているいろいろお話ししながら聞いていますと、全然活動がそこまで及んでいないわけですね。全然自分たちが会合にも出たこともない。料理講習なんかしても、金ばかりかかってなんにもならないという人がたくさんいるわけです。このような人たちをどういうふうにしたら啓蒙できるかということを考えまして、お洗濯や井戸端で話し合っている中で、そういう問題を持つて来たらしいと思つたのです。そこでたとえば新聞の三面記事の話から、三面記事で終わらないように、最後には一面まで持つて行くように話し合つたり、日常やっている料



理の話、どうやって自分がおもしろく食べたかという話をし  
て、とても喜ばれております。ただそこで私が考えますの  
は、結局そういうふうな二つのグループが分れたらいいけ  
ない。手を握くためには、婦人会の組織というものが部落  
位になって、幹部の人たちが演壇ばかりで話すのでなく  
て、演壇から下りて、部落まで行って、そういう人たちと  
一緒にあって、そこで指導してくれたいと思うのです。  
一つの井戸端で終らせずに、部落単位の組織があちこ  
ちにできて、それが一つに纏まったらいと思うのです。  
そのためにどういうふうにしたらいいか、ちょっとわか  
らないのですが……。

折登 一つに纏まった方がいいということはよくわかる  
のです。しかし小さなものがたくさんあってもいいのじゃ  
ないかしら。一つにならなければいい仕事ができないとい  
うその考え方がわからないのです。

兼松 たえばほんとうに困っている人たちが話し合う  
わけです。ところがそこで島合の衆じゃだめなんです。そ  
こに指導する人がいないと、三面記事が三面記事で話が終  
った駄目だと思ふのです。

進行係 地域の人たちと身近かな問題を話しあって少し  
づつ向上してゆくというけれどもこれは非常にいい御意見  
と思ひますが……。

の中に入って一緒にあって指導してくれる人がほしいわけ  
です。

細岡 町内会を作った場合、お父さんもお母さんも会員  
だという場合、会長の選挙のときに両方に選挙権がなけれ  
ばならないわけですが、このことを会員が自覚しているか  
どうかというところをお聞きしたいし、もしそうでなかった  
ならば、このことに目を向けてほしいということをお願い  
したい。私の方は、会長選挙のとき一世帯に一票という選  
挙権だった。そこで家に権利があるのじゃない。婦人部の  
会員として認められておるならば、婦人にも選挙権がある  
わけだということを、十人ばかりの女性と話し合ったので  
す。男女は平等なり、ということから押して、役員会に意  
見を具申したのです。

磯村 いま細岡さんのおっしゃっていることはよくわか  
るのですけれども、現実の町内会の役員選挙の決定の場合  
に、いったいどうなっているか。選挙までやって町内会の  
役員ができていくかという状態、それを承りたいのですが  
ね。中尾さんの方は選挙してやっておられますか。

中尾 選挙にはなっているのですが、それまでにある程  
度の妥協があるわけですね。大体この人にすればというのが  
農村では約束できているわけですね。

磯村 そうなっていると、細岡さんのおっしゃっている

高橋 私の方も婦人会があまり大きかったために、皆つ  
いて行けなかったのです。だから今度は部落のクラブ活動  
をしようということになって母親クラブを作ったのです。  
そうすると兼松さんの言われたように、話のレベルがだ  
ん低くなって行ったのです。そして熱のある人は来なく  
なったので、これでは駄目だと思って、自分たちを同じ  
くする人ばかりが集まらなければ、進歩しないと思って、  
十五六人でしたが、集まったのです。県から講師を頼んだ  
り、講習会を開いたりいろいろプランを立ててやっていま  
すが、いまのところうまくいっています。また一つの品物  
を共同して作るから、たくさん品物ができ、みんなが満  
足になって、だんだん入ってくるようになりました。だ  
から始めは小さい固まりから、だんだん大きくして行こう  
と思うのです。

進行係 兼松さん、やはり指導者がいなければ駄目でし  
ようか。

兼松 たえばお料理でも、ほんとうにこれだけのお金  
しかない。しかし労働しているから栄養あるものを食べた  
いというわけですが、栄養の技術を知らないわけですね。  
ほんとうにそういう人たちは教育も受けてなければ、ラジオ  
を聞くひまもないのです。教える人たちがなければ、そこ  
で愚痴をこぼして終わってしまうのです。だからもっとそ

ことは、ほとんど行われぬ実情になる。そこが問題だ。  
そういうのがほかはどうでしょう。

高井 お難立ができていて、形式だけを一通りだけで  
す。

大井上 私の方もそうです。

金田 私の方は一組から一人づつ立候補させます。自分  
で立候補したい人もあります。それで組が投票できるの  
です。大体みんなが押している人がなっています。その人  
がもし会長になった場合には、受けますかと念を押して、  
受けますという、二年に一週づつ六人の立候補者を立て  
て、全部が票を入れて、その順に会長、副会長、書記、会  
計と定めているのです。

磯村 それは町内会の婦人会ですね。町内会の方は。  
金田 町内会長は男の方ばかりで、女の方は進出しない  
のです。

羽原 まだなにしろ新しい町ですから、町内会というも  
のは作らないでのごとういうことで、そういうことはい  
ないのですが、ことによって推進委員会というものを作って  
います。ただいまは公明選挙推進委員会というものが出来  
て、選挙が終わるまでは公明選挙についていろいろのことを  
することになっています。

進行係 民主的に進んでおりますか。

羽原 とても民主化しております。男が会長、女が会長ということはありません。誰でも熱心な方が会長になっていきます。

中尾 私どもの方は推進委員会そのものが民主的でないのです。教育委員という大事な選挙でも、予め割当てられるのです。そうして女の人の意見など全然いられない。出て頂きたい人に出て頂けないわけです。なんとか婦人の力で働きかけて、もっといい人に出て頂きたいと思っておりますが……。

高井 それは工作委員会といった方がいいですね。

佐藤 グループが活動するには、資金の問題があります。活動の資金をどういうふうにして得ておられるかという点についてお伺いしたい。

阿久津 内職や環境衛生の問題でも資金面ですぐ行き詰まるのです。そういうときにいくつかのグループが連合体を作って、大きな力になって町役場に行き、予算を取らせるようにして解決しています。

教育委員にはわれわれ婦人の教育のために、婦人講座をしてほしい。そのほかわれわれにいま実際に必要なことをしてほしいということも、申入れてやってもらいます。小さなグループが大きな組織になった場合には、私たちが自分で金を出さなくても、問題が解決するのではないかと思

は地域でやっています。

進行係 阿久津さんの方の会は、会費を納めているのだから。

阿久津 会費は十円で、その中本部費が二円で八円は地区活動に使っています。

羽原 藤田さんにお伺いしてよろしいでしょうか。生活協同組合というのは非常にいいことだと思ふのです。しかし商売の方が混っている、実際やってみて非常に損いことがあります。去年の夏BHCを婦人会で配給したら、BHCを扱っているお店が全然売れなかったそうです。そのお店の方も婦人会に入っていたので非常に困りました。そういうことは、お宅の場合はありませんか。

藤田 私どもの方は住居地が主で、始め二、三人の人が——ちょうど終戦後の物のない時代でしたが、品物を分け合って、あれは安かったなどいっていますと、近所の人が入れて下さい、入れて下さいといっていますと、三年くらいは根を張る運動に持っていて、法律ができたときに生活協同組合に切り換えたので、そのときに反対することができなかつたわけです。そういうわけで、婦人会の方で立派にやっているのだから、仕方がない、うちの方でも五分引きにしましょうということ、組合にないものは五分引くくらいになりました。

ます。

藤田 婦人会がお金を集めるとか、よそからお金を頂くということ、非常に問題があると思ひます。私はやはり会自体が自立しなければならぬと思ひます。私の経験を上行きますと、生活協同組合をつくって物資を購入して販売し、皆さんに相対安く提供した上に利益が残って、いろいろな文化事業に使っています。なんといっても生活に切実に直面している問題からいろいろなことをして行くというところは、非常に伸びるのではないですか。物を買えば必ずよそより安いし、利益の配当もありますので、一人では会員が増えてくるのです。自分の持っているお金です。文化活動も自主的にできて行きます。会館を作ろうという夢も持っています。先達大阪の農林課の方で、仲の婦人団体の表形式がありましたので、行きましたが、仲の婦人団体は農協と手を組んでいます。自分たちで物を買いません、農協を通じてやっています。婦人自ら生活協同組合を育てて、文化活動、共済事業をして行けば、遠慮なく活動できると思ひますので参考までに申し上げます。

阿久津 婦人会はお金を一銭も役場からは貰いません。役場に働かせるのは、紐をつけるのではなくて、政治的にそういうことをやらせるといふことです。生活協同組合

羽原 業者の生活を脅す、結果になりはしないかといふだにできてないのです。私はしたいのですけれども。

進行係 団体の資金の面をどうしていらっしゃるか、ほかにありましたらどうぞ。

高橋 私の方のグループは十七、八人、それで講師を呼んで講習会をするという、やはり経費の問題になるのです。私たちは農村だし、お金を出すことはいやなんです。そんなお金を出してまですると、うちで反対する人もありますので、お金を出さずにグループの人の教養を高めようと、費用の問題に非常に苦心しています。やはり先ほど藤田さんの言われたように、調味料の砂糖も醤油も、お酒も炭も、全部農協協同組合から仕入れてくるのです。農協の方は安く共同購入して、その全体の売上の百分の四を還元手数料として私の部落に貯金しています。その貯金はみんなが協力して販売した公のものだから、いろいろな費用に充当しています。

羽原 それはよくいった場合でしょう。そちらはサラリーマン、こちらは農家で、同じ消費家庭だからいいのですが、商家が半分半分に混っているところと私は言っているのです。

折登 同じ様です。商売の人には、多少影響しても、ほかの全部の方のためになるならした方がよいから、それと

も一人の人も困らすことがないようにすべきか、困るのですね。

阿久津 私の方では、生活協同組合は病院関係と共同してやっているのですが、酒類は医療地区ですから、そのことがやはり大衆の利益になることであれば、生活協同組合はやるべきだと思つてます。地域にいろいろな商店がありませんが、その人たちが暴利をむさぼっているとも思わないが、協同組合があるために、一般に物価が下って、利益を全般が受けたことも事実です。その点でこの問題は解決つくと思つてます。

進行係 資金の問題はこのくらいでよろしいのではないのでしょうか。

先ほど細岡さんから会員がほんとに自覚しているかどうかという問題が出たと思つたので、婦人会などで、ほんとうに会の目的をわかつてみなさん入っていらつしやるかどうか、それに活動していらつしやるかどうか。

折登 いまうかがつていて、皆さん水道を引く、保管所を作るといふように、はっきり目的があつてなさつていらつしやるのですけれども、私のいましているのは、そこまで行くためのものの方をもちたいと思つてやっていますのです。これはなにも目に見えないので、なかなか骨折りが多いのです。そのために本を讀みましよう、新聞記事か

ものを考えましようということをしております。そしてそれが地域に拡まるようにしたいと思つています。

杉浦 先ほどの法井さんのおっしゃつて下さつたように、対立してはいけないということ、それはたしかにそうだと思いますけれども、やはりいま折登さんがおっしゃつたように、町内会なら町内会の問題にぶつかったときに、こういうあり方が正しいかどうかを考え、そして婦人が自覚していくための集まりを作りたいのですが……。

天下り式にできた婦人会のほかに、もう一方につくつていかどうかということです。

細岡 結局いまおっしゃつたように、もの考え方がしつかりできてゐる人が一人一人集つて会をつくるのが一番のぞましい。しかし現実には大きな組織の婦人団体に、無自覚のうちに入つてゐる婦人が多勢いるということですから。その人たちをどうして自覚させるか。やはりそこへ入つていかなければならないでしょう。

杉浦 いま細岡さんは、小さなグループで志を同じうする人がグループを持つことも必要だし、また民主的でない団体にも入つていつて、なかの一人としてよりよい方向にもつてゆく必要があると、両方おっしゃつたのですね。

折登 二つあつても差支えないのではないのでしょうか。

杉浦 私はやはり折登さんのおっしゃる通りに、両方の行き方をしたいと思つて現在それをやっているのですが、私は家庭の主婦ですから、とかく視野が狭いために、独善的なものの考え方になり易いということを反省しています。そういう意味で、そういうものの考え方が正しいかどうかというところをお尋ねしたかったのです。私決して対立して喧嘩しようとするのではないのです。

法井 婦人会は大きいボールのようなものでなくていいと思つてます。私はお団子作りということをもつて言っているのですが、個々の小さなグループがあつて、それがお団子の串であつていいと思つて。いろいろな意見を持っているグループの集まり、それが婦人会で、大きなボールに包んでしまったのが既成婦人会だと思つてます。

阿久津 私は勇気をもつて、既成婦人団体に入つて行けば、そこに同志があると思つてます。そこで自分の意見を生かして行くことを希望します。

法井 それを勇気をもつてやりなさいということを書つてます。

### ◎政治の食困の打開

進行係 阿久津さんから大へんいい御意見が出ましたの

で、これくらいにしまして、先ほど先生からお話のありました地域のグループが政治にあまりにも利用され過ぎるのではないかということですが……。

磯村 行政の斡答せというお話がありましたが、これはすでに前にも申しているように、かなり大きな問題です。先ほどのお話のように、ごみ箱なんかも、ほんとうは役場なり市で作るべきものが、いつまでも作つてくれないから、われわれが金を集めて作つてしまふ。あるいは共同募金が街頭での成績が思わしくないと、大部分は地域資金への割当になつてしまふ。そういう例がほかにもあるのでしようか。

杉浦 これは過去のことですが、現在もおそらくそういうことだろうと思つてますが、子供が小学校に行つていまして、P.T.A.の役員をしたことがあります。そのときにP.T.A.のいわゆる金集めというものは、なにに使われているかという、当然国家で負担しなければならぬもの、学校の施設などそういうものに使われているのです。子供の幸福のために必要な施設は、国家の教育予算において賄ふべきものなのです。私は役員会るとき、国から学校への予算はどれだけあるのですかということを聞いたのですが、それはなんだかんだといつて、予算はいつてもP.T.A.の会費だけでやられているわけです。私はそれに対して不満

を持っていたのです。ところがたまたま名古屋の進駐軍が視察に来て、この学校は実に設備が悪いということになったのです。進駐軍が視察にくるといので、その当日はすっかり掃除をして、昇来水を入れた手洗いの水を方方に置いて、アメリカに対して恰好をつけたわけです。これほど衛生的にやっていますという恰好をつけたのです。そうするとアメリカの方から見れば、金のある学校だと見たのでしよう。それにしては何かの施設がない——そのころは占領軍の命令は絶対的なものですから、早速役員会が開かれたわけです。進駐軍に言われた施設をとのえると一人に対して六百円ぐらいの密附になるのです。占領した国がそれを命令されたからといって、われわれの力では出来ないから、どうしたらそういう施設ができるようになるかというのを、進駐軍に行つて聞きましよう、弱い父兄を擁護して出させる必要はないと私は反対しました。先生が刷物を一枚出せば、親は泣き泣き出すのです。だからそういう行き方ではなく、やっぱり先ほど私が申し上げるように、牙先が開通つていらないか、組織の力が弱い方へ、弱い方へ流れて、抵抗がないということ、それがまことに残念だと思ひます。

羽原 私もPTAを長いことやっていますので、いまの問題に関連して申し上げます。PTAの会費を施設の方に使

してはいいという重要なことがありましたらどうぞ。

折登 現実の問題として、学校の施設は教育予算からして賄うのが当り前なのですが、町にその予算がない。最後にどうしても生徒が不自由しているから、ということではPTAに話が合ったわけですが、ところがPTAでも背負いきれないので、私どものところの婦人会に持って来たのです。婦人会では、教育予算から賄うのが当り前だからといって、手をつかねて見ているわけにはいかないわけです。この現実をどうしたらよろしいのでしょうか。

佐藤 私は婦人会の活動として、やってもよいと思ひます。

杉浦 私も結構だと思ひます。しかしただ現実がそうだからといって、そのまま受け入れてしまうと、先ほどから言うように、すべての體寄せが弱いところに来ますから、一応その大本に持つていって、抵抗しなければいけないと思ひます。みんなが協力することは、次の世代を作るためのわれわれの責任ですから、それはやらなければならぬ。しかしやるべきところにやらせる、本来の姿にもどす努力は怠つてはいけません。

羽原 それは根本です。しかしよいよのときには、親心で、PTAからも出していいと思ひます。

進行係 杉浦さんのお話になったこと大へん結構だと

うことは、非常に悪いことで、將來は國家予算で施設などはやるべきで、もっと文化活動、児童の福祉のために使ふべきです。しかし現実には、どうしても親が見ておれなくて、結局施設に廻るのです。私はなるべくPTAで施設の方に金を廻さないように、陳情団を揃えてやっています。陳情団というのはちょっとおもしろいのですが、女の人が陳情に行く、男の人が参るのだそうです。女が言う、男が言うより困るらしいのです。それで去年は女の陳情団が市役所に何十通も行って、二教室ができました。

細岡 私もPTA関係を長くしていますために、非常にいやな思ひをしていることがあります。新しい校舎ができて、内容を設備しなければならぬからというので、百十六万八千という大きな数字が計上されたわけです。たまたま市の方でやってくれないからというので計上した数字ですが、市の方でやってくれたので、この数字が浮いたわけです。学校側の方は、こういったことができたのも市の方の力によるのだから、その方の園勞に使いたいというのです。私は執行委員会で論争したけれども、とうとう先生方の顔色を窺つて通つてしまった。出てこれないお母さんのために園勞しても駄目だった。しかし駄目でもやって行かなければならぬと思う。

進行係 時間が残り少なくなりましたので、もう少し討論

思ひますので、それでよろしいですか。

細岡 いろいろ討論されたことはいまの社会の現状だと思ひます。その現状をくつがえすだけのものを私たちが固めて行かなければならぬと思ひます。それは政治の力しかない。その政治をどうするかというと、選挙しかない。そこまで掘り下げて見ていかなければいけないのじゃないかと思ふ。公明選挙は空廻りではいけない。毎日毎日が公明選挙だということを自覚するように、方法を講じて直して行くこと以外にないと思ひます。

阿久津 どの候補者に入れたら私たちの利益になるかという、基本的な問題がわかつてくるかどうか。ただ感情的に、なんとなしに選んでしまうというふうなことで、自分たちが損しているということはないかどうか。深く反省してみることがあると思ひます。

進行係 最後に先生に今までの討論をおまとめいただきたいと思ひます。

磯村 御参考までに私の印象の形で、気のついた点について若干申し上げてみたいと思ひます。もちろん間違つておりましたら訂正も致しますが、皆さんの御意見を全部盛つたわけではございませんから、それは悪しからずお許し願ひたいと思ひます。私は大体六つにお話を纏めたわけ

第一は地域社会の問題に致しましたが、基本的な問題は、婦人の自覚ということがやはり第一ではないかと思ひました。これはほとんど全部の方が、凡ゆる場面でおっしゃったのですが、特に私の印象に残りましたのは、北海道の折登さんのやっておられる巡回図書の問題です。まだ組織までいかないけれども、ほんとうのわずかなグループによって、図書を回覧することによって婦人の自覚を高め、それによって組織にまで持って行くとする努力をなさっていらっしゃるに伺いました。香川の藤松さんが、やはり同じような方法でまだ団体の結成までにはならないようですが、いろいろな文化的な刺激を受け入れることによって、一つの地域の組織に持って行くという努力をしておられる。これなんかはたしかにやはり地域社会の問題としては一寸偏ったとも思われるのですが、その地区の御婦人もその自覚を組織にまで持って行くとする特殊な努力の現われと、私は拝聴しました。

それから第二番目は家庭との協力の問題です。これは大分いろいろな御意見がございましたが、結局地域社会の活動をする場合に、家庭の理解をどういう方法でということになるのですが、根本的にはもう家庭に入る以前の心がまえが大事じゃないか。これはほんとうに日本のすべての男性に聞かせなければならない問題でして、結婚の相手として、それから第二番目は家庭との協力の問題です。これは大分いろいろな御意見がございましたが、結局地域社会の活動をする場合に、家庭の理解をどういう方法でということになるのですが、根本的にはもう家庭に入る以前の心がまえが大事じゃないか。これはほんとうに日本のすべての男性に聞かせなければならない問題でして、結婚の相手として、

第三番目は、いわゆる風俗習慣の問題があったと思ひます。この点につきましては、主として冠婚葬祭の問題に限られたようです。これもまたいわゆる現在の家庭生活の不自由さの形となって解られ、同時に地域社会への女性の進出を阻んでいる原因の一つであることはたしかです。またまたその問題については、列席の皆さんの生活が、比較的理解のある家庭、理解のあるあるいは理解を持つようになつた夫をお持ちでありますので、その傾向があまり問題にならなかつたと思ひます。これはおそらくほかにも出てくる問題ではないかと思ひます。結婚の問題も、現在の社会では、結婚そのものが男性対女性のお互いの個性とし尊重し

てそういう理解のもてる方を選ぶということは、自覚した女性としても当然のことかと思ひます。結婚後夫にそのような風に男性を教育すると申しますか、あるいは協力を求めるといふことにも、いろいろ具体的ににお祈りがございまして、これは傍聴人の方にもやはり男性の方がおられるのですけれども、その男性の一人として、非常に参考になりましたし、また身にしてみても感じたのですが、結婚の相手と地域社会での活動ということとはほんとうに大事なことです。これはおそらく婦人活動全般を通じての問題と思ひますので、第一部会がこの方面にどういう結論を出すかということ、司会者から聞いて頂きたいと思ひます。それから愛情が大事だとか、家庭に入ってから仕事の分組が大事だということなどいろいろ苦しいお話しがありました。

それからもう一つ家庭との協力の問題のうち、家庭の生活のあり方ということが問題になつたと思ひます。だからといって、炊事をお互いにするということとは、ただ今の社会で全般的に認められるかどうかという点も問題だと思ひます。あるいは最近の男性の中には、すでにそういうことについて、充分の理解をもつておられる方があられるかも知れません。しかし将来は見通しのある問題と思ひます。たとえば最近のような小学校、あるいは中学校の社会科の教育などを見ますと、今後五年、十年の先においては、家

た上での繋がり、いわゆる個人の生活に基盤をおくようになってきています。しかし実際多くの家庭では、依然として人格を無視した家対家の問題などが中心になる場合が多く、そのために非常に無駄なり、警察が当然のこととして行われている。これを打開するについては、いろいろ御意見がありましたが、根本的にはやはり結婚する当事者の問題ということになつたようです。これは理論的にはかなり切り切れるようですが、実際の問題としてはなかなか適当な方法がない。その解決のための一つの方法として、あるいは貸衣装をなさっておられるような問題も出ました。地区によりましてはあるいは参考になる御意見ではないかと思ひました。

それから第四番目は、施設の問題ですが、皆さんが凡ゆる場面において、苦心しておられる。これは最も身近な、生活に近いところから、施設を持つていように承りました。たとえば埼玉の大井上さんが、アパートの共同生活のために水道の問題を中心にして、婦人会の組織にまで進んでいったお話、あるいは愛知の杉浦さんが、ごみを処理することを手がかりとされた問題など、案外地区内の衛生といったような問題がきっかけとなつて、婦人の繋がりができていようにおききました。

続いては子供の問題でしたが、奈良の中尾さんは、子供

の問題をいづくちにして、地区の組織を作っておられる。大阪の藤田さんでしたか、女性が中心となって税金を完納する組織をつくられています。

次に一番問題の多かった組織の問題ですが、結局現在の地域社会の団体組織が、ほんとうに婦人のものであるかどうかということが、話の中心になっていたと思うのです。で、目標としては、現在の婦人会や町内会は当然もっと民主化しなければならない。その民主化のためには、役員なり、機構ができるときに、その会員は家が単位ではなく、個人が単位であるという点を重視することがほんとうの民主化の基盤であるとの意見が、神奈川と東京の方から強く主張されました。これは非常に大事なことかと思えます。町内会との関係で婦人部が、独立していてもいなくても、このような基本的条件が確立されていない場合には、切角の婦人部の活動も根本に間違っていることになる。この点は凡ゆる方面に声を大にして言わなければならない点と感じました。そうすれば役員や指導者の問題なども、必然的に解決ができ、又資金の点についても、婦人会が町会などに隷属しないで独自の活動ができるのではないかと思います。それから、やはり資金の面についての問題ですが、大阪の藤田さんが生協の仕事を中心に、活動しているようにでした。これは中都市、小都市における資金調達

のモデルとして、生活協同組合のあり方をもっと研究すべきと感じました。ただこれが農村での婦人の活動が農協に繋がった場合に、果してそれが都会の生協のような婦人中心の運営ができるかどうかは、若干研究の余地があるようです。それから資金を自分がじかに出しているか、ほかから補助を受けているかということがやはり重要な問題だと思いました。これは民主主義社会の原則にもあてはまる問題で、ここまで降り下げてお話が出ましたことは、地域社会としても大へん結構なことだと思います。

最後に現在の地域の団体はややもすると末端の行政や政治の競争世になっているのじゃないかということです。例として、皆さんから挙げられたのは、主としてPTAの会費の問題などで、結局は学校の予算という、当然税金で負担すべき学校の経費までも、子供への養育という名の下にPTAがしばしばその競争せを受なければならぬ状態である重要な問題とおききました。これなんかもやはりこれは地域社会における婦人の自覚に繋がる根本の問題だと思います。これは、おそらく皆さん方の共通のお気持ちかもしれません。結局こういった地域社会の問題も、結局女性の政治への自覚に繋がるものだ。婦人会あるいは町内会のメンバーとして、自分たちが人間としての一票を行使するのでも、国家政治へ一票を投じるのも同じだという自覚を培う

ことが大事と思われるようでした。

私のお話したことはあるいは偏っているかと思いますが、一人の男性としての感想も加えてお話しさせていただきました。

進行係 それでは大へん長いこと御協力下さいましてありがとうございました。地域にお帰りになりました。よりよい活動をなさることを期待してこの会をとじます。

### 第三部会 職場の一員として

（職場の封建性を破るには、婦人の地位を高めるには）  
（協力によつて解決するには、仕事と社会の結びつき）

#### 出席者

|        |    |     |            |
|--------|----|-----|------------|
| 宮城     | 小野 | 延子  | （ダンサー・主婦）  |
| 千葉     | 深谷 | 大子  | （看護婦）      |
| 東京     | 高倉 | 明子  | （事務員）      |
| 神奈川    | 原山 | 久意  | （事務員・主婦）   |
| 福井     | 河越 | 貞子  | （主婦）       |
| 岐阜     | 阿部 | ミネ  | （工員・主婦）    |
| 滋賀     | 秋山 | 和枝  | （保母）       |
| 京都     | 大石 | 幸恵  | （地方公務員・主婦） |
| 島根     | 石川 | 幸恵  | （地方公務員）    |
| 山口     | 田村 | 徳子  | （主婦）       |
| 高知     | 岡田 | 礼子  | （事務員）      |
| 長崎     | 渡部 | 復興  | （タイピスト・主婦） |
| 熊本     | 志垣 | まさる | （事務員）      |
| アドヴァイザ |    |     | （地方公務員・主婦） |
| 進行係    |    |     | YWCA幹事     |
|        |    |     | 婦人少年局婦人課   |
|        |    |     | 石井雪枝       |

進行係 これから「職場の一員として」というテーマで、討議を進めてまいります。初めに皆さん方から三分間ずつ意見の発表をしていただきますが、その間の進行係を昨晚抽選で決めました山口の岡礼子さんが務めてくださいます。

岡 最初に長崎の長岡さんをお願いします。

長岡 所感文にも書いたのですが、五年間の職場生活の体験の中から悩み苦しむ、そうして希望をもった具体的な事実を卒直にお話したいと思うのです。それで全国の方と同じような問題を研究して、これからの自分の参考にしていきたいと思っています。私は会社に入ったときには、男だから、女だからというのでなくて、ほんとうに人間として、職業婦人としてりっぱに職を務めていきたいと思ったわけです。ところが現実の職場は、女の人にそういう仕事もあまり与えてくれませんし、また自分にどういうふうな能力があるかということも全然わからないわけです。それを伸ばしてくれようような施設なり、教育機関というふうなものがあるが、私はがっかりしましたし、あきらめたわけですが、それじゃいけないということをだんだん考えるようになり、組合活動をやり始めたわけです。私のところは婦人部がないのですが、女の人が大体五百人近くおられます。その人たちが全然問題をもちに、ただ楽々

と会社に来て働いているというのは決してない筈だと思ったわけです。自分の悩みや苦しみというものをみんなもっているのではないか。それをみんな集まって話すには、やっぱり婦人部を作った方がいいのだと思って、そのために努力してきたのです。けれども、私が人間としていろいろ職場で奮闘したり、行動したりしますと、男子の同僚たちから、結局女らしくないということをいわれます。お嬢にもらい手がないとか、そういったことを盛んにいわれ、また家に帰っても両親が猛烈に反対するのです。組合とか、講演会とか、本とか、そういう勉強をするよりも、お花とかお茶とかいうおけいこ事をしなさいというのです。また女の人自身が男の人から女らしくないといわれるのを嫌っている。だから私が伸びようという力を、同じ働いている女の人たちからも抑えられてしまいうようになった。そういったわけで、私は結論として一人の人が、すばらしく能力を高めて働くよりも——もちろんそれは非常に重要なことではありますけれども——一人の人が百歩前進するよりも、百人の人が一歩前進するといふ方では進んでいかなければならないと考えたわけです。たとえばお茶汲みにしても、私一人が反対してもほかの女の人たちがお茶を汲んでいるという状態、そこから女の人が社会人としての自覚をもって伸びるという力は決して生まれてこないと思うの

です。その人たちが伸びようと思ふ力をもっていないわけではないのです。いろいろ話してみますと、それぞれの苦しみの中に溺れてしまっているのですから共通した問題があるわけですね。共通した問題をお互に見つめあつて、少しずつ進んでいく、進んだ人間にとってはそういうことはまどろっこしいし、苦しいのですが、しかしその苦しみに耐える力こそ、社会人としての婦人の実力を伸ばす原動力にはならないかというふうに考えているのです。

岡 二番目は千葉の深谷さん。

深谷 私は今の長岡さんのお話に心から同感の気持ちをもっているのです。私は職場と社会の結びつきについて約一年あまり前から、患者さんの療養生活を守るということを通して、私自身社会の目を開いたということについて言わせてもらいます。職業についているものは職場という機構の中に入っているから、その範囲での仕事に社会に対する貢献だと思ひます。その仕事を忠実にやることでいいのだと思うけれどもまた逆に、自分の仕事や生活が社会の大きな動きに影響されるということも考えられます。患者さんの病気を一日も早くなおして健康人にするのが、医者や看護婦の務めで、そのためには医療と社会と結びついた看護婦の向上ということが考えられるのですが、看護婦の向上ということについて社会との結びつきを考えたのは、私

たちの向上は、私たち自身の自覚や自負心、努力という精神的な面だけにまわっているのでは解決されないように思つたからです。八時間の勤務はほとんどじっとしているひまもないほどの重労働で、寄居舎に帰りますと、五、六人の雑居というわけで、静かに読書したり、考えたりする時間は望まれないのです。人の生命をあずかり、病める人の心からの友だちになつて働く看護婦は、切実に自分の向上を考えているけれども、忙しい勤務や、恵まれない環境にマノリズムに陥つていく傾向が非常に強いのです。また私たちは今まで自分たちのまわりのことを、自分たちが一所懸命やればよいだろうというふうに考えていたけれども、カリエスで起上れない患者さんが胸の上に食糧を置いたり、審見台で本を読んだり、手術後の患者さんが便器を使えないという姿を見たら、社会全体——社会を動かす政治との密接な関係をもたなければならぬということを考えます。医療部門だけが冷遇されているのではなく、社会全体が私たちと同じような苦しみを味わっているのですから、それを打開するには自分たちの生活を政治と結びつけて行動していかなければならないと思うのです。

岡 国立病院の看護婦をやつていらつしやる深谷さんでした。今度発言なさる方は職業をおっしゃつてください。三番目は東京の高倉さんをお願いします。

高倉 私は政府機関の特殊な銀行に勤めております。私はここに出席することになりましたから、職場の組合の婦人部の方々と、どのテーマを取上げたいかということをお話したのですが、その結果「仕事と社会の結びつきについて」、これが根本の問題ではないかということになりました。正直に申しますと、「仕事と社会の結びつきについて」ということは、婦人部などで取上げて話したり、考えたりしたことがありませんでした。それはなぜだろうかということを考えてみたのですが、一つには労働条件が悪いということだと思います。男女の給料に非常に差があったり、何かあるたびに、女子は能力がないからとか、すぐにやめていただくから——といわれているから、女の方が仕事をすること上に自信をなくしてしまっているのではないかと思います。そういうことから自分の仕事に社会的に役に立っているか。その仕事はどれだけ有意義な仕事かということを考える余裕がないのではないか、それからもう一つは仕事の性質をよく知らないのではないかと思ひます。私どもの仕事は、よく考えてみれば非常に重要な仕事です。仕事自身がつまらない、ほんとうに雑用と思われているとしても、どの仕事もどれだけ社会に役立つかということとを真剣に考えた場合には、日常の生活にもっと明るい希望がもてるということを私たち考えついたわけですね。今度もこ

こに出席して、皆さんの御意見を伺つて、職場でお話ししようと思うのですけれども、今までこれに気がつかなかったことが非常に落度でした。それから女の人たちが仕事を知らない勉強が足りないということです。そういうほんとうに身近なことから勉強していけば、もう少し何とかなるのではないか、そういうことを考えております。

岡 次に島根の田村さんをお願いします。

田村 私は、今は勤めていますけれども、日刊地方新聞の家庭欄学芸欄などを担当している記者でした。その時の体験ですが働く婦人部というものが全然評価されていなくて、とっても働きにくかったのです。どうしてそうなんだろいかいつも考えさせられ、そのことから今度応募したわけですが、たとえば私が、原稿を頼んでおいた人が原稿を持ってきたら、私が坐つて仕事しますと、「今日はだれもおきませんか」と、そういうのです。女がいたってだれもおきないことになるらしいのです。それから電話がかかってくるんですけど、女の声ですと、よく「ちょっと男の方とかわってくれませんか」と、何も言ひ出さないさきさきというのです。それからごく単純な、たとえば何日に俳句会があるからというふうな記事について、私がメモしようと思つて聞きに行きますと、受付のところへ、また出直してきましようというふうな顔をされることがあるのですが、全然女な



んか評価されていないのです。さっきの電話のことですが、逆にこういうこともあるのです。あるとき役所に電話して、原稿について何かわからないところを聞きまして、「今ちょっと男の方がいませんからわかりません」と、女の方が言っていました。これが一番大きな問題ではないかと思えます。昇級試験があっても、落ちたはずかしいから受けなさい、おこうというように女の人自身努力を怠っていないのです。それから男たちや社会が認めてくれないのです。認められないというよりも自信を失ってしまっていて、無力である、ということがいつまでもいつまでも循環して、どうにもならないと思います。自信をもって、責任をもってどんどんやる、そうしたら男の方も評価してくれる。評価されたらまた責任をもってだんだん仕事ができる。それが最も大切な結論であると思います。

岡 では五番目の堀井氏の河越さんをお願いします。

河越 私は学校に勤めています。まず職場の習性ということについて話したいと思います。私の方では組合活動が割合にがっかりしている、俸給の差別待遇とか、あるいは不当な退職勧告などというようなことはこのごろありませんけれども、習慣というのを考えてみますと、今なお不当に、非常に不利なものが残っているように思われます。

分自身をよく反省してみても、積極的に責任をもって仕事をやらなければならないのではなからうかと思えます。それからさっきの、宴会などのときにサービスするという問題でも、みんながするから自分だけしないとかほのかの方にへんと思われないかしら、また取り立ててもらえないのではなにかしらというへんなひがみのようなものをもっていて、心ではやるまいと思っても、それを行動に移してやめることができないのではないかと思うのです。そういう点で、女は反省しなければならぬということ、最近になって、やっと考えついたようなわけです。それから、ここにまた一つの問題があります。それは女は職業についても、どうして男の人と一緒に肩を並べて働けないわけがあるのだと思えます。私にも乳飲み子がありますが、ほんとうに一所懸命働こうと思っても働けないのです。家の子供のことを考えたり、家庭のことを考えると、仕事に対する精一ぱいの貢献ができないのです。だからこれを何とかして解決したいと思えます。結局それを解決していくために私たちは、もっと職場では真剣に働いて、人間らしく振るまわっていく、そういうことによって自分が向上していくばかりでなく、また社会のためにもほんとうに貢献ができるのではなからうかと考えるのです。

岡 では京都の大手さんをお願いします。

るのです。たとえばさっき長岡さんもおっしゃいましたお茶汲みの問題とか、あるいは宴会などのある場合には女はまずサービス係とか、それかたせったく私たちが聞かないければならないようなお断があっても、台所とかいろいろの準備をしているためにそれを聞かないような場合があるのです。それからまた、今ここに校長あるいは教頭になるべき年齢の男女がある場合、女の方が非常に仕事をまじめにやり、よくできても、今までの情性とか習慣として、女は取り立ててもらえないのです。それはやはり上役である男子の方に封建的な頭が残っているからだろうと思えますが、そこに私たちが女性があるのではありませんかと思うのです。最初から男性の方は直接職業が自分の生活費ににつながるものであるという自覚の上に職業をもつけれども、女は——私自身がそうでしたが——結婚までの準備的なものとして職業につくとか、あるいは職業について、せっかくなにか仕事を与えられようとしても、私はできませんとか何とかいって、引込み思案で、積極的にやるうとならないのではないかと思うのです。あるいはまた、せっかくなにかやっても、それに責任をもって、熱心にその仕事と取り組んでやるという態度が欠けていたのではないかと思うのです。ですから、男性のみが封建的だという前に、まず自

大手 私は、府庁に勤めております。私も非常な理想に燃えて役所に入ってからずいぶん長くなるのですが、先ほど来皆さんがおっしゃいましたように、ほんとうにたくさんの矛盾やいろいろな困難の中に、私も数年間悩んだわけです。やはり皆さんのおっしゃったように、同時に入った男の方は主事になったり、昇格していきながら、女子職員だけは取り残されたり、すべての面に差別があるわけです。それは女子の職員としての態度なり、日常生活における態度にも原因があるのかもしれないが、その多くは長い間の因習による職場環境というものがそうさせているという例が少なくないと思うのです。女性蔑視の風潮が根強くはびこっている地方自治体において、私たち婦人はどのように活動しなければならぬかということが婦人部の組織の中で話されていますが、いろいろの問題が婦人部の努力で少しづつ改善されていくことを思いますときに、婦人部の組織作り出していくことが大切ではないかということが考えられるのです。しかし婦人部の組織などについていろいろ言ふと、先ほど長岡さんもおっしゃいましたように、女らしくないとか、アカではないかというふうな組織活動を非難されるのですが、日本の古い時代に作られた、過去の女性の女らしさというものを改めて、原動力時代の今日では、

新しい時代に生きる新しい女らしさというものを探求していかなければならないと思うのです。それには、婦人自身の努力も必要ですが、男性の方々のあたかい人間的理解と協力によって行政の面にも女子を登用するといふふうで、積極的の援助し、引上げていただきたいと思うのです。人間の能力においてはそう大差があるものではないと思うのです。私たち婦人はそうした面においても、組織的活動と、仕事を通じて、多くの婦人の方々とも協力してお互いに高めあいながら、婦人の権利を守り、社会の一員として、私たちがあとから来る働く婦人の道しるべとなつて、一緒に手をとって社会のためによりよい力とならなければならぬのだと思っております。

岡 次に神奈川県原山さんをお願いします。

原山 私は、従業員がたった四人という、小さな職場に勤めています。働きよい職場環境をつくり出すには——というところについて、職場を通した経験を上上げてみたいと思います。職場に入つて、その習慣でよいこと、悪いこと、いろいろな面につかりますが、前からいらつしやる方が、なぜこれを是正しなかったか、是正する方法がなかったかというのを考えさせられております。それがたとえば以前から繰返されていることであつたにしても、悪いことであつたら、自分の手で改める努力と決断力が必要

だと思ふ。そうして新しい人のために、また自分たちの現在をよりよく楽しいものとすべきだと思います。また設備や施設についても、私のところは小さなところで、何の設備もない。あれもこれとも思いますが、小さいところで大きいことを望むより、小さなことでよいから、一つ一つがわりやっていたらいいです。その次にやがては——という大きな夢をもっているのです。労働条件についても、特に女性だからといって特別扱いをされたくない。それから自分で選んだ職場であつてみれば、自信と大きな希望に胸をふくらませているのですから、だんだんと仕事を与えてもらいたいと思ふ。また自分で体得していく努力も必要であり、大切だと思ふのです。ほんとうにその仕事を心から愛し、責任をもって取組んでやるとき、爽に楽しく、不平、不満も少い、改善すべき点は、やるだけのことをやって改善したい。私は、自分の努力と決断力が必要であり、努力したときに初めて明るい職場が生まれるということを感じているものであります。

岡 では次に宮城の小野さんをお願いします。

小野 私は夜の社交場という特殊な職業ですが、昼間の婦人のように労働条件が備わっていない。夜働く婦人は、昭和二十五年の国勢調査によれば、全国で約八万、現在はそれのおそらく倍になっていると思います。十何万人からの

は、社会人として非常に高い節度を守っています。時間的觀念にルーズな日本紳士の向上をも兼ねて、私は社会の浄化に努めたいと思います。

岡 では岐阜の阿部さんをお願いします。

阿部 私は従業員百人のうち、女工員五十人の瀬戸物を作る工場に勤めております。岐阜県的美濃焼の工場は千五百工場、労働者は十万人といふのですから、いろいろな問題があつたとて不思議はありませんが、私は反省と悔みに明け暮らし、ただ事業主初め一般の理解と協力をねがっているものとして、日ごろ思っている一端を申し上げて、皆さんの御批判を仰ぎたいと思います。その一つとして職場婦人会というものをつくつたらどうかと思います。私の職場で、私どもが提唱しまして、二年ほど前から職場の研究座と、私どもが十二名ほどで開いておりますが、有名無実の組合との関係、事業主との関係、地域婦人会、青年団体等なかなかむずかしい問題がありますので、私は職場の一員としての自覚を新たにするために、職場婦人会とでもいうべきものをつくり、漸次全国的に横のつながりをつけたなら、いろいろな面で成長があるのではないかと思うのです。私は働く者の誇りと自覚を新たにするために、こうしたものがほしいと思います。それから賃金差の問題ですが、小工場では、その賃金を技能によらず、年齢や情状によるものが多

働く婦人たちは、経営者側から強制的に労働をせいられてはいるのですが、私ども夜働く婦人の働きよい職場をつくるにはどうしたらいいかという、強力な全国的な基礎をつくることだと思ふのです。私どものような職業には生活の保障というものがまったくない。憲法の第二十五条にも「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とありますが、このような当然国民として受けなければならない権利をも、私どもは全然受けておりません。従つて生活は非常に不安定ですから、収入を多く得ようとするためには、同僚の中から夜の女に転落する婦人も出て来ます。究極だけに従事する女性には、全国で十二万五千くらいですが、私たちの同僚の中から、これ以上の数を出したくないと思ひます。私たちは午後十一時までとなっているのですが、これは全然当局の目をのがれる装飾的なもので、午前零時、一時、二時の深夜まで酷使されるのが実情です。国民の健康上、犯罪上、騒音防止の上からいってもゆゆしい問題ではないかと思ひます。外国に例をとるのですが、ロンドンでは飲食する時間がきまつていて、午前十一時から午後二時まで、それから午後六時から十一時まで、この二回になっております。このように外国の紳士方

いのですが、これは職場の不満の原因となり、ひいては職場の協力や熱意の欠けるもとをつくり出しております。一例を引くと、新制中学卒業は男女共通で、一日平均百八十五円、経験青年工三百五十五円、経験女性百七十五円、というところになっております。それとは別ですが、健康保険の値上げ問題を、審議会が審議されたとか聞きますが、これなど社会保険の退歩を意味すると共に、私たち低賃金の職場労働者を苦しめるもので、私は絶対反対したいのです。こうしたいろいろな問題も、職場の一員として教養を高めて、実力を身につけるということに尽きると思いますが、教養の問題で、NHKの方にお願したいのは、職場婦人の時間とでもいうべき番組をできることなら零時半の休時間、一週に一回でもけっこうですから、何とかならないものかと思ひます。若い女性は何ものかを求めていることは、この会議の出席者募集のポスターを職場に張り出したとき、入れかわり立ちかわり目を輝かして見いていた一事でもうかがい知れるのではないかと思ひます。

岡 では次に渡辺の秋山さんをお願いします。  
秋山 保育園という小さなわくの中で、私は保母格職わずか二年というものを通じまして、その間に起った労働問題、チームワークの問題について、ここで取上げてみたいと思ひます。これまで保母といえど幼稚園保母、託児所保

互いに切磋琢磨して、強い団結した力を養い、それによって社会的活動への推進力となる原動力をつくっていききたいと思ひます。  
岡 どうもありがとうございます。次は高知の渡部さん、お願いします。

渡部 私は従業員が百六十人ぐらいの鉄鋼工場に働いております。女子従業員は全部が補助部門で働いていますが、組合に先覚者がいて、男女同一賃金の問題、生理休暇の問題、そのほか大へん有利な労働協約を結んでおりますので、職場勤務体制としてはなんにも不満に思ふことのない理想的な職場です。私は特に邦文タイプの技術をかわれて入社し、はじめは夫が協力してくれましたから、理想的な共働きをできたのですが、長男が生まれてから赤ん坊をどうしたらいいかということで大へん困りました。職場に悩みを同じくする人がいないので、困った、と話しても「やっぱり赤ちゃんができればやめなくちゃね」と、同僚は自分が家計を担うとして家庭をもっている辛いことなど忘れて、親身になって相談ののってくれないのです。私はタイプの他に、あるときは交換手、ある場合には経理の補助帳簿を持っていて、事務所になくてはならない人間だと思ひますので、どうしても仕事を続けていきたいのですが、赤ん坊を保育園にお願いできるまでの間をどんなふう

母と単なる呼名として親しまれてきたせいか、社会の人たちには、福祉事業にたずさわるものとして、より重要な、より広範的な使命をもって生れた、新しい現在の保母に対する意識がきわめてうすいようです。また保母自身も、こうした新しい保母としての自覚に乏しいものが多く、ただ無気力、無反省に、保育園という一つの枠の中で必要以上の労力をすりへらしているのが現実ではないかと思ひます。保母はまず第一に、児童保育に関する新しい知識、技術に対する積極的な学習と、たゆみない研究をしなければなりません。第二に、保育園のみの保母であってはならず、子供たちの両親家庭とともに、またその地域社会の人々とともにある保母でなければならぬと思ひます。第三に、保母自身の労働条件の改善に積極的な関心をもち、保母自身の結集された力によって、重要なこの職場の効率化と円滑化をはかることが必要です。低い賃金とか労働時間とか、いろいろな面がありますが、そういうことを解決するために、お互いがチームワークをどういう工合にして盛り上げていくかということが大切です。あとで具体的に討議したいと思ひますが、いろいろの問題をどうやって取り上げて闘っていくか、経営者側と折衝を進めていくかということについて、もっと私も婦人がいろいろな知識と、冷静な判断をもって、チームワークというものを通じて、お

にしたらいいか、解決方法が見つかりません。会社では乳幼児をかかえて仕事をしている方があんまりおりません。他府県の方はどういう方法をとっていらっしゃるでしょう。か、鉄鋼工場の小さな生産部門ではありますけれども、組織の一員として社会活動をしていきたいと思ひますので、御意見を伺いたいと思ひて出て参りました。

岡 では熊本の志垣さんをお願いします。

志垣 私は約七年前初めて家庭婦人から職場に出て、現在職業安定所に勤めております。数々の失敗によって、どうやって相互の協力体制を確立すればいいかということ、身をもって体験したと申しますのは、家庭婦人から職場に初めて出まして、ただ婦人の純粋さというのか、理屈にかなったこと、正しいことをしていれば、それで世の中は通るものだ、そういう気持ちで、仕事さえしていればいいというので、奥にがむしゃらに仕事をやっていたのです。男性を常にマークして一所懸命に働いたんですが、その後二、三年して、私に対する評判はどうであったかといふことになり、また職場の女の方たちからさえも敬遠されてしまったというような状態になったわけです。そこで初めて職場というものは、家庭で見えていたようなやさしいものではない、ずいぶん男性優位の封建性もあるし、それか

らまた女性同志のいろいろな小さい感情からの何かがあるということをやつと知ったわけ、その後は努めて男の方たちの言い分も聞き、また女の方たちの融和もはかり、同時にまた一所懸命仕事をやって、実力をつくるということをやがけてきました。私が組合の執行委員になったという事は、男性の支持を得つつあることの証左になるのではないかと思います。このようにして職場においてのポストを確保したあとで、私たちがほんとうに心がけねばならないことは、私たちが職場で得た実社会に処する体面を生かして他の婦人団体に働きかけて、ほんとうに閉るい民主社会をつくるために努力することだと思います。職場において得たファイトで、一応社会のリーダーとしてやらなければならぬのではないかと、思っています。

岡 では次に鳥取の石川さん、お願いします。

石川 私は地方公務員です。職場の体制について申し上げます。職場が男女の協働体である以上、職場を楽しく朗らかにするためには、女子も管理者の地位へ進出しなければならぬ。彼所では部長、課長、係長、役職のほとんどが男子職員によって現在占められているような状態です。そして女子職員といいますが、部屋のすみの方で責任のない仕事たとえばガリ切りや掃除やお茶くみをさせられているという現状です。りっぱな法や規則がきめられていて

も、運営している人の解釈によってはどのようなようにも変えられていく。上に立つ人、管理する地位にある人の考え方によって職場というものが非常に変わってくると思うのです。たとえばある課長のときには、職員の話し合いの機会が設けられていて、下級職員の意見でもよいことは取上げられ、男女の差別感情もなく、働きがいがあったのですが、課長が変わってからは、話し合いの機会などもなくなり、下級職員、特に女子職員に対する圧迫が、目に見えて感じられるようになってきました。昇格試験なども、女子職員が受けようとしても、課長の方から受けさせないで、いろいろいやがらせを言います。合格しても昇格させぬ方針とか、女はいいかげんな年になったら結婚してしまえというようなことを言って、女子が進んで試験を受けようとしても願書を受けけないという状態です。前任の課長のようなのはまれであって、女子職員に無関心か、あるいはあとの課長のように封建的な管理者がまだまだ多い現状です。そして仕事の後継者として男子職員をどんどん引き立てていくけれども、女子職員は何となく置き去りにされていくのです。そのために女子の仕事に対する意欲は減退して、ますます男女間の差というものを大きくしてしまうのです。女子職員の地位の向上は非常に大きな問題です。しかしそれを打開していくのは私たち女性自身なのですから、そのた

めには婦人自身社会性を目ざめて、ただ単に与えられた仕事を果すというだけでなく、自分で昇格試験などを受けて実力を認めてもらわなければならないと思うのです。戦後の新しい教育を受けた若い世代では、男女の差別感情もあまりないのですから、そうした若い人たちにおくれないように、今から共に地位の向上をはかっていけば、職場における真の男女の協働も確立すると思うのです。こうして女子職員も地方自治体の中で、社会に尽くしていくことができると思うのです。

岡 私は七年ほど前から確安を作っている工場に勤めております。最初入ったときは現場の事務所で、給仕みたいな仕事しかなかったのです。私は職業人として経済の自立を——というふうな気持ちで入ったのですが、給仕みたいな仕事でし、従ってこれでは経済的な自立なんてとうてい望めなかつたんです。私は親子三人です。今も養子というふうなことを言われる立場にあるのです。私はそういうことにも反発しておりまして、どうしても職業人として立っていくために組合の方の運動をやったのです。しかし組合の方の運動も、ただ攻撃的なことをやるという気がして、私自身職業人として成長するためにあまり適当ではないように思ったのでタイプや簿記を習ったのです。四人からいる組織の中では、なかなかタイプを習ったから

といって、すぐタイプリストにしてくれるというようなことではないのです。たまたま二年ぐらい前から私の能力を認められるようになったので、今度は速記を習い、会社の機関紙に出す座談会なんかの仕事をやったのです。これはほんとうに自分の力を発揮できると思ったのですが、速記だけでは、少ししか仕事がないので、会社のタイプ・コーダーを作ったり、電気関係のことをやったり、国語など男の人だけがやる仕事を習って、ちょっとした故障でも直せるようにしたのです。それから会社の組織のことも覚え、また電話にも自分で出られるように努力しました。そういうことでようやく自分で職場の中で生きてきたような感じがしています。しかし男の方はそういった努力というものをもを案外蔑めてくれません。速記をとっていても、現場の専門の言葉が出てくるので、人に聞くことがありますが、事務所における男の人でも、工場の専門用語などを知らない人もおります。に、事務所にいるからわからないのだと言わないで、女だからわからないというふうに言うのです。女だからつまらないという気持ちをまだにもっているのです。男の人たちが女の努力というものを認めて理解してくるようにならなくてはいいなと思います。私はそういうふうな努力して、経済的にも少しは伸びる可能性はできたのですが、私より一年くらいあとから入って来た人は

日雇いの形になっています。私は月給ですけれども、その人たちは日給です。そうして組合員でもないのです。ほんとうに会社の中の婦人部が立ち上って、臨時と社員の間でおもしろくないというふうな空気が、女特有の反目をなくして、チームワークをとって進んでいくように、大きい立場から見なければならぬと思うのです。結論としましては、まず自分自身は何か一つ技術を身につける、特技を身につけるということ、それをほかの人に認めさせるように努力すること、ほかの女の人と手をとって進んでいく努力をしなければいけないということです。

#### (休憩)

進行係 ではこれから会議を続けますが、渡辺先生に皆さん方の御発言をまとめていただいて、なおお気づきになったことをおっしゃっていただきたいと思ひます。

渡辺 皆さんのおっしゃったことを大きく四つにわけてみました。職場の習慣、そうしたものを破ることのために、どうしたらそれを破っていくことができるだろうかということが一つの問題。それからその中の一つに入ると思ひますが、職場の中で女の地位が低いということとそれに対してどうしたらいいかという第二の問題。第三には家庭と職場との両立をどうしたらいいかという問題。第四には、皆さんがほとんど例外なしにおっしゃった、一人じゃ

できない、能力をどういうふうにしていったらよいかという問題。具体的には組合というふうなこと、あるいは世論を起すとか、女の人が大いに一緒になってやってくというところが出てきましたけれども、大体をういう四つのところに当てはめていったならば、皆さんから出た問題が整理されてくるのではないかと思います。このほかにもっと問題を出す必要がありますか。

大手 新しい時代に生きる新しい女性のタイプを探求するという意味で、一つの項目を設けていただきたいと思います。どのようにあるべきかということについて言ってほしいと思ひます。

渡辺 それは最後のところに入るのでしょいか。

進行係 そういう項目を加えるのですが、それぞれのところにそういうことが入ってくるのではないかという気がいたしますが、その点どうなんでしょうか。

大手 私はこれをなぜ取上げたかという、それが社会の金銭にわたって大きな障害になっていると思ひますので、それを一つのテーマとして追加していただいていいのではないかと思うのです。

進行係 職場の悪い習慣、封建性などを破るにはどうしたらいいかというときにも、そういう問題は出てきますね、男の人の偏見の問題とか。そういうことと別に、特に

項目を設けたいということなのですか。

大手 かなり社会の方にも関連があると思ひますので。志壇 私も賛成です。現代の女らしさというものがどういうものかということは、ぜひ一度考えて、今後の私たちの進めるべきとしてつくり上げなければならぬのじゃないか。これはぜひ一つの項目として取上げていただきたいと思ひます。

渡辺 内容的にはそういうものが入ってこなければならぬから、それぞれのところにみんな入ってくるでしようけれども、お話しをして、最後の結論のところ、それじゃ私たちが追求しなければならぬ新しい女のタイプというものはどんなものかということ、みんなでもとめてみたかと思ひます。それからもう一つ忘れましたが、このグループは職場ということだけに入っていく傾向があるので、これも全体の社会的な大きな動きの中の一つということとを忘れないように、最後のところで繰返して、考えることにしましょう。

進行係 では初めの職場の習慣、封建性を破るにはどうしたらいいかということについて、話を進めていきたいと思ひます。このことについて現状の問題が当然出てきますが、現状については、皆さん方がよく御存じですし、また一般にも非常に封建性が残っているということは言われて

いて、例もたくさん見聞しているわけですね。ですから時間の節約のために、現状を述べるよりも、破るにはどうしたらいいかということに重点を置いて意見を述べていただきたいと思ひます。

#### ◎職場の封建性を破るには

岡 抽象的なことになるかもしれませんが、女はどうしても男には負けるんだという考えが根深くあるからだと思います。男の人は、君たちはお茶くみをさせられるというが、僕たちも机を運んだり、椅子を運んだりしているじゃないか、だから同じだということです。またそれなら君たちハンマーあってやれとか、要な平等観をふりまわされたときに女の人は、女はだめなんだなあ、体質的にも神様が男と女をつくったのは、女は男に対して従っていくものだというふうにつくったんじゃないかという敗北的な考えをもつ。それが根深くあって、それでお茶くみということも自然に肯定しているのではないかと思うのです。職場で男の人と仕事をしているときに、女の方が能力が劣るから、それを補う一つの手段として、お茶をくんだり、お花を生けたりするのだという考え方の人があるような気がするのです。

高倉 男女平等といっても、適材適所ということもある

と思います。お茶くみがいづの場合でも問題になりませんが、私はお茶くみそのことについてあまり反感をもっていません。お茶をくまなければならぬ人がいるわけですね。私の職場では、私が一番下ですからお茶くみをしています。お茶くみ以外のつまらない雑用でも、だれかがやらなければならぬ仕事です。その仕事は大切な仕事だということ意識して、それをつまらぬと思ひこんでいる上役の方また周囲の方に、そう思わせないようにする努力が大切じゃないかと思うんです。

岡 つまらないとは思っていないんです。やろうと思っているけれども、給仕さんのようにそれ専用でなく、ほかの仕事を持っています。仕事をかかえていても、女の仕事だというふうな考え方ですね。そういうことがあるんですけれども。

田村 私の勤めていた頃は、室に部長以下四人いました。女一人、あと三人男の方だったのですが、お客さんが見えてるとき、私が着きものなんかしてますと、部長やもう一人の若い男の人がお茶をくんでできていました。私が何もしてないときは私がくんでました、こういう状態が理想じゃないかと思ひます。女の能力が高まって、責任ある仕事をみんな分担していたら、男だって女だって、これだつてひまな人がくんでくるんじゃないかと思ひます。

はどうしなければならぬかということを考える場合に、男の人は、家においてお茶を女の人がかくむということが当然だというふうな教育されて、心底からそういうふうな思っているわけですね。ですから女の人がいたずらに反対してもわからない。女の人身も、家に帰ればお茶をくむという雰囲気にあるので、お茶くみ反対と言っても、まだ気持ちのほんとうの底には、やっぱりお茶をくんだ方がいいんじゃないかという気持ちが女の人身にもひそんでいっているわけですね。そのひそんでいる気持ちを打破していかない限り、封建性という問題は打ち破れないと思ひます。これはお茶くみが一番身近な例ですので、お茶くみ、お茶くみと問題になるのですが、すべての問題とつながる封建性の問題です。そうした意識の中にひそんでいる封建性を打破するには、私はお茶くみを反対しないで、一緒にやっついこうと思ひています。そういう行動と一緒にとりながら、その中からどうしてお茶くみがいけぬのか、合理的でないのかというところを、話合っていきたいと、私は思っているのです。

河越 私も今の御意見と同じような考えをもっているのですが、今までのことはすべてあまりに男の人に都合のいいようにできていることばかりだったものだから、家庭でお茶を出してもらっていることを職場にまでもってきて、

渡辺 お茶くみだけの話になっては困るんです。私たちの働いている職場の中で、これは不合理だと思ふようなことがたくさんある。さっきも少しおっしゃったけれども、たとえば賃金の差別のこと、身分の違い、それから女の人が努力しても認められないとか、そういういろんなことがあるでしょう、そういうのをどうしたらよくしていくか、ということにもなっています。

志垣 お茶くみの問題は女自体が実力を身につけて、女も男と同じようにやれるということを認識してもらえば解決してくる問題じゃないかと思ひます。それとともに男の人の封建性をどういうふうにして打破するかということが、今後の私たちのやるべきことで、その方法としては、組合にある程度女の人が食い込んでイニシアをとるということが必要だと思ひます。

渡部 組合の力で権力を主張するだけではだめだと思ひます。個人が自覚しないことには封建性はどうしても破れない問題でも解決していかないと思ひます。

長岡 各人に自覚してもらおうという点で、今までのずいぶん自覚するようになっている角度から運動が進められてきたと思ひますが、依然としてお茶くみの問題が取り上げられているという現状です。それはどうしてか、自覚を高めるに

職場でも女の人をやってもらおうとなさる、男も女も同じ仕事を担当しながら、それ以外にその仕事を課せられるということが不満です。だからどうしても男の方に封建的な頭を打ちほらつてもらうためには、やはりこういう会合に出てもらうとか、あるいは私たち働く婦人と、男子の方とが、話し合ふ機会をもつて、封建的な頭をとってもらわなければ、ここでもう言っているも解決がむずかしいのではないかと思ひます。

阿部 私がこの婦人会議に出席するに際して、工場側は絶対に反対でした。まず帰っていったら、完全にクビになるだろうと思ひ自信は十分なのですが、しかし、そんなことにとらわれておたら、せっかく今度こちらへ招いていただいたことも何にもならなかったと思ひるので、あとのことはあととして、自分の意見を堂々といて職場へ帰って皆さんにいろいろとお話したいと思ひ出てきている次第です。私の一例を申し上げますと、二年ほど前から職場で研究会と称して全部仕事を別ですが、私のところは特別の場所です。それから、いろいろの研究材料があります。そのときにも事務所の方に、だれが一番先に立ってやり出すのか、だれがそんならぬことをする、というふうな、私が非難にさらされて、組合長からも、いらぬことをせぬ方がいいとい

う声も声かされました。しかしそんなことにとらわれていたら、結局能率の向上とか、いろいろのことは全然打切られてしまうので、今日は残業のつもりで研究協議会をやるうじゃないかというふうにもちかけて、始めてから二年ほどになりますが、最近では特殊の職場として、ある程度認められるようになりました。その点は十分成績がよかったのですが、今度この会議に出席するということをラジオで報告されたら、急に風向きが変わってしまうので、何かストでも起すのじゃないかという誤解がありますので、実はこういう論文によって今度出席させていただくようになったのですが、目を通していただき御協力と御理解をお願いたいと申しましたところ、自分勝手に論文出して勝手に行くんだから仕方ないが、私の方は休まれるのだから一番迷惑します。まあいいから行ってきたらいいでしょう。そういう結び方なのです。そんな空気でも出席するのは面白くないと思つて、婦人少年部長にお願いし、こちらへ出席したので自分という難問題は方々にあると思ひますが、ある程度自分というものを犠牲にして、そのつもりでぶつかつていかなければだめだと思ひます。自分がかわいひ、自分がクビになりはしないかしら、事務所のいい子になろうというふうにやっていけば、損害は受けないと思ひますが、幾分でも明るい、いい職場にしようと思つたら、だれかが犠牲

いますが、やはり個人が強くなければならないということを書いたと思ひます。最近私どもの職場では、地方自治体の財政的な施策のしわ寄せが必然的に女子職員の上に来たのです。それは母子相談員として八年ほど務めていた二人の女性に財政的なわくがないからというところで首切りが宣告されて、二人とも組合に問題を出したので。組合としては一所懸命にそれに取組んで闘争し、交渉にも何度も参つたのですが、当の本人たちが、皆さんに迷惑がかかるのだというふうな経理の方たちにおどしをかけられて、自分さえがまんして職場を退いたらという安易な考えから、組合には上で闘争させながら自分から脱落していくという事態が出てきたのです。自分たちの当然の権利を守るには、一人々々が強くなって、最後までやらなければならぬのだということを私ども考えさせられているのですが、それには今までの女らしさを打破して、新しい形の女として自分というものを確立して、当然の自分の権利を主張すべきではないかと思ひます。

長岡 今までに自分の意識を高めるとか、個人の確立ということが言われてきていますが、私は自信をもって、個人を確立したし、自分の意識を深めたということは言えます。私個人はそういうふうになんばってきて、さっき阿部さんもおっしゃったように、自分が一人犠牲になつても構

になつてみんなを率いていかなければならないと思ひます。

進行係 今の御意見は、自分がある程度犠牲にしても、またある場合にはクビも覚悟して、主張すべきことはして、実践すべきことは勇気をもって実践すべきことだつたと思ひますが、ほかに御意見ありませんか……。

志垣 先ほど組合について、反論がありましたのでもう一度申上げたいと思ひます。職場の女性が、自覚して団結しなければならぬということをおっしゃったのですが、自覚して団結するようになれば、当然組合の役員に女性を出さなければならぬということに帰着するのではないかとと思ひます。男の人にいかんと言つても、私たち女性のほうとの悩みというのは、女性同士でなければわからない、そういう場合に私たちの代表を組合に出して、資金の問題とか、女性であるがために圧迫されるというような問題を組合を通じて主張する、そうしてそのあとに続くものを図り取る——結局は私たちの力によってそれを認めさせねばならないということに帰着するのではないかと思ひます。お互いの職場において皆さんが団結を必要とすることをお考えになれば、職場における組合というものは、取上げなければならぬ重要な問題だと思ひます。

大平 私は、組合を通してするということは必要だと思

わない、クビになつても構はないと思つてやってきたのですけれども、それで職場はちつとも明るくならないし、女の人の地位は高まらないし、封建性の意識はなくなりないわけです。阿部さんみたいな、クビになつてもいいというふうな考えを私も持っているのですが、しかしクビになつてしまつたら何も無いわけ、絶対クビになつてはいけなしいと思ひます。それが一番大事なんです。私自身は個人の意識を高めたけれども、ほかの女の人は個人の意識を高めようと思ふことすらしない人がずいぶん多いわけで、そこに個人の意識を高めた人が果す役割というものが大きく浮び上ってくるのではないかというふうに思ひます。

岡 私は長岡さんの意見と全く同じです。私は組合運動をやつたのですが、お友だちと組合の話をすると、私はあなたのように頭がよくないからとか、組合というものがよくわからないとかいうのです。岡さんはあんなことがとても好きなのねとか、出しゃばりだとか、そういうふうな目で見られると、私は犠牲になつてもいいと思ひますけれども、しかしやっぱりよく思われたという気持ちもありますから、自然に足を引く張られる形になります。私を含めて、それぞれの個人がほんとうに目覚めない限りは、いくら組合に先頭に立つ女の人がいるとしても、その人自身も

孤立して、結局組合運動というものは左翼的な、急進的なものだというふうな観念をますます深めるような結果になるだけではないかと思うのです。だからもうちょっとレベルをおろしてもいいから、角ばらない話の中で、個人がそれを自覚していけば、それからだんだん組合意が高まっていくのではないかと思うのです。

進行係 長岡さんのおっしゃった「意識の高まった人の役割」ということについて、もっと具体的に積極的な意見をおっしゃっていただきたいのです。

渡部 労働組合の幹部に女の人をどんどん送って、組合の運営面にも女の立場、女の人の考えというものを反映していったらどうでしょうか。

高倉 私の経験からですが、それだけではいけないと思うのです。たしかに私たちのところは婦人部が非常に強いのです。組合幹部に婦人部の委員をどんどん送って、今度の改選では婦人部の委員が上を全部占めたのです。外見はそんなに盛んでも、実際の職場の条件には非常に差がある、そのことを考えてみたのです。組合の組織を作る、それから個人々々を高める、二つの問題が出ていますが、どちらも別々に切り離して考えられないと思うのです。双方ともやっていかなければ効果が上らない一つの具体的な例として、最近私たちのところで起ったことがあるのです。

私は保育園の経営方法というものについていろいろな問題を相対取上げて経営者側と交渉を始めたのです。初めるときはみんなそれにある程度共鳴してくれましたし、こういうことじゃいけないから、もう少し子供の立場から考えよう。また低賃金や、時間の問題についても交渉しよう、というようなことを言っていたのですが、さて、実行する場合、決議文を持って、猫の首に鈴をつけに行く役目をだれがやりますかという事になってくると、一人減り、二人減り、みんな尻込みする、そこに女の人のほんとうの問題点があるのじゃないか。そこで結束しようといっているが、理事者側から泣きおとし戦術にかけられたり、君がそんなことをやってくれたら、あとにどんな悪影響を及ぼすかわからない、お給料を上げてやるから、どうか頼むというふうに言われると、つい変心してしまつて、一人二人なし崩しに切られていく、そこに女の人の欠点があり、もう少し勉強というか社会性が必要ではないかと思うのです。

阿部 私のような職場では教養のレベルが非常に低いのです。高等学校を卒業しているのは、一人もないのです。いろいろの話をしても教養の面では解釈が狭いのです。皆さん個人を確立して教養を高めようということをいっても、どういう意味だろうかと判断に迷うようなことがあると思

高倉を同期に卒業して同時に入った男女の間で、四年目の現在、差がついているのです。給料は表面は同じですが、費与なんかずっと男の人たちが多いのです。なぜこういうことになったかという事で、いろいろお話し合いもしたのですが、そのときに、結局個人を高めなければいけないということになって、その方法としてどうしたらいいか組合を通じてやってもらおうということでお話し合ったのです。その男の人たち——高校出の人たちですが、非常に勉強しているのです。ほかの大学に行っている人たちよりもっとも勉強しているのです。これでは女の人たちが置いていかれるのもむりはないということを考えて、銀行の中の大学を出て専門に勉強していらした方たちに講師になってもらって、基礎的な勉強から始めようということになりました。これは個人を高めるために組織を利用することということではないかと思ひます。婦人部の幹部を送ることも大切ですが、幹部の人たちのやるべきことが足に地についていなければ何にもならないのではないかと思うのです。

秋山 いま皆さんは、男の人の中に入って女の職場というものを見てこられました。私なんか女ばかりの職場で女の人の封建性というものをある程度感じているのです。女の人同士の間で、女の人がいかにいう態度をとっているかということをお話し合いをしなければいけないと思ひます。

います。それで職場を明るく、教養を高めていくということについては一人が犠牲になって、柱になって皆さんを指導していくのが私は一番大事なことではないかと思うのです。私も今職場委員をやっておりますが、役員会なんかに行きましても、教養という事についておしゃべりするのには私だけです。するとそういうことを言ってくれたのでよかったという半面、女のくせにそんなことばかり言っているという非難の声も多いのです。そんなことを気にしてはいけませんの向上とか、教養を高めるということにはならない。とにかく一人の人が職場の柱となって、そうして皆さんを導いていくということが一番の重大な問題じゃないかと思ひます。

大手 一つの職場の柱になるということをおっしゃいましたが、それよりもっと大切なことは、たくさんのお金の手を作るということではないかと思ひます。一人の人が倒れた場合に、あとの人が続けないということであつてはならない、たくさんの方が文化的なサークル活動を通して働くことによつて、それぞれの人がチームワークをとって明るい関係を作り出していくのが正常なあり方ではないかと考えます。私たちは今そのような方向でやっております。進行係 今職場の習慣を破るには、どうしたらいいかという点についてお話し合いをしたわけですが、いろいろな



◎婢人の地位を高めるには

志垣　職場で自分の一生の仕事をして、職業人として伸びていこうという人は非常な意欲をもっていて、勉強もしますし、新しい女らしさというものを身につけて結構やっています。新しい女らしさというものを身につけて結構やっています。新しい女らしさというものを身につけて結構やっています。

お嬢さんたちのあり方ですね。そういうのが職業人として伸びていくためにマイナスになるわけですが、そういう女の人の意識が向上していくために何かの機会をもつということが必要ではないかと思ひます。これはある程度職場に進出した人たちが当然やるべき仕事ではないかと思ひます。具体的な例として熊本で職場の婦人の懇談会というものがあります。呼びかけは労働事務所です。具体的計画とか――委員なんかは職場の婦人部長などがなっております。隔月にいろいろの会合をもって、有

ちの間の開きが多いのではないかと思うのです。ですから組合の幹部とそういう人たちが遊離してしまつては、何にもならないのではないかと思うのです。あの人は腰掛けだとか、お小ずかいかせぎだ——ときめつけてしまふのではなくて、腰掛は腰掛、小ずかいかせぎは小ずかいかせぎとして共通の問題があると思うのです。腰掛であつたとしても腰掛はやるなとか、お小ずかいかせぎはやるなとかいえないことなのですから、その中でより高くしていくにはどうするかということを考えなければならぬと思います。

志垣 今おっしゃつた通りです。決してリーダーとリードされる人の間に差をつけるといふ意味の会ではないのです。

高倉 それはそう思うのですが、私たち反省しなければならぬと思うのは往々にしてそういうことがあるんじゃないか。私どもの経験でも失敗があった、そういう意味からなお一層注意してやっていたきたいということです。志垣 私自身も失敗しまして、そうして今、大いにおとなしくなっているわけなんです、しかし熊本でやっているリーダーの方たちはその点に一番ポイントをおいて、遊離しないように、皆さんと一緒に進もうということでやっておられるように見ております。

私は会合をもって話し合うとか理解するということば

渡部　ところがそういうところに私たち出て行く

護部」ところがそういうところに私たち出て行くまでが大へんなのです。私たちの工場に勤めている方が、特殊だからかも知れませんが、労働組合の文化活動をやりやすから集ってくださいといっても、気になるんですね。子供たちの御飯のことやら、家の仕事を、あれをしなきゃならないとか、家事労働の負担が多過ぎるということが少しくル活動の妨げになっているのではないかと思います。

それは三のことですね。

高倉 今の志垣さんのお話ですけれども、非常にいいことだと思っています。でも私たちが具体的にやるについて注意しなければいけないと思うのは、組合の幹部というより一般的な指導者の人々には優秀な方たあが多いと思うのですが、そういう方たちと、いわゆるレベルの低い——というのですか、懸隔のお小ずかいかせぎのお嬢さん、そういう方た

大へんいいと思います。しかしもう一つ、もっと具体的に突際問題でのお互いのみがき合ひというものが必要じゃないかとも思います。いくら会合でみんながこうしよう、あししようといつても、抽象的な問題だったら、現場に帰ってきて仕事するときに、やはりそろばんの入れ方が男より遅れていたり、真鍮幣一枚替くのもめづきなおされて真赤にするから女じゃだめだ、男に嘴かせろということになると思います。それから電氣が切れて入れようというときでも、男の人にやってもらう、するといひ氣になつて、女はつまらんな——ということになると思います。だから意識的な問題の討議も必要ですけれども、もう少し突際的な問題のこともお互いに理解し合つて、それから自分の技術を人に教えてあげるということも必要じゃないかと思ひます。

渡辺 志重さんのおっしゃったことから大へん話が進みますが、この話の元は女の地位の低いのをどうしたらいいかということで、それは露談会一つではないと思います  
が……。

大手 組合活動を通して、婦人の集まりをもち、婦人だけが一所懸命でもなかなか婦人の地位が高まらないと思いますので、やはり男性の方々に理解してもらい、協力してもらおうというのが大事な条件ではないかと思ひます。女

房はだまっていたりとか、家に引込んでいたりとか、このごろよくいわれるのですが、最前田村さんもおっしゃったように、職場の中にまでそういう感情を持越している。その言葉の前提が男性と女性が同じ仕事をしたら低く見られるということにあるのではないかと思います。これをなおすには、女性をよく理解してもらうために男の方と一緒に話合うということが必要です。けれどもそれは職場だけの理解ではなかなか実現できるわけはないと思いますので、いま一つ施策や、企図の上で婦人にポストを与えてもらうということがまず大事ではないかと思えます。男の人も女の人も、その能力というものはそんなに大して差があるものではないと思いますが、女が低いものと規定づけられて、鉄則のようになっている、こういうことは拭きしてしまわなければならないと思います。そのために男性と女性との話合と、婦人を起用していただくような政策が機構の上にとられなければならないということを主張したいと思えます。

渡辺 実際には女の目の開いていった経験をとおっしゃったら、あなたのおっしゃった意味がどういうことか、もっとよくおわかりになると思います。どういう苦勞をして女の人が新しい目が開けていったかということですね。

大手 私は理想に燃えて、社会事業の学校を卒業、五年

に高められていかなければならない男性です。

石川 女子職員が地位を高めていくのに、ポストを与えてもらうのを待っているではないかと思えます。女子職員自身が昇格試験なんかでどんどん受けて自分の地位を高めていく、自覚という面がまだまだ足りないかと思えます。私たちのところでも昇格試験を受けようとするかどうか、どうしても抵抗があり、さっきも言いましたように、試験を受けて合格しても昇格させないというふうなことをいうのです。私の例をいいますと、それをつき破って、試験を受けて合格しても、男の人で合格した人は全部昇格したが、女子であるがために残されたのです。そういうふうなまままだ職場の封建性というものは男子職員の中に残っています。それで職員組合の方で取上げたのですが、私たちのところでは課長も部長も同じ組合員なので、運動としても大きく取上げてもらえなかったのです。

田村 女にポストを与えようということとは、もちろん声を大にして叫ばなければいけない問題ではありますが、現在重要なポストにすでについている女の人たちがどういう働き方をしているかということが今後問題になるのではないかと思います。これは島根県庁の生活改良課の話なんです、そこで女の人たちが割に重要な地位について専門的な仕事をまかされています。しかし何か企画しても、

ほど前に、役所に入り、当時は男性の仕事になっていた警察係という仕事についていたのです。そういう仕事は婦人は少く、校長先生だった方とか、そのほか、もう頭のはげたような方が幾人かいらっしやいましたが、なんだ、女と同じ仕事をしたら自分たちの格が下げてみられる、そういうものと一緒に仕事をやるべきでないということで、私を職場に入れることを拒んだわけです。その後のいろいろ家庭の方の調査や聞き込みの調査などの結果、仕事につくことができたのですが、お茶汲の問題、仕事上での能力の問題、など事々に監視しているような言葉で非難し、批判する。そうして仕事と同じようにできたとしても、それは価値のないものとして人に告げられるというように、いろんな意地悪をされたのです。それをどうしてもやり通さなければならぬと思つて、幾年か苦勞しましたが、たまたま任官の問題が出たとき女子職員だからだめだということになりました。そのような不当な労働条件なり、専任というものに対して黙認していいかどうかということ考えたときに、これはやはり個人の問題として解決することはいけなしいと思ひ、そこで初めて婦人部というものを組織することが必要だということで、結成されました。私は婦人部長になって、二年間そういう仕事を続けたのですが、いろんな面で女が伸びようとする、それを阻むのは、理解して一緒

自分たちでどんどんやってみればよいことでも、なんとなく男の人に、一々聞いてやるのだそうです。つまり自信がないんです。ですからポストを与えようということは大切ですけれども、ポストを与えられてからの働きぶりによって、そのあと続けて与えてもらえるかどうか、どうしてポストを与えてもらえないのかということがそこできまるのではないかと思うんです。

志恒 結局寮庭での男性のあり方というものが職場に大きく響いてくるわけです。これは私たちがいかに職場で実力を身につけて、権利を主張しても、やっぱり男の人の、女は従属すべきものだという今までの考え方がなくならない限りはだめなのではないかと思うのです。寮庭での男の人の考えをいかにしてかえるかということになると、寮庭での女のあり方というものになり、ただ職場の部門だけで論ぜられても——これは別の部会でも大いに論じていられるのではないかと思います、もう少し女が、たとえひまがなくても勉強して、そうして男の方とある程度その目の新聞のことなんかにしても対等にものが言える、そういうことで男の人が、根本的に、女はやはりだめだと思つてうなづかぬようにしてもらおう。私たち自身が家庭でそうあらねばならないわけですが、それによって男の方の封建性をなくし、職場の私たちの地位を確保しなければなら

ないと思います。

深谷 石川さんにお聞きしたいのですが、職員組合に部長さんとか課長さんが入っているとおっしゃいましたが、組合の幹部、役員じゃないわけですか。

石川 執行委員に課長さんが出ています。

深谷 その役員を選び方は選挙ですか。

石川 選挙になっております。

深谷 もし選挙でしたらそこに問題があると思います。労働組合というものは、やはり施政者とか理事者とか、資本家側に対抗して、対等に話をして、働くものの権利を守るものですから、少くとも選挙で選ぶのでしたら、そういう人に投票しなければよいのです。その点石川さんの組合でもう少し考えていけば、試験に合格しても昇格できなかったという問題も、もっと活発に動けたのではないかと思われま。

進行係 民間の組合では課長まで組合員であるという職場はあるようですが、その場合にやはり人事を担当している課長は組合員として認めないというふうになっているようです。

石川 私たちの方で役員には人事課長は入っていないと思うのです。

進行係 その問題は石川さんの方でも皆さんと考えてい

#### ④家庭と職場の両立について

渡部 先ほどちょっと申し上げましたが、いままでも仕事を続けていくためには家庭内の仕事の整理ということ、家事労働を合理化するということが、まず一番に必要なことで、これは家の人の協力さえあればやっていけることなのです。ただ私の町では、地域社会の活動がただおざなりで、大衆と結び合うということが少いわけです。子供を預けて組合の会議に出たいと思っても、おとなりの奥さんに気やすくそれがいえるというふうじゃないわけです。そのところの問題があると思うのです。とりわけて育児がお上手な奥さんもあるし、子供の好きな奥さんもあるから、働いている婦人の赤ちゃんと、託児所へ行くまでの乳幼児を預かってやろうとおっしゃる方があれば、とっても好都合で、男の方に負けない仕事をやっていけるんですが、そういう状態になっております。それをどうしたら解決できるかということをお話ししたいと思います。

田村 私は子供が二人おり、上の子供が生まれたときに、共働きをやっておりましたから、女中を雇っていました。全部で十人かかりました。それで知っている家に預けたんです。朝出かけるときにおむつや着がえなどを持って連れて行き、帰りにつれて帰ったのです。嵐の日や雨

ただ問題だと思えます。次に進みたいと思いますが、女の地位を高めるにはどうしたらいいかということいろいろ出ましたが、皆さんのおっしゃったことはまず第一に自分の仕事に真剣に取り組むということ、それから意識面の向上をはかるとともに技術面をみがき、自分自身を高めることも必要だということ、男の人の理解を得るために男子と話し合うことが必要だということ、それから重要なポストにどんな女の人をもつてもらうように、ポストを与えてもらうことが必要だ。それと同時に重要な役についている女の人のあり方が問題だということも出ていたと思います。そういうことを解決するためにも組合の力が必要で、團結の力で解決しなければならぬということ、また家庭での男の人のあり方が職場に響いてくるのだから、家庭での女のあり方が問題になってくる。家族関係の民主化ということも問題になってきて、職場の中だけでなく、家庭でも努力しなければならぬということなどが問題として出てきたと思います。今度は家庭と職場の両立ということですが、女の人の場合は家庭の問題がいろいろ影響があるわけで、これには渡部さん、大いに問題を持っていらっしゃるから、そのことを話していただきたいと思えます。

の日なんかには子供もかわいそうですし、朝晩が大へんですけれども、割合に気持の上ではうまくいきました。

河越 さっきからお話が出ましたように、どうしても働く婦人は育児や食事のことにとらわれるので、それを解決するためには育児施設などが必要だと思えますが、現在の状態ではまずできない。しかも私の方では、短い時間しか預かっていただけません。どうしても夜も預かっていただく、また職場によっては日曜日もないところもありますから、日曜日も預かっていただくようにしたい。中園などのお話を聞きますと、乳幼児を何カ月とか何年間とか預かっていただけ。一カ月に一回なり、一週間に一回なり、手元に来て、そうしてまた預かるような施設があるようですが、そういうふうにしていただくことができないと思うのです。職場で真剣になって働くことができないと思うのです。

深谷 私は未婚者の立場から申し上げたいんですが、全国の間違った結婚の中には既婚者が多いのです。労働基準法には矛盾があると思います。産前産後は六週間休んでいいといながら、私たちの国立病院はかわりの人が来るわけがなく、みんなの負担で、その人の働く分を分担してやっている。病院の方でも、婦人部の方へ、これ以上結婚した人を採用したら、お子さんが生まれればその度に休まれるし、

立ち上れるようになってからもいろいろ問題が起きて、結局あんたの方の負担になるんだ、というようなことをいつてきたので、特に未婚者の多い私たちの婦人部では、一応結婚するのは仕方がないとして、既婚している者を採用するのはしばらくやめてもらおうということを考えての事です。けれどもこれでは女性が女性の職場を狭めているということになると思います。結局託児施設とか、藍休補助員のようなのをみんなが力を合わせてかちとる以外には、女性の職場を広げていくことはできないのではないかと考えてはじめております。

進行係 学校のためには、藍休補助員という例があります、前に先生をしていらした河越さん、そのことについておっしゃることありませんか。

河越 このごろは学級担任のない教員が十人に一人というふうな割合に入っているのです、そういう方に見ていただけるようになっております。私たちはやはり女同士がお互いに手をつなぎあって、あなたが早く出ればあとの人が困るのでゆっくり休みなさいということ、チームワークがとれていると思うのです。私たちはお互いのあともゆっくり休まれるようになっております。

志垣 職場と家庭の両立ということは、家庭を持てている者はみんな悩んでいることなのです。現在の経済状態では、

けれどもまだまだ働かなければならないのです。来るときに、どうしてもこの問題を中央にもって行って、たくさん作ってもらうように話してきてくださいと頼まれてきたのですが、何よりも先にそういった施設を作ってもらいたいと思います。それについてやはりさっきから皆さんの意見が出ましたように、苦しんでいる女性が手を取り合って解決していくのが何よりもいい方法ではないかと思ひます。

秋山 今の河越さんの御意見とほぼ同じなのですが、今の保育園というのは、子供を預かっている時間は、わずか八時間ぐらいのところがおそらく多いのです。また幼稚園式の形をたどっているのが多いのではないかと思ひます。しかしほとんどに困るお母さん方は八時間じゃない、十二時間、十三時間、十四時間という長い時間だと思ひます。あと残った時間の埋め合せをどこでやるか、もちろんわれわれが十五時間、十六時間の保育を受けもつということは、理想ですけれども、労働条件という面からそれまでできませんし、保母の二部制ということでもあればよいと思うのですが、国家からくるお金ではそれだけの割振りが無いのです。国家でそれだけの大きな保障をして、どんどんお金を出して、われわれの子供を大きな施設に預けて、一人身のと同じように婦人が働いていたらどんなにいいか、働く女性が働く場で自分の家庭を心配するこ

は、働かねば食えないから働いているのであって、子供ができたから職場をやめなければしょうがないという甘いことでは、現実には許せないということを、政府の上の人たちもはっきり認めて、このために職場に立って働いている婦人のために、いろいろの施設をしてやるといふ親切心が必要ではないかと思ひます。それからこれは政治面と絶対に切りはなせない問題であって、ただグループの中の問題としてでなく、大きな問題として取上げるためには、今後の選挙に対する一票というものを重大なものとして自覚しなければならぬと思ひます。

河越 私のところは機業地なので工場に勤めている女工さんの話を聞くと、気の毒な人もあります。乳飲児を工場につれて行って、コンクリートのたたきの上に、リンゴ箱を拾ってそれに入れておけばいい方で、新聞紙とナイロンのふろしきをして、そこに寝かしておくそうです。託児所にあずかってもええいいではないかといひますと、託児所は時間がきまっているものですから、仕事が終わったに行つたのでは間に合わない。どうしても三時ごろつれにいかねばならないので、そういうことができないそうです。旦那さんがあつてやめてもいい人はいないが、未亡人で子供をかかえて、働かなければならない人がたくさんあると思うのです。私も現在の状態では、子供もいます

となくやれたらどんなにいいか。同時に私どもの隣近所には遊んでいるお母さん方もずいぶんおありになると思うのですが、そういうお母さん方がもう少し働く女性の味方になって、いろいろ家の関係もあるでしょうが、お子さんを輪番制でもよいから、お預りして、自分の子供同様にみて上げるような機構ができて、全女性が職場と家庭で手を結んでやたらどんなにいいかと思ひます。

志垣 それから今一つ、先ほど各家庭での男性の啓蒙という言葉がありました、これもいいえと思ひます。共かせぎしている以上は、女の人外に出て男と同じに仕事をし、労力を費しているのに、女だけがしなければならぬというふうな行き方で、家事のことなり、そのほかのいろいろの雑務を女にばかり押しつけてしまい、自分はただあぐらをかいているというふうな男性もまだまだ多いのです。共かせぎである以上は、男性の人たちが、封建的な考えを捨てて、ある程度女の人荷が軽くなるような協力的な態度が必要です。そういう意味で家庭での男性の封建的な考え方を変えてもらわなければならぬと思ひます。

大手 今のお言葉はもっともだと思ひます。その点私どもの家庭は、自慢いたしますけれども、非常によく理解し協力してもらっているの助かっています。私は家庭を持ってからも学校へ行っておりましてから、その点はすいぶ

ん解放されているわけですが、男性の理解と啓蒙も確かに必要ですが、私たちの家で負担になっていたのは食生活でした。働く以上はこの食生活を改善し、もっと合理的に運営していかなければ仕事だけに時間がかかって、それだけ働く時間がなくなるし、また女性としての向上する時間も少くなると思っています。また食生活の改善と同時に使う用器の合理化というものが必要ではないかと思っています。

阿部 私の家では少しばかり百姓をしています。主人は十年ほど前に本から落ちて、第二腰椎の骨折でギブスに入っており、そのために生活状態が変ってしまい、私が職場へ出たのです。私の地方では職場へ出ている人も職場から帰って百姓をする、公休日には百姓を専門にするけれども、私のところはそういう点では理解してもらっているのです。職場と百姓と両方するということはとても不可能です。職場は職場、百姓は百姓で、家庭の主婦としての勤めさでなければいけません。これは要求しないのです。また食生活の面でも、日本人は米を食べなければ満足しないとか、仕事ができないということに常に関心されておられますけれども、私のところは十七、八年パン食をやっています。お米だと日に三升ずついるんです。三升にすると、私と娘が働いていますが、これで八人の家計をまかなっています。からおかずは手がまわらない。パンですと一日で一貫匁の

粉があれば十分です。ですから経済の面からいっても、相場のせいにくるやうな食事をしている計算です。私のところでは今このような食事をしていますが、何年でも平気で御飯を食べずにいけるということは、自分として自慢にしているようなわけですが。

連田 経済的な理由でどうしても女の人が家庭を持って、外に出なければならぬということを前提として話して合せて考えてきたのですけれども、もしも選択できるものだったらどうなんでしょう。無理をして両立させる方向に向ける方が望ましい形か、または小さい子供の一定の期間は家庭に入っている方が望ましいのでしょうか、どうなんでしょう。

志垣 それは現実を無視した言い方ではないかと思っています。今二人働かなければならぬし、暮らしていけない段階ではないかということを考えたら……。

渡部 夫のだけで食べていけないことはないので、私はタイピストですので、子供を保育所に預けるまで一年半ぐらいの休暇をとるとすると、その間にスピードがおちてしまうのです。私工場でなくてはならぬ人間だと思っています。から両立させたいのです。

岡 私もそういった問題に今直面すると思うのですが、私としては家庭生活と職場と両立させたいと思

ます。なぜかという、食べる、食えないの問題よりも、私という人間がなくなるといことがいやだからです。それは男の人に経済的に克服されるということです。私の家庭の例を言いますと、父が官吏で地位がだんだん上ってくと、母も社会的なものがいると上っていったのです。終戦後父が一介の浪人になったとき母もそうだった。もちろん小さな今までの経験で、母は母なりに少しは向上してまうけれども、今までの母の社会的なものというのは父の地位のおかげだったということがわかったのです。だから私はやはり家庭生活と、それから自分の生活ですか、そういったものを両つづける経済的なものを持つために、

両方成立させていきたいと思っています。高倉 今ちょっと気がついたけれども、子供が少し大きくなるまでしばらく家庭に引込むことをおっしゃったが、そうすると現状では、二度と再び就職できないのではないかと思ひます。食べるために必要がなくても勤めるといふことですね、やはりできる限り婦人も一時的とか、食うため以外に、もっと大きな目的をもって職場に進んでくれないかしらと思ひます。

大手 私よりよい社会をつくるためにも、女性は職場の一員として重要なポストを持つべきだと思います。一時でもポストを去ってしまった場合に、また次に職場に入る

うとしても、今の世の中ではなかなか入れないし、こうした現状の下では退くべきではない。それにはやはり退かなくても続けていけるような構成、それを私は私どもの協働と理解によってつくり出していく。そうして職場と両立させて、前進させていくことが正しいやり方ではないかと思っています。

深谷 現在ということに重きを置かないで、未来について考えていけば、私はやはり家庭というものを守ることを考えたい。家庭を守っているから、外で働いている者より大したことはないという考え方でなく、家庭にいる人も働いている人も同じなんだという考え方を、全部が持っているようになったら、もし経済的に特別に困らなかつたら、うちに入っていることも、家庭生活をよりよいものにするためにはいいのではないかと思うのです。現在は、外へ行くとお金をとってくるからよい、という考え方が強いのですが、職場だけが社会ではない、家庭というものが非常に大きな社会ですから、そういうふうな考え方で、家庭婦人があまり低く見られないような世の中になったら、無理に働かなくてもいいと思ひます。

大手 経済面と使命感と、働く婦人には両方の面があると思うのです。深谷 仕事に対する使命感ということで私も考えたので

すが、家庭にいる者が社会的な視野が狭くなってくるというけれども、生まれた世の中になって、主人が俸給をたくさんとってきたら、子供があれば私は家庭にあってうんと勉強して、職業についていると変りないくらい、自分の社会人としての教養を十分に身につけて、家庭から社会に対して発言していこうと思うのです。

田村 私是一年半前から仕事をやめて家庭におります、ですから私はどちらかといえば岡さんの意見には反対で、深谷さんの意見に賛成です。岡さんのおっしゃるようでは、すべての婦人が職業につき、普通の家庭婦人というのはあり得べからざるものというふうになる。私は勤めていた頃はあんまり本も読めなく、ぎりぎり舞いして生活していました、やめてからは却って猛烈に本が読めますし、書きものもできます。もちろん仕事にはずいぶん美点があったけれども、仕事を続けるといふことと、家庭で本が読めたり、書きものができたりすることと、どちらがどうという比率がつけられないと思うのです。家庭にいる婦人がどんな状態で家庭にいるかということが問題になるのであって、岡さんの意見のように、すべての家庭婦人が働かなくてもいいのではないかと思うのです。

長岡 私も女の人が全部勤めに出なければいけないというときには疑問をもっています。女でも、勤めに出ないで

織を作りたいということ、問題を出していらっしゃると思いますけれども、ほかの方々からも今までいろいろ出ております。

### ◎協力によって解決するには

長岡 私ほんとうに今まで自分一人がむしゃらにやってきたという感じがします。そこで今初めてがく然としているわけです。私のところは五百人の女の人がいても、組合のことには全然無関心で、組合の機関紙も読まないし、組合にも出入しない。その人たちが結婚しても勤めを続けたいというわけですし、赤ちゃんをもっても続けていきたいという考えをもっているのです。そして託児所の問題とか、そのほか労働条件について、いろいろ希望とか不満もっているけれども、それを言えない。このように意見をばらばらでいる問題は何か、これを一緒に話していかないとだめです。十何人の女の人の人たちが、女の人の集まりをもとうじゃないかということ、もとうと言っているにもかかわらず、いつも女の人の集まりをもとうと言っているにもかかわらず、今度はどうしても成功させようという意気込みで、大会実行委員会を出して、日曜日に集まりをもった。そしてなんにも理論的なことは話さず、映

もいような状態を自分の力とっている人は出る必要はないと思います。もとうちでいろいろ仕事をして、子供の教育をないがしろにしないで、だんだんと充実してやっていっていいと思うのですけれども、職場に出ないで、家庭生活を民主的にやっていくということが、職場に女の人が現在のように進出していっているからこそのことだと思います。今のように入場場に女の人が出ていかなかったら、家庭の中で女の人が民主的な発言もできませんし、生活態度もすっかりしていかないと思います。この一番もとなっていては、職場に女がたくさん進出して、民主的な権利を自分たちの手でかちとっていくということ、社会の中にいろいろな権利、人間としての働きやすい環境をつくらなければならないものを積み重ねていく、そのことが裏づけになって、初めて家庭の生活もよくできる。そういってこどもを考えておかなければいけないのではないのでしょうか。

進行係 この問題についていろんな御意見が出ていますけれども、時間がありますので、そろそろ次の問題に移っていききたいと思えます。もちろんほかの問題でも関連して出てきた場合には言及していただきたいと思います。次は組織の問題、一人の力では解決できない、協力によって私どもがしなければならぬこと、そういうことに入っていきたいと思えます。宮城の小野さんなども、全国的な組

画のおしゃべりをしたり、歌を歌ったり、ホーダ・ダンスをやって、朝の十時から夜の六時まで遊んだのです。そこでやはり自分たちは固結して、結び合っていかなければいけないということが、組合のことに無関心な人の目から出た。そのお蔭で私がこに出席することについてもその人たちがとても協力して送ってくれました。このようなことが、協力体制組織とながら一番の基礎になるのではないかと思います。

進行係 小野さん、組織のことを、所感文にも書いていらしたし、特殊な職場ということでも少しおっしゃっていたと思いますが……。

小野 私の職場は皆さんと大分違っていますので発言しなかったのですが、私たちは社会的立場というのは全然無視されている、というより自分がどういう社会的立場にあるかというのを、忘れていっているのです。それから収入もチップ制で、私たちに全然生活が保障されていないもんですから、どうしても多く金のとれるところに集中する。あっちへ行ったり、こっちへ行ったり勤めから、それだけに団体をつくるということは非常に困難で、私一人ではとてもできません。私はいろいろと経営者側に反発するので、それがもとで首になりました。今また別なところには勤めておりますが、私一人の考えではまとめきれないのですか

ら、労働省とか、そういう方々に一緒になって助けていた  
だいて、組合とか、団体をつくりたいと思ってます。どう  
すればいいかということをご少し検討していただきたい  
と思います。

岡 参考にはならないと思うけれども、私のところはち  
よっと似ていると思います。社員と日雇いで、全然給料  
の面でも差別があります。それで組合をつくってやったら  
いいということだ、つくりかけたこともありましたが、と  
うとうできないで、それは自分のことで精一ぱいなの  
臨時のことまでおせっかいをやいて、憎まれるのは損じ  
ないか、という気持ちが多分にあった、それでできなかった  
のではないかと思います。だから小野さんの場合でも、同  
じ職場にいる人だけでなく、みんなも考えなければいけ  
ないことだと思います。

志垣 団結して、組織の力を通じて私たちの要求するも  
のを訴えなければならぬということ、皆さんおわかり  
になつていてと思いますけれども、しかしそういう集まり  
をつくり出すときに、これを阻害するのが嫌だった女らし  
さで、女のくせにそんな組合に出しゃばるとか、もう少し言  
いたいけれども、男の人に席を譲るとか、そういうことが  
固結をはむものではないか、それからもう一つは女の人  
の嫉妬心、これによってせっかく集まったものが散るとい

のことで、これは仙合の場合ですが、保障制というのがあ  
ります。キャバレーによって違いますが、一日百円が最  
低、私の場合は仙合では一番大きいところのダンサーをし  
ていたのですが、その保障制というのが三百円なん  
です。お茶引きというのはお客さんがつかない場合です。  
そのとき三百円という保障金額をくれるわけです。お客さ  
んがついても歩合が二百円くらいというときは百円出して  
もらえます。それで生活が保障されているようにみえ  
ますが、実は保障制というのは名ばかりで、保障をもら  
う人が多ければ多いほど経営者側の負担が多くなって経営が  
成立たなくなるので、そういう保障をもらう人は次から次  
へと敬遠されてクビになるという状態なんです。ですから  
保障があっても同じような状態になっているわけです。  
保障金をもらわないようにして、少しでも収入をよく  
して長く使ってもらうのには、お客さんからの指名を多く  
取るようにするわけです。その指名というものが多ければ多  
いほど自分の収入も多くなるし、経営者側にも有利になり  
ますが、指名を多く取るためにはからだと賭けなきやなら  
ないのです。普通のやり方ではとても指名なんていうのは  
とれないので、身の切売をしなきゃならない、そういうふ  
うになってしまうので、売春の奨励をしているようなもの  
です。月に一度、表彰されるのですが、それも指名の多い

う場合が非常に多いわけです。結局女の本質的欠陥、そう  
いうものを一応考えてください。女同士の集まりはぜひつ  
くらなければならぬし、そこで自己反省をするというこ  
とが必要です。

進行係 まだおっしゃりたいことがたくさんあると思  
いますが、今日はこの辺で終りにしたいと思います。どうも  
長い時間、傍聴者の方も、ありがとうございました。

#### (第一日閉会)

進行係 昨日は、第一に職場の封建性を破るにはどうし  
たらよいか、それから女の地位を高めるには、また家庭と  
職場の両立の問題、などから入って、一人の力ではだめだ  
から協力の力でやらなければいけない。それには組合や世  
論の力が必要だというところまで話合ったと思います。  
この部会では、社会人として職場で私たちがどうした  
らよいかということがポイントです。その観点から職場で  
社会人として一人前に扱われていないということが問題に  
なつて、組合が進められていったと思いますので、今日は  
仕事と社会の結びつきということについてお願いします。  
では小野さん、組織の点について昨日に続いて問題を出し  
ていただきたいと思ひます。

小野 私は夜の勤めなので、いろいろおわかりにならない  
点があると思ひますので、例をあげてみます。生活保障

人、結局一月の売上上げの多かった人が表彰されるのです。  
またピンはねというのがあります。ダンサーが百二十名ぐ  
らいおりますがそれを世話するおばさん——縦役婦という  
人がいて、そういう人の給料は私たちの積立によって払う  
のです。そのため毎日十円ずつ積立てて、その給料の支払  
の他ダンサーの厚生資金などに使われることになっていま  
す。それが私たちの資金として費やされたのはわずか  
で、経営者側の当然払わなきゃならない、つまりパーセン  
への払いなどに使われていたらしいのを私たちの代表者が  
見てきたわけです。明細書を見たらそれが歴然と出ていた  
ので私たちがマネージャーに抗議したら、あくる日に  
なつて——毎日罰金があるんですが、そのとき「毎日の十  
円というのは場銭として出してもらいたい。それをつべこ  
べ言うならやめてもらおう」という強制的な態度に出てきた  
わけなのです。それで私は、そんなばからしいことない  
から十円出すのやめようじゃないかと提唱したんですが、  
それを警告する人があって私は解雇されました。そうい  
う面はどうしても是正しなければいけないと思うのですが、  
私たちの力ではできるものではありませんから、みんなの  
世論を起して、それで強力な組織をもつてぶつかっていか  
なければならぬと思うのです。その強力な団体組織がど  
うしたらできるかということをご皆さんにお聞きしたくてこ

こに出てきたのですけれども……。

進行係 はかのダンスの方たちはこのことについてどういう考えをもっているのですか。

小野 いたって消極的なのです。そういうことを一度振舞したことがあるのですが、私はアカではないからそんなのは知らないとかいって受けて付けてくれないのです。経営者のそれこそ言いきりになっているというような態度なのです。取れなきや取れないで、やめてほかに行くという、非常に消極的な気持でいるのです。

進行係 ダンス自身に、そういうものを撤廃しようとする意識がないわけでしょう。

小野 中にはあるんですけれども、大部分が消極的な態度なんです。それをまず喚起しなきゃならないと思うのですが、どういうふうにしたらそれが喚起できるかというのです。

原山 私は、特飲街のカフェー組合の事務所に勤めています。小野さんのおっしゃったことはよくわかります。雇用主にみんなとてゝも虐げられているのです。それで私は、婦人週刊などに職場とか、家庭とかいう問題ばかりでなく、だれも力をかしてくる人のない彼女たちの問題を取上げることが必要だと思うのです。政治の力ばかりでなく、女性全体があなたかい抱擁力をもって彼女たちを何と

かい気持で勇気づけてやっていただきたいと思うのです。

進行係 小野さんから、夜の職場で働いている場合にどうしたらいいか、ということがでましたが、これはそういう仕事そのものについての考え方というか、そういう職業をどう見るといふことにもなってくると思うのですが、そうすると一番あとの仕事と社会の結びつきのところでも論ぜられると思いますが、小野さんが出しているところでも組織の問題で何かお考えがあったらおっしゃっていただきたいと思っています。

大手 私どもの方では婦人懇談会、婦人連合会という二つの民主的な組織があります。これは自主的に婦人が集って婦人の問題を勉強していこうというグループですが、それには私どものような総評傘下の公務員もおりますし、会社にも勤めておられる地域婦人の方もおります。それからやはりそうしたお仕事の方もたまにはおいでになるわけです。入会などのきつい規定が設けてないので、非常に皆さんが自由に入出入りできるわけなのですが、いざというときに助け合って応援し合うので、組織のない方を力づけていき、そのために少しでも向上ができるという提攜の場になっていることを非常に誇りに思っておりますので、各地方でもそういうものができたかと思えます。既成の婦人会の中には、働く婦人など軽視する傾向もあると思えます。

かいい方に向けてやろうという努力が必要ではないかと思うのです。中にはとっても教育程度の高い人や技術をもった方もいらっしゃるのですが、ちょっとしたことでもその道に入ってしまうと、そこをやめて他の職場に入り更生したときに、みんなに白眼視されていたまれないというのです。ですからまたそこに舞い戻ってしまおう。結局、私たち一度ここに入ると浮かばれないのよ、だからあきらめるより仕方ない」というのです。小野さんのおっしゃったように、収入が少い主人側にとって利益がないから、ひまを出され転々とすることになるのです。ヒロポンなども、しないことになっていきますが、女の子の語にあればやはり夜の商売ですから、悪い主人だと眠くならないためにうちなさい」ということもあるのです。昨日も市川先生の政治の力ということが出た通りに、あれは容易なことではないでしょう。みなさんが昨日組織力とか協力をどうしようとか、職場をどうしようとか、全女性がみんな手を連ねて、そういう弱い人たちをも引っぱり上げようと思わなければ、女性のレベルが上がるといふことにならないと思うのです。そういう虐げられている人はいままで沈んでいて浮かばれないというのではないかと思うのです。皆さんのような職場をもっている方も、そういう方が入っていらしたら、あたた

で、それを拭色するためにも交流の場が必要じゃないか。そういう助け合いの場ができたら皆さんのおっしゃった問題も解決できるし、また組合をもっておられない方々のためにもそこで助け合える。理事者に対する交渉などの場合も、私どものような時間のゆるゆるする者が団体交渉にも行っ

てあげているわけです。

原山 それはどが主唱してやっているんですか。

大手 今のところは未亡人会の方が中心ですが、職場婦人と一緒にやっております。非常に幅広く、YWCAや、

いろいろな会の方も入っていて、二十数団体。最初は六十団体おりました。あらゆる層が広く手をとって、平和の問題にしても、人類愛からみんな提攜しなきゃならないというので、そういうところから始めたわけなんです。婦人のしあわせを守るためには、やはり一つの問題として取組んでいかなければならないということで、この会が続いています。

小野 他台の方にはそういう懇談会があるかないかよくわからないのです。できたとしても、それに出席していくだけの人はいないのではないかと思えます。

長岡 組織をもっているものが、全然組織をもたない人を包含して組織化していくことは、私たちだけの幸福だけでなく、全体の幸福を進めるためにも必要だと思う



のですが、特殊なところに働いている人は、問題を真剣に取上げる意欲さえ失われるほど人間性が破壊されている。その事実を見つめて対処しなければ、その人たちは組織をつくっても組織の中に入っていないと思うのです。

岡 それには親しさを形成することが大切で、組織を作るにはまずお友だちにならなければならぬと思うのです。その場合そういうところへ働いていらっしやる方と、どういう工合にしてお友だちになるかということが、根本になるのではないかと思うんです。

原山 その人たちに偏見をもっているという点があるのではないのでしょうか。自分の御近所からそういう人が出ているとしますでしょうか。そういう場合をつかまえる、そこなのではないですか。私たちがキャパレーへ通うということも、なかなかむずかしいことですから、自分の近所とか、知っている人がいた場合に、その人たちのお友だちになってあげる。私はそれが一番手っ取り早いと思いますね。

岡 私は市営住宅に住んでいますが、市営住宅にはいろいろな方がいらっしやあって、十八ぐらいの女の方で食堂に勤めている方がいますが、夜遅いときもあるのに給料なども少いのです。私はその人に本を貸したり、お友だちも一緒にいらっしやいというふうに言ったのですが、本も「平す。とっても貧乏な身なので、そういうことで苦しんでいる女の方が多いのです。原山さんのおっしゃることはごもっともですが、しかしそういうものの存在価値ということ、それも一べん考えてみなくちゃならないと思うのです。

志垣 私たちが、婦人の地位を高めるとか、民主社会を作るというようなことをいつも言葉にし、そうしてそういう運動を何かしようというときに、非常に考えが甘いということを自分自身で反省するわけです。私たちが、この小野さんから提案された問題を、私たち自身のものとして考えているかどうかをまず反省しなきゃならないと思います。私自身が明日そうなるかもしれない。私たちがあいう目にあっているのと同じだという気持ちでいなければ、これは空論になってしまうのではないかと思います。小野さんが言われたような、私たちにはつかめないような生活をしている人たちは、無自覚じゃなくて、何か救いを待っているということは事実だと思うのです。しかしその救いどこからくるかということになると、私たち自身には、そばにいた人たちが仲よくして、その人たちの意識を自分一人の隣人愛で高めていくという、それくらいのも、ごく一部分の運動しかやれないのではないかと思います。組織を通じて、その人たちを救うという運動は私たちは実際にやり

「凡」とか何とかいう程度のときはいらったのですが、私がかかちかちやり過ぎたのかも知れないけれども、もう少しで漱石のものに取りつくというときに来なくなったのです。向うの人を理解する方法で振れなかったのだと思うのですけれども……。

原山 そう急にやらないで、自分にほんとうについてくるまで、ほか話もするという忍耐が必要ではないかと思えますね。私なんかもそういう人たちに接しているときに、必ずむずかしい話になると、「私たちには縁がないんだわ」ということになるのです。そうしたら結局嫉妬されます。それではとてもだめだと思います。私が事務所におりますと、「原山さん、一ぱい飲みたいな」、こういう方がおられます。「そうね、いいわね」といって一緒に飲んだつもりになる。それを「アラ、一ぱいなんて」としかめっ面したら「あの人がばってるわね」ということになりました。そうして「一ぱい飲んだところで」「餅菓子食いなよ」と持ってきたね。「どうもありがと」といいたかったですと、明日はともてごきげんがよくて、どうだとか、こうだとかいってくるのです。自分がその気持になって、その人たちと一緒につきあわなければ、一朝一夕にいかないと思います。

渡部 忍耐することまことに結構ですが、忍耐にもやりようがあると思うのです。高知ですと、お酒を飲む県で

たいと思っているのですが、なかなか実現する問題ではないし、やらなければならぬとは思いますが、まだまだやれないという現実だと思います。このようなときに、せめてこの人たちの救いのきかけになれると思われれることは、官庁の機構なのです。監督署とか、基準局とか、婦人少年局とか、労働問題や婦人問題を特に取上げている官庁があるわけです。そういう官庁が真意をもってやっているかどうか。国民の半分以上を占めている女性のために、婦人に対する何々局というものを置いて、こういうことを婦人のためにやっているのだぞという、一応の責任の所在を国家がしている間は、絶対にこういう人たちの救済はできないと思います。私は契例をもってはいるのですが、昨年でしたか婦人少年室から何か調査があったのです。不当雇用横行——ですか。そのときに婦人少年室の室長と一緒に、ある特飲街に行ったのです。十何人かの特飲街の業主と、そこに従業している三十何名かの従業婦と別々に会ったのですが、両方とも言い分が違います。事業主の方は、これくらいいい仕事はない。女が無事で儲かるといのはこれ以外にないから、これは実にいい。女は非常に喜んでいてという言いぐさです。そのあとで今度従業婦に会って話してみると、みんなそれぞれ非常に苦しい境遇から出てきている人たちで、一日も早く抜け出したいけ

れども、次々に借金がかさむから足が抜けられない。ここに更生資金があれば、私たちは一日も早く抜け出したいというのが全部の意見なんです。私はつくづく思ったのですが、そういうことに対して、なぜ政府がもう少し実質的な援助をしないかということです。そういう行為を調査なさるといふ婦人少年堂のお仕事は非常にいいと思います。ただそのあとの救いというものをどこにもっていくかがほんとうに大事じゃないかと思うのです。それと結局国の予算の問題になりますけれども、こういうことのために、もう少し政府が予算を削いで、一人々々の、ほんとうにあえいでいる人々を救い上げてもらうように、そのようなことをもう少し国会内で取上げてもらうということが、今のところでは一番の先決問題だと思うのです。そのときに聞いたのですが、バーマや洋裁の腕をもっている人たちがいたのですが、せっかくの腕をもっていて惜しいので、どうにか借金を払って抜けることがあるならば、そのあとで来てくれたら、何とかお仕事の世話をするからと——私は職業安定所勤務ですから——申しましたら、それから二、三カ月してバーマ屋さんだった人が来て、バーマ屋に居込んで、みごとに更生したわけですが、そんなときでも、ただ借金は自分で解決しなさいと言わなければならぬことが非常に多かったのです。私自身が持っているなら、私の

お金を出します。そういう気持ちもあったわけですが、同じくらいという経済状態ですから、そういうこともできませんので、これは国家が経済的な裏付けをして、こんな人々を救う、そういうことにもっていかなければ、絶対に私たちの小さい力では望めないことだと思えます。

高倉 今おっしゃったことに非常に同感です。昨日の会のあとで、婦人の有識者の方々と懇談いたしました。そのときに売春禁止法や母子相談員のことをいろいろお聞きしましたときに、予算措置を伴うものは国会に上程しても通らないという暗い見通しのお話だったので、それを聞いて悲しくなりました。だれでも必要だと思っていることが、予算が必要だということ、上程されても通らない、そういう政治のあり方ではないものでしょうか。政治のことや予算のこともよくわからないのですが、それほど予算というものは窮乏なものか。どのくらいの額がいるものかわからないのですが、軍費などに使うお金はずいぶん大きいと思うんです。予算がないということであっておかれたら、いつまでもしょうがないのではないかと思えます。そのためにはやはり、私たちの政治的な自覚ということが非常に大事ではないかと思えます。

秋山 国家からそういう更生資金をもっとどんどん出していただきたいと思います。もう一つはさっき大手さんの

おっしゃいました、地域社会の婦人たちの力で、ある程度やろうということですが、それにもっと経済力をつける、婦人の人々がある程度何かのお金を出して、そういう婦人の更生施設ができれば、もっと明るくなっていくし、そうして貧弱な政治力を幾分か婦人の力でカバーできる、地域社会の婦人の力で更生していけるのではないかと、そういうことが望ましいと思えます。

進行係 今出ております問題は、そういうところで働いている方を更生させるということ、小野さんのおっしゃったダンサーなどの労働条件を少しでもよくしていくための組織をつくる方法と二つの問題だと思っておりますが、小野さんはダンサーという仕事はちゃんとした仕事だと考えて、そこから救い出すということではなくて、労働条件などをよくしていくための組織というように考えておられるわけですね。

小野 各キャバレーで団体を作っても弱い力なのです。どうすればいいかということは私にもわからないのです。それでここで解決していただきたいと思ってやってきたのですが。

恵垣 これをどうするかということはむずかしいと思います。具体的な案を一つ考えたのですが、さっき京都の方から言われた婦人団体、これはその地域地域で性格も違う

と思えますが、宮城でも婦人会が非常に高度の意識があるものならば、婦人会の人達と話し合い、その組織の力をつけるようなことも一つの方法ではないかと思うのです。それからもう一つはさっき言いました官庁の機構ですが、婦人少年堂とか、労働事務所とか、監督署とかいうものがありますから、そんなところに小野さんなり、ほんとうにどうにかしてやりたいと思う方が頼みになって、その機構から来てもらって橋渡しをしてもらう、橋渡しという体裁がいいのですが、ちょっとハッパをかけてもらうというか、そういうふうにしたら、あるいは具体化するのではないかと思うのです。それくらいしか具体案が考えられませんが。

大手 官庁の機構を通じて橋渡しをつける、それも必要と思えますが、ただ上からやられた組織というものはじきに潰れてしまうということをいつも感じさせられているのです。もしできるならば、ダンサーや女給さんの間で、自分たちがほんとうに一つになれるという話し合いの場ができたら、総評のように信用のできる組織へ協力を申し入れて、一緒に組織を作る力になっていただくということがいいのではないかと思います。それから一つは、ケースワークといいますが、個別相談です。その人たちの身になってやる個別相談と婦人会などでやるグループワーク。も

う一つは地域社会です。地域に住んでいるその人たちの問題を解決できるような場を作る。この三つに分けてみんなの方々と提携することが必要だと思います。やはり労働者としての考え、働くものの考えは理事者とはっきり別なものですから、上からでなく、下から助け合って盛り上げていくことが大切ではないかと思うのです。

岡 山口には婦人少年室が中心になっている婦人問題研究会というのがありますので、そういうのに参加されたとしても、ほんとうに打ちとけるかどうかは問題だと思ふんです。その打ちとけるということの基本になるのはお互に働く婦人であるという理解です。それが必要だと思うのです。その理解をするために、キャパレーそのものに対してどういうふうにか考えるかということが基本になると思うのです。働く——社会と仕事のつながりになるかもしれないんですが、そういうことをどのように制切って考えたらいいかということをお場で討議してほしいのですが……。

進行係 今、岡さんからもお話が出ましたので、その問題に入りたいと思います。小野さん方のようなお仕事の場合だけではなく、もっといろんな仕事について、それがはたして社会を進める力になるかどうかということ。その前に幾人かの方の御要望で、新しい時代の女らしさを探求したい、そういう項目を設けてほしいということがあ

考えていることを整理する意味で、いい社会——私たちが望んでいるいい社会というものはどういうものかということをもっとはっきりさせて、それから今度それを作っていくために私たちがどうしていったらいいかということを考えていく参考にしたいと思います。実はみんながよく知っているんですが、世界人権宣言の中から少しそのことを考えてみたいと思ったのです。戦後の日本が、新しい民主主義の上に立って国を作り、その中で責任のある個人がおのその立場をとっていくということからいって、すべての人間は生まれながらにして自由であるということ、尊厳と権利において平等だということ、人間は生まれながらにして理性と良心をもっているということ、互いに同胞の精神をもって行動すべきだということ、このことが私どものデモクラシーというものを作っていく上に基本になっていかなきゃならない。すべての人が自由であって、平等であって、お互いに尊敬されなければならぬし、それから相手の人々が——私が理性と良心をもっているように、兄弟としての精神でもってやっていかなければならない。そのことがほんとうに実行されるところが民主主義の社会、それらによってほんとうの正義とか平和というものが生まれてくるということが大前提になって、職業の部分だ

たんですが、ここで論ずる必要があるでしょう。昨日もいろんな場合に出てきたようにですが、皆さんいかがですか。大手さん御提案になったんです。

大手 中に含めていただければ、まあ一番いいわけですが、今まで組織を作る上に一番障害になっていたことが、そうしたことだったのです。こうしたばげしい世の中では、組織をもっている婦人をもっと強くなり、今の社会の悪いものをほんとうに改正していく人間というか、正しいことは正しいとして、はっきり言い得るような女性にならなければならぬ。それがあの人は女らしくないと言われ、われらとだまってしまう。組合活動なんかにおいてもそのために組織から脱落していくという現状をなくしていくためにも、新しい婦人像というものを、この会議の来年のテーマとするならば、世論を大きく喚起する原動力になっていくのではないかと思います。私のお友だちも、新しい婦人像を提起してほしいということだったので申し上げたわけですが、含めていただければ結構です。

志垣 大手さんと同じ意見です。  
進行係 渡辺先生、何かおっしゃって頂きたいと思ひます。

渡辺 いい社会を作っていくことを、みんなが何べんも繰り返して言いましたけれども、もう一べん皆さんのの、いろいろの——たとえば職業の部分でも、何人も勤労雇傭の自由な選択、正当で有利な勤労条件ならびに失業の保障に対する権利をもっているとか、自分たちが政治に對して権利と責任があることだの、そういうことが世界人権宣言に書かれていて、それが私どもの新しい憲法の考え方の基礎になっていると思います。それが字に書かれたものでなくて、ほんとうのものであるために、集ってきこういうことを語合っていると思うのですけれども、社会とのつながりということで、今のようないくつか共通な私どもの了解にあるという前提のもとにお話が進められていったならばいいと思うのですけれども……。

#### ◎仕事と社会の結びつき

原山 私の場合は仕事を通して社会にプラスになるかならないかということを考えたときに、ここへ出てくるときにも附随したのですが、仕事に忠実であれば社会的には大してプラスにならないですね。事務所に忠実であるということは結局そこに働く人たちにとってはプラスにならないのです。調査なら調査がありますでしょう。全国の業者組合で、昨日も市川先生が実に強力な組合組織になってい

とおっしゃいましたが、あれは事実なのです。実態調査というものをやるのですが、それは国会へああいう問題が提出されたためにそれを阻止するための実態調査であって、その実態調査で組合に忠実であると社会に忠実でないのです。だから私はとっても疑問を感じるのです。私はここへ出てくるタイミングにも、出て行く資格があるのかどうかと思っただけですけれども、そういう点について何か皆さんの御意見を聞きたいと思います。

進行係 あなた自身はどう考えていらっしゃるんですか。

原山 私自身は、真実のところは私の職場は消滅してもいいと思ってますよ。実態調査で、そこに入った勤機とか、学歴とか、年齢とか、家庭状況もいろいろ調べますが、そういう場合に、入った勤機をなるべく雇働者側に有利に作る、パーセンテージを高く高く出すのです。ほんとうのことを出さないのです。それが組合に忠実でしょう。ところがそれをそういうふうにするのと、決して社会的にはプラスにならないので私はこのことに對して、自分はここでほんとうにやっていいのかしら、仕事は一所懸命にやりたいたくけれども、一所懸命やっていいのかという疑問を感じるのです。

進行係 あなたとしてはそういうものはなくなった方が

事というのは、あくまでも、どんな仕事だろうとその給料に頼る以上の仕事をして、それによって一応社会人としては自分はちゃんとした仕事をしている、そういう気持ちをもっていいのではないかと思います。

深谷 これからの女性のあり方ということになると思いますが、自分の生活の身近な苦しみや矛盾をなくして、新しい世の中を作っていくものは、やはり私たちであるということを私たちは考えないわけですか。自分たちの例をちょっと言いますけれども、私は病院勤務ですが一年ぐらい前から、全国の国立病院の療養状態が非常に下っているのです。完全看護とか、付添看護止とかに對して行動的に動いて、完全看護は全国の国立病院でたった二つしかやっていないわけですか。そんなに行動的なことをやって、その患者さんの療養状態が下ることを食いとめてきた病院の看護婦でも、そういうことになるのは、どうしても世の中の仕組がこうなっているから、こういうことが出てきたので、これはいけない。この仕組をかえなければ、とは考えないのです。かえるだけの一票は持っているわけですか。それは一人ではどうにもならないが、集まれば必ず大きな力を出すのに、看護婦自身が、目覚めないわけですか。そこまで結びつけていない人が残っているということ。今度の総選挙で経験してわかったんですが、ましてやそういう行動

いいと思っていらいっしやるのに、そこに職を得て働かなければならないことに矛盾を感じて悩むがあるということですね。

志垣 今のお気持はよくわかります。私たちは全部理想的な、社会をよくするための仕事ばかりほんとうはやりたいたいのですが、世の中の機構というものはいろいろ裏と表がありますから、その裏と表に働く人間ができてきて、今のようないろいろな悩みができてくるわけです。世の中には昔から難になることもあり、たとえば草なんかにしても毒草もあるし、薬草もあるという、神が作ったものでさえそうなんです。それから生きるために働くには、理想的な仕事はしたいけれども、そういう仕事があれば今言われたような悩みがあっても、生きるためにその職につかなければしょうがないということとは生まれてくると思うのです。だから私たちは幾らかもらって、それに値するその仕事をしたいけれども、いいのではないかと思います。しかし機会があればいい職場にかかわるということはいいいことでしょう。社会全体がそういう機構があることを見のがしている、そういう中で生きているのに、私たち自身が非常に悩み苦しむ必要はないのではないかと思います。給料をもらって、それに対して仕事をしている、そういうことでもいいのではないかと。そこで考えなきゃならないのは、その仕事場において私たちの仕

の経験のない方は、政治のあり方なんかとは結びつけて考えないということが感じられますけれども、そこを考えると、いかなった世の中にもよくならないし、女性の一票というものが何にもならない。日本全体が狭い国に八千何百万もいますから、どの政党が政治をとったからいいという、そういう計算をしているわけではありませんが、やっぱり私たちがそういう生活の苦しみや悩みを政治と結びつけていくということと真剣に考えていくことが一番大事だと思うのです。

高倉 原山さんの場合、組合に忠実であれば世の中のためにならないということと言われたんですが、その場合、組合に忠実であるというよりもお仕事を熱心にやるという方向を考えていったらいいのではないかと思うのです。今の職業、それを敬遠してしまわないで、そういう中にとけこんで、どうすればそれがよりよくなるか、そういうことを考えて、ささやかな個人の力ではなかなかできないことが多いのでしょうけれども、それを少しでもそういう人たちが及び世の中がよりよくなるために使っていただいたらいきたいと思います。やはりそういうお仕事は世の中のためにならないからといって、みんなが敬遠してしまわなければならないと思います。

原山 私の場合は少しでもよりよくしていくために、具

体的にどんなふうにするのでしょうか。

高倉 たえば調査表を出して、正しいものが突き返されてくるわけですね。お仕事を組合の利益になるように忠実にやる場合には、正しくないものを出さなければならぬ、それが世の中のためにならないということで矛盾を感じていらっしゃるのだと思うのです。これは口で言うことは非常にたやすいのですが、実行はむずかしいだろうということはわかりますが、でもそういうときに、正しいものを出してもそれを突き返されないように努力していくという……。

原山 むづかしい問題なのですよ。私は組合の使用人です。雇われて、使われているものでしょう。組合というのは大きな組織をもっているし、あの人たちの考えることは、自分たちの仕事を続けていこう、自分たちがより多く、一銭でも儲かる方法を考えることしか念頭にないのです。

渡部 経営者というものは一銭でも多く儲けたいものですが、これがもし砲弾を作っているというときにだまっていられるか、一人でもだまっていきたいと思います。みんなが会社側に要求して、砲弾なんか作るのはいやだということではできませんから、使用者側に対して労働者の意見をのべることはできると思いますが、原山さんに考えていただきたい

志垣 しかしそれを作るというのを反対するために、私たちの別のグループで、戦争反対の運動で反対すべきです。

渡部 だったら、原爆を作る工場で生きるために働くということは矛盾ではありませんか。生きるために働いていながら、生きているということだとして考えなければならぬ。黙殺してうまく言えないのですが……。

志垣 私が少し割切ったことを言い過ぎたかもしれません。私が、戦場の仕事、これは生きるためだとあくまでも言うわけです。ですから戦場では、そこに勤めている以上はそれをするのがいやだと思っても、いやならやめなければならぬし、そこに勤めている限りはストでも起さない限りはやるべきだ。それを反対するためには何々婦人会として、自分たちの平和を守る会であくまでも反対すべきだ。そんなふうにするわけですね。

原山 戦場だけの問題だったら、今の熊本さんの御意見を適当だと思うのです。けれどもこの場合、戦場と社会をよりよくするところへ来てますでしょう。だから結局こういう問題が起き、こういう悩みで出るのはないかと思うのです。

河越 戦場において矛盾を感じられたというお話が出ましたけれども、それが社会に対してよい影響を及ぼすこと

いのですが、……。

岡 私は原山さんに同情するのですが、その組合は全国的な組織をもっているでしょう。組合という大きなものに、象に向って蝶が一匹ずつつかかっているようなもので、できないと思うのです。だからこの場合原山さん一人ががんばるのでなく、隣りの町の組合の事務所に勤めている人と結びついていくというふうに、それが全国的に使用人じゃなくて、そこで働いている人たちの組合というものができない限りは、それはむづかしいと思います。

志垣 さっきも言いましたように、生きるために働いているということをも考えねばしようがないと思います。道楽で働いているのでなくて、食うために働いているのですから、その戦場、戦場で命ぜられたことをして、——私たちの良心的なもので、事業主の良心的なものを目覚めさせるというような行き方にすることは結構ですけれども、ただ私たちがそのような矛盾した考えを起した場合でも、戦場に対して私たちが決戦までやる必要はないし、またそれをするというのは自分たちのクビにかかわる問題ですから、これはどうかと思うのです。戦場では戦場でのベストを尽す、それが砲弾を作る仕事であっても、それはそれだけでいいのではないかと思うのです。

渡部 進みます。

でなかったならば、どんな問題があっても、それを改善していくように努力していかなければ、いつまでたっても社会がよくなるかと思えます。

岡 消極的な考え方だといって叱られるかもしれませんが、原山さんの場合だったら、調査表を出すときにほんとうのことを書いて、何べんも何べんも返されて、そうして原山さんがクビになったとしますね。そうしたら原山さんの、今度レジスタンスの場がなくなってしまう。今の社会というのは、終戦後からしばらく組合運動が盛んだったころのような世の中じゃないんです。だから一歩後退して、卑怯なようなやり方かもしれないんですが、熊本さんの志垣さんのおっしゃる通りに、自分の仕事というものを一所懸命やりながら、傍聴的といったら悪いけれども、そういうふうな努力もやっていたらなければ自分の仕事というものを失ってしまふ。仕事を失うということは生活を失うということだと思えますから、生活を失ってから運動というのは実際にはむづかしいと思うのです。この場合矛盾を感じれば感ずるほど、早くなくなるように努力することがいいのじゃないかと思えます。

深谷 その点でさっき原山さんが一所懸命がんばっていらっしゃるということを開いたのですが、自分のところへ来るそういうカフマーに勤めている人たちの苦しみを聞

いたり、不平をなったりして話合うだけでなしに、どうしたらいいかということ、原山さんがもう一歩進まれている、やっていかれることが必要だと思います。志垣さんのおっしゃったように、現在を是認して、右手と左手を使い分けていくというやり方は不純だと思います。そうしなければ私たちがみな失業してしまうわけですが、だからといって、右手の方が運動する方だったら左手の方は毎日働く方として、その働く方も働きのながら、しかもまわりの人から一人々々、少くとも二、三人友だちをふやせば、この次のときにはずいぶん大きな力になっているわけですから、そういう意欲というものを非常に強くもつということが大事だと思うのです。今ここで、自分だけ犠牲になった時或みだいに亡くなつては損ですから、仕方なく現在を是認すること、やっていくけれども、ほんとうの心は世の中をよくする方に重点をおくべきだと思います。

原山 私の場合は完全なる二重人格なのです。組合の人にもよくかわいがられます。仕事もよくやるし、まじめだし、年齢的にも使いやすいでしょ。ああいうところはあんまり若い人よりも女の子たちにもいいんです。完全なる二重人格者です。

岡 今のお話が特殊な場合だからと皆さんおっしゃったと思いますが、たとえば事務所に勤めている給与係として

も、基準法に触れるような残業をやっているのです。そうして一週間何時間以上にならないように伝票だけ切つて中央にまわすということをやっています。そういうことを忠実にやることは社会のために悪い、そういう場合に今度は残業を不合理にやらなくてもいいように定勤制を獲得するとか、人員を要求するというふうな働きかけをやる、そういうふうに考えたなら解決するのではないかと思うのです。

志垣 今の社会というのが大体において男性のなれあいの社会といつても過言ではないと思うのです。そんな社会に私たちが生きていて職場を理想化しようというふうな純情さをあんまり振りまわしたときにはたしてどうなるか。それは私自身体験していることで、所感文にもそれを取り上げたのですが、家庭婦人から職場に初めて出て、実社会を見たときに、あまりにも男の人が職場と社会のために密着したいという意欲もないし、少くもいさかいをうけたことがあつても妥協してしまう。実に安易な、職場をただ食うために毎日を過しているという男の方たちの意欲のなさが、実にたまらなくなつたわけなのです。そうして裏面から男女の不平等、そのほかいろいろな封建的な男性のあり方に対して、常にレジスタンスをやつたのです。それで結局は私の主張したことの一つも入れられなくて、二、三年後に

は異端者扱いされることになった。それはあまりにも純粋さを持ち過ぎて、職場を正当化しようとしたために起つた現象と考へて、それからはある程度、表面は妥協したわけですが、妥協しながら事務的な面とか、それからほかの、封建的な男の人の態度をそれとなく批判したわけなんです。そういう態度をするようになってから、だんだん私の主張する一つ二つが入れられるようになりました。私の職場では今非常に女の子たちがはるかに多くなりました。職場自体もヒューマンなものが流れるようになったというのは、結局は私の意図がだんだん浸透していつて実現したのだと思うのです。あんまり真向から純情さを振りまわしたり、水の中の油のような感じがするのは女の職場を狭め、女のポストを確保するのにむづかしいことになる私の体験から考えられます。

深谷 志垣さんのおっしゃっていることと同じですが、私の場合は、私一人だけでそういう純情さを振りまわして理想の社会、理想の職場を作るためにがんばつてやると言っているのではないのです。多くの人が手をつながなければだめで、働いている人と、小さな自分の生活に関することだけでもいいんですが、そういうことから手をつなぎ合つていくことが結局みんなと一緒になつていく問題ではないかと思うのです。

大手 さっきの志垣さんの御意見に挑戦するようですが、今のようないかなる状況では、今のまま給料をもらつて今の仕事をしたらいいではないかという御意見は、考えようによっては非常に危険だと思ひます。最前もおっしゃいましたように、砲弾をもし作るといふような仕事をしている中に悪いと気づいたら、仕事から退くのではなく、その中にあって、矛盾を解いていくために何らかの形で努力しなければいけない。こういうふうにならなければならぬということを知りながら、だまっていられないというのは今までの女らしさということで、今までの婦人像というものにだまされて矛盾を解決しないのはもちろん人間としても罪悪感じゃないか。ほんとうにこれをしなければならぬということと考えたら、たとえいろいろな問題があつても、急激にはいけないけれども徐々にでも解決していく道を、一人ではなかなか困難なことだと思ひますので、やはりそこに何らかの組織をもたなければならぬ。組織の問題としては自分たちの組織がまだできないならば他の大きな、最前申し上げたような総評とか、他の大きな婦人の組織を通じて、一緒に協力団体になつていただいて、自分たちの組織を作るといふことをまず第一に考え、地盤を築いておいて問題を解決していくところに自然に強くなるのだということとを考へるのです。

本垣 生きるために職場の仕事もしなければならぬが、その仕事はどうも社会のためによくないというときに、及ぶ限りの努力は社会の向上のために尽さなければならぬ。しかしそれは横の運動で社会に働きかけねばならないと申し上げたのです。

高倉 志垣さんは仕事は仕事としてやり、それからまた横の方で努力はするという非常に割切っている感じがするんですけれども、私はどうも割切れない感じがします。

岡 もし原爆製造ということを言ってきた場合に、反対するということは、だれでも言われると思うのですが、では反対するということに、組合なら組合が反対して製造中止なんて言ったときに、自分の生活というものを考えた人がはたして組合についていくかどうか問題だと思うのです。ストをやっても第二組合ができたり、生活というものを考えて、一応これくらいで妥協しようというのが今の組合の状況だと思うのです。だから志垣さんのおっしゃったように、あまりに純情というか、正義というものを真向にかざしたら、やっぱり大衆というものは打算的ですから、ソツボ向くことがあると思うのです。だからほんとうに妥協して悪いようですけれども、原爆作るということは仕方がなかったら一応是認してでも——こんな言い方したら原爆に賛成しているようで悪いけれども、大衆というものは

そんなに純情で正義的なものではないという面でそういう女性の分析の仕方を、もう少し甘くではなくて、ずるくでもないけれども、考える必要があると思います。

進行係 大衆という言葉を使われましたが、それはどういうふうに考えていらっしゃるかしら。

岡 私たちを含めて、みんなです。

進行係 みんながそういう正義感をもっていないということですが。

岡 そうじゃなく生活というものと結びついたときに、私は今までのストや何かの経験で危いと思ったのです。大手 今の岡さんの御意見は、組合がそういうものを出しても、ついてこないから、原爆製造反対を闘わないで、おこ——悪く解釈すればそうではないでしょうか。それは安易な妥協で危険だと思っています。私たちが組織を強化して、その組織を通じてそういう社会悪をなくすように、ほんとうに誠心誠意やっていかなければならないと思います。

岡 問題が原爆などと大きい問題になると、みんなはバツと反対というふうにくるけれども、それなら実際の仕事の上で、官庁に出す統計なんかのときに、都合が悪いからこういふふうになおせ、というふうなことや、それから労働時間のことなんかを考えたときには妥協というのが必

要だと思います。もちろん原爆なんか作れといったら、私はクビになっても反対だと思うのですよ。

秋山 原爆というところで問題が大きく飛躍しましたけれども、志垣さんの言われることは実は賛成なのです。ああいう行き方であれば今のところ生きられないと思います。生きるということのためにそういう世界を是認する。そうして自分たちがそれ以上に飛躍する力を横に求めている間、ということですが、その飛躍する力を横に求めている間に、その事実の方が先に行ってしまうと、原爆、水爆がどんどん作られてしまうという事実がなきにしもあらずという危機を感じるのですが、やはりそういう場合に横の連絡というのを、まず第一に考えて、その上に立脚してわれわれの行き方というものを考えていかなければいけないと思います。

長岡 それは大賛成です。たしかに横のつながりということは最も必要だと思います。むしろ今の場合、縦のつながりよりも——という誤解がありますが、横のつながりが緊急かつ重要ではないかと思っています。私のところなんか造船所ですから、どんな組織も、魚雷も作っていますし、ものすごいものを作っているらしいのです。私たちはそれに反対しても結局だめで、だれに聞いたってそれはみんな反対なんです、いくら反対したところで、それが阻

止できるかどうか。今の力関係で、自分たちだけが反対したところで解決できないのです。もっと大きいつながりがあるということにみんなが目を開かなければいけないと思うのです。自分だけで反対だと、簡単に言うだけで問題は解決しないのです。もう少し大きい問題があるということとを一人々々がほんとうにわかってもらわない限り、選挙だっていつまでたっても、平和を願いながらそれと反対のような政府ができるという現状なのです。

岡 私もそう思います。やはり売春婦をやめろやめろといっても、その先をどうしたらいいかということを考えなきゃならないようなものだと思います。

長岡 私たちの婦人運動にしても、スローガンを掲げていくら叩きつづけても、全然進んでいないということなんです。そういったスローガンを上から押しつけるのではなく、再軍備の軍需品を作りながらも、その現実を考える、みんなの意識をかえていく、そうして日本の国民の全部の意識がかわったときに初めて幸福な日が来ると思います。

志垣 全然同感です。

高倉 今まで反対、賛成という二つに分れたような感じですが、皆さんのおっしゃることをよくおちついて考えてみると、みんな同じことをおっしゃっているのです。再軍備を認めようとか、是認するということを言っている人は

いない、現実に聞いた考えをもっていらつしやるので非常にうれしく思ったのですが、一人々々がほんとうに上からの命令だとか、そういうものでなく、たしかにつながらなければいけないという考えをもつてつながっていると思うのです。さっきぼんやり聞いてましたら意見が二つに分れたような気がしましたが、結局みんなが同じことを考えているのではないのでしょうか……。

田村 売春婦の場合ですが、どんなふうに考えたら本人が自己満足できるのでしょうか。これは社会罪であるけれども、売春婦の存在によって普通のお嬢さんの純潔が守られるとか、これは醜聞ですが。

進行係 売春婦がいるために良家のお嬢さんが守られているといわれているが——田村さんは醜聞だといわれましたが——しかしそういう意見が非常に強くある場合に、そういう人たちをなっとくさせるには、どういうように説いていったらいいかということを渡辺先生……。

渡辺 私さっき申し上げたように、一人々々が尊重されなければならぬのだし、だれかの犠牲においてだれかが守られる——それは醜聞であっても、だれかの犠牲の上にはほかの人が守られるということがあってはいけないと思います。私たちの社会というものは、そういう犠牲になる人がないような社会を作っていくことに目標がなければ

ばならないと思うのです。きつとそのためには制度をかえるとか、それから皆さんがさっきおっしゃったみんなの世論がかわっていくとか、ことに男の人の道徳に対する考え方、女を物として自分の享樂の対象とするような考え方が基本的にかわっていく、そのことのために努力しなければならぬと思うのです。

進行係 もう一つ、突如こういうことが言えると思うのですが、調査や、この問題について聞いていることを総合していった場合に、普通の家庭の娘さんがどういうところで被害を受けることが多いかというところ、かえって売春施設——のある近くです。そういうものに刺戟されて、誤った性行為が誘発される。だから決してそういうところがあるから普通の女の人が守られているというふうに言えないのではない。また、まだ成長しきっていない子供たちに悪い影響を、そういう存在が与えているというところは事実です。話を戻していきたいと思いますが、さっき高倉さんが結局みんなが同じ意見だとおっしゃいましたが、いかがですか。

深谷 大体それでいいと思いますが、ただ比重のあり方が決して同じではないに、重い方と軽い方とを考えていただきたいのです。さっき岡さんは、原爆やなんかの問題だったらだれでも反対するとおっしゃったけれども、ここに集

っていらつしやる方は原爆とか、再軍備とかは、それはいいけないとおっしゃるでしようが、職場には若い人が多くいます。その人たちにこの仕事は云々と言っても、「軍需産業がなくなると私たち失業するし、その点で何ともいえません」と、必ず言うのです。だから原爆のことはみんなわかっているようにはいかないと思います。そのときにみんなと手をつなぐことは、やっぱりみんなの、そういう生活の苦しみを私たちが一々聞いていって、その苦しみと今の社会のあり方としっかり結びついて考えさせるところに一番重点をおいてもいいと思います。

長岡 大体賛成ですが、特に商人なんか、戦争に反対すれば自分たちが食べていけなくなる。どんどん軍需を作って戦時中みたいに非常な景気になりたいという人が金銭には相当します。そういうふうな考えざるを得ない現実にもう少し私たち入っていったって考え、ずいぶん抽象的になりましたけれども、さっき千葉の方がおっしゃったように、決してその人の生活は、そういう再軍備をしてよくなるんじゃないというのを具体的に話合っていくということが大事だということを重ねて強調したいと思います。

大手 今の御意見もほんとうにいいことだと思ふんですが、再軍備の問題なんかにしても、再軍備反対とか平和と

いうと、アカじゃないかという目で一応は見られたり、組合の仕事をしてると、警察が町会長のところまで来て私の思想調査をしていくということがあったわけです。町会長がいい方だったものですか、警察が来てどういうことを聞かれたかということをお話してください。私は平和と再軍備反対ということをお話しましたが共産党でもなく、アカでもない。私は仕事で社会事業なものですから、今の社会というものの矛盾をほんとうに解決していくのが社会事業のほんとうのあり方ではないかということをお話を通じて考えたわけです。今の社会事業の対象者が、ほとんど全部戦争の犠牲者といってもいいくらいで、そういう対象者をなくするためには再び戦争を起しちゃならない、そういうことこそわれわれの仕事の使命だし、それから社会の浄化といいますが、そういうことも一部の人の力では解決できないわけです。皆さんの話合なり、組織を通じて解決していくよりほかにない。一人で考えていても解決できないし、そういうことをするには勇氣がいるということを感じるので、町会長もお話したことと理解をもつてくださいます。原爆反対署名のときにも、町会長が率先して二回ほかの町会にまでもって行ってやってくれるということもありました。子供会するときなんか町会長が私に幻燈をやってくれということで、役所から幻燈機と、子供



たちの好きそうな漫画などをかりてきてその中から選ばせると、子供たちは今の原爆に興味をもっているのです。その種のものを選び、それによって啓蒙されるというようなこともあったりして、非常に地域の協力を得る態勢ができてきました。それが再軍備なり政治というものをみんなが考えてくれる一つの契機になっているわけです。労働者こそ、職業をもっている私たちこそが地域の婦人方と提携して、中心になってそれを推進する役割を続けなければならぬのではないのか、そのように考えて、今皆さんとの話合の場を広げていくように努力しております。そして警察もその考え方をかえていただいて、社会が明るくなるような警察、権力だけの手先にならないようにしてほしいと思います。

進行係 小野さんの、組織をもちたいということのお話から、仕事と社会の結びつきということで話が広く発展していったのですが、小野さんの問題よろしいですか。

小野 おそらくこれ以上解決できないと思うのです。ですから志垣さんのおっしゃったように官庁を利用するか、婦人懇談会については向うに行つてから実現したいと思っています。

秋山 大手さんがおっしゃった地域地域との結びつきというのですが、われわれが直接地域婦人の方たちと手を

組んでいくという方法、それともう一つは、働いている婦人は数多くの男性の間にまじって働いているので、労働組合などを通じて、その家族に――労働組合の中の婦人部の活動範囲を、男子の方々と一緒にもっともって広げて、男子の方たちから家庭婦人の方たちの教育をしていただく――教育については家庭婦人の方たちから抗議が出ますが、そのために男子職員の啓蒙運動をやつて、間接的に男子の人たちが家庭に帰つて、組合の婦人グループの活動などを伝えたりして、家庭婦人を啓蒙するというような、そういう方法で結びついていく仕事をすれば、職場の婦人として大きく役割を果たすのではないかと思います。

進行係 昨晚の懇談会のように国鉄とか全日通の方から家族組合のお話が出ていましたが、秋山さんは組合の婦人部が孤立しないで、男子の組合員を通じて家庭婦人とも強力に手をつなぎ合っていくような、行き方もあるといわれます。

岡 個人としていかにあるべきかということが、このテーマを討議するのに最も重要じゃないかと思いますが、今はその結びつきの方でいっているから、テーマと離れていくような気がして、わからないんです。

進行係 全体が、「社会人として婦人はいかにあるべきか」ということで、その中をいろいろ分けて討議している

わけです。ですから当然私たちは社会人として自分の仕事を認めるという、そのところを討議しているわけです。

志垣 現在は私たちが社会人としていかにあるべきかという最後の結論に達しているわけでしょう。私たちが、今は社会人としてよりも、一歩手前の婦人であるたしか社会で認められないという傾向にあるのではないかと思うのです。私たちが社会人として認められるには、まずその職場において、家庭においてその全力を尽くして一人の女性としてではなくて、社会人としての責務を男性に認めさせて、社会人として立つ、これが必要だと思っています。男の人と同じような職場で働いている関係で、非常に社会人として認められることが早いわけです。それからまたそれを実力でかちとるために非常にフアイトがあるということです。そのフアイトを利用して――というと語弊がありますが、フアイトとまだ男の社会よりもよくないところの純情さを利用して、家庭、一般地域社会、市民、そういう人たちに働きかけて横のつながりをもつ、そして明るい民主社会をつくるという、ほんとうに端とめみたいなのロジックですが、そういうのが私たちが今後の社会人として必要ではないかと思っています。

秋山 今の問題ですけれども、社会人として婦人はいかにあるべきかというテーマ、これは大きく三つに分けられ

ると思うのです。初めは自分の職業、仕事に対する判断、それから仕事の内容の吟味、そしてそこへ起った仕事に対するいろんな矛盾、そこからきて、はたしてどうして矛盾を解決していくかということ、それが一つの大きな課題で、その次に地域社会との結びつきによってみんなと手をつなぎ合っていく、その上にもう一つどうしたらそうした今の現状から脱却して、いい社会ができていくかということに對して、政治性というものをいかにしてもたすかというところ、この三つの課題が必要ではないかと思うのです。今言っている地域社会との結びつきというのが、ただ単に切離して考えられている問題ではなく、これが政治性につながっている段階なのです。そういう意味で討議していきたいと思いますが……。

進行係 職場の中でのことは論ぜられたので、私たち社会人としてこの社会を進める力になるには、そこから一歩出て地域社会との結びつき、さらに政治との関連を考える必要がある、そのことを討議したいという御意見ですが、そのことについて……。

原山 地域社会との結びつきは、その地域に婦人会とか、京都の大手さんのお手元のところが組織されている場合はたやすいと思うのですが、地もとに何の組織的なものもなかった場合に、結局自分を中心になって呼びかけ

なければならぬことになるのですが、それを呼びかけてやることが容易ではない。

大手 そのできた動機を申し上げますと、婦人連合会ができたのは今から二年前です。高良トミさんが世界をまわってお出でになって、報告会がもたれた。そのときに集まったのが六十四団体だったんです。その大会の中からこの会合を婦人の向上を得るためにも、世界に視野を広げるためにも、残して助け合おうという話し合いが始まって、組織的に準備をし、昨年の八月に初めて総会をもったのです。それから木曜会といって毎週木曜日に集まり、今年からは月二回にしました。一回は各地域から出された悩みを持ち寄る会、もう一回の木曜は、世界との交流については政治を考えねばならない、勉強しなきゃならないというので、同志社とか京大とか、立命館から講師をお招きしたり、知事や広報部長を招いて社会的な目を開くために勉強会をしております。いま一つの婦人懇談会は、昨年YWCAの野々宮先生が、インドの独立運動にガンジーと共に挺身されたというオーエンさんを京都にお迎えしたり、李徳全さんを迎えたりして、世界の婦人は手をつないでみんなのしあわせな社会をつくり上げていかなければならないというので集まりができて、YWCAで会をもったわけです。それには母と学生の会や、子供を守る会や、女子業種師、ある

進行係 地域婦人団体のメンバーの方も、それには入っていらっしやるんでしょう。

大手 おります。

志垣 全国にそういう旧組織があるのではないかと思いますが、終戦後いわゆる大日本婦人会というものがなくなつたのに、実際の形骸はあるのです。そしてそれが非常に民主的なグループ、意欲に燃えたグループが大きく伸びていくとするのを押えているわけです。ほんとうに心から話合つて、一人から二人、二人から三人というふうに広がったグループが結びつく、そういう運動でなければ意味がなくなると思うのです。昔の大日本婦人会の残滓である地域婦人会などは茫洋としたもので、これは依然として大きな圧力をもっているのです。熊本でも実際にそれはあります。昔の会長は各府県の府県連会長、理事長、その他の役員として残っているんですが、そんな人たちが民主的な会ができてよとするときには非常な圧迫を加えます。意識的ではないが、潜在意識的に圧迫を加えるわけです。今後はほんとうに話合つて、小さな会から大きく横のつながりを持つ集まりが必要だと思います。

渡部 いろいろ報道されましたから、皆さん御存知かと思いますが、知事が予算面からの都合で高知県立の女子大学を廃止したいということを記者団に漏らし、記者の一人

いは婦人連合会、もちろんそういう中に私たちのような職場のグループ、それから総評のグループとか、たくさん入っているわけです。その婦人懇談会だの、婦人連合会も左よりと見られていましたから、私のような中間的な者もいるわけで、婦人懇談会も幅の広い層でできたわけなんです。私が参ります一日前も知事を招いて、地方の行政、財政というものについて、知事からお話を伺い、また婦人の願いを、あるいはいろいろな問題を知事に提起する懇談会を開いたわけです。やっぱり月に二回くらい、ときどき大学の講師や知事たちをお招きし、勉強をしているのです。

原山 そういう場合には家庭の主婦がつくっている婦人会も入っているのですか。

大手 愛国婦人会と国防婦人会というのは、そういう場合には役に立たない！という誤解がありますが、いろんな面で協力しない。

進行係 愛国婦人会、国防婦人会というのは存在しないでしょう。

大手 その方自身は戦争中のような観念をもっているんです。存在しないけれどもあるような考えをもっているのです。町会もないのに生きているんです。戦時中の町会長なり、国防婦人会なんかはいはずなのに、既成団体が婦人のイニシアをとっているのは事実です。

が女子大の卒業生の一人に話しました。それで同窓会の二、三のメンバーが相談して、同窓会が手わけして知事のところに何度も何度も押しかけてゆき、また主婦連合会、友の会、高知未亡人会、総評の婦人部も協力して「女子大を守る会」という後援会が生まれ、辺地であるからなお高知の女子大を置いてもらいたいという結果が得られました。このときは労働組合の婦人部も、家にいらっしやる方も、署名運動に参加して下さいました。一応一年間だけは女子大を置くことができて、受験生を募集することができた。御参考までに申しあげました。今後もういうことは続けた方がいいというので、全部の婦人団体の連合会をつくらうという話し合いになっております。

長岡 今のようなお話はとてもおもしろいと思うのです。地域婦人とのつながり、つまり職場婦人が積極的に家庭婦人とのつながりをもたなければならぬという結論ですが、私の母のことを考えますと、もちろん地域婦人会に入っているんですが、全然ためなんです。まず自分の家庭、自分の父母や弟妹、そういう人とはんとうの意味で何でも話合つて一緒にやっていけるような体制をつくるというのをもう少し真剣に考えていかなければならないと思うのです。私の場合平和についても、組合についても、同

親が全然反対なのです。それではやっつけていけないと、このごろつくづく感じました。母なんかも婦人会に入っているも、幹部連中だけが動いているのだからというようなことしかいえない。私が「お母さんなんかも歌でも歌って、いろんな講習会など、みんなの中に出て行くようにしたらいい」というようなことを言いますと、そんなことしたっておんなじだと、私には言っていますが、近所の人にはやっぱりそんなことを言っているようです。こんなことが一番大事だと思えます。飛躍して何かわからない大衆とかいうものを対象にスローガンを振りまわすのでなく、ほんとうに自分の家庭、職場の中で一人の協力者をつくるということが一番大事だと思ふんです。

志垣 組織を作らなければいけない、結びつきを作ろうと私自身も唄唱しながら、今になって非常にやっかいな問題に直面しています。統一戦線の拡大ということで、政党とか階級とか職業とか、イデオロギーを超越した会を作らなければならぬということが叫ばれ、そのような会ができませんけれども、そんな場合に、はたしてどの程度の活動ができるか。ほんとうに政党を超越した活動ができるか。思想を超越した活動ができるか、疑問ではないかと思えます。実は熊本でも連盟婦人会議というものを作って、これは婦評とか、各府組とか、子供を守る会、母の会とか、婦

りがあるのではないのでしょうか。やっぱり民主的なグループの中からほんとうに団体に統合でき得るといふ体制ができてから統合する。それでもいろいろな人がいてイデオロギー的にも統一されたという形勢じゃないわけです。非常に進んだ極左という方々が入ってきて、つくるまでの苦労はあまりなさらないで、できた会に自分たちの問題をむき出しに押しつけようとしたり、利用しようとする面があったのです。そうすると一時来ていたメンバーが減ってしまいました。そういう場合にこういう民主的なものをみんなが手をとって推し進めていくには極左といわれる方ももう少し慎重に考えていただくようにしなければならぬと思います。YWCAなどの良心的な方が先に立って協力してくださるので、私たちのグループの中の婦人懇談会というのは、できてから何ヵ月にしかありませんが、非常にスムーズにいったいと思っています。全体を統一していくというあり方については選挙のときに問題が起るわけですが、たとえばだれだれを推薦してほしいという問題が出て参りますと、やはりそれは会としては推薦すべきではないということにしています。しかし婦人の願いをみんなが持ち寄って、市長選のときでも、知事選のときでも、婦人のための公営施設や、未亡人の貸付金の問題など、たくさん要求書をもって、市長やら知事の候補者に出したわけ

人公論の読者会など、とにかく何か結びついてやらなければならぬというので結びついた会なのです。日雇の人たちも入っています。この会が第一回に取り上げた仕事は原水爆禁止問題です。それにはみんな、全員一致署名運動に決まらず署名してもらって、これは非常に成功だった。その次は西部軍司令部の設置反対を取り上げました。熊本はご存じのように六師団があって軍部といわれたところで、特設街にしても商店にしても、六師団の恩恵を蒙って、非常にいよめる軍というものに対して郷愁をもっているわけです。それが戦後は非常にさびれ切っているわけです。そこで西部軍司令部が設置されることになったときにまず一番に賛成したのは商店街とか市会議員で、あらゆる人たちが一応これで熊本が賑わうのじゃないかという気持ちをもったわけです。これを再軍備反対という線に連なって私たちは反対したわけで、この問題を取り上げて異に陳情し、市に陳情し、国会に反対の陳情をやったわけですが、このときにはたしてどれだけの人が一緒にやってこの問題を取り上げたか非常に問題です。私は政党を超越して、思想を超越してつながったというような会がはたしてどの程度の活動ができるか疑問に思っているのですが、それについての御意見を……

大手 今の既成団体をそのまま統合しようとするからむ

で、政党にとらわれずにやっております。

志垣 地域社会の部会の方でたしかにそれが問題になっているはずですが。大きな結びつきができるかどうか。京都さんの言われた論によると超党派の会はできないという意味なのですか。共通した問題でだけ結びついていくということでしょうか。

大手 そうです。原水爆の問題も連合会あげて署名運動しましたが、そのとき今まで一度も出てこない地域の人たちも出てきましたし、黄変米のときも同じ行動をしております。けれども署名とか、何々反対とか、そういう行動そのものが私たち婦人会のあり方ではないと思うのです。その中でどうしようという勉強会をもって、一緒に高められたいという方向を今とっているというわけなのです。表面的なことをやるだけが婦人会のあり方ではないと思います。

岡 今度こういうことを討議してほしいのですが、横の結びつきをやるうとするときの問題ですが、たとえば職場で読者のカマスをつめているおばさん、掃除のおばさんや私たち事務員でも、伝票持廻りとか、そういう仕事をやることがはたして社会に役立っているかどうかということを考えてときに、疑問を持っていると思います。組合運動なんかのことをおばさんたちに言っても、私なんか掃除やっているんだし、そんなふうな口はばったことをいえない

というようなことを言われる方があります。結局自分の仕事というものが社会に役立っているという自信がないわけです。みんながそういう自信をもつためには、どういうふうにやったらいいかということを考えていと思うのですが……。

秋山 大きな立場から、自分の職業がどうあるのか、この職業がはたして社会にどういう影響を及ぼしているかという、そういう見方でなく、個々の職場にいる人が、個々の問題をひっさげて出てくるというところに出発点があるのではないかと思います。

原山 私はよく大きい会社に入っていっていらっしゃる方から聞きますが、事務所の人と、生産部門で働いている工員とは精神的に遊離していくというのです。要するに工員の方からいわせると、事務所の人はいばって、お高くとまわっているのです。そこにすでに手をつなげない一つの力があるのではないのでしょうか。事務所の人が掃除婦をしている人とも、それからほかの方とも一緒に、同じ気持ちになってやっていくということが、横の連絡をとる上に大きな問題じゃないかと思えます。

阿部 私の方の職場でもたしかにそれはあるのです。知識的な職場と筋肉労働の職場と二つに分かれているのです。かりに一例を引くと、ピンポンなどをやりますのに

も、事務所の方々が来ると、現場に働いている女の人は何か連慮しなければいけないという気持ちが往々にしてあるのです。そういう女性同士が理解し合えない関係にあるのです。それにはどうしたらいいかということが問題ですが、結局お互いが教養を身につけるということが一番問題になってくると思います。

長岡 それもそうですが、現場に働いている人たちは教養を身につけたいと思っても、その時間がないということ。掃除してのおばさんというふうにして働かかけていたらいいか。こういう生活の解決のためにも組合運動をしっかりとやらなければいけない。講演会などに行きましょといっても、決して来やしないと思うのです。私は講演会に行くよりも、晩のおかずをどれくらい安くしたいとか、そういうことに頭を使いたいというのが自然だと思うのです。組合員で世話やき活動というのをいつているのですが、その人たちが何かしてもらいたいと思っていることをどんどんやるのです。ある人は理屈ばかり言うというのでなく、ほんとうによく世話をやいてくれるといわれるように。工員の方など給料袋もらっても、どういふふうに計算されたかわからないのです。その場合に、組長がそれをしてあげるとか、そのようになんでも先に立ってみんなのためになることをやり、理屈よりも行動

してその人たちから信頼されるのです。事務関係で頭が高いけれども、自分たちのことを一所懸命に考えてくれているし、やってくれているという信頼を得る。少しでも自覚している人たちは、そういう自覚しない人たちの間に入って信頼されながら、いろんな話を進めていく、そういう生活というのは、組合活動とつながるんだということを話せば、その人たちは非常によくわかるのです。自分の体験から感じたことです。

岡 それは大いにそうだと思います。そういうこともやらなくてはいいかと思えます。会社では職業に貴賤なしとか、上下はないとかいうふうなつもりでも、自分が掃除婦は下だという觀念が強くて、だからがまんしようという昔式の考え方の人がいるような気がするのです。現場のおばさん、こんな仕事をやっているのに給料もらっているからという消極的な考え方があつた。そうではなくて、あんなの労働は尊いし、卑下する必要がないということをお願いしたいのですが、何て言ったらなっとくしてもらえなかかわらないものだから、お伺いしたかったのです。

田村 私は新聞社におりましたが、編集と工場で活字を拾つて組んで、新聞ができるまでのいろいろな作業の人とは画然としています。教養のレベルもそうですし、生活感情とか、そういうふうないろいろな点で違うのです。編集

の人たちは現場の人の仕事というものを理解したらいと思えます。たとえば見出しをちょっととまづかったから途中でかえたいというふうなときに、活字を自分で拾つてみれば、それは一朝一夕にはできないことがわかりますし、そんなふうにして少しずつ現場の人の仕事の中へ入っていったら、仕事を理解したら、その仕事をしてくれる人に対する理解というものも生まれてくるんじゃないかと思えます。共通なものがあるから見出たされるのではないのでしょうか。

進行係 岡さんのおっしゃっているのは、そういうことは理解して。けれども、それをうまく、掃除婦なら掃除婦に自信を与えるような話し方ができない。それをどういうふうな話したらいいか、そういうことではないでしょうか。

田村 やっぱり親しみがわいたらできると思えます。そんなにレベルが違うのではないという自覚から導き出せるのではないのでしょうか。

大手 自分だけが生きる喜びをもつのでなくて、みんなが生きる喜びをもつためにはどうしたらいいかということ、それは今の政治とも必然的に結びつく問題です。政治がよくないから私たちが生きる喜びも味あえないから、それにはどういう方法を選ばべきかということも分析して、そういう権利を行使できる地方選挙も近くあるの

すから、そういうときに一つの考え方の表現として一緒に話合うようにしていったらいいのではないかと思います。高倉 私は銀行ですから、事務と現場とわからないのですが、お掃除のおばさんたちはいます。非常によく行っているような気がするのですが、それは事務の方たちがとって感謝しているからですか。そうしていたわってあげる。朝夕のあいさつはしますし、「ごきげんようさんです」ということをみんな忘れないのです。いつからそうなったかわからないのですが、入ったときはそれが自然の習慣になっていたのです。おばさんたちともほんとうに隔りなく、何でも話をします。そういうことによっておばさんたちも仕事に対して自信をもっているのではないかと思います。

進行係 いろいろ御意見が出ていますが、時間が十分しかありませんので、この辺でアドヴァイザーの渡辺先生に、昨日から附議したこととまとめをしていただきたいと思ひます。一人前の社会人として扱ってもらうために附議になっているものを取除いていくという意味で、封建性の問題も出ました。今日は地域社会とのつながりとか、政治との結びつきとか、家庭から出発しなければならぬとか、いろいろ出たと思ひます。

渡辺 大へんにむつかしい問題ですけれども、皆さんは一所懸命で、夢中になって話していらっしゃいました。

ようではないかということだったと思うのです。今朝ラジオで市川先生の対談がありました。あの方は一人の先覚者として、非常に困難な道を経ていらしたのですが、それをやるについて、自分の良心の叫びに聞いて行動したということをおっしゃった。また反対があるからこそ自分がこれをやってきたんだ、反対がなくてみんながこれをわかってくれたらばそのことは言う必要がないので、反対があるということは私が言わなければならぬ理由だということをおっしゃったのは、私どもが一緒に心にとめておく必要があることだと考えました。

それから今日は小野さんのお仕事のことから、ほんとうに社会に役立つ仕事ということの話が出て、そこから考えられることは、私たちが厳密に考えてみれば矛盾だらけの中に住んでいるということ、それで小野さんの場合、原山さんの場合はタローズアップされているから大へんはつきりわかるけれども、ほんとうに私たちが良心を鋭くしても見るならば、解決できないような矛盾の中に私たちが住んでいるということを知らなければならぬということをおっしゃったと思うのです。しかもその矛盾の中に自分が住んでいるということ、こういう矛盾があつてはいけないという考えをもち続けるという、その両方の面の兼ね合いの中にめいめいが生きている。矛盾と妥協して

初めから終りまで話が出たのは、一人じゃだめなんだ、というところでした。世の中をよくしていくためには、ほんとうに責任を感じる一人々々でなければならぬ。けれども一人じゃだめなんだ、ということ、それについてのいろいろな具体的なことが出てきたと思ひます。それからもう一つのことは、ここに出てきていらっしゃる方たちは、ほかのまだ気がつかない人たちが大勢いる中で、少くとも問題をつかんでいる人、矛盾を感じている人たちで、現状を少しでもよくしていく、あるいはかえていくとすると、そこにはかなり抵抗があること、しかもその抵抗は一番身近なところから始まってくる。たとえば一緒に席を並べている女の人たちにはわかってもらえない。あるいは家の人にはわかってもらえない。あるいは一緒のところに働いている男の人にわかってもらえない。という身近なところの反対と、そしてそれよりもっと大きい社会の矛盾というカベにぶつからなければならぬ、そういう問題の中にいて、しかもそれは開拓者としての責任がある。その意味では氣持の上からいえば岡部さんがおっしゃった、自分が人柱になつても——というほどの決心というか、その氣持がなければこれにぶつかっていくことはできないのだけれども、それにしても繰返し言われたことは、もう一べん自分たちのまわりの人たちがまずわかってもらえようようにし

しまえば押し流されるし、ただそれを矛盾だ、矛盾だといつて、ガムシヤラにぶつかつていけば、何人かの方が経験した逆の役割をするし、その妥協するか、自分の考えをやり通すかという二つの兼ね合いの中にどんなに賢く私たちが生きていかなければならぬかということをおっしゃったと思ひます。そして婦人の場合に、皆さんから繰返し出て、皆さんの氣持の中にあったことは、相手方の身になって考えるという態度が初めて仲間を多くしていること。現場と事務の方のこと、つまり別世界とか、あるいは優位なところに自分がある、あるいは下のところにいるというのでなくて、その人の身にお互いになる。相手方を尊敬する氣持というものが相手方に感動する行動にもなつてくるというようなことが出て参りましたし、一人々々がその場にあつての責任をとる一人でなければならぬということとは昨日のお話の中に出てきた。

それから今度、それが社会的にどういうふうな結びつきをもつかということ、組合が強化されなければならぬこと、そういうお話が一ぱい出てきましたけれども、その辺の仕方の中で、みんなが注意しておっしゃったことは、少数のリーダーに引きずられるようなものであつてはいけないということ。そういう言葉ではおっしゃらなかったけれ

ども、そういうことが皆さんの考えの中に入っていたと思うのです。それはほんとうに横のつながり、あるいはいろんな団体が一緒になるということになった場合も、理想的な形は、一つ一つの団体が、それを構成している個人が、自分で判断する人たちによってできているのでなければ、ただつながりが宙に浮いて、少数の人に引ずられていく——戦争前に私たちが経験した、統制されていくのと同じようなことになるという危険を大勢の方が指摘なさったと思うのです。それからいろんな実際の問題で婦人団体が一緒になるにはどうしたらいいかという実例を皆さんとおしゃった中で、ほんとうの意味でのリーダーがなければ事が成り立たないということを非常に感じました。リーダーというのは、みんながおっしゃったように、勇気をもって行動する人でなければ、みんなの中で、さあ一緒にやりましょう、というしかもそれを引っ張っていく熱意と力と思いやりのある人、みんなが一緒になるきっかけをつかまえることが上手な人、たとえば婦人団体がどういうふうにして構成されたかいろいろ実例をおっしゃいましたが、そういう実践を通してだけ成功するのだというお話を聞いたかと思えます。人間関係のギャップの問題もほんとうに正しい人間関係が確立されるということにまた戻ってきて、それから大きな婦人運動という、社会をかえるという

ことも、一番身近な自分の隣りの人との同化ということが一番根本的なものだ、しかもその根本的なものの広がりには、私たちのもっている一票が正しく行使されるという非常に大きな可能性と、しかも世界人権宣言という大きな支えの中に入っていくことのできる大へんな期待と広がりをもっているということが考えられると思います。そんなふうに私は皆さんのお話を伺っていて考えました。

進行係 どうもありがとうございます。鳥取の石川さんは昨晩から御加減が悪かったために、お医者さんの御注意もあって御発言を控えておられました、そのほかの方は活発に御発言下さいました。まだ言い足りないところがおありだらうと思いますが、この辺で終りたいと思います。

#### 第四部会 一般市民として

出席者

(婦人が社会性をもつには、どのようにして社会人として成長するか)  
(婦人として何とするか、婦人ということによって振舞い出るかどうにか)

|         |          |      |            |
|---------|----------|------|------------|
| 秋田      | 新添       | 千代   | (主婦)       |
| 山形      | 新田       | 洋子   | (主婦)       |
| 栃木      | 池田       | キミエ  | (教員・主婦)    |
| 神奈川     | 森田       | 由吏乃  | (人形製作・主婦)  |
| 新潟      | 川瀬       | 豊子   | (主婦)       |
| 山梨      | 大久保      | 和子   | (専務員)      |
| 長野      | 高沢       | 綾子   | (主婦)       |
| 静岡      | 山本       | 千恵   | (主婦)       |
| 愛知      | 富田       | 千恵   | (主婦)       |
| 三重      | 辻村       | 逸子   | (主婦)       |
| 兵庫      | 長谷川      | 喜子   | (大学事務員・主婦) |
| 山口      | 細田       | 八重子  | (主婦)       |
| 徳島      | 田村       | ま枝   | (教員・主婦)    |
| 福岡      | 井上       | 真砂世  | (主婦)       |
| 長崎      | 藤井       | 菊枝   | (主婦)       |
| アドヴァイサー | 評議       | 家    |            |
| 進行係     | 婦人少年局婦人課 | 松岡洋子 |            |
|         |          | 内藤つね |            |

進行係 お待ちいたしました。それでは第四部会の会議をはじめたいと思います。

この部会は、社会人として、婦人は何をなすべきかという中の一、一般市民としての問題を討議する部会です。はじめに皆さんに意見発表をしていただきますが、抽籤により、山口県の細田さんに進行係をお願いすることになっております。では細田さんどうぞ。

細田 私が山口県の細田でございます。どうぞよろしく。それでは、秋田県の添野さんから始めていただきますよう。

添野 一般市民として、婦人は何をなすべきかということにつきまして、私の意見としては、女の人も、出来るだけお話を訓練をしなければならぬということですが、私の関係しているのはPTAのみですが、PTAの集りは、非常に話し合いが少ないものですから、出来るだけ話し合いを多く持たいたいと思いましたが、その一つの方法として、自分らの教養を高めなければならぬと思ひまして、去年のPTAのおりに、父兄からお話を伺ってはいかがですか、ということになりました。皆さんが賛成して下さいましたので父兄のかたがたからお話を色々伺っております。お医者様のお父さんからは脳溢血のお話、というように、心理のお話、しつけのお話、教化のお話、などを伺

いました。身近かな方の発表でありますので、お母さん方はすずんでお話をきいてくれました。ただお話し合いだけでは発展性がないと思ひまして、父兄を四つのグループに分けてまして、各々、意見を交換しあい、会の運営も自分らでするようになした。

以上はPTAのことですが、もう一つ新聞の投稿のことについて申してみたいと思ひます。新聞記事に保育所が幼稚園附属のため、締出しをくっているということが出ましたので、私はどうしても、この保育所、幼稚園はたくさん建てていただきたいということを、新聞に投稿しました。それについて反響は非常にありましたが、私個人としてこれはどうすることも出来ません。それでやはり女の人も横に連絡をとって、組織を持たなければだめだ、ということを感じたわけです。

細田 それでは山形県の結城さん、どうぞ。

結城 私申しのべようと思ひましたことは、蛭山先生のお話を伺っております。す。かり、思う存分言っていた気がいたしました。先生がおっしゃるように女性としてだけでなく、人間としての、私共の成長を願うために、どういふことが早道かということを考えました。私も、家庭婦人の一人ですが、家庭婦人は家庭以外に、何か団体の一員であることが、人間としての成長にプラスする

のではないかと思います。つまり、家庭も一つの社会で、自分勝手にふるまうことは許されないわけですが、家庭といつても、個々の家庭は特殊でありまして、主婦であり、母親であり、嫁でありまして、その家庭や財産とか地位、夫の職業などによりまして、個々に特殊な事情がありますので、その家庭の美風が、そのままだが、必ずしも隣の家の美風でもなし、またその中でよく訓練された女が必ずしも社会のためにもよく訓練された女というわけには行かないと考えるわけです。

それで、自分たちは主婦ですけれども、互いに啓蒙しあったり、批評しあったりする一つの場所として、家庭以外の団体を持ちたいと思ひます。それは家庭の主婦が向上するばかりでなく、私の体験から申し上げますならば、おのれの成長と同時に、私共の希望、世論と申してもよいかと思ひますが、それを社会に反映することが非常に早くできるわけなのです。家庭にいて、一つ一つの力、一人、一人が考えが分割されているよりも、やはり結果して事に当るほうが、実現しやすいと、思うわけなのです。

私は幸い、小さな会合ですが、持っておりますために、この度私に来ることになって、誰か連れて来たいと思ひ、市の方にお話ししましたら、費用を下さって、山形から二人の傍聴者が来たようなわけです。これも個人の、私の

為にならば来ることは出来ない。やはり小さくとも、そういうものを持っておりましたために、のぞみがかなえられたと思ひます。これからも出来るだけ多くの家庭の主婦のかたがたが小さくともよいから集まりを持っていただくように念願するものです。

細田 それでは栃木県の池田さん――。

池田 私は教育者としての立場で、小学校の児童を通して、お母さんの生活の実体をみておりますがお母さん達があまり本を離れていないということです。そういふことから、現在、ラジオとか新聞に現われている世論は、本当に私達の考えが反映されているものだろうか。正しい言論形成がされていふことがあるのじゃないかという疑問を持ちました。そして正しい言論を作っていくためにどうしても、お母さん達の集りを作らなければならぬと思ひました。お母さんの仕事をみますと、内職をしている人、安定所の仕事をしている人、とくに私どものところは、貧困の家庭が多いので、東京にお米を運ぶかつき屋さんが多いのです。一日四枚の茶羽織縫って、子供の教科書も買ってやれない状態なのです。従って内職を離れないから学校へ行けませんわとおっしゃるので、PTAの集りといつても、ある一部の人に限られてしまうのです。そこでまずどうしたら、生活が少しでもよくなるかということをお話し

必要があると考え、私は、母と教師の会というものを、小さなものですけれども、あちこちに作って来ました。お母さん達の悩みとか、子供をどうしたらいいかということとで話し合いを持っております。

現在組織が全然ないわけではなく、婦人会とか、若い方は労働組合というように、組織を持っていますのが、実情をみますと問題があるようです。婦人会など、まだ私報活動等も、思うようでなく、予算も公共団体とかいう方から、もらっている、補助金問題などからんで、主体性を失っているのじゃないかと思っています。

若い人は、憲法改正とか再軍備反対に関心が強く、婦人会との間には世代というか、年齢層によるズレというようなものがある。組織がガッチリしていない。そこをなんとか調整して行くのには、一人一人のお母さん達が自覚して下さらなければ、私達もまたその中に入って行かなければ、と思います。

そこで、母と教師の会も、町内で五人とか十人とかの小さな集りから県の大きな母親と教師の会を持ってあります。このあいだは、関東ブロックの母と教師の会を持ちまして、たくさんお集りいただきました。いろいろなお話を聞いたしましたが、それはまた、あとで申し上げます。

堀田 次に神奈川県森さんどうぞ。

第一は、売春婦のことです。あまり公然すぎて、少しひどいと思います。これが一つの産業組織になっていてつぶすことがむずかしいとか、パンパンのあがる収入が、国の財源であるということとをききますが、事実でしょう。

売春禁止法制定のため、多くの人が努力しておられることは知っております。家庭婦人としてこれを支持するため、どうしたらいいのでしょうか。

戦後の混乱時代は過ぎたのですから、売春婦が一人でも減るように国民的な運動にまで、たかめたいと思います。

そのため、母としてまずすべきことは、子供への純潔教育を通じて、そのような生き方が正しくないことを教え、また勤労を尊ぶ習慣をつけることだと思います。

第二は生活の中の無駄です。個人生活の中でも、社会生活の中でも、非常に多く無駄が見えます。売らんかなの商業主義の中で、不必要に包装の紙や箱をはでにして、われわれは実質より高いものを買わされているのではないでしようか。はでな包装は消費者の負担になっているのです。はでな車中に誘惑されて、消費者のレベルをあげていくのです。

日本の経済は豊しく、平均個人収入も少ないのですが、消費生活をつかさどる私達一人一人の努力でお国の建直し

森（由美乃） 私は調和のある組織というようなことで考えを凝めてみました。私は現在、何の組織の中にも、何の会合にも、出られない境遇にありますためか、あるがままの姿、今のままの状態でも、調和のあるたすけあいの機会があると思うのです。井戸端会議とか、駅の待合とか、乗物の中とか、銭湯の洗い場等でも、物の値段が安いというところ、また内職の工賃引きあげのこと、産児調節のことなどを本当に身近な問題として取上げ気軽に話合える機会があると思うのです。何々を組織しましょう、というのでなく、そのまま、すぐ手を取りあえるような組織、軽い意味での組織のようなものを作れるのじゃないかと考えております。

それから、私たちが批判力を養い意見を持つということ。組織の中に入っておりますので、人から教えるでもらうという機会が少ないのですからやっぱり新聞とか、ラジオから、しっかりしたものをつかまなければいけないのではないかと思います。

堀田 では新潟の川瀬さんお願いします。

川瀬 私は一昨年、二十年ぶりで中国から引揚げてきたものです。それから一年半の日本の生活を通して、いろいろ考えさせられることがあります。そのうちから、二つの問題を持って参りました。

に協力したい。それには、主婦が消費生活の中で、頭を働かせることです。社会にひろく行われている無駄をなくすには声を大きくして、より多くの人々に訴えて行かなければならないと思っております。

堀田 山梨県の太久保さん。

太久保 先日、主婦連合会で十四牛乳運動というのをしております。それが組織の力で勝利いたしました。私もニュースを聞いた時には、本当にうれしく思いました。ですけれども、農村の婦人の立場からは、別の問題があるわけで、この運動が起ってから、ある牛乳会社は、生産者に対して、今迄四円二十銭の乳価を三円八十銭に値下げの通告をしました。農家の人達は、それに対する何の抵抗もなく、ただ、三人四人集りますと、「困るなア」というだけで、過ぎていくわけなのです。

それからもう一つ、私のこんど嫁ぐ部落なのですが、そこに飛行機があって、ずいぶん開拓されましたが、まだ草原として残っている部分があります。そこに十日程前に、自衛隊がきて、無断で演習をしました。心ある人が寄って、反対期成同盟を作り、村と相談の上、県やGHQに交渉しましたが、頭として聞き入れないで、そのまま強行し、五日、六日たつて帰りました。

期成同盟に参加したメンバーは、どんな人々と申しま



すと、大体その附近に田畑があり、直接自分に関係がある方のみだったのです。それ以外の関係ない人は、見て見ないふりして、おれ達には直接関係ない、という態度の人が多かったようです。このように社会性の貧しい農村をみますと、どうしても組織が必要と考えました。ことに、私達婦人の組織がないので、婦人の農村組織を作りたいと思います。農村では社会性が低いため、どうして組織したらいいか。

それからもう一つ、組織の政治性が必要ではないかと思ひます。十円牛乳にしても、一番最初の推進は、栄養価の高い牛乳をたくさん飲みたい、ということから出発し、資本主義に対する抵抗かと思ひます。貧しい者が一人でも少なくなるために、組織がいる。又なければならぬと思ひます。それで組織に政治性というものの必要性を感ずるわけですが、それにはどうしていいからいいでしょうか。この二つについて皆様方の御討論をお願いしたいと思います。

郷田 では長野県の高沢さんをお願いします。

高沢 私は主人が保護司をしておりました関係上、犯罪というようなことから、婦人としてなさなければならぬ問題がたくさんあることと思ひまして、そのことを取上げてみたいと思ひます。社会の秩序をみだす者、最も暗い生

婦人会としては、きりした認識を持てばこの問題についての婦人の認識をたかめると思ひます。罪人とその一家を白眼視する風習が消えただけでも、社会が明るくなると思ひます。

犯罪人であってもその人格を認めてやらなければならぬと思ひます。そういうところから、保護婦人会の設立を希望いたします。

郷田 静岡の山本さん。  
山本 私は民主主義ということとを誰の胸の奥底にもひびかせなければならぬと思ひます。私は小学校で、「夫婦相和し、朋友相信」と教えられました。私の育った家庭は、父と母は喧嘩ばかりして、みんなは私のことをいじめ、とても暗い、貧乏な中に育ったのです。私も一歩間違えば犯罪をおかしていたかもしれないと思ひます。たまたま、このあいだ、東京で親子ちゃん事件がありました。犯人の家庭が大変不幸だったことを知り考えさせられました。

自分さえよければいい。自分の家庭だけよければいい。わが子だけは有名な学校に争って入れる。我が子ばかりを可愛がる。けれど一方には放り出されている子がいます。そして悪くなった子たちのために自分の子が被害を受けるかもしれないのです。

活をしている者、それは犯罪人であります。私共の地区に、少年の窃盗事件がありまして、それに引きつづいて兄が自殺した事件がありました。ここに二つの問題が出るわけですが、少年が犯罪をおかしたということ、兄の自殺したこと。それは、犯罪人の家族を白眼視する風習のことです。文化生活とはおよそ縁の遠い農村地区で、いろいろの暗部としては、見たことのない代議士様の汚職事件より、身近かな少年の窃盗事件が面白いのです。

自分さえよければ、という觀念、自分の子供さえよければ、自分の家さえよければ、という觀念、それはつまるところ、自分の国さえよければという恐ろしい、苦々しい経験につながる思想です。これは非常に強い力で、根深く農村に残っておるのであります。

更生保護の精神は、以前からあったものですが、法文化したのは昭和二十五年五月、更生緊急保護法として制定されたものです。その目的とする、犯罪の未然防止には、私達婦人の認識を高めなければ絶対だめだと思ひのであります。保護司という職域に、多数婦人を出さなければならぬということを、痛切に感じます。現在の保護司に、婦人会として協力するということではなまぬいと思ひます。婦人保護司を中心にして、五名なり十名なりのグループを設ければ、はるかに強力なことが出来ると思ひます。保護

お金のあふ人や、力のある人が、自分のことばかり考えてはいけません。利己主義的な、卑劣な考えをなくしてもらうために、私たち貧乏人でも生きている以上、幸福になる権利があるということを云ひたいのです。いい学校にはたれも行きたいのです。そんなことは、だれにもわかってのことです。

選挙のことも大切です。偏った教育をやってもいいから、くだらないのです。私の田舎は電氣もついていないから、従ってラジオもないのです。東京はきらびやかですが、日本の田舎は発達してないのです。それが残念でたまらない。いい学校を出ないと就職できない。地方から中央の学校に行くということになります。僻地にはいい教師がいないうわわています。いい学校出た先生は僻地に行つて下さいとお願ひしたいのです。私達の声をよりあげれば、私たちの学校はよくなりましょう。

私は小学校しか行っていません。いろいろいじめられた苦しい体験をしています。けれどそういう苦労に負けてはいけな思ひます。長い忍従の生活を通して、今日では自分の身体をはる以外に働く方法はないと、グループ活動などを通じて努力しています。

郷田 愛知県の富田さん。  
富田 私は平凡な家庭の主婦ですが、女性の立場から、

つねづね年輪を作る力になりたいということを考えています。都市、農村を問わず、このごろは一般の主婦の発言や行動が活発になりましたが、まだ自己中心の狭い視野から、ふみ出そうとする態度に乏しいと思うのです。政治とか対外関係に対しては、非常に無関心で、自分に全然縁のないことだ、どうでもよい、という態度の場合が非常に多いように思ふのです。

嫁姑の関係、近所づきあい、よその子供に対する態度などにも自己中心になっていることが多いようです。考えてみれば、勤労者ならば天引される税金の問題、貯蓄の問題、教育の問題など、すべて政治につながっている以上、主婦の社会とのつながりは、男性以上に密接なはずなのに、無関心な態度であることは、残念だと思います。

けれども家庭にあって、何の組織にも属していない主婦として出来ることは、神奈川のかたがおっしゃったように、新聞をよく読み、ラジオなどをきき、自分自身で考えるということが、最も手近かな方法ではないかと思ひます。

さらに家庭内で、夫とか嫁、姉、家族の内部のかたたちと、いろいろな話し合うことが大切ではないかと思うのです。そうしてときどき、こういうことは、人々にも知っていてもらおうと、何かと参考になるのではないかということが

かりとつかむ必要があると思ひます。

たとえばこの二月選挙のときに、一部の政治家たちは、公然と再軍備によって、私たちの夫や子供たちを、兵隊にすることが平和への道だといいました。しかし、私は達達それとは正反對の、豊かな家庭で、おおらかな生活が出来、また生きることに自信と喜びの持てるような社会、そういった平和な、戦争のない、豊かな社会が、本当によりよい社会だと思ひます。

なんとすれば、戦争がどんなにみじめな悲惨なものであったか。暗いものであったかということ、今迄の戦争を通じて、私達家庭の婦人が一番切実に、身をもって感じていたことだからです。

次に第二番目に重大なことは、戦争とか平和とか、あるいはもっと身近な貧困とかの問題は、私達の方ではどうすることも出来ない天然現象のように考えがちですが、実は人間の為せるわざだということなのです。したがってそれらの大きな社会的問題も、やりかたひとつで、右にも左にも変化させられるということなのです。

戦争にしても鉄砲のうもあいとしての戦争の前に、すでに住み辛い社会のうちに、戦争の根があるように感じております。一般的には貧困が、はかり知れない大きな問題を含んでおり、この貧しさからはい出すことを真面目に考えな

あったら、新聞とか、ラジオとかに、「青」欄というのが設けられておりますから、そういうものに投稿して一つの身輪を作る力になることも出来るのではないかと思ひます。

新聞に伝えられるところによりますと、いま沖縄では、米軍から強制収容された土地のことで、男の人は一応やむなく承諾したそうですが、女性も、それでは生活できかないといひ、未だに問題が解決しないということです。現実には生活に苦しむ女性の力を反映したということは、泣きねいりしておいた女の方から出された問題だけに、これがどんなに深刻な問題かということ、速くいて、くわしい事情がわからない者にも、考えさせられるのであります。

組織というものを非常に嫌うわれまゝすけれども、現在組織に入るすべし、ゆとりのない方が非常に多いのではないかと思うのです。一人、一人の力は非常に弱いものですけれども、やはり社会をよくするのは、個人が向上しなければならぬと、このように考えております。

細田 では三重県の辻村さん。

辻村 私達婦人が、よりよい社会を作るための力となるには、まず第一によりよい社会とは、どういう社会であるか。どういふ社会を具体的に定めているのか、それをしっ

ければならない。その為には、すべての機会を通じて、あるいは私たちの井戸端で、あるいは地域の集りで、これらの問題をどしどし語りこんで話し合うという努力が必要なんだと思ひます。目的意識を持つことが必要だと思ひます。

細田 兵庫県長谷川さん。

長谷川 私の持つて来た問題は都市のインテリ婦人という非常に狭い範囲のことですが、私の触れあう人の社会が、どういふ状態かということについて話してみたいと思ひます。神戸には全国的にみても沢山の会があるようで、私も四つ五つの会に、直接間接、頭を突く。こんだことがあるのです。この会の主流をなしている人々は中流のインテリ婦人で、時には政治問題なんかを活潑に話し合っていて、専門的な政治研究会とか、社会学の研究会というような場合もありました。さてそうした会が、何か小さなことでも、実行したかというところ、PTAの問題でも、運動会のあり方でも、批判はしますが、一指もふれたことがないので、私は神戸に三年ばかりおりますが、とても失望したわけなんです。ですけれども、私自身、そういった傾向の一人だったものですから、反省しまして、これではだめだ、と昨年ごろから考えはじめたわけです。なぜそうなっているかと考えますと、一応の衣食がたりており、切実な生活苦におっ

かけられることがないために、社会の問題を自分のものと

して感じとり、考えるということができない。つまり社会人としての意識が稀薄な人々になってしまったと思うのである。

しかしその人々にも、社会のしぶきがかかって来ないというわけではないのです。問題は生活苦だけではないのですから。例えば、子供の漫画とか、紙芝居の問題などにぶつかるとは、多くの場合、個人的に解決しようとしている婦人が多いのです。それは一つの段階として大切だとは思いますが、それだけでは、駄目だと思ふのです。そのかたの家は成功して、その子供さんと一緒に遊ぶ子供から守られるでしょうが、その子供さんと一緒に遊ぶ子供たちみんながよくならなければ目的を達することはできない、全部の母親と子供の問題として取上げなければならぬと思います。

しかしそのためには、私たちの会の性格をかえて行かなければならないと思ひ、昨年の婦人週間を期に、お友達と新しい会を作りしました。私達の気持としては、今日の私達の生活から飛躍したものでなく、身近かな生活の中から考える、実行に移すというよりも、納得の行くまで追求して行くことに力を入れて話し合い、木当の意味での考える婦人になろうということで、努力しております。

かり、服物もこのままじゃいけない、というのでおっくうになる。ところがお寺の一部屋をかりるとか、保育所の二室をかりるということになりますと、エプロンがけで出られるわけですね。それで場所を小地域にわけるといふことで、一応成功したわけですね。

私は嫁という立場にも、また姑という立場にもおりますので、よくわかるのですが、嫁たちが会合したいと思つても、姑の座にあるかたたちが、私の若い時はあんなところにより出なかつたというので、出られないのです。そうやってくると、こんどは姑も遠慮して出られなくなる。結局どっちも出られなくなるのです。その問題を解消するため、二部制の婦人会を作ったのです。嫁の立場にある人を一部として、その家庭の実権を握っている姑の会合を第二部婦人会と名づけて、毎月交互に寄せるようにしました。集まる人によって、話の内容もかえていますが、姑さんが、こんな話をきいたから、こんどは嫁をやるうというところにもなります。

その次に、同会では、子供が多いので、会にも出られないというところがあるのです。産児調節はどうしたらいいのかわからんから、教えて下さいと頼まれたりして、話をしたり、器具のあつせんをしたりして廻りました。

もう一つは、規則、規約にしばられることが村の婦人た

#### 堀田 徳島の田村さん。

田村 私の話とはどこまでも徳島県の一小地域であります。私の村の経験から出たことでありますから、そのおつもりでおき取り願いたいと思います。

終戦後、教育の形とて、社会生活の状況が大変変化して参りまして、従来の考え方ではいけないというので、母親達は文化生活に参りたいとか、子供の教育を考えたい。そのために講習会、修養会に出席したいと、意欲を持っているのですが、さて、会合を開いてみると、出席できないというような失敗を各町村が現実味を味わつたことと思ふのです。私の地域は、約三百戸の村ですが、四年ほどかかって、そうした隘路をのりこえてきましたので、その一部を皆さんに発表したいと思ひます。

第一に、私たち農漁村の婦人たちは、会合に行きたいなという意欲があつても、時間的に真昼間、子供とか、のら仕事は参り出して出るということは、どうしても許されないのです。それで会合は、毎月十五日の満月の晩としたのです。そうしたら明るくて提灯もいらんというので、その問題は解決したのであります。また会合の場所ですが、ごくごく小さく分けたのです。村の学校とか公民館に寄せ集めるということになりますと、赤ん坊を寝かせておいて来ても具合が悪い、中央に寄つてくると、服装のことも、気にか

ちは嫌いなので、名称を何々婦人会、会長は誰々とせず、満月の晩に漫然とよつて、何とはなしに話して帰るといふことを繰り返してきたのですが、その中、お互いに英然として帰るのでは興味が薄いから、何か残さうということになり貯金をはじめた。その利子の使い方も皆で考えて、公共の施設を作ろうということになりました。そこまで成長してきたわけですね。

#### 堀田 堀田の井上さん。

井上 私は築豊炭田に住む炭鉱の主婦です。皆さんすでに御存知のように、炭鉱の主婦は組織の中に入つております。私は三年ほど前に、炭鉱に参つたので組織ということについては、未熟なこと、間違つていふこともあるかもしれませんが、主婦会長としての半力年の経験を述べて感じたことを相談してみたいと思ひます。

私は労働組合主婦会という名の会長です。しかし私の山元は、職員の婦人会や、敬老会、保育園のかたがたと、学校の運動会などはいつも仲よくやっております。私たちの主婦会は村の婦人会にも入つていて、これは炭労系統と違う主婦会の特徴です。ところが、二月の衆議員選挙の際には、このことがちょっと混乱して来たのです。というのは、私共の属している婦人会が裏切されたのですが、庄内村というのは、天皇陛下がいつか行幸なさつたこともあ

り、公民館活動の活潑な村で、表彰されたのもそのためか  
と思います。さて会長さんが各支部に伝達を行うので回ら  
れることになりましたが、それは自由党の選挙運動だった  
ので、そういうことをしてもらっては困る、という声が起  
ったのです。

主婦会では衆議員選挙について、組織として、ある特定  
のかたを推しているのです。私たちの夫は、坑内で生命を  
かけて働いており、私と子供五人の生活は、夫の働きにか  
かっているわけです。故に私達の炭鉱生活者をよく理解し  
ている人を推薦して、台所から政治につながる道を、広く  
明るくしなければならんということを、みんな考えている  
のです。

しかし組織としてこの人を推すからお前連もこの人を選  
挙しなければならん、これをしないと除名する、違反者で  
あるということができるとか、ということの疑問が起  
るのです。問題は労組主婦会が、真実の下から上った  
組織であるかどうかということにかかると思いますが、こ  
れについて、皆さんのお考えを伺いたいと思っております。

堀田 では最後に長崎の森さんどうぞ。

森(菊枝) さっきから組織の必要についての皆さんの  
御意見を伺いました。私は一応、実際に組織に属してお

けです。西岡夫人をお推しになった主婦会のかたが、西岡  
知事を再選なさるとしますと、私どもと大差対立いたしま  
す。私どもは日雇い労働者ですから、県に直接つながりが  
あるわけで、西岡知事が立つことは、私どもに仕事が回  
て来ないかと私どもは理解するわけです。

そういうことと、どこから手をつけて行ったらいいかと  
いうことを皆さんといっしょに考えて行きたいと思いま  
す。

堀田 私は公明選挙についてお話ししたいと思います。こ  
とさら公明選挙をとり上げたのは、山口県は非常に保守的  
で、公明選挙についてはいろいろ問題があるからです。現  
在の社会では、政治的に解決して行かなければならぬこ  
とが非常に多いのですが、それにも拘らず、選挙に対する  
認識がたりないのです。有権者の半数以上を占めている婦  
人の一票は、大きく政治を左右するといわれております  
が、農村ではそういうことを全然自覚していないのです。

このたびの総選挙におきまして、公明選挙ということが  
やかましく叫ばれ、それに対する啓蒙運動も行われたので  
すが、さて選挙を行ってみますと、山口県は全国一とまで  
は行かないけれど、それに近い選挙違反が起きている実情  
です。これでは公明選挙の意味はありません。

どこに欠陥があるかと申しますと、山口県人は特に郷土

り、その中でいっしょうけんめいやって参りました。

私達は、一番貧しい、一番最下層の者ですが、そういう  
生活をしている者にとっては、けっきょく世の中が変らな  
ければならない。よりよい社会に変えて行くために、あら  
ゆる婦人が力を合せて議論を作って行かなければならぬ  
ということを感じます。

しかし実際に当選しては、婦人といっても、いろいろな立場  
が違うわけで、一例をとりますと、年末たすけあい運動と  
いうのがあって、職業安定所の労働者は古着をいただきま  
した。私はいただいた側ですが、本当の私共の声をいいま  
すと、私たちは古着をいただくのではなく、賃金をあげて、  
仕事を与えてもらって、新しいものが買いたいのです。

古着をくださるかた。それは長崎県では、NKKKの呼び  
かけによって、主婦連合会のかたが動いて下さったので  
すが、そういうかた達と、私たちはどういうように力を合  
せて行けるものか。力を合せてゆく必要はあるけれども、実  
際にあるものかどうか、考えさせられるのです。

いま兵庫のかたがおっしゃいましたように、それぞれ要  
求が違いますが、要求が通ってくれば政治的の立場も違っ  
て来ます。長崎県でたとえますと、主婦会は、参議員選挙  
の時、西岡夫人を推薦しました。西岡知事の奥さんで、政  
治的には西岡夫人として独特のものはおありにならないわ

に独特の強い愛着を持っていますが、そうしたことから、  
その人物が国の政治にたずさわるにあつたのかどうかと  
いうことより、郷土に対して金を出してくれる人、という  
ことのほうが圧倒的に支持を受けるのです。

一例を申しますと、過去において台風で非常に大きい被  
害を受けたのですが、その時に、実際に受けた被害以上に、  
時の政府から復旧費をせしめて、災害プルームという言  
葉が生れる程でしたが、こうした郷土愛と申しますか、そ  
ういうことを非常に重くみるのです。

大局的にみて、日本の経済の事情からすると、そういう  
郷土愛の考えは、改めて行かなければならないと思うの  
です。公明選挙の金品の買収ばかりが違反でなく、こうい  
う実情にとらわれるのが最もいけないことだと考えるので  
すが、特に農家の主婦は、そういう政治に関心を持つゆ  
りがありません。現在婦人会の組織というものも、全然活  
動していないので、婦人が社会人として考える力を養っ  
て行くにはどうしたらよいか、皆さんの御意見を伺いたい  
と思っております。

進行係 これで皆さんの意見発表を終わりました。広く問  
題が出ておりますので、アドヴァイザーの松岡先生に御意  
見や補足を含め、まとめていただきたいと思います。

松岡 皆さんが出されました問題をまとめるのは、大変

苦勞ですが、次のようにまとめたらいかがかと思うのです。まず、よりよい社会とは何かということが問題になったということ。それは三重県の方が出されたのですが、戦争や平和、貧しさといったものに対しては、天然現象のようになりがちだが、そうしたことは人間が作っているのだから、人間が努力すれば社会がよくなるという考えが打出されました。これは私達が考えをすすめてゆく前提として重要だと思っています。

その次に、自分のことさえよければ、という、自己中心的の考えを批判された、静岡、長野の発言が次に来るのではないかと思うのです。山梨の大久保さんがいわれたように、自衛隊の問題などの時に、直接利害関係のある人が反対し、そうでない人々は傍観的態度をとった、こうしたことをどうするかということが起って参ります。

これとちやうど裏の関係にあるものとして、個人的解決を求める態度があげられると思います。兵庫県の方が、一部の裕福なインテリ層の婦人は、個人的に解決をしているが、現在はよいけれども、これだけでは足りないのではないかと、ご意見でしたが、その個人的解決を求める態度は自己中心的に考えるということの裏側にあてはまると考えたのです。

そうすると、こういう自己中心的の考えでなく、自分を

も含めたあらゆる生活を守るといふ社会性を持たせるには、どうしたらいいかということで種々意見が出されました。これには、個人としてすること、たとえば新聞をよく読むとか、家族の者と話合うとか、新聞に投稿するとか、あるいは大きい組織ということまで行かなくても、そういった組織に入れない人の、井戸ばた会議とかで話合う機会を作るといふような案が出ました。

また、組織することが大事だという意見は強かったのですが、それではどういう種類で、どういふように行ったら望ましいかということについては、あまり沢山意見は出なかったようですが、農村の場合に、満月の晩に会を持つという具体的な方法、一部のインテリ層の婦人の組織への疑問、また、炭鉱主婦の場合のように、職場を共にする人の主婦の集りの場合等、組織の問題が出されました。

また、たとえは地域的の婦人団体や、補助金というような形で村の政治権力と結びついていっていることは、望ましくないという批判もありました。

しかし最後に、私共にとって非常に重要な問題だと思えますのは、長崎の森さんが出された意見です。

女だ、という立場でもっと、共通点を見出すことができないかどうか、という疑問です。今迄の場合は、ともかく婦人というものを中心に組織が持てるという考え方が非常に

強かったと思うのですが、森さんの場合には、同じ婦人であっても、非常に立場を異にする場合、時には相対立するという立場にあるとき、婦人ということで手をつなげるかどうかということ、これは、婦人会議としては重要な問題だと思ふのです。女ということが共通点になり得るかどうかということは、最後に私達が考えなければならぬ問題だと思ひます。大体みなさんのおっしゃったことを、まとめてみたのですが。

進行係 それでは、ここで十分ほど休憩いたしまして、ただ今松岡先生からまとめていただきました順序により、討論に入りたいと思います。

(休 憩)

進行係 それでは引続き、討論にはいりたいと思います。

この部会は、一般市民としてという立場ですので、問題も非常に広く大変まじめに、討論にくい部会ではないかという懸念を持っているのですが、先程皆さんのお出し下さいました御意見を、松岡先生がまとめて下さいましたので、大体その線にそって進めてゆきたいと思ひます。けれど、時間的な制約がありますので、出されました問題全部について討論することはできないと思ひますので、この席では重点的に扱いたいと思ひます。

それで、よりよい社会とは何かという問題につきましてはまだまだ御意見があるかと思ひますが、この席でよりよい社会とは何かということを追って行きましたが、論じきれないと思ひますし、今までの御意見の中で全然反対の立場をとる方はなかったようですので、調整したいと思ひます。また、自分さえよければという自己中心的の考えは、いけなない。また個人的の努力というものは限界がある。という点につきましては、皆さんの御意見も一致しているようですから、この問題についての討論も省略して、婦人が社会性を持つにはどうしたらいいか、ということから討論に入りたいと思ひます。

したがしまして、よりよい社会とは何かということについては、はぶくことになりませんが、これは婦人が社会性を持つにはどうしたらいいかを話合う過程でとり入れることができると思ひます。

また皆さんの御意見の中には、値下げの問題、売春婦の問題、公明選挙など具体的な問題が出されましたが、そうしたことも社会性を持たせるにはどうしたらいいかという中で、ふれるようにしたいと思ひます。

いかがでしょうか、このような進め方をしてよろしいでしょうか。

山本 どうぞ。

森(菊枝) 結構だと思います。

進行係 もう一つお断わりしておきたいことは、皆さんは立場が違ひ持っている問題も違ひますので、このような話をきくのははじめてだということもあるかと思いますが、それは自分の問題じゃないということではなく、みなでいっしょに考えるという態度で御発言願いたいと思います。

それではまず、婦人が社会性を持つにはどうしたらいいかということから始めて行きたいと思います。

### ◎婦人の社会性をもつには

森(菊枝) 婦人に社会性を持たせるには、というのがですが、私達が今迄社会性をあまり持たなかったのはなぜかということから考えなければならぬと思うのですが、それには日本の長い女の歴史があるということ忘れてはならないと思います。ずっと封建社会が続いて、女がずいぶん押えつけられ家の中に閉じこめられていたものですから、生活の場はそこだけになってしまつて、世の中に出て行く機会もなく、社会性というものを養われる機会がなかったと思います。

そういう私達がどうしたら社会性を持つことが出来るようになるか、この点についていろいろ考えてみました。結

間私達は、個人とはいっても、家全部を負っている感覚があると思います。ちょうどバスの運転手が、バスの回り、高さを自分の体として、体の一部として考えているように、自分の家というものを、背負っているわけで、その重みにたえるのがせいじいばいで、他のものに眼が向かなかったのだというように感じます。

それを社会性を持つようにするには、いろいろ方法がありますが、結局単数でものを考えずに、複数でものを考える習慣を作ることだと思っています。私、いうのでなく、私達みんなという括りがなくては、社会性というものは持てない、いつも私は考えておりますが、いかがでしょうか。

長谷川 私はさきほど個人的の努力が必要だということを中心としたが、今森さんがおっしゃった、複数でものを考える習慣を持つ前に、自分のことは自分で解決するという段階を通らないと、いきなり複数で考えることは出来な

いと思います。個人的の解決ということ全然考えない方がまだ多いのです。考えるということが第一なんです。そういうところから、いきなり複数で考えるということをやつて行く、簡単に權威に服従するとか、附和賛同になりやすいと思うのです。一例をあげますと、子供の漫画について

悪い影響をこうむるので、漫画の本をどうしたら追放できるかと、PTAなどで相談する前に、子供が漫画を讀んでいた、母親がそれをいっしょに見てやり、子供がどういう影響を受けているかということを探る必要があるかと思うのです。個人的の問題を解決するときには特殊な才能もあるし、エネルギーもあるし、効果の上らない場合があつて、根本的の解決にならないときもあります。一度、そういう段階を通る必要があるかと思うのです。

森(菊枝) 通ったあとの問題です。

進行係 複数でものを考える習慣について長谷川さんはまず個人としての努力がなければ危険じゃないかという御意見ですが、森さんは個人の努力を通った上でのことだということですから、まず個人としての問題を討議してはどうでしょうか。

山本 やつぱり個人をまっさきに確立してかからなければだめですね。私の場合を申しますと、自分を愛する、自分を大切にすることです。

長谷川 私もそれをいいたかったのです。

山本 一人の人が他の人の考えの犠牲にならない。夫の犠牲にもならない。家の犠牲にもならない国家の犠牲にもならない。そのような個人を確立するには、何を考えたら確立出来るかということです。

社村 先程森さんが複数で考えなければならぬといわれましたが、私もそう考えます。兵庫の方が、子供が漫画の本を讀んで困る。それをやめさせる為には、母親がよく指導してやらなければならぬ。まず個人の確立が大切だといわれたのですが、漫画の本が面白ければ、お母さんが、この本はいけなから、やめておきなさいといつても、きつと勝手に読むのではないかと思うのです。

それで結局、漫画の本を売る業者は、面白い本が売れるなら、ためにならないものでも売りますから、問題は、も

っといい漫画の本が出ればいいのだと思います。いい漫画の本が出るような働きかけ、政治力といったものが必要だと思ふのです。總て政治だというわけでは

ありませんが、まず個人だ、というようには考えたくないのです。

進行係 複数で考えなければならぬ。いや、その前に個人として、自分の考えをはっきり持たない状態で、複数を考えるのは危険じゃないか。安全感がないのじゃないか。ということが出ておりましたので、その辺から、婦人が社会性を持つにはどうしたらいいかというように、問題に移して行きたいと思っています。

添野 私共東北の者の立場から申しますと、人の中で餌が出来ないということがまず問題なのです。私の所屬し

ているPTAのグループは、非常にインテリが集っておりますけれども、それでも、なかなか話をしてくれません。だから私は、話をすることが一番大事なことじゃないかと、常に思っております。

以前身売りされて来た子供に会ったことがあります、その子供は「はい」「いいえ」ということがはっきりいえないのです。そうしたことから悪い周旋屋の手に陥ってしまふことにもなるのです。ものをいうことが何より大事なことです。これが社会人として立つ上の一歩基だと思っております。

大久保 社会性を持つには、どうしたらいいかということですが、私たち、家庭でも職場でも、男性の理解がないということが、社会性が持てない大きな原因ではないかと思ひます。

中には理解のある男性もおりますが、多くは女はただ家庭にいて、男の人の働きを助ければいいとしている。外に出て知識を求めるといふことを嫌う男性が多いのではないかと思います。男性の考え方を、もう少し交えてもらわなければと思ひます。

森(由実乃) 男性が理解がない為、社会性が持てないとおっしゃいましたが、私の場合は、家庭の主婦ですが、主人の協力によって、ずいぶん社会への眼が開かれたと思

うのです。引きあげてもらえばいいだけではだめですけれども、男性の理解がないから社会性が持てないともいえないと思ひます。

富田 女性で週合に恵まれた環境にある方に、思いやりを持っていたことが大助だと思ひます。たとえば、PTAの会などで、有名婦人といった方はわが若頭に発言され、片方は理由はないのに控え目になります。一年生の時は出席率が高かったのが、二年、三年となるに従つて、話し合わなければならない方の顔が減つて行くのです。

そういう点で、余力のある方は、もっと思いやりを持てほしいのです。

進行係 またたけてゐるのは女性か男性かというふうなことになると思いますが。

山本 それを解決するには、初等教育のやり方を改めなければならぬと思ひます。上の学校に行く子供は大事にされますが、義務教育だけで社会に出る子供こそ、なるべくよく先生にみてもらわなければならぬのです。思ふことをいう、正しく判断して人にだまされぬという力を子供の時に入れなきゃだめなのです。小さい時から、男女の同姓によって社会が選ばれて行くのだということを、くれぐれも教えるべきな眼目なんです。

生活の中からお話をしたいらどうでしょう。

田村 今迄、かまの前が都」といふことでした女の人に話が聞かなければ駄目だと思ひます。出やすい、きかせやすい条件を作るのが一番大事だと思ひます。

満月の晩による会でも、寄つてくると色々なことをきく機会があります。話をただ聞いて帰る、聞いて帰るしてゐるうちに、自分は嫌をいじめておつたが、それは悪いことだとわかつてくる。今迄のようにわからんことをいっておつては恥かしいというような気持ちがわいて来るので、それが社会性の第一歩だと思ひます。

お話をしなさい、しなさいといっても、お話する種がないのです。ではどういふことをお話の種にしたかいいますと私の農村で味噌を作るのが上手な人とか、こうじを作るのが上手な人がいる。六十、七十ぐらいの方ですが、そういう人をひっぱつて来て、ポツポツ聞くのです。桃がうまく出来ないが、あなたの家はどうかというふうにしたのですかというのをききますと、得意になつて話をする。他の人もあんなのなら私にも出来る、ということ、次の満月会には手ぐすねひいてやつて来る。

朴訥な田舎言葉でだんだん話が出る。あんないいこと聞いた。私もやつてみようということになる。農繁期の便利な副食の作り方なども代り合つて先生になつて教へ合う。

社村 さきほど、婦人は人の中に入つてお話が出来ないといふことを問題にされましたが、だれでもいきなり大きな組織ではしにくいと思ひます。小さい集りで自分の生活、身近かになつた問題が、話されるということならば、みんな飛びついて話しかけに違ひない。そこからより上つた組織ならば、皆が話合いが出来るのじゃないかと考へるのです。

それからもう一つ、富田さんがいわれたように、思いやりの気持を持つことも、そこにつながるのじゃないかと思ひます。

それから新聞に東京の杉並区の原簿禁止署名運動というのが出ておりました。イタリーの婦人方が旗が贈られたのだそうですが、この署名運動というのは、ちょっと買物に出かける籠の中に署名の紙を入れて、八百屋さんで署名してもらふ、というように、生活の中から生れて来たという。それが国際的な婦人の運動に高まつて行つたというのです。

進行係 だいた問題が進展しましたが……

婦人は発言しないといふこと、「はい」か「いいえ」か態度をはっきりさせないといふことですが、その辺にまだ問題があるのではないかと思ひます。婦人に社会性をもたせるにはどうしたらいいかといふことで、皆さんの日常

今度は主人を連れて来させようと思う。常に役に立たないような、自分の家内が、あんなところで講師さんになってやっている、これは見直さなければならぬ、ということになるんじゃないかと思う。

大休皆さんから見れば程度の低いことかもしれないけれども、そういうような卑近なことからやっております。

漆野 私もやはり田村さんのように、本当に身近なところからやっています。さきにもお話ししたように、PTAの時に自分らのお父さん方からお話をききまうために、身内の者というような、身近かな気持ちから、非常に発奮が活発になって参りましたし、四年、五年になりますと出席が非常に少なくなりますが、それが在籍四十一人位ですが、三十人近く集ってくれます。そうして一言ずつでも話してくれる。これが何かの役に立っているのじゃないかと思っています。

それから小さい方の子供のPTAで、最後の三学期のおたのしみ会は計画から進行、後社末等全部やることにいたしました。が、机運び、椅子運び、幕布がけなど会場を作ったり花を飾ったり、レコード持って来たり、オルガンを集めて来たり、みんな小言もいわず楽しくやりました。集りも気持が堅くならないでお話会もはずみました。集ったのはお二人お揃いでいらした方もあり、在籍四十四人にP

ATの出席は四十四人でした。あとで皆が楽しかったねとってくれましたが、これだけでも成功じゃなかったかと思っております。

私も秋田の人間の下手がほごされて、こうしたところから少しずつ社会性ができてくるのではないかと思っております。

長谷川 私は神戸で町の真中におります。皆さんは御承知かと思いますが、都会の生活というのは、隣近所と縁がないわけで、いまのところ三年続けておりますが、隣の家もよく知らないのです。家族が少いことや奥まったところにいるせいかもしれないのですが。ある日、その家で葬式があり、子供さんが重傷で死んだということです。近所の人の話では、三日も前からお腹が痛いと言っていたのに、親が全然かまいつけないで、やっと医者にかつぎこんだら、もう手おくれで死んでしまったというのです。

それを聞きました時に、とても腹が立ったのですけれども、また自分が無関心でいたということに口惜しい思いをしたのですが、そういうふうに、都会の生活は冷徹なのです。

都会の生活は、隣同士とか、地域的のつながりがうすいのだ、ということに悩みました。それかといって、あなたのところ困っているのですかといって行くことは出来ませ

ん。そこで自分のしやすいところから、と思いましたが、地域的には離れておりますが、親しくしている人と、三十人そこそこの会員ですが会を持っただけです。今、会の運営をどうしたらいいか、技術的にどうしたらいいかという点で行き悩んでいます。会を持つ、会を開くということが難しく、二月にいったんが、三月にいったんになってしまいうことが多いです。

結城 さきほど、満月の集りについて伺いましたが、折角そこまで出来たのですから、代表者を決めて、一個の人格を持った組織に作りあげて行った方が、かえって会員の成長が早いのではないのでしょうか。外部への働きかけも出来るのではないのでしょうか。

田村 会長は一応おいているのですが、それを会員全般に知らせないだけのことです。会長さんとか、平会員というのには嫌いです。会長さんということになる、高いところについて、私共のいうことはきかないということになりますし、それかといって、自分があることも嫌う。又なる人を嫌うのです。過渡期ですから、興とのつながりもいりませんし、指導仰がなければならぬ場合もありますが、その時は満月会一同ということでは出来ないのです。代表者として、田村なら田村ということにしているのです。

結城 県の指導なんか仰がなくても結構ですから、あな

たがこれから、会が一つの独立人格のようなものを持って行動出来るように、向上させていったらと思うのですけれども。

田村 頑張るつもりでいるのです。

結城 たとえば、いま何も問題が起きないようですが、社会的に運動をしたいという意欲が出て、活動したとき責任をとり得るような、一応の形をほしいと思います。

進行係 今のお話、徳島の田村さんは、婦人が社会性を持つようになるためには、こういう方法があるということ、で御紹介になったので、組織のあり方という点については、また後報ということにして、グループ活動などに出られない人をどうしたらいいかという点について、もう少しお話しただいたらいかがかと思っております。

森（由吏乃）私は今、編物教室の補助みたいなことをしております。以前には人形作りをしておりましたが、人形だけで生活できないのですから編物を始めたのですが、習いにいらっしゃる方は、暇があつて、お嫁入り仕度に習いにいらっしゃる方もありますが、殆どの人が仕事を受けてやっている人です。ですからひまがなく、会合などにも殆ど出られません。

富田 今のお話は、忙がしくて会合に出られないということでしたが、中には忙がしくなくてもそういうことには



関心がないという人もあります。そういう意欲のないという方に対しては、近所隣の小さいグループでは中々難しいです。

大久保 農村の女性には会合の時に、なかなか出て来ないのです。どうしてそういう人達に大勢出ていただけるようになるかということに常に悩んでおります。

レクリエーションでも入れたら集まるかと思つて、レクリエーションを時々加えますが、子供やお姑さんがあると出て来ないのです。折角やりはじめしても、成果があがらないのですから、やはりはじめた私共自身の方が途中で投げたしまいたい気持になるのです。そういう点で、よい指導者がほしいと思つたのです。

いい先生がお誘下さつても、出ていらつしやらないければ何にもならないと思つたので、自覚した人が寄りあつて、お互いに力づけあいながら、家庭にまで入つてやつて行きたいと思つてゐるわけです。それにしても一人では手が回りかねるので、そういう意識を持った人の協力体制が必要ではないかと思ひます。

高沢 こちらから働きかけて行くことの具体的事例は、長野県の母親文庫にみられます。県立の図書館が中心ですが、四人一組のグループ——大体PTAの母親でグループを作つておりますが——、現在県下に四万くらい出来てお

井上 村田さんのお話の婦人会となる母体の進め方というのは、非常に理想的だと思ひます。私たちはその反対だと、あえていってほしいと思つたのです。炭鉱の主婦会というものは組合の方々によつて結成されたのです。そこで会長を作り、執行部を作り、命令であるからお前達はこうしろ、この選挙にはこういう運動しろといわれながら運営してきたと思つたのです。

労働者の主婦が組織を持つということは必要だと思ひますが、どこまで婦人が自主性をもっているかということになると疑問だと思つたのです。

しかし、いかに低くても、自分達が労働者であるという意識をもち、力をあわせて行動して行くのが会にたずさわる者の任務だと思ひます。しかし現在では、上部団体の決定にしばられることが多すぎるのです。

地域団体とも一線を劃して、我々は労働者であるから、往き来してならん、村の人と付きあひしてもならんというのでは、婦人に養護とか向上は出来ないと思つたのです。自由党も社会党も、ある程度味あわしたり、見せたりしてもらいたい。その中から、こうしなければならんという気持を持つようになり、結果して行くのが会のあり方だと思つてゐます。自分が会長であるからといって、納税行かないことを押つけることは出来ないと思つたのです。私が役にあ

ります。毎月一回本を持って来て交換して読むということをはじめております。忙がしくて読めないという人もありますが、世の中にこんな本があると、バラバラめくつてみるだけでもいいから読みなさい、といつて会長はすめておりますが、母親が借りてくると、主人も子供も読むという事で、購読者がひろがるわけです。

この母親文庫は、来るのを待つていないで、こつちから働きかける一つの例ではないかと思ひます。

読みたいという気持も進んで来ているので、今度は婦人会で、読んだあと、本の内容を発表しあう会も持とうとしております。

### ◎どのようにして社会人として成長するか

進行係 組織にはいれない人達には、どのようにして働きかけたらよいかという工夫について話してきましたが、最初の意見発表のとき、婦人が社会性を持つのに、組織が必要だということで、總てが組織の中に持ちこまれた形です。で、組織を通じてどのようにして一人一人が社会人として成長して行くかということについて、お話を聞いてほしいと思ひます。さきほど結城さんから、満月会についての御意見もありましたが、そういうことも含めて、組織として出来ている団体の問題に入つて行きたいと思ひます。

る以上は、納得の行く様で行くのが良心だと思つております。現在下から盛り上つた会とはいへませんが、そのように切替えて行かなければならないと思つてゐるわけです。

進行係 炭鉱の主婦会という問題、おわかりでしょうか。

松岡 炭鉱の主婦会は、ストの時、首切り反対のとき、このような働きをするのだと具体的に話していただかないと、炭鉱に關係ないかたには判りにくいと思つたのです。主婦会は組合とは違ふ。けれど組合と關係があるので、普通の婦人団体でもない、一種特別なものです。具体的にどういうふうなことをなさるのですか、選挙の時に問題になるとおっしゃいましたが、あなたのおっしゃるように、ふうに働くのか、また、あなたのおっしゃるように、地域の婦人と提携するとすればどういうふうに提携するのか、話していただいた方が、はっきりすると思つたのです。

井上 一カ年の経験から申しますと、普通の婦人会と変わつておりますことは、賃金闘争というふうな場合に線が引かれることです。イデオロギーとか何とかいわずに、婦人は自衛を預つてゐるので、皮膚に感じる実感として持つてゐるのです。

私の申したいことは、婦人の組織が、利用されるためのものであつてはならないということ、あくまで婦人の自主

性に基いた、下からもり上った本当の組織でありたいということ。

進行係 主婦会というのは、同じ事業所に勤めていらっしゃる方の家族によって組織されているのです。

井上 そうです。

進行係 組合とはどういう関係ですか。

井上 組合の下部組織という見方もありますが、私は友誼団体という見方をしております。

進行係 組合が活動する時に、どういう形で連絡がくるのですか。

井上 組合から直接来ます。命令でなく……。

進行係 主婦会は主婦会として、どういふようにするかを相談なさるわけですね。

井上 そうです。

進行係 それが上からの押しつけのようになるということと判りにくいのですが、組合から賛金闘争に主婦会も応援してくれないかという連絡があるわけですね。そうすると、相談なさるわけですか。

井上 賛金闘争の経験はないのですが、衆議院議員の選挙のときを例にとると、組合からこのかたを推すのだと連絡があったとして、推挙ということは云えても、どうしてものの方だということはいくら会長でも皆さんに押しつけ

ることは出来ないと思うのです。

それが組合との関連において、困ったことがあるのです。

松岡 この冬は、非常に方々の炭鉱が困って、長期欠席や欠食の子供たちが多いということでしたが、主婦会は何をなさったのですか。

井上 賛金カンパです。

松岡 主婦会の活動の主なもの、賛金カンパですか。

井上 行事としては、敬老会とか運動会等、いろいろあり、地域の婦人のなさることとあまり変りないと思います。特殊のものとしては、黄変米の陳情とか、東京での大会出席など、おおむね組合の方からの申し入れによってやる事が多いのです。

進行係 それで、一般のかたが理解できないうちに、どんどん動いて行かなければならないから、田村さんのところと行き方が違うのではないかとおっしゃるのですか。

井上 そうです。

高沢 会員はどの位ですか。

井上 五百三十名ばかりです。それが連合し、そのまた上の組織に入っているというように……。

高沢 普通の地域婦人会には。

井上 入っております。固執しない、と割切っている人

もあるわけなので、非常に微妙です。それで困っているのです。

森(菊枝) 組織と、それから自分の思うことと一致しない井上さんの悩みについては、ゆうべから同じ壁ですか

らいるいる伺ったのですが、私は組織というものは、そういうふうに分かたれず、形式的なものではないと思えます。組織というのは、私達の体にはタツとついたようではない、自分も組織も生きないと思うのです。私は日雇労働者です。仕事がなく、みんなは年末にアブレて困ったとき、日雇労働者は、誰かがいったように、安定所でワーワーいうだけで、仕事がいなければ帰ってしまい、実体のつかめない、組織ににくい人達なのですから、仕事がなく、大変困っているという共通のことがあったものですから、年末に、どうにかして仕事をもらわなくては年が越せない、県にも市にもみなで行きました。そういうことをいい出したのは男で、私達も苦しいので、行きましよう、みんな行きましよう、百人、百五十人で毎日押しかけたわけですが、それならしょうがないから失対なみに仕事やろうというので、廻してもらったので、仕事をとれて皆が大変喜びました。そうして私達の今の組織が出来たわけ

です。その中でも、色々問題がありますけれども、組織が強く

なっていくことは、自分の利益になることなので、それだから組織を一生懸命やりたくなるし、やればやるだけ自分の利益になるのですから、別のものとは考えられないわけ

です。井上さんは上から主婦会の会長という役目を押つけられて、自分は他の考えを持っているけれども、そういうふうにはやれない、と悩んでいらっしゃる。これは組織の方に問題があると思うのですが、いかがでしょうか。

池田 井上さんの問題に関連して、私どもの教員組合では県会議員などの候補者に立つわけですが、そうすると、こういう方が立つから協力してほしいというものが流れて来ます。その場合、私は無条件でそれを推すことは出来ないわけですから、何人か集まりまして、なぜその人を立てないかというのを、話しあうのです。私達の要求し希望する人で、その人が動いてくれるなら、私たちはその人を推そうということになるわけ

です。井上 そういうふうにはやるのは本当にいいことだと思えます。しかし炭鉱の主婦が政治的にそれだけ目ざめているかと申しますと、道が遠いのです。

こういうふうになければ炭鉱の主婦は困る、生活が困る、不況になれば政治を動かすよりほかに手がないという

ことがいわれる。しかし本当にそうだからこのかたを推すのだということ、上から説かれず、自分達で考えつくようになるまでちょっと時期がかかると思うのです。

上部団体では、統率や、団結の上から、結論を急ぐわけです。私が突進感を感じたところは、主婦は道をあやまらなから、信じてほしいということです。みんなが考えざるまで待つてほしいと思うのです。それではじめて労働者の集会が聞ける、強いものになると思います。

森(菊枝) 私はそれに異議があります。天下りは勿論いけませんけれども、上からある方針が流されるということとはあると思います。それを井上さんは会長としていらっしゃるのですから、大変な仕事ですけれども、自分の会員の方たちに、いっぺんそれを伝達して、そこで充分に討議するという方法がとられるべきであると思います。おかしな人達の中から、この人という声が出るのは難しいと思います。上から流れて来るのはかまわないから、納得の行く方法で討議するというようになさったら、道が開けると思うのですけれども。

井上 私もそれは思っております。しかし、そういうふうにするというだけで、そこに力が加わってはならないと思うのです。

森(菊枝) それはおっしゃる通りなので、圧力でこっ

発展がないと思います。会長さんは会長さんとしての、私はこう思うという意見を出しておいて、そこから生れ出るものを持って来たらいいじゃないかと思いますが。

岡田 井上さんの問題について、こういうことがいえるのじゃないかと思えます。組織は持たなければならぬ。

しかし、組織のあり方によっては、利用されるということが起る。上から押しつけられるというのは、組織を利用されるということだと思えます。それで、どうしてもリーダー格の者が、利用されないだけの知識をもち、政治的の動きに対しては自主的でなければならぬということがいえるのじゃないかと思うのです。

進行係 こうした問題は形が違っても、地域の婦人会やPTAにもあるわけです。社会性をもつには複数で考えるという森さんの意見と、個人が確立されていなければ、複数というのは危険じゃないかという意見が対立してしまっている。複数でという時には、個人は既にはっきりしているという前提に立っておいて、そういふようにいい切れるかどうか、こうした問題について討議をすすめたいと思います。

富田 私は名古屋市の東白河という小学校に子供を三人通わせております。去年の地方選挙の際、学区から市会議員が出て、何かにつけて、下部の意見がよく通ずるか

ちの方に婦人の世論をねじまげることとは、なされてならないと思いますけれども、井上さんの願っているような労働組合が、本当におかみさん達の要求にそうものであったら組合が推挙する人は賛成だということになるのには目に見えているのです。自分たちの利益が目に見えているのですから、人格とか識見はともかく、利害の点では一致するはずで、井上さんの願っているような組合そのものが、ふうが違うと思います。

本当に自分たちの為に闘ってくれる組合であつたら、それにつながる婦人会が、その人達のいうことがわからないで悩むということはないのであつて、おかみさん達は、案外、感銘は深く、自分たちの味方になる人、ならない人を見分けるのです。ですから、貧乏だから物がわからないというのはいくつの個性で、そういうことは無いと思います。

井上 私の申し上げましたこと、近視眼的にみていた

きたくないと思います。

進行係 井上さんの問題に集中しましたが、井上さんの悩みも、努力していらっしゃることも判る、ということでは他の発言をお願いしましょうか。

高沢 森さんと井上さんのおっしゃることは、うまく会を運営する技術ということで解決するのじゃないかと思えます。圧力を与えちゃいけないといって、外で見ていては

ら、候補者を推したらどうかという話がありました。上から推薦理由など流れて来ますが、最後はやはり個人が決定するのだと思います。投票に強要はできません。

井上さんのおっしゃったことは、良心的でいいと思うのです。

結城 単数が複数かということで、考えてみたいのですが、やはり個人的であつて同時に社会的な存在だと思えます。個人の確立があつて、複数でものを考えて行くという順序でなしに、この二つは同時になければならぬと思います。子供の漫画の問題にしても、子供がつまらない漫画を読んでいる時に、個々の家庭で、それはつまらない漫画だからやめさせるように仕向けると同時に、そうしたものが出版されないような要求、働きかけなども、同時にや

て行くべきで、二元的には考えられないし、考えない方がいいのじゃないでしょうか。私も個人的であると同時に社会的である。どっちが先かということはいえないと思

う。

長谷川 あるところまで先行して、あるところから並行させることはあつても、まず、一歩先になるものは個人の確立だと思ふのですが。

結城 時間的に……。

長谷川 さっき森さんがおっしゃったように、だれも自

分の利害につくものですから。

結城 個人というものの考え方ですが、社会を離れた個人は考えられないということ、個人を離れた社会人はないので、結局、同時というか、要素として、両方含んでいるので、社会的の問題を複数的なものの考え方をしたから、単数のものの考え方が採られるということはない。相反するものでないから、片方がプラスになれば片方がマイナスになるというのでなく、たとえば伝染病の問題でも、個人が手を洗うということ、公共の施設に手洗いを付けてもらうとか、保健所で予防注射をしてもらうというのを並行して行う方が、よりプラスになると思うのですが、長谷川 自分がどうしたいのだということを見ると、当然複数で考えなければならぬということに達するのですから……

進行係 二つの御意見は、根本的にはそれ程違わないと思うのですが、ただいろいろの段階において、ズレが生ずることがある。指導的の立場にある会長さんと一般会員との間にズレがあって、いい意味の複数にしようと思うのに、圧力を加えた形になってしまふ。ということが起ったというわけですが、実際上の矛盾をどのように解決するかということは、残されている問題です。

大久保 井上さんの問題に戻るわけですが、私も農村

### ◎婦人として何をするか

進行係 それでは昨日に引続き、第四部会の討議をはじめたいと思います。昨日は、婦人が社会性をもつにはどうしたらよいかという問題を討議しましたが、今日は、市民としての婦人は、社会をよりよくするために、何が出来るかというところから入ってゆきたいと思います。

山本 私の姉の夫が、大変性格が弱いものですから、とてもばくちにこって、五千円とってくれば五千円以上賭けてしまふので、姉は泣きの涙です。三圍人がばくちの場所を開いていて、警察も見えぬふりをしているのですが、そういうことをやめさせなければ困ると思うのです。そういうことを取締る法律を作る気運を作らなければならぬと思います。

進行係 いまのばくちの外にも競輪、競馬、パチンコなどそれに類することが、派山みられるように思うのです

森(菊枝) ばくちやばくちに似たことが盛んな有様には、私もいつも困ることだと思っています。しかし、それに対して法律を作ることも大事ですけれども、なぜみんながばくちをやるようになったかということも考えて、そこからその対策を考えて行くのが本当だと思います。

で、農協婦人部というものの推進に、ずいぶん力を入れております。この団体は、農業協同組合を通じて、農村の地位向上をはかると共に、婦人の問題もとりあげているのですが、農家においては、個人の経営が違い、一軒ずつが孤立し、環境や生活状態が違いますから、意見もまちまちです。

農協婦人部に政治性を持たせろということについては、結論が出ておりませんが、私も政治で解決しなければだめじゃないかと考えております。しかし、下部の婦人には、政治は近かよるべからずです。

私共は経済的の活動と一緒に、政治を並行しなければならぬと考えておりますので、自分の信じる道に引きずって行くというのでなく、納得してもらうようにつとめることが必要ではないかと思うのです。

添野 私は今のような事を判断するのに必要な、正しい知識というものがたりないということを非常に痛感します。

進行係 それではそろそろ予定時間ですから今日はこの辺で打ち切ります。

(第一日閉会)

ばくちをするというのは、その人のばくち好きだということもあるでしょうけれども、私が、私だけの範囲で見ききしているところでは、やはり生活の苦しさでずいぶん関係があるように思います。パチンコする。競輪するということ、そのものが面白いのじゃなくて、自分が非常に困るものだから、それで一つお金を儲けて、うちの者を喜ばしてやろうという気持ちにもなるわけです。

ばくちから色々家庭悲劇が起ることもみておりますが、そのような、人をばくちに追いやるような原因があるのであって、ただ法律だけを決めて、それで取締ったところで原因が除かれない限り、だめだと思うわけですが。

結城 私金くそう思います。

川瀬 私が前に申しました荒泰婦の非常に多いということですが、それもやはり社会の一つの悪だと思っています。そしてそれが認められている世の中とか、そういうあり方をする人達を、どうしたらよいかということですが、これは教育の問題だと思ふのです。またお母さん方の自覚が大事だと思ふいます。

大久保 いま、ばくちのことが出たわけですが、パチンコについては甲府でも見かけるわけですが、そこに行く人——私の事務所などでも大勢行くのですが、どういうわけで行くのかききますと、チン、ジャラ、ジャラという音が何と

もいえないというのです。他に手っ取早く楽しめる健全娯楽がないからではないかと思ひます。

そういう設備をととのえる余裕がないからともいえますが、とにかく手取早い健全な娯楽が得られたら、そういうこともなくなるのではないかと思ひます。

細田 子供が不良化するのも、そういう大人の社会をみて、影響されるのが多いのです。映画や、ショーの宣伝ビラでもとても悪どくて、新聞の折込みなどにも入っています。うちでは見せないようにしても、町に出ますと、すぐに目につくところに出版されているので、業者の自願をうながすように母論をたかめて行かなければならないと思ひます。

川瀬 小学生の私の子供は、学校の往き帰りに、驚くほどたんねんに映画の広告をみてきて色々私に質問をします。どうも顔をそむけるようなものもありますので、PTAなどが働きかけて、撤去してもらうようにしないと困るのです。

富田 さきほどのパチンコ、只今の映画の広告などいかにそういうものが氾濫しておりまして、それにひかれただけのものを持った人は問題ではないのですが、周囲に引きずられるというようなタイプのかたが、非常に多いと思ひます。そういう意味で、森さんがおっしゃった根本

が早速取上げていい問題だと思います。ここでとばく、売笑、犯罪、そういうことの防止に力を出すことに決心して、実際どんなことがやれるのか、どのくらい効果があるのか、そういうことを考えたらどうでしょう。

山本 私はまず子供に、いいもののあるということを知らせなければならぬと思ひます。

私の村には、子供クラブというのが作られています。これからの計画として、小鳥やお花の名前を教えたいと思ひます。そこから、植物や動物に愛惜もち、人間を愛する気持ちに育ち、人類愛になると思ひます。

辻村 私達の生活しております周囲には、種々の社会悪があります。とばくがある。悪質の映画も氾濫し、悪い雑誌も出版されるし、多くの犯罪も行われる。こういうことは、私達自身の問題というばかりでなく、全社会の問題であると思ひます。個人がどんなに防止しようと思ひましても、個人では守りきることが出来ない。それは社会的の問題であり、また政治的問題でもあると思ひます。

井上 婦人会は、どういうように行動できるかという森さんの提案ですが、私共の主婦会でも、青少年の不良化防止ということが、毎年の大会にかかげられるスローガンとなっています。御承知のようにヒロポンの害毒が大きい

的原因を除くことについて、手をうたなければならないと思ひますし、また手をつけられることから、はじめたいことが大事だと思ひます。

進行係 まず手のつけられる事がらという御案があったのですが、いかがでしょうか。

添野 前任地におりました時に、子供の不良化に対して、お母さん方がグループを作って、よその子供もみてやろうではないか。不良化には映画がきっかけになることが多い。映画に行くところの親の目が届かないから、その処をみてあげようじゃありませんかといったのですが、自分の子供をみるだけでも容易でないで、人の子供までは出来ないうという説が出て取止めになってしまったことがあります。とにかく昨日の問題にかえるようですが、組織ということですすめなければできないと思ひます。

高沢 私が提案している保護関係の精神にも通ずるわけですが、個人の人格の形式にも力を入れなければいけないと思ひます。

また犯罪をおかすのは、生活に迫られ、道徳心もなにも破壊されてしまうような場合が多いので、そうした面からも考えなければならぬと思ひます。

森(菊枝) 大変いいお考えだと思ひます。組織を持っています人も組織のない人もありますが、地域の婦人会など

で、ヒロポン撲滅ということをやっています。組合と会社と主婦会が三若一体となって、やっています。健全な娯楽に走るのを防止する為に、組合の文化部が中心となつて、会館を借りて映画の会をいたします。十円くらいの入場料です。しかしその映画が、健全な映画かという必ずしもそうでない。子供はみんな行きたがるのですが、やりたくないと思ひ映画があるのです。

組合にやかましく云うのですが、いい映画はネット代が高くて、うけがよくない。一番喜ばれるのは、お派閥の母物、西部劇、チャンバラ映画、そういうところなのです。

又、青少年の不良化につきましては、教育の機会均等ということが完全に出ていないということ。こういう不況では、家庭生活は苦しくて、本心に優秀な子弟で、学校の先生も一所懸命、親も一所懸命でありながら、中学出ると土方に行くということになる。こんな小さいのに働かしてかわいそう。映画にでも行つてらっしゃいということになり、この辺に問題があるのです。

松岡 色々な問題が出たので、少し整理させていただきます。いままじった社会悪、不健全な娯楽その他の問題が出て、それに対してどういう処置がとられるかということから、社会の原因を追求しなければならぬ

という意見があった。しかし大きいことも必要だが、今何が出来るかというのを考えたらというので、案が出されたのですが、今三つの方法が出されたと思うのです。

法的措置を講じさせる為に、世論を形成した方がいいということ。業者の自衛を望みたいということ。PTAその他の力でこれを追放するようにしたいということ。この三つだと思います。

これをもう少し進めてはどうかと思うのです。婦人会自身は賭博、売春、犯罪を少なくするには、何が出来るか。それは難しいという意見もありましたが、難しいで終わってしまいたくないのです。世論形成するにしても、PTAは何が出来るか、地域の婦人会は何が出来るか、組合の組織なら何が出来るか、連携のような組織なら何が出来るかという事。

もう一つ社会悪の問題で、不健全な娯楽と、ヒロポンとかばくちというものは性質が違ふと思うのです。ヒロポン、ばくちという悪と、教育上面白くないというのとは、悪さの度合が違うと思うので、その区別をしていただいて、ヒロポンとかばくちという、どうしてもあつては困るものを、追放するにはどうするかということをお話合つてはいかがでしょうか。

長谷川 私たちが直面しているような問題は、子供の不

うことで、やはり貧困ということが一番の原因ではないかと思うのです。

結城 婦人会がどれだけのことが出来たかということですが、私の会で、ストリップの看板をはずそうじゃないかという話が出まして、市の社会教育課に話そうということになったのです。そうしたら、たまたま会員のかたの旦那様が、社会教育委員でいらしたので、話さないうちに広告がはずされ、たので大変効果が早くて交渉の手数もいらなかったのです。これで私は問題が片づいたというのでなく、まわりくどいようですが、選挙のときに、私達の考えを入れてくれる人を選ぶのが根本問題だと思つています。選んだ人が、時には期待を裏切ることがありますが、そんな時には、強硬に抵抗しなければいけないと思います。

池田 私どもの身近かに起つた問題ですが、学校の近所に特飲店が建ちはじめたことがあるのです。学校の二階から特飲店の部屋の中まで見えるほど近いところに出来たので、地区の婦人会が、大変だということで、ずいぶん努力をしまして、関係のところと陳情に行ったり、交渉に行ったりしたのですが、地域の権力者の圧迫を受けて効を奏しなかったのですが、最後に県の方に働きかけて効を奏したわけ、建物は出来たけれども、営業することが不許可になった。そういう例があるのです。やはり積極的に働き

良化とか、観物や映画の悪影響ということですが、法的な措置とか業者の自衛とか、よりよいものを子供に与えるということも、やりたいと思いますが、まず子供に抵抗性をつけるということが大事だと思ふのです。

森さんのおっしゃる通りに、原因を取除くことも大事だと思ふますが、子供をいつもきれいな所においておくわけに行きませんし、どんなにしても悪いものはあることですから、批判精神というやうなものを、学校の教育とか家庭の教育で、子供に植えつけることが大切だと思ふのです。社会科というのは、そういう役をするものだと思いますが、みておりますと、どうも不満なものが。

細田 その批判する力とか何とかといひましても、小さい子供は、家庭が貧困であるということ、簡単にそういう悪にまわることがある。たとえば給食費を持って行けないで、家に食べに帰る子がある。ところが食べに帰らず町をブラブラしているのです。そういうことから不良化がはじまることがあるのです。貧困というものの一つの原因ではないかと思ひます。

大久保 貧困が一つの原因でなくて、根本的な大きい原因ではないかと思ひます。農村で、小さい子供の教育について、母親の自覚が乏しい。それで、母親の教育指導が必要ですが、母親は、時間もなくて組織にも属していないとい

かけてこそ、はじめて効を奏するのじゃないかと思ふのです。

山本 私は社会悪の中に成長したのですが、小学校の四年生の頃、学校の先生が「ジャン・バルジャン」と、「山源太夫」を読んで下さったのです。本を読むことは素晴らしいと思ひました。おきな心に自分がしっかりしなければいけないということを自覚しはじめたのです。

気がついた人が、獣印をかかて、よびかけなければならぬと思ひます。誰かが組織を作るだろうというのじゃ駄目なんです。気が付いたことは、今からはじめようという気力を持たなければ……。

田村 私は視野が狭いから、婦人会の例ばかりですが、母親の認識は必要だとされながら、その組織が出来にくかったり、長つづきしなかったということは、組織そのものが、もっとも魅力がなかったからだと思ふのです。

それで私はまず、女の人たちが興味もつようなことをして行つたらいいだろうと考えて、田舎の年中行事を調べたのです。お正月にお雑煮をたべるのはどういうわけか、三月のお節句はどういうことか、というやうなことです。昔からこうしよるからする、というのでなく、こういう理由でこうなつたことを知って祭事すると、子供に与える影響も違ふ。そうするとうちのお母さんは何も知らんと思つ

ていたのに、物知りだなというので、尊敬の念も持つ。学校で教えることはあきまへんで通しても、別の面では、子供に教わられても教えられることを作ろうじやないかということ、人間が生れてから死ぬまで、一通り通らなければならぬ行事があるのだから、そういうものを調べたのです。そうしたら、毎月、毎月、それがききたいということで、会がずっと続いて来たわけです。

進行係 組織を固める一つの工夫という意味ですね。自分達の手ですることだけでなく、他への働きかけが大それたということが出ていましたが、そうした場合どうするかということもあると思うのですが……。

富田 私は平凡な家庭の主婦で、グループに属するということもなく、本当に家庭の中に居りますが、なかなか外に出る機会もありませんし、そういう私にとって、一番世の中のことを知る手がかりとなるものは、新聞とラジオです。

毎日毎日、新しいものを伝えてくれる、新聞、ラジオを、よく読み、聞くということは、社会情勢を知るのに役立ちます。時にはつたない意見であっても、投稿することによって、働きかけの機会を持つことを心掛けています。

川瀬 家庭内で、成年期にある子供や主人と思ひ切り達した。八ヶ岳の裾が酪農に適するということで、一つの村で五十頭も入れたところがあり、農業の不振をこれで打開しようとして、酪農に力を入れて来たのです。それが飼料が高くなり、牛乳は生産が上ったので価が下って来たわけですね。今迄は四円二十銭でどうやらこうやらというところだったのですが、十四牛乳になりましてから、一部の業者が三円八十銭に値下げするということを、一方的に通告して来たわけなのです。農家のかたは、ただ困る、困るということ、で、政治的な、組織的なことを考えないわけですね。

組織を政治的に動かして行くような思案をしないで、三十万圓借りたのを、五カ年くらいで乳代から返して行くわけですが、返して行けない、飼っているうちに欠損になるから、十萬圓でいいから売りたいということを考える人が多いのです。

牛乳問題だけでなく、あらゆるものが生産費をつぐなうところと達していないのです。大きい政治問題になります。が、主婦も農業問題を真剣に考えて行きたいと思ひます。ここで組織の力がほしいのですが、どうして組織して行きたいかということが問題になると思ひます。田村さんの、手許からはじめるということには、ずいぶん感心したのですが、もう少し強力なものをほしいような気がするわけなのです。

慮なく話し合いますと、新しい知識が得られる結果となり、家庭内で討論することも効果があるようです。

森（菊枝） とにかく大きな原因があるということは、皆さんがお認めになったわけ、それについては勿論一所懸命やりますが、私がこれからやろうと決心したことは、今迄私たちは、自分の組織に頭をつつこんで、経済問題ばかりをやっていた。こんなに広い問題があるということを知りましたので、自分達の組織で取りあげてゆきたいということ、です。組合にも話し合いますし、長崎の人人団体にも呼びかけることをして、みんなで話し合いたいと思っております。

進行係 社会事をなくすために、ということを進んで行きましたが、悪いものを世の中からなくすというばかりでなく、婦人の力でこういうふうに進めて行きたいということがあると思うのですが、昨日、値下げ運動が出ておりましたが、婦人が努力している一例として、どこの家庭にも関係があり、皆さんが御存知のことなので、それを取りあげてみたらどうでしょうか。

大久保 十四牛乳が実現し、私共もそれをすばらしいと思つたのですが、そのうち、にしおよせが農村に来たわけ、です。政府は小麦粉を食べさせるために乳牛を飼うことを奨励して、一頭につき三十萬圓位の資金の貸出しがありま

池田 只今の値下げの問題ですが、牛乳を値下げしたおかげで、一部の人はその恩恵にあずかって、値下げしたので片方が困るという問題がおきて来たのでは、いたちごとで困るのではないかと思ふのです。組合の資金値上げにしましても、組合員は値上げになってホッとするが、しばらくたつと、資金が上った為に、物価があがって、組織を持たない消費者たちに影響してくる。そういうものを、見つめて行かなければいけないのではないかな、ということを感じます。

川瀬 昨日も触れましたけれども、私共から帰ってきて、世の中のはでなことにはびっくりしました。広告代とか宣伝代というものは大したものだろと考へました。それがお菓子なりパンなりの上に代金がかぶさって、実質より高いものを買わされているのじゃないかしらんとそういうふうに考へますね。なるべく消費者と生産者が、近くなりたいたいと思ひますね。

大久保 中間マージンが多すぎるのじゃないか、経済機構の改革ということが根本的に必要じゃないかと思ふのです。

進行係 ちょっと話を元に戻しますが、消費者は安いものがほしいというので、頑張つて値下げ運動をしたのですが、生産者にしわよせになって、生産者が泣きぬいて

いるということですが、それに対して婦人の手でやれることがあるのではないかと思います、どうでしょう。

田村 だしいりこの生産でも、同じことがいえます。生で十三貫が、千円から八百円ぐらい、とれる日が續くと四百円くらいに叩かれるのです。それを売人が、四百円で叩いた絹を、煎って乾かして袋に入れますが、八百匁入りが五匁できます、それが四百円ぐらい。そうすると、四百円が二千円になる。人件費とかたき物が要りますが、そんなものは二割位です。そうすると結局、私共の方で直接海に行っておる者は、油代もあがらんということで、一般売人はどんどん大きい家を建てている。消費者も何倍かの値段で買っておることになる。自分達でとって来たものを、自分たちで加工するようにしようということで、やかましくいつているのですが、それだけの資力がないわけです。

高沢 農村の例ですが、供出農家の場合生活が非常に苦しいので、畑仕事に出たり、日雇いに出たりしています。値下運動は、米の値段にも関係してきますが、実際農家としては苦しい立場にあるわけです。

大久保 牛乳のことに戻りますが、主婦連合会の話ですと、十円という基礎をどこから出したかといいますが、生産者が五円、運搬費が一円、ブランドの色々な費用とマーキングが三円、それで充分だそうで、配達の一円というの

か。やらなければならぬことはどういうことであろうかというところから入って行きたいと思っています。

婦人が社会を進める力になるためには、組織を通じて、ということに皆さんの御意見が一致していましたが、それではどのように行動できるかということは大い問題になると思います。

池田 婦人会は研修とか講演会とか、そういった面だけの仕事でしたら、割合提携がしやすいのですが、そういう面だけでは満足できない問題が出て来ると、なかなかうまく提携できないということになると思うのです。

松岡 具体的にいつていただけませんか。

池田 厚水爆反対の署名をいたしましょうなどと、若い組合員などから提案された場合、一般の婦人会の人達は、それは左がかったことだから、といってなかなか積極的な協力がされないのです。

大久保 どこでも、こういうことはあるのではないかと思います、農村では農協婦人部と地域婦人会とのおりあいがとても悪いのです。私達は農村婦人の組織を作りたいと働いておりますが、地域婦人会にはそれを指ししようという動きがあるのです。なぜかといいますが、感情的な問題が一番多いのですが、村に一つの婦人団体がありまして、役員とか会長というものがある。その他に農業の団体

で、計算を出したそうですが、ききますと、十四牛乳が出た時に、配達夫の料金の引下げなど労働者の方にしわ寄せが行っているということです。消費者と農村とが提携して、こういうものにぶつかなければならないのじゃないかと思っています。

進行係 現在婦人の方は、それに対して、どの程度の動きを示していますか。

大久保 全然動いておりません。農家が業者から資金を借りている、だから安い値段をおしつけられることになるので、農協によっては、農協が個人に貸付けて、負債の肩代りをしているところもあります。けれどそういうことの出来る農協は少ないのです。

#### ◎婦人ということ、提携出来るかどうか

進行係 値下げ運動にしても、生産者の立場、消費者の立場ということで、婦人ということでは同じでも、それに対する立場が違ってくるということが出て来たと思うのです。

皆さんは全国の各地から、それぞれ違った立場で集っておいでになったので、婦人ということで、提携が出来るかどうかということについて、話し合うのには好都合かとも思います。婦人が提携してやれることはどういうことだろう

を作りますと、村には二人会長が出ることになり、従来のようにいうことをきかないのじゃないかということがあって、感情的に指ししようとするのです。

もう一つは環境が違うわけで、地域婦人会は、商家の人、数員も含んでおりますが、農家とは理解しにくい点が沢山あります。農家の場合は、農産物を高く売りたいと思いますが、地域婦人会は買いたいわけですが、農家では生活必需品を安く買いたいわけですが、お店屋さんは高く売らなければ商売にならないので、反対の立場にあるわけで、対立せざるを得なくなるのです。私考えましますに商家と農家とは同じような問題で苦しんでいると思うのです。そういう小さな争いでなく、大きく資本主義との闘いに目ざめて、提携して行かなければ、牛乳の問題と同じように、消費者と生産者が離れると思います。

高沢 私のいる飯山市というのは、昨年八月に合併して定足した市なのですが、中心は飯山町で、商業で成立っており、附近七カ村が集って飯山市になったわけです。合併して、婦人会を結成するとき、農協婦人部と地域婦人団体の問題にぶつかったのです。周りの村落の農協婦人部は、地域婦人会と同じ機構で成立しているのです。地域婦人会が農協婦人部の機構を通じて、販売やその他、よくいって



を持たなければならぬと主張するのですが、町の地域婦人会には、絶対に反対というわけで、とうとう八月から、まだもめています。

田村 私の方では、村婦人会という大きなものがあるのです。その中の農協婦人部というので、会長は私一人です。未だに会長が未亡人部の部長ということで部長同志が連絡してうまく行っております。

大久保 そういう場合には、婦人として提議できるというのです。

田村 働かなければならないという時はその方を持って行くので、大体農家の主婦が主体となって働かなければならない場合は、その人が主になって、商家とかその他の者が手伝いするという歩み方をしております。

森(菊枝) そういうふうまう行っている婦人会が、選挙の時なんかは、どんなになりますか。

田村 だれ入れたらいいんです？ という状態なので、私がこの候補者を推してこうこうという、あそここの奥さんはこうこうということで摩擦はないわけですね。

森(菊枝) あなたが組織者だから。

田村 どんなにでも引きずられるわけで、衆議院でも、「解散した、よろしく頼む」というような電報が来る位で、どうしても出来るのです。この人から電報が来たから、力

という事で影響がとても大きいのです。ですから会長さんは慎重でなければいけないと思うのです。また会員もしつかりしなければ。

大久保 先程、池田さんがおっしゃいましたが、組織で代表者を立て、組織で決定なさったかたを推薦するのに、公明選挙でないということがわからないのですか。

森(菊枝) 長崎県の場合でも、地域婦人会が推す候補と、私共の推す候補は違います。

今後、地方選挙に当面しておりますが、私は地域の婦人団体とは賭博の問題でも、売春の問題でも、手をつなぎたいと思いますが、地域婦人団体を私共は推す候補者がちがいます。そんなことから対立もあって、実態運動をやって行く上に、さまたげにならないか心配しているわけです。

山本 女だから党派が違っても婦人の候補者を推薦するのてなく、女ということとを離れて、考えなければならぬと思います。

池田 婦人ということだけで、利害関係は必ずしも一致しないのではないのでしょうか。

富田 婦人の団体が推薦されたり、その人を支持したりするのは公明選挙に反しないと考えますが、その人を選ぶかどうか、ということは、究極においては個人の判断が大切ではないかと思いますが、いかがでしょうか。二月二十七日

入れてしなければならぬという気持は持っていないのです。立候補者の推薦者になって下さいというのですが、推薦者は引きうけんことにしています。それをする事によって、傾いたら困るのです。その代り、「誰入れたらいいのよ」と来られた時は、「私はこの人に入れようと思いませんけれども」ぐらいは云います。

池田 私の方は、選挙のことについては、殆ど二つに对立している形です。たまたま栃木県の婦人会の連絡協議会の会長さんが県会議員なので、そのかたの動きについての批判が起るわけです。その方が会長さんをお解めになったあとでも、膝をひいていて、片方では公明選挙やりましよう、片方はそのかたの選挙運動やりましようということが、一人一人の会員がどう行動なさるかということが大きい問題になって来ているのです。

進行係 今は、特定の人を応援する組と、公明選挙をする組と分れているわけですね。

池田 それでは全然公明選挙やれないというかたもありました。

山本 私の方は知事候補者を連絡婦人会長が推薦したわけですね。それで大変もめまして、許任問題までいったのです。結局個人でいったのだからということだけでけりがついたのです。個人の立場でいっても、会長さんがあつた

の選挙の時でしたが、ラジオの録音で、山間の炭焼小屋の働業者の奥さんにあなたの生活は楽ですかという、非常に苦しいです、という返事でした。それではあなたはどの覚を支持しますか、ときくと、自由党というのです。理由は上品だからというのです。その時は色々考えさせられました。

進行係 同じ組織といっても皆さんの出ていらっしゃる組織そのものが違ふから、選挙のとき等には、その現われ方が違ってくるのではありませんか。森さんのグループはみなが同じ立場にあるわけですが、池田さんの場合は組織自身が森さんのとは違いますね。

池田 違います。

森(菊枝) 私の方は組合ですから。豊谷川 自分の持っているものが、少しでも減るが、増えるかということによって、はっきり分れるのではないかと思っています。女ということ自身は問題でないと思えます。

高沢 私は女だから手をつなげようと思うのです。社会悪を追放しようという項目でいったら、女は全部手を握らなければならぬと思うのです。

添野 子供の幸せとか、世の中を暮らすこととか、母でなければならぬことに眼をつけないければならぬ

と思う。そうならば、働いている人も、家庭の人も手をつなげると思います。

長谷川 つなげませんよ。持てる階級の女の人は、持っているもので、自分達のことを解決しようと思っているのです。

添野 持てる階級は日本全体の何パーセントかということですか。

長谷川 狭い部分です。

添野 下からもり上って行ったら、自然に手をつなげる個所が出てくると思うのです。子供を通してですね。子供を通して手をつなげたいと思います。

長谷川 子供にも階級があるのです。

添野 私今、悩みに思っていることは、うちの子供は附属の小学校に入っているのに、学区の遊園地に遊びに行きますと、お前は附属の子供だから遊びに来るなというのです。そういうことでは駄目だと思ふのです。うちの子供は誰とも遊ぶ気持を持っているのですから、受入れてほしいのです。各学校のPTAが、全市に亘って手をつないで行くということが大事じゃないかと思う。子供の幸せを常に考えているのですが、女が手をつないで行かなければならないと思うのです。

進行係 まだ他にもお考えがありますなら……。

炭鉱からもたえず村会議員を出しておりますが、村の政治に炭鉱の声を反映しなければなりませんので、強力に推薦運動もしますが、あとからきますまいことがないよう、お互いの良識で努力しています。

高沢 社会をよりよくする力になり世界中平和にする、そういう目的で全部の女性が手をつなげないものではないでしょうか。

大久保 そういう場合にはつなぐことが出来ると思いますが。

結城 つながなければならぬと思います。

大久保 根本的に労働者と農民というのは手がつながると思うのです。資本家と労働者は絶対につながらないんじゃないかと思いますが社会悪を取除くということについては、手をつなぐべきだと思いますし、手をつないで行けると思います。

長谷川 平和という問題は、女ということと関係ないと思います。女だけで手をつなぐ必要はないと思います。女だけが平和を願っているなら別ですが。

進行係 婦人ということで提議できることは何か、できないのはどの点か、もう少し話しあってみたらどうでしょう。

松岡 もう一つ、私皆さんの発言を聞いて感じたこと

川瀬 PTAの場合、凡ゆるものを包含しておりますが、たいいていの場合、意見が合って、気持よくすすめることができる。女として、母として手がつなげると思っていますね。

辻村 私は、できる場合とできない場合とあるのではないかと思います。PTAの会合の場合は、できると思ふのです。会の目的が、子供をよくしようということにあり、共通点があるのですから、一緒になれる。ところが、こと政治に関する問題では、婦人会では手をつないで行くことが出来ない。なんとならば、その婦人会には資本家の奥さんもあるし、又雇われている側の労働者の奥さんもある。利益を異にしているわけで、手をつないで行くことは出来ないと思います。ですから、総て手をつないで行くことが出来ないというのではなく、行ける場合と行けない場合があると思います。

井上 炭鉱の主婦の立場から申し上げますと、炭鉱としての組織と、地域婦人会とにつながっております。物価値下げの問題が出ましたが、私たちは村婦人会とは、消費者と、生産者という違った立場に立って討論します。しかし敬老会や講習会は一緒にいたします。

地方選挙の問題が出ましたが、村の中で炭鉱というものは大きい比重を持っているわけです。

ですが、提議出来る、出来ないということについて、政治問題だから出来ないという表現を使われたが、社会悪を取除きましよう平和を確立しようということには異議をとなえる人はないようです。けれども実際の手法、手段に入ったら場合、違いが出てきて、原水爆の禁止署名運動という場合、平和運動といった場合出て来る方法手段は、女であるとか、ないとかということとは共通点にならないということがいえるのじゃないか。

同僚社会悪の問題にしても、これはなくしましようということは、誰でも一致していえると思うのです。どういう方法手段が最も効果的で望ましい形かという点、女であるというだけが共通点にならないという意見が強いように思ふのですが、講演会とか教養講座という形なら、地域団体と協力してやれるということがありましたし、森さんの方で賭博とかヒロポンを追放するには、地域の婦人と集まって、数多くした方がやりやすいから、出来るというお話があったので、具体的にないかあれば追加していただいだらどうでしょう。

細田 目的が同じならば、手がつなげるということですが、貧困家庭で父親だけで育てている子供があったのですが、給食費も持ってこれられないのです。これではどうしてもその子が不良化すると心配して、そのクラスのお母さん

方が、何とかその子供に、給食費に限らず、給ての学用品をまかなう方法はないものかと、有志の人が努力して、基金を集め学校からその子供に貸してやる、という方法をとったのです。お母さん方は、これは山口県全部の学校に拡めよう云々しています。

森(菊枝) いまのお話ですが、有志の人たちで解決なさったというのは、一つの方法ですが、私の方では日雇いの組合ですから、新入学生の費用は大した問題です。組合にみんなで行って、まとめましてから、市役所から新入学の費用を借りましたわけで、二百名近い人が土木課から金を借りて、解決したわけなのです。PTAで解決するというのは一つの方法ですけれども、その人達の個人の懐から出すのではなく、PTAから市の教育委員会なり市役所なり福祉事務所にかけて解決した方が、子供は国家が守るべきですから、いいのではないのでしょうか。

高沢 私たちは郡に出来た養老院に、何月はこの村、何月はこの村、と顧問に行くように決めたわけです。さていよいよ顧問に行くとき、から手で行ったのではないから、何か顧問品を持って行きましょう。というので、各家から何でもいから出していただくことにしました。ところがそれは大変なので、五円ずつお金を出し合って行くことにしたのですけれども、いざその時になると、おらうちは

貰いたいもんだ。出せないや」という家が出て来たのです。会の費用から出しておきましようかという話も出たのですが、養老院は特殊な人が行くのではない。みんなのものなのだからと、その家に酷しにゆき、五円ずついただくことに成功しました。そこで引っこんでしまっただけではないと思います。

大久保 養老院をお見舞することはうるわしいことだと思いますし、熱い心は女のかたは持っていたと思いますけれども、森さんがおっしゃったように、各地から顧問品をいただくのは有難いが、それより資金をあげてくれないかとおっしゃったのは、全く同感です。顧問したということでは満足しないで、もう少し大きい眼を見開いて、根本的な解決をのぞみたいと思うのです。

添野 貧困者の家庭とか母子家庭に対しては、国家的の社会保険がありますが、それが大変に乏しいということをお話を大きくして云いたいのです。

富田 母子家庭のかたの、所謂社会保険の問題は、皆さんが懸望していらっしゃると思いますけれども、生活保護を受けている人に対して、案外同情がなく批判的なので、保護を受けられる水準でありながら、申出ないということがあるのです。

進行係 批判の声というのはどういう点ですか。

福祉金庫という制度が設けられ、三千円迄を無利子で四か月貸すということになりました。それでひとまず手近かな事は片付くわけですが、その段階をふんで、県とか国家に呼びかけるようにするのがいいのだろーと思います。小さい力でも足軒から順々に切り開いてゆけるという例になると思います。

結城 女性性女性の立場で共通点が見出せるかという時に、福祉方面ではやって行けるけれども、選挙では駄目だということに済んだように思いますが、やり方によって提議出来るものだと思います。私の体面を申し上げます、たとえば選挙の場合、主人の両親は、私共とは全く違っているので、いささか選挙の時になると困るのですが、選挙は決して妥協出来ないのですが、妥協出来ないというので終らせず、私流に心をくたくわけなのです。たとえば、姑ですが、非常に私と考えが違います。けれども違うからだめだといひ切ってしまうので、相当なところまで突込こんで話合えば、あるところ迄協調できるようなものではないかと思うのですが、松岡先生いかがでしょう。

松岡 さきほどのことと少し違ふと思うのです。立場が違うから、方法手段が違ふ。あなたのおっしゃるのは、正しいと思っただけなら納得すべきだ、というのでしょー。結構、主人などは話すのもいやなんです、私はそれでは

富田 生活保護を受けているかたがありますと、保護を受けているくせにあんな無駄使いしている。あんなだから保護を受けなければならなくなるのだ、というのです。保護を受けているかたは日雇いなどの健康保険制度のないかたが多いので、大会社のように福祉施設が完備しているのと違い、一週間か十日仕事に行かないだけでも、すぐ転落するのです。喧嘩になったり、一家心中というように自棄になる人が非常に多いのです。生活保護を受けると周囲の人にすぐわかるのです。

田村 さっきから色々御意見承っておりますと、私にはあまり大きい問題で、ここに来るまでにどこかで修養して来なければならなかったような感じがするのです。それはともかく、私の村で全国福祉協議会から全国表彰を受けました。

満月会 女の方で手で社会をよくする第一歩として、困窮、貧窮家庭のことをとりあげました。明日の配給の米代がないから、どうしたらいいか。子供が明日にも生れるのに、仕事がないからどうしたらいいかというので、私のところによく相談にみえる人がありましたが、お米の二升、三升あげてもどうにもならないので、いつて来る度に役場の村長とか助役と陳情に行くわけです。お役所にお百度をふむわけです。やがて、あんなにいうから、というので、

いけないので、出来るだけ近よる様に努めるといふこと  
です。

大久保 結城さんのおっしゃるのは、私共が今迄討議し  
て来たのと違う結論を導いておとりになっていないのではな  
いでしょうか。私が選挙の場合に提携出来ないといひまし  
たのは、広い意味で、利害を異にするもの、根本的に利害  
の異なるものは提携出来ないといふことです。結城さんの  
場合のように、お姑さんとか御自分に近い方は利害を異に  
していないのじゃないかと……。

結城 私の支持するのとは反対です。

大久保 或は話しあえば、一致すると思うのです。もっ  
と大きな意味で違った立場があるので、その場合に提携で  
きないというので。

結城 提携できないということでおしまひになったよう  
な印象を受けたのですから、そこを、松岡先生の  
助言をいただけるのかと思つて。

松岡 大久保さんのはっきりしたと思います。あなたの  
場合はお姑さんがこういう問題についてわかつていない  
ので、あなたはこれについてわかつてもらいたい。という  
ことでお話し合はれるのですから、それで結構と思うので  
す。私たちがさっき話していたのは、たとえば日雇いのか  
たたちのグループが、選挙に推すことが出来ないと思つて

いる人をその土地の他の婦人会が推している場合に、この  
二つは、女だからということ提携出来るか、どうかとい  
うことだったので。あなたの場合と違うと思ひますけれ  
ど……。

進行係 それでは、最後に皆さんがこの会に出ていらし  
て、お話し合の中からもいろいろ感じられたことも多いと思  
ひますが、こんど帰ったら何をやるつもりかといふことをお  
話ねがいたいと思ひます。この部会に出たからといって、  
偉いことをしないでよろしいので、小さいことで結構な  
のですから……。

田村 私は一応村に帰って、この報告をすると同  
時に、各家庭の姑さん嫁さんにお話をし、台所の合理化を  
すすめたいと思つたのです。こういうところが不合理だ、安  
く修繕できないものだらうか、資金はどうしたらいいか、  
資金を持たない人に対しては満月会の貯金を順々に無利子  
で貸すというような方法を講じたりして、手近かなところ  
から合理的なものとは無理なものをつけて行く、これを第  
一段階にしてみようと思ひます。

結城 山形からは第一部会に出席している方がありま  
すが、非常に田舎にお住いで家庭の封建性を破るのに苦勞し  
たかたです、お一人では大変ですからその地方でそのかた  
を中心にして、グループをこしらへ活動できるようにお手伝

いをしてほしいと思います。私共のあゆみ会として御手伝いす  
るよう、歸ってから皆にはかりたいと思ひます。どうい  
うようにしたらよいか判りませんので、あとで技術のこと  
を伺つて帰りたいと思ひます。

川瀬 私はPTAの会を中心に、主婦たちと、色々な社  
会を駆逐する方向に、仕事をしたいと考えています、努  
力して、PTAの強化といふことを考えております。

進行係 社会系といひます。

川瀬 子供達の環境の浄化といふようなことです。

大久保 私は、前から農村は貧しいから何も出来ないとい  
ふことを叫んで来ましたが、考えてみますと貧しい  
だけではない、まだまだ努力の足りないところもありま  
す。婦人の労働を軽くする工夫などその第一歩として身の  
廻りの改善からやってみようと思ひます。

高沢 公民館を中心にして婦人学級が出来ており、会合  
が出来ようになつておりますが、長野県人の理論好きな  
ことをひかえて時間を有効に使う。そういうことをやりた  
いと思ひます。

森(由吏乃) こんな会合にはじめてで、もっと勉強  
してからでなくてはいいなと痛切に思ひました。九月ご  
ろに資格を取りまして、自分の教室を持つつもりでおりま  
すが、教室を持ったらお弟子さんをまとめて、何かグルー

プを作ろうと思つておりましたが、今かよつております教  
室でももっと積極的にやろうと考えています。今のところは  
三十人ばかりおりますが、いいものを派手作って、高い工  
賃がとれるよう、仕事を出してくる方にもっと強く交渉  
しようと思ひます。自分が出来上つてから何かを作ろうと  
いうのでなく、小さいことでもいいから、いとなみを始めよ  
う、大きくなって行く一粒の種になろうと思ひます。

長谷川 私、前から計画していたことですが、さき程も  
話しましたように、私は、グループを作ったり、参加した  
りしましたが、中々満足できるような会が持てませんでし  
た。今度帰るとこの四月から計画していたことですが、気  
の合った人と新しく会を持ち直します。よき世論を形成  
するといふ目的で、一人ずつでも会員をふやして行きたい  
という気持ちでいます。

池田 さき程、女として提携出来る問題と出来ない問題  
について話し合いましたが、私はもう一つ、女としての仲  
をせめて、母としての立場を強調して、母親同志の会を  
もっともっと拡げて行きたい、こんなふうな思ひておりま  
す。

井上 このたび、こちらに参りまして、先生方や皆さん  
のお話を伺い、自分が不勉強であつたといふことをつくづ  
く反省しました。私は退屈的になつていて引っこもちろ

というような状態だったのです。皆さんの御意見をきいておきます間に、炭鉱のことを考え、殺風景な山の下のパラッパに住む、五百三十人の会員を思い出しました。殺風景でさくばくとした流れ者の寄り集りだとか人からいわれる炭鉱ではありませんが、もっと、愛情と根気が必要だということとを反省と同時に銘記しております。

富田 私は家庭にずっと籠っております、何一つ実行していません。たまたまPTAなどに出たりしますが、ただあまり出すぎない程度にお役目だけ果すという態度でした。皆さんの行動的でいらっしゃるのに感動しました。未だ未知数で、何が出来るかということとはわからないのですが、何かお役に立つことがあれば実行したいということを感じております。

添野 私はやはり川瀬さんと同じくPTAの強化ということ、私共の学校のPTAから、更に全市のPTAのつながりを強めて、子供の幸福のために考えたいと思います。

辻村 私は奈良県の泉郷の山村にいます。私も村では地方選挙もまだまだ義理人情に動かされてしまっています。私は何の働きもしませんが、女性の社会性をたかめる意味で、そういう意識した力になりたい。もっともっと勉強して、女性の地位を高めるような力になりたいと思います。

と思います。この部会をはじめから非常に問題が広く、皆さんのお立場も違い、地方の事情も違います。耐臨がしにくいということもありだと思えます。時間の関係で、御意見の発表の中にあつたよりよい社会とは何かということや自己中心の考えをなくさなければならぬという御意見については耐臨をはぶき、婦人が社会性を持つにはどうしたらいいかということから入りまして、個人と組織との関係、グループ活動その他の組織のあり方等について耐臨が行われ、今日は婦人ということまで掘り出されたかということについて検討しました。婦人として一緒に行動できる場所もあるけれども、選挙ということでは、地方選挙と総選挙とは、だいぶ違いがあるけれども、その辺で分れたのではないかという話が出て来たと思っています。

それでこの部会は、そういうお話し合いで、全会一致の結論というわけには参りませんでしたが、問題点が、相対的に明らかになったと思います。

最後に松岡先生から一言おっしゃっていただきます。

松岡 こんにちは始めてこういう会議に出たのですが、大変私の勉強になりました。私は、今、四月十日「朝日」の「天声人語」を思い出します。婦人週刊はあるけれども男性週刊はない。それはなぜだろうか。それは婦人自身が

す。

森(菊枝) 私いまだ感じていますことは、とにかく万難を排して出て来てよかったということです。昨日の新聞に、全国婦人会議に大層同情のない社説が出ていたのが、今朝も皆さんとあいうことを書くのは、新聞そのものが私達の会議に愛情を持ってくれないのであって、批評だけは出来るけれども、それなら新聞は私達の為に、何をしてくれたかということです。

こうして全国から集まるということは、それだけで意味があると思います。私達はお金もないし暇がないし、家庭を持っているということで、全国から集まるということは、なかなか出来ないのですが、婦人少年局のお力で出来たということは、感謝していいことだと思ふのです。みんながここで詰合ったことは、とにかく力を合せて何かしたい。ということですね。読者にいわせれば抽象的な結論でしようけれども、その力は少しも無駄に思ふわけですね。

長崎に帰りましたら、今までやっていた仕事は一所懸命やりましても、この会で視野が広がったので、もっと色々なことをやりたいと考えているわけです。

売春法のこと賭博のこと、社会悪と闘うことなどを一所懸命したいと思ふます。

進行係 時間も参りましたので、一応この辺で終りたい

低いから、ということ、結局婦人週刊がなくなる社会になればいいということと結んであったと思ふのです。

この会で、そういう方向に向っていらっしゃるかたが沢山あることを発見しました。この会議の最初から問題になっていることは、婦人問題、婦人問題というけれども、社会の問題であり、政治の問題であり、経済の問題であるということ、皆さんから繰返し繰返し出て来ました。ただ集ったのが女だということ、女の提議という言葉を一応使いましたけれども、女だから、男だからということはこの問題が分けられるのではないことは皆さんから出ました。女の地位を低めているのが貧困が原因になっているということも繰返し出されたと思ふます。

そういう意味で、女だからという点だけで協議できるだろうか。ある問題では協議できるけれども、ある点にすれば利害がはっきり対立して来るのじゃないかということとでこの会議は発展したと思ふます。そういう意味で、私はこの会議に出られたかた達が何も私は婦人週刊をなくすことを目的にしているのではないけれども、「天声人語」の人がいったような意味で、婦人週刊が早くなくなればいいという気持を持っている方だと思います。そういう意味で、婦人週刊をはじめから七年目ですか、この七年間の女の進歩というのは、相当幅広いものではな

かったらうかということを感じております。  
みなさんがたの論文を拜見した時には、少し心配して  
いたのです。問題を相当観念的というか、あまり具体的でな  
くつかんでいるかたが多いように見え、心配したのです  
が、それは杞憂だったということがわかりました。あとは  
皆さんがお歸りになってから、今後その気持を、ずっと持  
続していただきたい、なにか選手になったような気持でな  
く、強い力になって盛りあげていただきたいと思います。  
進行係 それではこれで、第四部会を終ることにいたし  
ます。

(閉 会)

司 会

NHK 婦人部長  
江 上 フ ジ

◇ 印 発 言 者

総 会

司会 よりよい社会を作るために、婦人の力を出しましょう。その為にはどうしたらいいかということ、一人一人が話し合うのが、今年の婦人週間、そしてこの会議の課題でした。第一部会は家族の一員として、第二部会は地域社会の一員として、つまり私達の住んでおられます町の、部落の一人として、第三部会は職場で働く婦人の一人として、第四部会は一般市民として活潑な意見の交換が行われたのです。それでは只今からその四つの部会の代表の方々に、話し合いの結果を発表していただきます。まず第一部会は愛媛の中村喜代子さんです。

中村喜代子（第一部会） 第一部会は、社会の一員として婦人はいかにあるべきか、そのうちの家族の一員としての立場から討議いたしました。

はじめに皆さんから出されたそれぞれ意見の問題点は、「家族関係の民主化」、「家庭生活の合理化」、「次の世代の教育」、の三つでしたが、具体的に討議を進めやすくするために、これらの問題を「嫁姑の関係」、「親子の関係」、「夫婦の場合」に分けて討議をすすめました。

嫁姑の問題については、婦人は結婚することによって人間としての成長を阻まれる場合が多いのはなぜだろうか、ということが問題になり、その阻む力になっているものは、長い間の家族制度的な意義や、家庭生活であり、その

具体的な現れの一つとして姑の存在がある。姑は若い時代を家族制度の堅いわくの中で育ち、嫁として姑にいじめられ、封建的な男や夫に仕えて苦勞してきたために、自分が姑の立場に立った時には、自分が嫁であった時に姑にせられたようなことを、自分の息子の嫁にも強要しているという意見が出ました。ですから、皆忠実なお嫁さんであった人ほど意地の悪いお姑さんになりやすく、家族制度の下ではこの悪循環がくり返されてゆく。そしてこのような家庭の舅姑がさらに年をとり、労働が出来なくなり、経済的な束縛を失ってしまうと、今度は一家の余計者として自らみじめな気持を持ち、暗い生涯の終りを迎えることにもなる。このみじめな嫁とあわれな老人という二つの存在は、一見対照的にみえるが、いずれも家族制度のもたらした悲劇で、人間を平等視し、尊重しあう精神が欠けているからだ、との結論に達しました。

今一つ、婦人の成長を阻み、家族関係を暗くしている根本的な原因として、貧しさとくに農村の貧しさが考えられるということでした。この貧しさの中にある日本の婦人は、一日中農業に、家事にと働き疲れ、教養のための時間もなく、意欲も次第に失って、他の人間に対する優かい気持もすりへらされてゆく。こうした貧困は心をも貧しくし、人間関係を暗いものにする。世代のちがう嫁姑のあつ

れきをさけるためには、別居が望ましいと分かっていても、経済的事情が許さなければそれも出来ないという意見でした。

次に、その嫁と姑との問題を解決するには、どうしたらよいかということになり、嫁が犠牲となり、その忍耐によっていかにもその家庭平和が保たれているようではあるが、これは決して問題を解決するものではない。家族の誰もが対等の人間として尊重されるようにしなければならぬという観点から、討議されました。

方法として、まず舅や姑が現在のようない人間となった歴史的原因——その人達の性格をとにかくいう以外に、前に述べた家族制度下で生きてきたこと、その他それぞれの生活の苦悩を背負って来たこと等——をよく理解し、同僚をもって眺めるように心がけること。それと同時に老人でもできる仕事は分担してもらい、老人は決して家庭における余計な存在ではないという生甲斐をもたせることも必要である。又家族相互の理解を深め、協力して問題を解決してゆくために家庭内で話しあう機会を多くもつこと。これも家によって話し合える雰囲気すらないところもあるもので、そのような家庭もふくめた解決方法として、地域的に嫁の悩み、姑の悩みを話しあう場をそれぞれ作り、個々のグループで、あるいは合流して一緒に考える。時には合同

のレクリエーションの場ともし、多人数の円滑さのうちに理解を深めあうようにすればよいのではないかとということになりました。

しかしさらに根本的に解決するためには、嫁姑の問題がおこる多くの場合が、世代のちがうものが同じ家に集計を共にして暮さなければならぬ生活形態からくるものが多いので、従来の生活方法を変えて方向にむかわねばならない。そのためには老後の生活保障の問題があり、養老施設の改善が必要である。またこれに加えて度々いわれた家族制度的意識を除き、家族関係に対する根本意識を改革してゆかなければならない。これも必然的に国の政治、経済と結びついて解決されることであるという結論でした。

次に第二の親と子の問題について、嫁の苦しみは子供達にも息子の嫁にも味わせたくない。そして子供から取り残された母親になりたくない、というみんなの意見がこの問題の出た発端であり、そのためにまず子供を「よき社会人になるよう」に、育てることが結論として考えられなくてはならない。子供は親の所有物ではなく、親と対等の人格であるから、いわゆる親の面子とか見識とかをすてて、子供の主張をよく聞くべきである。昔の修身のように上からおしつけるのでなく、親も子と共に社会人として成長してゆくよう互に友人として話しあえる態度をもって臨むこと

がのぞましい。もちろん、母が自分を犠牲にして子供のためにつくし、子供が成長したとき、母自身は、疲れてはるだけで何も残らず、ゆけがらのようになるという悲劇はくり返してはならない。一方親は、長い生活経験を通じて得た人生の智慧をもって、社会人として他人に迷惑をかけぬという限界をよく認識させるよう導くことが必要である。

以上のように子供を育てるには親自身の個人の確立と社会人としての成長の必要がある。それには、自分の頭で物を考え、判断する力を養うこと。社会の進展におくれないように、子供の成長にとり残されないように勉強することである。それらの手段として、地域的な婦人学級等に参加することもよいが、多くの婦人は教養のための時間をもたず、又その意欲もたないし、家族も非協力であるのが現状であるから、なるべく気軽に参加しやすいもの、グループを作り、話題も誰でもが話し合いたがる子供のことで、生活の問題など切実なものをとりあげることが望ましい。

さらに日本の婦人が自ら考え判断する力をもたず、教養も高められない根本的な原因として、婦人の自覚がたりないということ以外に、前述と同様に、彼女達の意識があり、ただ権威に盲従させられ、批判することを許されない家族制度的な規範がある。併せてここでも問題は社会、政

治、経済問題と結びついてくる。子供の幸福という母の自然な願いにしても自分の子供に、精魂をうちこんで教育しても、子供の住んでいる世界をよくすることなしにはその努力は報いられないという一致した意見でした。

最後に第三の夫婦の問題で、夫婦は家庭生活の基礎単位であり、結婚は個人の愛情と理解に基づいて成立すべきであるということは常識であるが、そのような個人の愛情と理解に基づいた結婚をしても、結婚生活の過程において、それを素直に発展させてゆくことが出来ない社会的条件があるということを感じました。その具体例としては、前にとりあげた嫁姑の問題、夫の横暴、宗教の問題、それから人の生活に干渉する非民主的な家族関係と非民主的な社会等が上げられましたが、夫のいわゆるわがまま、ずるさについては、日本の夫は、男性本位の社会に育ち、封建的家族制度的意識からぬけられず、しばしば我がまま、自己中心的で、誤った自尊心から愛情の表現もよく出来ない人が多い。妻は夫のために献身することは当然で、夫が二男をもつても世間からさして非難を受けない、妻が外に仕事をもち場合によっては家事がおろそかになると不平を云う夫が多い。

しかし、多くの夫に共通することのような我がままの原因をもう少し掘下げて考えると、単に夫個人の性格的なこと

を云々する前に、もっと大きな社会的要因が存在する。すなわち、日本の社会の大部分が未だそのような男の特権をみとめ、家族制度的意識では家を絶やさないことが、二号を持たぬことより重要であり、また、家事労働は全部妻がするものときめていゝから当然のこととして男性の横暴が通用するのである。

又、夫の職場における、非民主的な人間関係や、労働過重、低賃金からくる夫の圧迫感、疲労、あせり等のしわよせが家庭に持ちこまれ、妻への暴君化となって表われることも多いのではないかとわかっていました。これを打解するには、まず夫婦が自覚し、対等の人間として認めあひ互に他を犠牲にすることのないようにすることで、家庭内の仕事は分担しあい、共に社会的にも成長してゆくことが重要である。そのためには、社会全般を民主化し、家族制度的意識をなくし、すべての職場で合理的な労働がなされるように関心をむけなければならない。一方、家事労働や住居の改善等、生活の合理化も必要ではあるが、根底に立っている、社会関係と切り離して行つたのでは、かえって嫁や妻の労働強化の原因となつたりすることもある。

以上二日間の討議の結論として、婦人が個人を確立して民主的な家庭を作り、よりよい次の世代を育てる為には、婦人の自覚や、男性の理解、家族の協力も必要であるが、

問題はいつでも個々の家庭内のものでなく、社会制度につながっているものであるから、根本的には政治的、経済的解決が必要であると強調されました。

司会 次に第二部会の報告を要知の杉浦松代さんをお願いします。

杉浦松代(第二部会) 第二部会では、「地域社会の一員として、婦人は何をなすべきか」について討議しました。

はじめに、会議員の各々属している、地域社会の現状と、またその問題点を、各人が発表しましたが、その結果をまとめると、「地域社会における近所づきあいの問題」、「施設と慣習の問題」、「風俗、習慣の問題」、「地域社会における組織活動の問題」の、四つに分れ、これを一ずつ検討しました。

まず近所づきあいについては、戦後外地からの引揚げ者ばかりでつくった新しい町などでは、互いに思いやり助け合つて比較的上まくいっているところもあるが、一般には近所同士で他人の私生活に立入りすぎて、近所の噂話をしたり、陰口をきいたりすることが多い。特に農漁村は刺激や興味が少いたためこれが甚しい。これは婦人の自覚、教養が足らず、さらに生活に文化的のものと興味が少ないためでもあり、それと共に、生活におわれ、教養を積むゆとり



がないということも原因である。

これを解決するには、できるだけ小さい地域のグループで集つて、気がねなく身近かな生活の問題について話合ふことが必要で、そのきつかけを作るために、祝賀会、榮養料理の講習会、フォークダンス、類母子講、主婦の楽園など興味を持つて集る機会を作り、その成果を立派にあげている例があげられました。しかしこういうものにもなかなか出てこない、又は出られない婦人達がまた多く、本当に刺戟を必要とするこの人たちに、何とかして浸透させたいというのが、会議員共通の願いでもありました。

第二の、風俗習慣については、いつもいわれることであるが、まず冠婚葬祭について諭せられ、特に農村では日常生活の貧しさに反して、儀礼に見栄をはり周囲の人も嫁入り支度の程度などに非常に関心をもつ。一部の人がこの悪習を改めたいと考えても、村の有力者の反対にあつたり、又これは一種のリクリエーションだからといって一般の人にも賛成しなかつたりして困難が多い。しかし、少しずつでも改善の方向にむかう為、婦人会が主になって、貸衣裳を作ったとか、葬式の道具を共同で使つていたりとか、或は婚礼の衣裳飾りを申しあわせてやめたり、香典返しの風習を改めるため、香典を出さぬように取り決めたなどの事例が出されていたが、これは結局、このような行事が個人のも

のとしてでなく、家のものとして考えられているところから

次

に、どこにもよくある習慣の一つとして「廻り当てられる寄附」の問題がとり上げられました。例えば共同募金とか赤十字募金、神社の維持費、また祭礼の費用などが多くの場合、町内会とか婦人会、部落会の幹部が各戸の負担額をきめて、それを半強制的におしつける。又会員はこれについて、なんとなく納得は行かないけれども、「少しのことではなつてもつまらない」とか「おつきあいだから仕方がない」と無理して出してしまうのが普通である。これは、両者が寄附は自由意志によるべきものであることを忘れ、又は知つていても一定額を集めるためには手段を選ばないというためであるから、一人一人の勇気も必要であるが、一方このような負担を一番弱い地域社会に押しよせしめて来る現在の社会機構にも問題があるとの意見が出ました。

なお、これに関連して、選挙の場合に、部落等の地盤協定をし、票を割当てたりすることがまだ行われていることについて、やはりここでも有権者である婦人の自覚が必要であるといわれた。

第三の問題、施設と環境については、特に自分の地域において積極的な活動をして実績をあげた例を出した。

になりました。

しかし、問題は現実に関心な人、また集合に出たくとも出られない人が多いということなのであり、その人の為にもグループを作つて、気軽に集りをもつことが必要であるし、またそれがだんだんに拡がって大きな一つの力になって行くことも何かの時に力強く、大事なことでないと附議が進展した。

なお、これに関連して、従来婦人団体の役員などをするとき非常に忙がしく、この責任を充分果たしたいと思えば、家庭がおろそかになり勝ちであるという点につき、これは団体の運営の仕方にも問題があるので、一人の人がたくさんこのことを引受け、その人がいないと何もわからぬというような傾向を改め、互いに責任を分け合い、交代りあつてやることにし、団体も本当に民主的となり、個人の負担は減つて、家庭との両立の問題の解決にも役立つのではないかと、意見にまとまつた。さらに、団体のあり方に関連して、例えば既存の婦人会が、旧態依然たる非民主的なものであつた場合、自覚した婦人はどうしたらよいかの問題が出されたが、やはりどうせ自分たちの意見はいれられないからと引込んで、第三者的に外から批判するのでなく、自分もその組織の中に入つて内から改革すべきであるということになった。

例えば労働者街の主婦は、ストライキ中の生活苦をきりぬけるために働く主婦の為の託児施設を開き、又引揚者の一人は、やはり働く婦人の為の保育所を設けた。或都會の主婦は空地のゴミを整理して子供の遊び場を作り、又取壊しの婦人は衛生思想の低いところでも主婦会を促し、村全体の協力をえて蚊や蠅を退治した。この他共同水道を設置したとか、埃のひどい道に市の散水車を走らすように運動したとか、いろいろの例が挙げられた。しかし、こういう仕事は誰か一人が最初に言い出さなければならぬが、一人でそれをするということとはなかなか難しいことなので、十人の力、また十人より百人の力をもつと効果的であるということとは当然で、その結果、ここに団結による組織的な活動の必要性に話に移りました。主婦が地域のために活動する際、夫をはじめ家族の理解と協力というものが絶対必要であるが、会議員は皆理解のある家庭をもつた人ばかりで問題はない。しかし、はじめは社会的活動に反対された人もあり、その場合の解決方法としては、自分の努力で夫に不自由をかけないようにし、或は話し合つて生活を簡素化し、社会的活動の実績を示して賛成を得るようになっていくことでした。この問題は各自が愛憎と尊敬によつて解決すべきことであつて、要は結婚する時に、互いに話し合えばわかる人を選ぶ心がけが大切であるということ

次に組織活動のための資金の問題が出て、現在も多くの婦人団体が、その資金面で町内会等他の団体に依存しているため、何につけてもその親団体の意向に左右されて、自主的活動のできない場合が多い。自由な活動をするためには、会費でまかない、或は自分たちの力で生み出した生活協同組合の利益によって運営するべきである。又施設を作ったりするような場合は、団体が自分でお金を出さなくとも、その団体の圧力で然るべき役所も動かし、作らせることもできるという意見も出ていました。結局組織は個人の意志を単位として盛上ってでなければ、本當の民主的なものにならないという結論でした。

最後に、全体の結核的なものとして、政治の奮闘ということが討議されたが、具体的な例として、PTAの寄附の問題が出され、学校教育にともなう施設として当然国家が予算をもつて備えなければならぬ諸施設を、PTAの寄附に仰ぎ、子供のためにと弱い点をつかれて、親は苦しい中から半ば強制的にとられてしまうということがよくある。これは、國家の予算の組み方、政治のあり方の矛盾が、一番弱い地域社会にしお寄せされた端的な例であるが、このような場合もすぐにあきらめず、地域社会の団結の力で本来の正しい姿に戻すべく努力しなければいけない。この他、先に出た赤十字募金の割当てや、施設や環境の問題等

にしても、政治に関連のないものはないのであって、婦人が社会人として自覚し勇気をもって政治をよくするようにしていきたいという一致した意見でありました。

司会 第三部会の報告は、京都の大手芳枝さんをお願いいたします。

大手芳枝（第三部会） 第三部会では、「社会人として職場の婦人はどうあるべきか」ということを討議いたしました。

はじめに会議員から、それぞれの職場生活の中で感じている婦人の地位の現状や、社会人としての実力をもち、婦人の地位を向上させるためにどのようにしたらよいと考えているか、またそのために努力していることについての具体的な意見発表があったが、それぞれ形は異なっているが、共通した問題を持っていることがわかりました。その問題を大別すると、「職場に残る封建性をなくするにはどうしたらよいか」、「職場における婦人の地位をたかめるにはどうしたらよいか」、「職場と家庭の両立について」、「一人で解決できない問題を協力によって解決するにはどうしたらよいか」、「職場と社会のつながりについて」の五つになりこれを順を追って討議した。

はじめの職場に残る封建性をなくするにはどうしたらよいかについては、職場の中には未だつまらない仕事は婦人から、家庭における婦人のあり方が問題になる。民主化をはかるため男性との話し合いの場をつくって解決に努力したいと述べられた。

次に、職場における婦人の地位を高めるために、どうしたらいいかについて職業意識にめざめた働く婦人は、男子と対等なまでにのびられるはずであるが、結婚前の限定的な気分で行く人々の職業意識の低調さが、働く婦人の地位を何時までもたかめないとの問題が出され、当然のこととして、婦人は職業意識とともに技術をたかめること、重要なポストにもつこう積極的な努力することがあげられた。これらの低調な人達と遊離しないためには、共通の問題を見出して話し合う機会をもって、徐々に引上げて行く努力がなされなければならない。また、女は低いものだという男性の考え方を捨てさせて、施策の上にも機軸の上にも、婦人をのばしていくことに協力を得る必要があるとの意見が出た。この時婦人と同じ仕事をすると低くみられるという意識が男性にあって、そのポストには男性のなり手がない話や、婦人が昇格試験に受験することを理事長が拒み、また切角合格しても婦人だけがとり残された例が語られていた。なおこの問題を組合に提起したが、組合の幹部に管理職の人達がいるためとらえられなかったという話しか、組合のあり方が問題になり、これらの問題の解決

がするものだという根強い考え方が残っているが、この封建的な考えを打ち破らない限り、婦人にとって、職場は暗いところである。具体的な一つの例として、「お茶くみの問題」があげられた。適材適所という解釈からならばあえてこだわる必要はないが、婦人であるという理由だけで、しかもつまらない仕事という認識のもとにやらされることに反感をもつ。これは誰かがしなければならぬ必要な仕事であることを上役はじめ男性に認識させるとともに、する方も卑下しないで、必要な仕事をしているという自覚をもってすればよいのではないかとという意見もあった。

しかし、婦人が職業人として評価されていないために難用をやらされる場合が多いので、婦人も職業人としての能力をたかめ、責任ある仕事につけば、自然に解決されていく問題であると話あわれた。それにはまず婦人が自覚をすること、抵抗に耐え得る強さを持つことが肝心である。多くの婦人自身の中には未だに封建性がひそんでいるが、これをなくするためには、めざめた人達の持つ役割が非常に大きい。組合の運営面にも婦人がどんどん入って行って、組合活動を通して低調な婦人を引上げること努力をしなければならぬ。サークル活動などによって婦人同士のチームワークを強固にしていく必要があると例をもってあげられた。また、女性軽視の風潮は家庭の封建性が根源であ

には婦人同士の團結の必要性があることに動かしが進んでいった。また現在重要なポストについている婦人は、後進のためにその責任を果して信頼される人になることが大切であること、家庭での男性のあり方を改め、考えをかえさせることが必要で、職場の問題も家庭とつながる問題であることがここでも強調され、次の職場と家庭の両立の問題に移った。

家事労働については家族のものの協力や、合理化が必要であり、努力もしているが、保育の問題は、働く婦人の利用し易いような長時間、または夜間や日曜に預てくれるような施設が現在金くなくないために、子供のいる婦人が其の働くことが難しく、職業人としてのびられないことが問題になった。ある病院では、妊娠した看護婦の産前産後の休暇のために他の看護婦に負担がかかるという、既婚婦人の採用を拒んだという例から、母性保護を立前とする労働基準法の精神を生かすために、産休補助員を設けることが必要であると話合われた。また婦人の職場を狭めないために未婚の婦人も、今までの無関心であった態度を改めて、婦人全体の問題としてこの問題の解決を考えて行く必要があるのだという反省もなされた。現在の保育所では八時間以上子供を預けることは、保育の労働強化になり難いことであるから、定員をふやして交代制にする必要がある

とかして悪質な業者に対抗するための組織をもちたいが一人では何ともしようないのでどうしたらよいだろうかという深刻な問題が提起された。これに対し一般の職場でも未組織のものをひき入れることの難しさが話あわれ、組合に対して無関心に見える婦人も問題をもっていることが多く、これらの人々とは世帯活動や、お互いの仕事の理解など、日常のつきあいを通して親しくなり、信頼されるようになることが必要で、低調な婦人組合員とレクリエーションなどを通して結びあえた経験が例として出された。また、自分達の職場の問題ばかりでなく、婦人全体がキャバレーやカフェなどに働くしいたげられた人の問題を解決するため、真剣に手をさしのべるべきだとの意見が出た。これらのものの根本的な解決には国家の強力な施策の必要が要望されたが、直接の具体的な解決には、現在の貧弱な政治力をカバーするために婦人が同性のために努力することも必要で、地元の人材にも呼びかけ解決に協力を得ることや、関係官庁の援助を得ることなどの意見が出て、次の仕事と社会のむすびつきについてという最後の議題に入った。

特設街のカフェー組合事務所や、軍需品をつくっている造船所に勤める会議員から、職場を通して社会に貢献しようとするとき、仕事が社会の進歩に役立たないことに矛盾

という保母である会議員の意見であった。婦人の職場では当然に保育施設が設置されていなければならないが、現状としてはこれも難しいので、結局は地域に国家的な施設が設置されることがまたれるとの一致した意見であった。そのためには政治との結びつきを考えて、選挙の時に一票を有効に使わなければならないことに話があつたが、今すぐには隣人愛によって解決することも考えられると、実行した会議員の経験が語られた。この時「子供が出来た場合、一時家庭に入るということも考えられないか」というアドヴァイザーの質問に対して、活発な討論がなされ、現在の日本では経済的理由からも、婦人が社会人として認められるためにも、両立させることが必要であるが、将来、皆が経済的に恵まれ、家庭にいても婦人が低くみられない——どこにいてもすべての人間が平等に扱われる社会になったら、必ずしも幼い子供のいる婦人が職業に就かなくてもよいのではないかという意見が出た。この場合、家庭の主婦も社会とのむすびつきを忘れないことが大切であるということが話合われた。

次に第四の一人で解決できない問題を協力によって解決するにはどうしたらよいかについて、まず、キャバレーにダンサーとして働く会議員から、現在の社交場を純全な職場として、劣悪な労働条件で働く婦人達を救うために、何

を感じ、良心の向けどころに悩んでいるとの問題が出され、これに対して、社会のためにならぬような仕事は、首をかけたも反対すべきだという意見と、仕事を通じて社会に役立つことは理想だが、現在の社会では生活のために一応は黙して、その矛盾は横のつながりで解決に努力したらよいのではないかという意見が活発にかわされた。結局、職場を失って、レジスタンスの場まで失うことは望ましくなく、その中にあっても本心を失わず、職場での同志をつくり、一人一人の意識をたかめ、外部の婦人とも手をつなぎあって世論を形成し、社会の進歩に役立たない仕事はなくして行くように努力することが必要だという意見に落着いた。この間、婦人の声が世論となって女子大閉止を撤回させた例や、また思想や政党を超越した集りが、どの程度のことを成し得るかの問題にまで話が及んだが、これには結びあえる点だけ結びあっていけばよいということであった。そして婦人の一人一人が社会をよりよくするために、世の中の仕組を変えていくこともできる一票の権利を、有効に正しく使っていくこととの会議員の一致した意見を得て討論を終えました。

司会 第四部会は、長崎の森菊枝さんをお願いいたします。

森 菊枝(第四部会) 第四部会では、「一般市民とし

て婦人は何をなすべきか」について討議された。この部会に出席した会議員の素性は、都市、農村、漁村、鉱山等と多種多様で、出された問題も広範にわたるものであったが、討議に先立って行われた各自の意見発表を通じて、提起された共通な問題は「よりよい社会とはどういうことであるか」、「婦人が自己中心的に考えること、及び個人的に物事を解決しようとする事」、「婦人に社会性をもたせるにはどうしたらよいのか」、「社会への働きかけ」、「女だという立場で共通点を見出し手をつないでいけるかどうか」の五つで、この中、一と二については、既に意見発表の中において、会議員の意見が大体一致していたのでこの問題については討議せず、三の「婦人が社会性をもつにはどうすればよいか」ということから討議に入ることとした。

まず、社会性を婦人は何故もてなかったのか、ということから進められ、その理由としては、歴史的要因からくる、家の重味、経済力のなさ、婦人自身の従属的なものの考え方、意識に欠けていること等が上げられて今までの婦人のおかれていた立場が反省された。

それでは婦人が社会性をもつにはどうしたらいいか、ということについては、ものを言う訓練と、イエス、ノーをはっきりいえるような態度を培うこと。ものを云えといってもその機会がなかったり、話しタネがなかったりする

ので、そのためには、家庭内での話し合いの機会を多くもつことや、井戸端会議を建設的なものにもっていくようにする、また新聞やラジオで見聞を広めて批判力を養うようにすることである。その他、ものの考え方を従来のように「私」というのでなく、「私たち」と複数で考えるようにする。自分のことだけでなく、人の立場もよく理解する。子供のときから、家庭や学校において、社会性をもたせるためのしつけをする等が上げられた。以上は個人を中心としたものであるが、それらの態度を身につけるためには、話し合いする機会や人と接する場としてのグループが必要であると会議員の一致した意見が出され、未組織者をどうするかということになった。

現在組織の一員として働いている人達が、めいめい隣近所の人達に積極的に働きかけるようにしてはという意見も出たが、組織することに成功した契機として、主婦は忙しくて、日中会合をもつても集まりが少いので、みんなが集まりやすいように、毎月満月の夜に会合を開き、会の名称も満月会と名付けて、味噌の作り方とか漬物の漬方などの話題をはじめに取上げ、みんなが話し合えるような雰囲気を作っていくので、今では会員の一人一人が自由に発言できるようになった。そして、姪、姑、夫の理解と協力を得るために、会合の際にはなるべくそれらの人を同伴する

ようにしていると体験談があり、またPTAに母親会原をもうけて、読書を通じて、母親の意識をたかめつつ組織を強化しているという報告もあった。

組織と個人の関係については、個人は組織の中において社会人として育つのであるが、また組織は会員が成長することによってはじめて強くなるのであるから、この二つは平行して進めなければならぬとされた。しかし、会員の一人一人がはっきりした意見をもつまでになっていない現状と、婦人の組織は目的がはっきりせず、対象になるものがないので、婦人団体は他より利用される危険があると指摘された。利用されるのは選挙の時に一番多く、地域婦人会、農協婦人部、日赤婦人会と三つの婦人会の幹部をかねている取合議員から、国会が解散になると直ちに「ヨロシクタクム」と数通の電報が舞いこみ、地方選挙がはじまる状態であるといわれ、また連合婦人会長が県会議員であるために、選挙のたびに婦人会が混乱するとの訴えもあった。このように選挙になると婦人会にはどこでも誘惑の手がのびされると全員が一致してそれを認めた。更にその幹部の人は、会員から、たれに投票するかと聞かれた場合は、はっきりたれたと答えるということで、この点については賛否両論が出て、婦人会の幹部がたとい個人の立場とし

て推しても、その影響は大きいと反論があった。また一方、婦人のためになると思うなら、組織の力で大いに推せん支持すべきで政治活動も積極的に行うことだという発言もあった。

次に現在、婦人の直面している問題はどういうことであるか、組織で取上げる問題は何であるかということになった。次の議題である「社会への働きかけ」に入った。

婦人の手で解決したい問題として、青少年の不良化、悪い映画、出版物、パチンコ、ヒロポン、トバク、売春等の社会悪があげられ、これらの社会悪がますます氾濫していくのは、貧困が大きな原因であり、日本の政治、経済のあり方が根本問題であると話し合われた。この大きな原因に対する措置を忘れることなく、手近な解決策として、法的措置を講じさせるための世論の形成。業者の自粛を促す。良いものを子供にじまさせると同時に、社会悪に引きずられない強さをもつ等の意見が出された。取組では、学校の附近に特設街の建設工事が進められたので、難しい問題ではあったが、子供の教育上悪影響を及ぼすということから、地域の婦人団体が結束して、関係官公庁に再三陳情した結果、建物は完成されても営業不許可になったと、婦人の手で社会悪を追放することに成功した実例がのべられた。結論としては、婦人は今まで自分の身のまわりのこと

にだけとらわれていたのではないかと反省され、もっと大きな見地から、少しずつでも社会界を取除く方向に婦人が協力し、新聞やラジオに投稿することにより、また、PTAや婦人団体等各自が所属している組織で、これらの問題を取り上げて、世論を形成していくことに意見が一致した。この討論の過程で、世論形成に成功した主婦連の十円牛乳のことが論じられ、生産者の立場にある農村の会議員から、牛乳が値下げし初めてから積荷シワよせされたのは生産者で、大きな中間資本は困っていない。値下げ運動は日本の経済機軸をよく考えて、消費者、生産者、その他の関係者が一緒に話し合う必要があるという意見があって、同じ婦人であっても提携出来ない問題もあるということから、最後の「婦人だから」ということで提携出来るかどうかの討議に入った。

前に少しふれていた選挙のことが、ここで再び取り上げられ、婦人といってもいろいろ立場が違う。たとえば、選挙に立候補した知事婦人がある婦人団体が推したけれども、自分たちの立場から考えるとこの候補者は女性ではあるが、必ずしも婦人の幸福のためになるとは考えられない。特に、家庭の主婦や有閑婦人に幹部を占められがちな地域婦人会が支持する人物は、しばしば働く婦人や貧しい家庭の味方ではない場合もあるので、このような二つの問題

の婦人が一体手をつなげるものだろうか、との意見が出され、結局、子供を守りましようとか、社会服を穿きましよう、平和を守りましようとする気持は一つで、そのスローガンには提携出来ないことはないが、それを実現させる方法になるとその人の置かれている立場、またそれぞれの組織の性格によって手を結ばなくなる。しかしたとえ立場がちがっても、話し合いにより、それぞれの立場を失うことなく、お互に理解して提携出来る面もあるのではないかと意見が出されたが、結論としては、婦人一人一人の自覚に基いた自主的な判断によって行動する以外にはないということに意見はまとまって、第四部会の討議は終了しました。

司会 各部会の報告は終わりましたので、次は特別傍聴人を代表して横山定雄さんに感想を述べていただきます。

横山定雄(特別傍聴人) 男性も大いに女性の問題を勉強しなければならぬという意味だと思いましたが、今年から新しく男性傍聴人というものを、各部会に五名ずつ参加させていただきました。この二十名の方達の所感、報告文をまとめてみますと、三つの問題が出されております。第一に討議の内容について、問題をどのように取上げているかといったこと、討議の過程、その結果についての問題。第二に討議の仕方、あるいは発言の方法、つまりどう

いう体形で進めて行くか進め方の問題。第三にはその他色々の問題についての三つで、この順にしたがって報告させていただきます。

まず第一について、問題の取上げ方は、全体として、適切であり、別に異論がないところですが、討論のテーマの内容が多すぎて、その為充分につこんだ討論が出来ない。従って討論の焦点が割合ぼけてしまっていて、結果としては結論らしいものが充分出されないままで、次の課題に移ってしまっただけという点で、大変残念であったということが出ており、第二、第三、第四の部会のかたが、特にこの点については主張されておりました。

それから第四部会の会議員が、非常に具体的な問題、あるいは身近な問題から話を進めて行かれたのは大変よかったということでした。更にそれに関連して、第一部会のような場合ですと、たとえば嫁姑の問題のような対人関係の問題については、さしあたりの技術的な処理の仕方に行きすぎたのではないか、その結果心の持ち方というものをどうすればいいか、心の持ち方をどう考えるべきかといった討論が割合少なかったのではないだろうか、その点が残念であったという意見があります。

次に第二の討議の過程及び結果についてということについては、非常に具体的に体験談が出されて、結構ではある

が、それが立派な成功談というように、美しく聞かされた。従って自分の割合狭い経験範囲より出す、視野の狭い態度が見受けられたといっているかたもあります。

これについては、視野を広くとか狭くするとかとは別に、成功する迄に抵抗が起きて来たり、あるいはほとんどない誤解を思わない方面から受けるとか、人にもいえないような、色々な苦労があったはずなので、その苦労なり、抵抗を過去にどういふふうにして通り抜けて来られたか、あるいは乗り越えがうまく行ったかどうかという点、いいかえますと、そういった困難な問題を、どのように打開するかということも、もう少し分析しあう必要があったのではないかという意見が出ておりました。

また、具体的に、身近な問題を取上げることは大変結構ですが、その場合に、その具体的な問題が、実は背後の方に社会的、あるいは政治的、あるいは思想的、経済的の色々の問題と当然結びついて出ているはずなのに、そうした方向に考え方を持って行く点が割合少なかったということも出ております。

このことに関連して、議論の内容や、議論の仕方というものも、女性の立場というか、自分の立場というものに知らず知らず捕われていて、その結果として理論が近視眼的の議論になっているのではないだろうか。そのため

っと高い進歩的な解決策や実務方法が見出されにくいのではないかとすることが、全員に共通した意見でした。

その次に討論の仕方、発言の方法について、司会者の方に大変苦労しておられたようですが、民主的な方法に氣をつけすぎて、遠慮されているので議事の進行の仕方にもっと積極性があってもよかったです。また全般に場合に緊張しすぎていたのもう少し柔らかく、そしてユーモアがあってもいいのではないかと意見が多く出ておりました。

最後に、たとえば第三部会で、職場の男性社会といったものの封建性、階級性も論議されておりましたが、女性だけの、一方的の議論が多く、観念的なもので、男性と一緒に討論出来たら面白かったのではないかと感じました。

その他総括的に、女性だけの問題にしほらないで、経済、産業、政治、マスコミ、ケーション等々の問題にとくくんで、それが身近な問題、生活とどのように結びついて行くかという立場で、大きい問題を取り上げてもよかったという意見もありました。

この会議が非常に真面目で、氣持よく進められたということに対して、一同は敬意を表しております。さらにこれ以上視野を広くし、もっとつこめば、契りが多いのではないかと、その場合には、男性をのけ者にしてはよくないということを経験にいたします。

司会 これで一まず報告は終了しましたが、ここで只今の報告に対しての御質問をうかがうことにします。

◆ 第三部会では家庭と職場の両立の問題から、働く母親が子供をよりよく育てるにはどうしたらよいかと深刻な悩みを出されたのですが、それについて、第一部会では、どういふ討論がなされたか、お聞きしたいのです。

磯野 今の問題は、大きく申しまして二つあったように思います。一つは一般に教育の問題、もう一つは、職場と家庭の両立の問題に関連させながら、教育の問題についてどういふ話があったかということだと思っております。前の方の問題としては、たとえば子供が他所の家の花をつんでくる。それを勿論肯定するわけではないが、そういう場合に、どう処置したらいいだろうという問題として色々議論が分かれました。勿論ほかの方のものを取っていいはずはない。だけれども子供が「ああきれいだな」と思うその子供の氣持、それは単にそのことを昔の童心を尊重だけでおっしゃったのでなく、その花を科学的な勉強をする、そういう心持もあるのだから、その氣持を尊重するのは大事じゃないだろうかという意見がありました。これについては色々議論がありました。

もう一つの職場と家庭の問題——、職場といっても第一部会では、婦人会とかその他の社会的仕事を熱心にやっ

ていらっしやる方の問題であつたわけですが、時間の關係で充分に討論することは出来なかつたのですが、非常に熱心に行っている方のお話として、前には、自分は社会的に意義のあることをしているのだから、夫も子供もがまんしなければならぬのだという行き方をしていたが、それでもうまく行かないから、まず自分の家庭をしっかりとめ、それから社会的の働きかけをして行く。そういう大変地道な考えが発表されたと思います。勿論それで充分解決出来るとは思わないわけですが、それはやはり、一つの進歩というのではないかと、また皆さんもそういうふうにお考えになったのではないかと思います。

◆ 第二部会の方に伺いたいです。さき程のお話の中に、農村では婦人も男と同じような仕事が出来るように解決出来たという言葉がありましたが、婦人は男性よりも心臓と肺臓が小さいために、非常に疲れやすいのです。それでも農村において、男と同じような仕事をすると、農村の婦人の姿は大変かわいいと思います。今後もうそういうふうにしていらっしやいますのですかどうですか。

司会 第二部会に出席になりましたか。

会議員 今迄、婦人は昔なりの農業をしていたので、仕事にゆとりがないというのが、農業技術の習得に至ったところで、組織活動を通じ、農業改良普及員を招いて、種々

勉強した結果、私達の仕事に種々無駄があるということがわかつたのです。また農業技術を習得することによつて、今迄男のしていた仕事で自分出来るようになったということもあります。一方、今迄の悪い風習、即ち冠婚葬祭などの面に対して、無駄にお金を使っているということがわかり、それと同時に自分の反収がわかつたので、消費に重点をおくことは悪いということになったのです。またこの習得によつて仕事に興味もわき、次第に夫も姑も理解して下さつたので、この技術の習得が第一であるということを経験したので。

磯村 今のことについては、私共の部会でもお話がありました。簡単に申し上げますと、女性の方の肉体的な差異によつて、地域社会の活動がどうもまたげられるか。それをどう克服したかという問題ですが、これは二つの形が出て出られた。しかし打克たれた過程においては、相当苦心があったようです。第一のことは抽象的に出ておりましたが、あく迄夫と話し合いをして理解を進めて行つたというのが、女性の正例的な意見であつたようです。しかし大多数の方は、女性はそこでつまづくので、これからの問題として、女性の地域社会なり職場への進出を理解出来ないような男性とは結婚しないほうがいい。そういう教育を結婚

前にしてもらおうということが大事なんじゃないかということでした。男性の一人として、身にしみて承りました。

司会 第三部会への御質問は。

◇ 第三部会のアドヴァイザーの先生が、子供を持ったから一時職場をしりぞいたらいけないのではないかとおっしゃったそうでしたが、具体的にどのような立場でそうおっしゃったか、お伺いしたいと存じます。

渡辺 子供を持った母親がどうするかという話が出た時に、皆さんが経済上の必要とか現実の問題から、どうしても仕事を続けなければいけない。子供の処置については、現状からいって託児所がいり用だとか、あるいは地域の人達の協力によってみてもらうことが出来ないかという話が進んで行ったのです。つまり仕事を持っている女の立場から話がされていて、子供の側を考へての話に行かなかったものですから、小さい幼児期の子供の教育というものは、一体どういうふうでなければならぬかという原則論というか、現実問題から離れて、今はこうなんだけれども、本当は小さい子供を持っている母親は、その子供の面倒みるということが一番ではないか、それについては、どうお思になるかということ、私が質問の形で出したわけですから、それが中共とかソ連等の国々では、子供たちは国の子供ということで、母親が仕事に出る時は、保健の完備した

託児所、保育所に入れられて育てられております。木当に考へてみて、そういうのが一つの理想的の形なのか、追及しなければならぬ課題だと思ったものですから、皆さんの考へを出していただこうと思つたわけですね。

◇ 第四部会の方に質問させていただきます。社会服をなくすための力となって、婦人が個人的にも、あるいは組織的にも、色々努力していることは、よくわかりましたが、社会服の中に一たんふみこんだ人たちの、保護更生の面も忘れてはならない問題だと思ひますが、いかがでしょう。

松岡 そのことについて、保護司をしていらつしやる方から少し出されておりました。しかし他にも色々大切なことが時間の関係で抜けたことは御存知だと思います。社会服の問題を追及出来なかったのは、時間の制限と、討論になれていない方々が、色々な点から問題を出されましたので、たしかに今の御質問のようなことはあったと思ひます。第四部会の方々も、お帰りになつたら、その点を含めて考へていただきたいと思ひます。

◇ 特別傍聴人の方に伺ひますが、只今の御批判の中で、私たち自己批判しなければならぬ点を大きく見出したと思ひます。しかし私共としては、男性側がいかにして、このお話をきいて、今後の男性がいかにあるべきか

ということを感じられたかということをお伺ひしたいと思ひます。

横山 特別傍聴人二十人全部集つて話会ったことはありませんが、各部会から一人づつ代表が出て、四人が全体について話会った時、あるいは私と同じ部会の特別傍聴人の人たちと話合つたときに、要するに男性とはこういうものだから、という話はしませんでした。いいか悪いか私も疑問に感じておりますが、たとえば、男性というものは大きな坊やなのだ……。それが定説的な意見だというので出たのではありません。そういう気持ちで、女性と膝をつき合せて考へなければならぬのではないかと話合つたということとは申し上げられると思ひます。

特別傍聴人 私共の申し上げたことは、一方的に男は非常に封建的だからときめつけないで、女性ももう少し歩進まれて、男の中に飛びこんで、男を啓蒙するという線に行つていただきたいということです。

司会 どういう形で啓蒙されたいと思ひますか。

特別傍聴人 男というのは非常に単純です。遠くの方で、男を眺めてみると、昔からの因習と惰性とが重なつて封建的にみえるわけでありまして。結局はこのような会議の席上に、男性を一人か二人交えて語り会ひのが一番よいことだと思ひます。

磯野 今後の問題として、私の部会でも問題になったのですが、確かに男性は封建的でありまして、終戦後の状態においては、非常にそれが崩れて来ているのではないかと。しかし、封建的であるということは、現実の問題なので客観的に考へず、自分の生活の中に結論を持って行く状態になることが、筋道じゃないかと思ひます。現在の小学校、中学校のありかたをみると、五年、十年先ぎになつたら、男性の立場も非常に違つてくると思ひますが、それを考へると、現実の男性というものは、本当に考へなければならぬ点が非常にあります。結局は、今日のお話のようなことが、もっと男性達に伝わる方法を考へなければならぬ。

司会 よりよき社会の力となるために、男女の協力、理解が是非とも必要であるということが出ましたが、そのほかに何かございますか。

◇ 私は期待を持って出席したわけですが、最初の歓迎会の席上、藤田局長が、私達故郷に残した夫のことを、御主人、と申されたことを意外に感じました。自分の夫は対等である。それを裏付けるために如何に努力して来たか、それまでの身になって考へてみますと、実際憐憫に近いものを感ぜさせられたので、私達婦人が、自分の夫を対等であるという立場から再出発すべきものではないかと思ひます。

司会 主人という言葉にこだわっておられますが。  
藤田局長 私は六十人の会議員が全員揃って出席下さったということについて、お宅の方々の非常な思いやりがあるからだと痛切に感じたのです。皆さん方未亡人という言葉は、この名前をやめてしまおうかということでしたが、名前はどうしてもかまわない。未亡人でもなんでも、自分達の地位を高めようじゃないかといって、未亡人という言葉前にはこだわらないという行き方をなさったわけです。  
私は皆様方と、一人一人お名前を知っております時は、ミスター何々は、というように言うわけです。しかし皆様方のお名前を歓迎会の席では存じませんでしたので、とたんになんといいていいか、「夫僚」といいていいか、それからお宅の何といいていいかわからないので、つい封建的ない方をしたかもわかりません。  
あなたにとっては御主人という名前が非常に辛い、牢獄のようなものであったということを知りまして、相済まなく思っておりますが、それは悪いかわかりませんが、大きな心をもって一つの形式であると思いい下さい。  
日本語が非常に不備なところが多く、ウイドー、ウイドー、ワイタ、ハズバンド、ミスター、ミセスというのはとてもいい。日本それ自体民主化していない証拠で、私も

その中に入っておりますので以後注意いたします。  
司会 会議員の皆さんがこの会議に出席出来たのは、家族なり、職場の同僚の方々の理解と協力とはげましがあつてこそと思います。皆さんは地域の中に、一般は家族の中に、お歸りになってから、そういう組織の中にどういう形で結びついていくか、また、よりよき社会の爲という力になるつもりでいらっしゃるか、簡単に伺いたいと思います。  
◇ 私は職場をもっておりますが、職場の婦人は経済力において、婦人としての、社会人としての地位を確保するものと思ふのです。その社会人としての力を、家庭婦人との提携をはかり、また男性の協力を求めて、明るい社会を設立することに進めて行きたいと思っております。  
◇ 高知から参りましたが、高知では昨年出席された方を中心にして、「やまもも会」というグループを作り、この一年間、文書によるつどいをやって参りました、そのやまもも会のつどいを、もっと強固して行くつもりです。  
司会 短い時間の中で、いろいろの意見を片づけることは困難でございます。終始御熱心な御意見をうかがわしていただきありがとうございます。

社会人として婦人は何をなすべきか

——第3回全国婦人会議記録——

昭和31年9月1日 印刷

昭和31年9月5日 発行

発行者 東京都千代田区大手町一ノ七番地  
労働省婦人少年局  
印刷者 東京都中央区入船町二ノ三番地  
永井印刷工業株式会社



